

第20回教育委員会定例会 案件表

○日 時

令和4年10月21日(金) 午前10時00分から

○議 題

1 陳 情

- (1) 令和4年陳情第1号 ゲノム編集食品・植物を学校で使用しないことなどを求める
陳情書〔継続審議〕

2 協 議

- (1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕
(2) 令和4年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

3 報 告

(1) 教育長報告

- ① 物価上昇に伴う学校給食食材購入費補助の継続について (資料1)
② 学校給食費および教材費未納金の訴訟提起について (資料2)
③ ヤングケアラー実態調査の実施結果について (資料3-1、3-2、3-3、参考資料1)
④ 物価上昇に伴う民間教育・子育て施設への施設等運営支援臨時給付金について (資料4)
⑤ 保育所整備等の取組について (資料5)
⑥ 谷原五丁目保育所用地における認可保育所の整備・運営事業者の決定
について (資料6)
⑦ 「民設子育てのひろば」の新規指定について (資料7)
⑧ その他

4 視 察

- (1) 開進第三中学校における授業

令和 4 年 10 月 21 日
教育振興部保健給食課

物価上昇に伴う学校給食食材購入費補助の継続について

物価上昇に伴う学校給食食材購入費補助については、令和 4 年 6 月補正予算で、令和 4 年 4 月から同年 9 月分までに必要になる食材購入費の不足分を計上し、令和 4 年 10 月以降については、物価状況等を勘案し、継続の必要性を判断することとしていた。

この度、直近の食材購入費の状況等確認した結果、現在の学校給食費を超えているため、補助必要額を見直し、今年度末まで本事業を継続する。

記

1 事業目的・概要

学校給食における食材購入費の上昇分を補助し、保護者が負担する給食費を据え置く。

2 学校給食費の状況

東京都区部の月ごとの食品価格は、令和 4 年 1 月から上昇が継続している（令和 4 年 7 月は前年同月比 4.3%）。

令和 4 年 7 月における食材購入費は、下表のとおり、現在の学校給食費を超えている状況である。

（令和 4 年 7 月 区立小中学校における 1 食あたりの給食費） 単位：円

		小学校/括弧内 4 月比	中学校/括弧内 4 月比
食 材	主食 1	26.92 (+0.00)	39.29 (+0.00)
	牛乳 1	53.73 (+0.00)	53.73 (+0.00)
	副食	177.45 (+1.36)	228.36 (+1.50)
小計		258.10 (+1.36)	321.38 (+1.50)
消費税		20.65 (+0.10)	25.72 (+0.12)
A：合計		278.75 (+1.46)	347.10 (+1.62)
B：学校給食費		262.56 (+0.00)	333.00 (+0.00)
A-B：不足分		16.19 (+1.46)	14.10 (+1.62)



1 食あたりの		小学校	中学校
補助必要額	2	17 円	15 円

- 1 主食と牛乳の価格は年間で固定のため、価格の変動がない。
- 2 補助必要額は、6 月補正時と同様に食材料費と学校給食費の差を、1 円単位で切り上げた。

3 区補助の概要

補助額等

令和4年7月分の状況から算出した、1食あたりの補助必要額を基に、令和4年10月から令和5年3月までに必要となる食材購入費の不足分を補助する。

全校への補助実施にかかる経費は下表のとおり。

	小学校	中学校	合計
ア：1食あたりの補助額	17円	15円	
イ：令和4年5月児童・生徒数	33,666人	13,448人	
ウ：10～3月1人あたり平均累計食数	106食	103食	
ア×イ×ウ：区補助予算額	60,666,132円	20,777,160円	81,443,292円

令和4年4月から同年9月までの1食あたりの補助額は、小学校15円、中学校13円、区補助予算額は59,103,005円だった。

補助の方法

各学校に対して、当該校の児童生徒数と給食回数に応じた額を、食材購入費として一括して交付する。

補助対象期間

令和4年10月から令和5年3月まで。

令和 4 年 10 月 21 日
教育振興部保健給食課

学校給食費および教材費未納金の訴訟提起について

学校給食費および教材費の未納金について、下記のとおり小学校長が訴訟を提起する。

記

訴訟を提起する日	令和 4 年 10 月 31 日（予定）
訴えの趣旨	つぎの金額の支払いを求める。 学校給食費および教材費の未納分 392,653 円 訴訟費用
訴えの理由	練馬区立小学校の学校給食費および教材費について、納付期限を経過しても納付を行わない者（以下「滞納者」という。）のうち、学校長が法的措置による対応が必要と判断した滞納者に対し、練馬区は弁護士に委託して督促を行った。その後、応答がなく、かつ、納付がないため訴えを提起するものである。
訴えの相手方	滞納者 2 名
訴えを提起する者	小学校の校長 1 名

令和 4 年 10 月 21 日
教育振興部学校教育支援センター

ヤングケアラー実態調査の実施結果について

ヤングケアラーの実態を把握し、福祉、保健、教育、子育て等の分野が連携して行う支援を充実するため、下記の通り調査を実施した。

記

1 調査方法および対象

(1) 児童・生徒調査 アンケート調査（A 3 二つ折）、無記名式

練馬区立学校の小学6年生および中学2年生全員（小学生5,711人、中学生4,570人）

(2) ふれあい月間調査 アンケート調査、記名式

練馬区立小中学校の全児童・生徒（小学生33,666人、中学生13,449人）

(3) 教員調査 Web調査、無記名式

練馬区立小中学校に勤務する教員（小学校1,737人、中学校829人）

(4) 民生・児童委員調査 アンケート調査、無記名式

民生・児童委員および民生・児童委員協力員（580人）

2 回答状況

調査種類		対象者数	回収数	回収率
(1) 児童・生徒調査	小学6年生	5,711人	5,404件	94.6%
	中学2年生	4,570人	4,162件	91.1%
(2) ふれあい月間調査	小学生	33,666人	32,966件	97.9%
	中学生	13,449人	12,691件	94.4%
(3) 教員調査	小学校	1,737人	1,234件	71.0%
	中学校	829人	484件	58.4%
(4) 民生・児童委員調査		580人	457件	78.8%

3 調査期間

令和 4 年 6 月から 7 月

4 集計結果（別紙のとおり）

- (1) ヤングケアラーに関する実態調査 集計結果概要
- (2) ヤングケアラー実態調査報告書
- (3) ヤングケアラー実態調査（民生・児童委員対象）集計結果

1 児童・生徒実態調査の概要

児童・生徒の実態（ヤングケアラー実態調査）

調査対象 区立学校 小学6年生および中学2年生全員（小学6年生 5,711人、中学2年生 4,570人）
調査期間 令和4年6月 **調査方式** アンケート調査、無記名方式
回収状況 小学6年生 5,404件（回収率 94.6%）、中学2年生 4,162件（回収率 91.1%）

(1) 児童・生徒全体の世話の状況

「家族の世話をしている」と回答した児童・生徒の数 報告書 第1章 P.6

【小6】419人（7.8%）【中2】273人（6.6%）（参考）国調査 【小6】6.5% 【中2】5.7%

「家族の世話をしている」には、「お手伝いの範囲」とお手伝いの域を超えている「過度な負担」まで差異がある。

「世話をしている」児童生徒を、「お手伝いの範囲の世話をしている」と「過度な負担となる世話をしている」に分類するため、1日当たりの「世話の時間」と1週間当たりの「世話の日数」から、学識経験者の助言をもとに「時間が長い(■)」群、「時間がやや長い(■)」群、「時間が短い(■)」群に3分類

【小6】	1日の世話の時間						世話の頻度
	3時間超	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分以内	無回答	
ほぼ毎日	9	19	47	72	47	32	
週3~5日	1	1	11	48	27		
週1~2日	0	2	8	28	39		
1月に数日	28						
無回答	分類不能						

【中2】	1日の世話の時間						世話の頻度
	3時間超	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分以内	無回答	
ほぼ毎日	4	14	37	41	28	21	
週3~5日	0	3	6	41	16		
週1~2日	0	2	5	14	26		
1月に数日	15						
無回答	分類不能						

(2) 世話の時間の長い群の児童・生徒の生活実態 報告書 第3章 P.72~P.73、P.90~P.95

世帯構成

中学生では「ひとり親」が多い。

生活状況

朝食を「毎日食べている」の割合（小 73.9%、中 59.4%）は、他の群の児童・生徒より低い。

生活満足度は、他の群の児童・生徒より低い傾向がある。中学生は特にその傾向が強い。

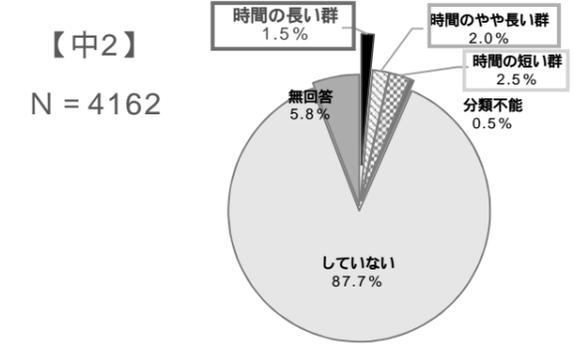
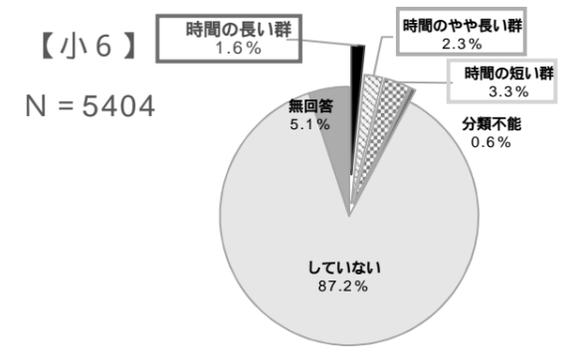
睡眠時間、学校外での学習時間、自由に過ごせる時間では、他の群との特徴的な差はない。

「世話の時間の長い」群の児童・生徒の調査結果は、他の2群の生活状況とは異なる特徴がある。
= 生活状況に特徴がある

「世話の時間の長い」群は、ヤングケアラーの可能性が高い児童・生徒

ヤングケアラーの可能性が高い児童・生徒

【小6】1.6% (88人) 【中2】1.5% (64人)



(3) ヤングケアラーの可能性の高い子どもたち（「世話の時間の長い」群）の世話の実態

報告書 第3章 P.71-P.89

世話の対象と世話の内容

対象は「弟・妹」（小 68.2%、中 68.8%）、「母」（小 13.6%、中 21.9%）が多い。

内容は「話し相手」（小 40.9%、中 53.1%）、「見守り」（小 38.6%、中 43.8%）「家事」（小 38.6%、中 51.6%）が多い。

世話をする理由

「当たり前だと思う」（小 45.5%、中 39.1%）、「自分が世話をしたいと思った」（小 43.2%、中 29.7%）、「家族が仕事で忙しい」（小 18.2%、中 42.2%）が多い。

「当たり前だと思う」のように気持ちによる理由と「家族が仕事で忙しい」のように具体的な家庭状況による理由に大別されるが、中学生は、具体的な家庭状況の選択が多い。

世話の影響

具体的な影響を回答する子どもは少ないが、回答の中では「持ち物や宿題を忘れる」（小 10.2%、中 17.2%）、「自分の時間や遊ぶ時間がない」（小 10.2%、中 12.5%）が多かった。

子どもの相談状況

世話をするに関して相談をしない子どもは約8割。相談しない理由は、「相談するほどの悩みではない」（小 44.9%、中 31.3%）が最も多く、次に「相談しても何も変わらないから」（小 21.7%、中 29.2%）が多かった。相談ニーズは潜在化している。

相談経験のある子どもの相談相手は、「母」、「友だち」が多く、次にその他の家族が多い。相談は、主に家族内でされている。家族以外の相談先で一番多かったのは、先生であった。

子どもが求めていること

「自由な時間」（小 14.8%、中 9.4%）、「自由に過ごせる場所」（小 10.2%、中 14.1%）「勉強を教えてほしい」（小 11.4%、中 9.4%）などの回答があった。

「お世話を代わりにしてくれるサービス」を求める回答はほとんどなかった。子どもにはまだ公的サービスのイメージがないことが考えられる。

ヤングケアラーの可能性が高い子どもたちの中でも、生活への影響や本人の受け止め（負担感）などに軽重がある。子ども自身が具体的な影響や負担感を訴えるものは少なく、自分からSOSを発しづらい状況がある。

ヤングケアラーに関する実態調査 集計結果概要 2

2 ふれあい月間調査の概要

調査対象 区立小中学校の児童・生徒全員（小学生 33,666人、中学生 13,449人）
調査期間 令和4年6月 **調査方式** アンケート調査、記名方式
回収状況 小学生 97.9%（32,966人）、中学生 94.4%（12,691人）

報告書 第1章 P.26
 第6章 P.120 ~ P.121

いじめや不登校などのふれあい月間調査で「家事や家族の世話などで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」に「はい」と答えた子どもの人数

小学校	人数（%）	中学校	人数（%）
1年生	215人(3.9%)	1年生	25人(0.6%)
2年生	102人(1.8%)	2年生	10人(0.2%)
3年生	68人(1.2%)	3年生	6人(0.1%)
4年生	54人(1.0%)		
5年生	30人(0.6%)		
6年生	20人(0.4%)		
小学生計	489人(1.5%)	中学生計	41人(0.3%)

学年が下がるほど、「はい」と答えた子どもが増加している。小学校低学年では、設問の意図を理解していない可能性がある。

今回の児童・生徒実態調査では、小学6年生25人、中学2年生18人が、世話の影響で勉強や遊ぶ時間が取れないと回答した。2つの調査の結果の差異は、調査方法(記名式、無記名式)などの影響によるものと考えられる。

ふれあい月間調査で「はい」と答えた児童・生徒には、教員が一人ひとり状況を聴き取っている。

3 教員実態調査の概要

調査対象 小・中学校の教員
調査期間 令和4年7月 **調査方式** アンケート調査、無記名方式
回答率 67.0%（1,718人 小1,234人、中 484人）

報告書 第5章 P.106 ~ P.119

(1) ヤングケアラーという言葉の認知度（N=1,718）

ヤングケアラーという言葉や内容を知っている教員は小学校 68.8%、中学校 72.9%

(2) 学校での「ヤングケアラー」の発見状況（N=1,718）

「ヤングケアラーと思われる子どもを把握している」と答えた教員は、小学校 9.8%、中学校 23.8%。
 「ヤングケアラーはいない」と答えた教員は、小学校で43.9%、中学校では26.2%。

(3) 学校での「ヤングケアラー」支援状況（n=236）

ヤングケアラーと思われる子どもを発見した教員のうち、
 「支援を行っている」と答えた教員は、小学校44.6%、中学校34.8%。
 「支援を行っている子どもと行っていない子どもがいる」と答えた教員は、小学校24.8%、中学校30.4%。
 「支援していない」と答えた教員は、小学校28.1%、中学校33.0%。

学校で実施している支援は、「子どもの話を聞いている」、「学校で情報を共有し、支援に向けて検討している」、「区の支援機関と連携している」の回答が多い。

(4) 支援を行っていない理由（n=137）

把握していても支援していない理由については、「家庭のデリケートな問題に関われない」、「本人や家族に自覚がない」、「支援の方法がわからない」、「支援が必要な状況ではない」といった回答が多くあった。
 自由記述には「忙しくて時間が取れない」と答えた教員も多い。

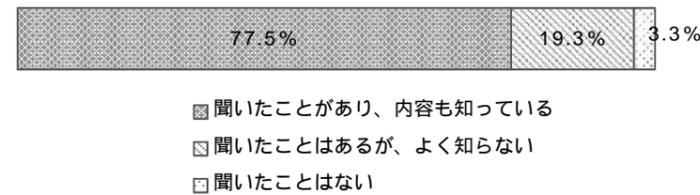
教員の分析

ヤングケアラーの問題は、家庭内のデリケートな問題であり、時間が限られているなかで、家庭の問題にアプローチすることに教員が難しさを感じていることが分かる。

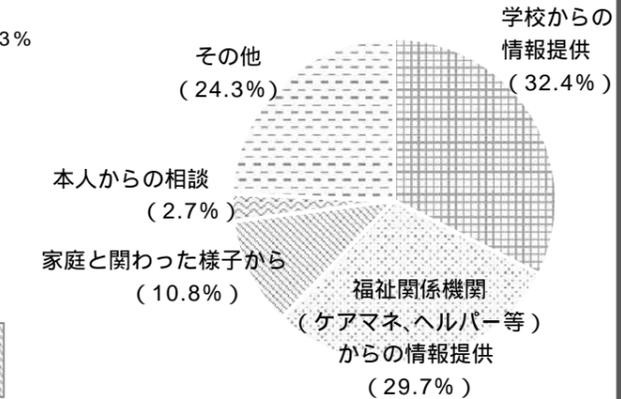
4 民生・児童委員実態調査の概要

調査対象 民生・児童委員等
調査期間 令和4年6月～7月 **調査方式** アンケート調査、無記名方式
回答率 78.8%（457人）

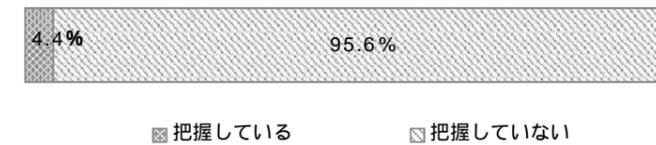
(1) ヤングケアラーという言葉の認知度（N=457）



(2) ヤングケアラーを把握したきっかけ（n=37）



(3) ヤングケアラーの把握状況（N=457）



ヤングケアラーという言葉や内容を知っている民生・児童委員は77.5%
 日常の活動で把握したケースは13.5%、学校や関係機関からの情報提供で把握したケースは62.1%

民生・児童委員の分析

ヤングケアラーを把握している民生・児童委員は全体の4.4%（20人）。民生・児童委員が、日常の活動で把握するには限界がある。

5 実態調査から見てきた課題と対応の方向性

ヤングケアラーの発見と把握

学校、関係機関、地域で、ヤングケアラーの理解を進め、把握を推進

子どもの相談を受け止める体制づくり

子どもが相談しやすい環境づくりと、子どもに一番近い学校の相談体制の強化

子ども・家庭の支援体制づくり

ヤングケアラーの情報を一元化し、各分野が連携する支援体制づくり

ヤングケアラーと支援が必要な家庭を支える
 福祉、保健、教育、子育て等の分野を横断して連携する支援の推進

令和4年度（2022年度）
ヤングケアラー実態調査

報 告 書

練馬区教育委員会

目次

調査の概要	1
I 調査の背景と目的.....	1
II 調査の実施.....	1
III 調査の種類および概要.....	2
IV 集計・分析に関する留意事項.....	4
第1章 児童・生徒の家庭・生活状況（世話の有無別集計）	5
1-1 回答者の属性.....	5
1-2 児童・生徒の家庭・生活状況.....	8
1-2-1 世帯構成.....	8
1-2-2 睡眠と朝食.....	12
1-2-3 自分の時間.....	16
1-3 生活満足度.....	18
1-4 家族の世話をする児童・生徒の状況.....	20
1-4-1 世話をする対象者.....	20
1-4-2 家庭内で世話を担う人.....	21
1-4-3 世話の内容.....	22
1-4-4 世話をする理由.....	23
1-4-5 世話をする日数・時間.....	24
1-5 世話をするることによる影響と思い.....	26
1-5-1 世話をするることによる影響.....	26
1-5-2 世話をするることについて思っていること.....	27
1-5-3 周囲に助けてほしいこと.....	28
1-6 相談の状況.....	30
1-6-1 相談の状況.....	30
1-6-2 相談していない理由.....	32
第2章 世話の関わり方による児童・生徒の状況（世話の関わり方別 クロス集計）	34
2-1 回答者の属性.....	34

2-2	家族の世話をする児童・生徒の状況.....	38
2-2-1	世帯構成.....	38
2-2-2	世話をする対象者.....	40
2-2-3	世話の内容.....	42
2-2-4	世話をする理由.....	44
2-2-5	世話をする日数・時間.....	46
2-3	世話をすることによる影響と思い.....	48
2-3-1	世話をすることによる影響.....	48
2-3-2	世話をすることについて思っていること.....	50
2-3-3	周囲に助けてほしいこと.....	52
2-4	相談の状況.....	54
2-4-1	相談の状況.....	54
2-4-2	相談していない理由.....	58
2-5	家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況.....	60
2-5-1	睡眠と朝食.....	60
2-5-2	自分の時間.....	62
2-6	生活満足度.....	64

第3章 世話の時間の長さによる児童・生徒の状況（世話の時間の長さ別 クロス集計）

	66
3-1	回答者の属性.....	66
3-2	家族の世話をする児童・生徒の状況.....	71
3-2-1	世話をする対象者.....	71
3-2-2	世帯構成.....	72
3-3	世話の内容と理由.....	74
3-3-1	世話の内容.....	74
3-3-2	世話をする理由.....	76
3-4	世話をすることによる影響と思い.....	78
3-4-1	世話をすることによる影響.....	78
3-4-2	世話をすることについて思っていること.....	80
3-4-3	周囲に助けてほしいこと.....	82
3-5	相談の状況.....	84
3-5-1	相談経験のある子どもの状況.....	86
3-5-2	相談していない理由.....	88
3-6	家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況.....	90
3-6-1	睡眠と朝食.....	90

3-6-2 自分の時間.....	92
3-7 生活満足度.....	94
第4章 ヤングケアラー概念の認知度と自由記述.....	96
4-1 ヤングケアラー概念の認知度.....	96
4-2 家族の世話をする子どもに必要だと思うこと、してもらいたいこと.....	97
第5章 ヤングケアラーに関する学校調査（教員対象 単純集計）.....	106
5-1 属性.....	106
5-2 ヤングケアラー概念の認知度.....	107
5-3 ヤングケアラーの把握.....	108
5-4 教員が把握しているヤングケアラーの状況.....	109
5-5 学校で行っているヤングケアラーへの支援.....	112
5-6 教員がヤングケアラーを把握できない理由.....	116
5-7 ヤングケアラー支援に対する教員の思い.....	117
第6章 ふれあい月間調査（令和4年6月期）（児童・生徒調査）.....	120
6-1 回収状況.....	120
6-2 調査結果.....	120
第7章 ヤングケアラーの実態把握について（調査結果と考察）.....	122
7-1 調査の特徴.....	122
7-2 「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」の分類について.....	123
7-3 子どもの世話の関わり方と時間の長さによる分類の評価.....	124
7-4 ヤングケアラーの実態把握.....	125
7-5 ヤングケアラー支援に向けて.....	126
7-6 まとめ.....	127
資料.....	（巻末）

調査の概要

I 調査の背景と目的

本来、大人が担うべき家族の看護・介護や家事などを日常的に行っているヤングケアラーの問題は、当事者である子どもたちにとっては、当たり前の行為となっているため、自分をヤングケアラーだと認識することは難しく、社会的認知度が低いこともあいまって、顕在化しにくい状況となっている。

令和3年に練馬区が把握した支援が必要なヤングケアラーの実数は72名（区立学校に在籍する児童・生徒の0.15%）であり、令和2年から令和4年にかけて国が実施した実態調査の結果（小学生6.5%、中学生5.7%）とは乖離^{かいり}していた。

子どもたちの健やかな育ちのためにはヤングケアラーを早期に発見し、一人ひとりの家庭の状況に応じて、福祉・医療・教育・子育てなどの関係機関が連携して支援することが必要である。

練馬区の現状と国の調査結果との乖離の理由を明らかにするとともに、今後の支援の充実に向けて、ヤングケアラーの実態をより把握し、学校と関係機関が連携した支援体制を構築するために調査を実施した。

II 調査の実施

これまでも区では、支援が必要な子どもの存在を発見した場合には、教育や子育て、福祉、保健分野の現場で、連携しながら子どもと家庭の支援を行ってきた。令和4年2月、区では、ヤングケアラーへの支援を充実するために、各分野にまたがる検討組織「ヤングケアラー支援連携推進会議（以下、「連携会議」という。）」を新たに設置し、現在、検討を進めている。本調査は、学識経験者の助言のもと、連携会議での検討を踏まえ、教育委員会で実施した。

Ⅲ 調査の種類および概要

(1) 児童・生徒調査

- ① 「小学生の家庭・生活状況調査」「中学生の家庭・生活状況調査」
(第1章、第2章、第3章、第4章に調査結果を記載)

対象	練馬区立学校に在籍する小学6年生および中学2年生 (小中一貫教育校は6年生および8年生)
実施期間	令和4年6月2日～30日
調査方式	アンケート調査(A3判、二ツ折り)、無記名式
調査事項	世話をしている家族の有無、世話の内容や日常生活への影響など (問16、問18、問21については、年齢による理解度等の差を考慮し、小学生調査と中学生調査の選択肢構成に差異を設けた。また、中学生調査については、世話による影響や支援希望を問う設問で進路関係の選択肢を設けた)
回収状況	小学生 5,404件(調査対象者5,711人、回収率94.6%) 中学生 4,162件(調査対象者4,570人、回収率91.1%)
その他	① 保護者宛てに調査への協力の案内を配付 ② 調査対象児童・生徒に相談先の案内を記載したチラシを配布

② 「ふれあい月間調査（令和4年6月期）」

（第6章に調査結果を記載）

対象	練馬区立小・中学校に在籍する全児童・生徒
実施期間	令和4年6月1日～30日
調査方式	アンケート調査、記名式
調査事項	いじめや不登校などの悩みに合わせて、ヤングケアラーを把握するための設問を追加
回収状況	小学生 32,966件（調査対象者33,666人、回収率97.9%） 中学生 12,691件（調査対象者13,449人、回収率94.4%）

（2）学校調査

【調査名】「ヤングケアラー支援に関する実態調査」

（第5章に調査結果を記載）

対象	練馬区立学校に勤務する全教員(常勤)
実施期間	令和4年7月12日～29日
調査方式	アンケート調査（web調査）、無記名式
調査事項	「ヤングケアラー」概念の認知状況、「ヤングケアラー」と思われる子どもの把握状況、「ヤングケアラー」への支援・対応の状況 等
回収状況	小学校教諭 1,234件（調査対象者1,737人、回収率71.0%）、中学校教諭 484件（調査対象者829人、回収率58.4%）

IV 集計・分析に関する留意事項

- アンケート調査の設問には、主に、選択肢から該当するものを1つ選択する単一回答形式の設問と、該当するものを複数選択することが可能な複数回答形式の設問がある。
- 回答の比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、単一回答の設問において各選択肢の回答に関する数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答形式の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 図表内の「n=○○」はその設問についての集計対象件数を示している。なお、母集団のデータの数を示す場合は、「N=○○」と表記する。
- クロス分析において、サンプルサイズ(抽出した標本におけるデータの個数)が少ない場合には、全体の状況を代表しているとは限らない点に留意が必要である。

第1章 児童・生徒の家庭・生活状況

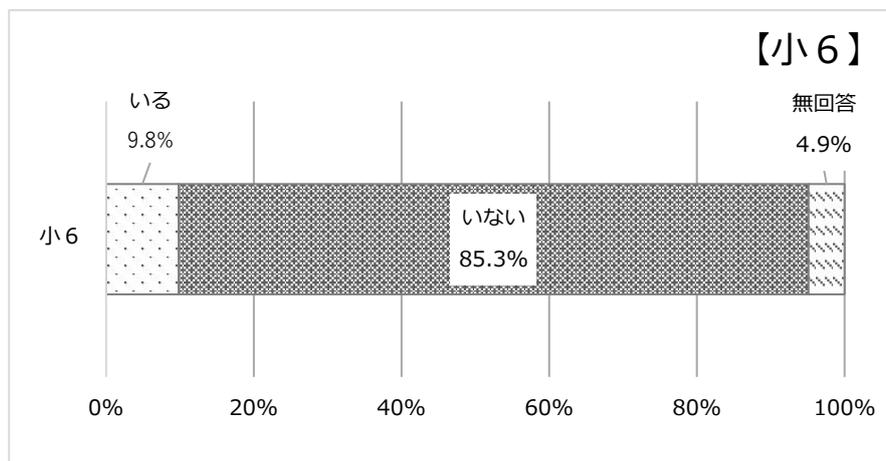
(世話の有無別集計)

1-1 回答者の属性

設問【問8】において、「家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人がいる」と回答した小学生は531人、中学生は355人であった(図表1-1-1)。また、世話が必要な家族がいると回答した児童・生徒に【問11】において、児童・生徒が手助けや世話に関わっているかを尋ねたところ、小学生419名、中学生273名が「世話をしている」と回答(図表1-1-2)。家族の世話をしている児童・生徒が全体に占める割合は、小学生7.8%、中学生6.6%であった。

【問8】(単一回答) 家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか。

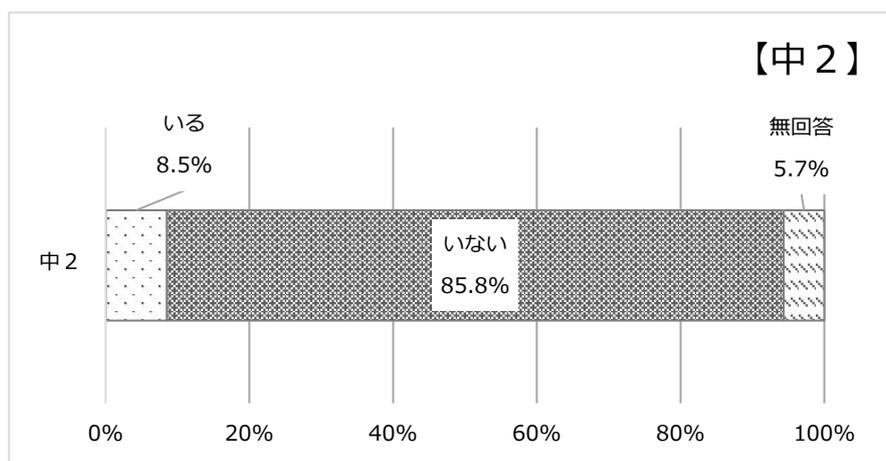
図表1-1-1 手助けや世話を必要とする家族の有無



(単位：人)

いる	531
いない	4,609
無回答	264

N = 5,404



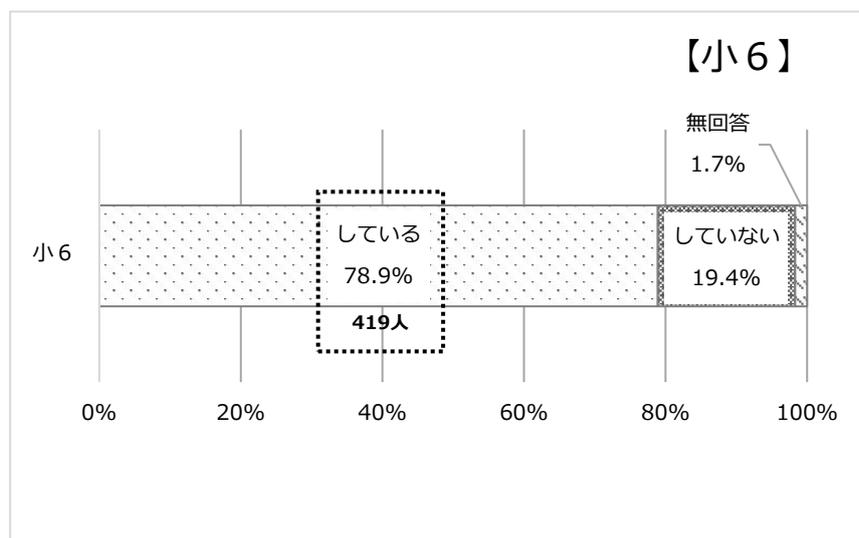
(単位：人)

いる	355
いない	3,571
無回答	236

N = 4,162

【問 11】（単一回答） あなたはお世話をしていますか。

図表 1-1-2 世話をしている子どもの割合

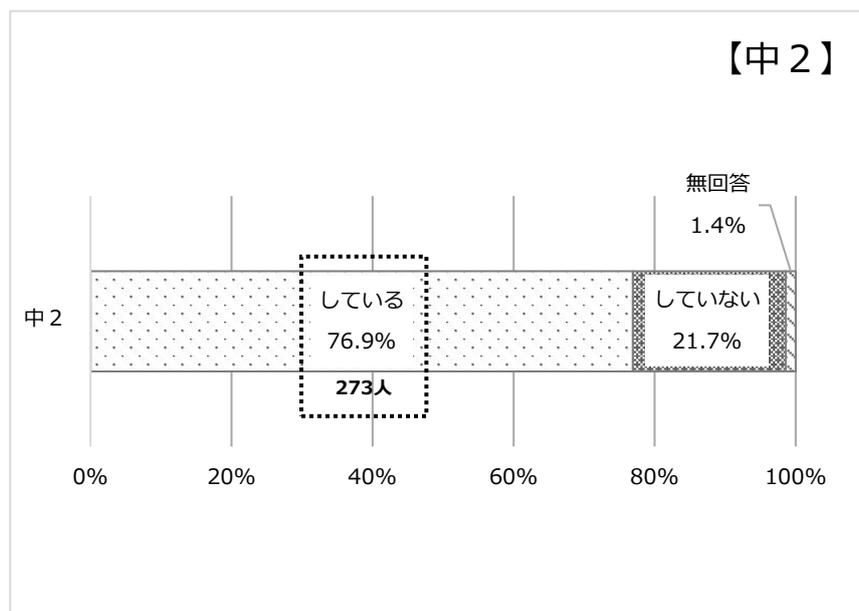


(単位：人)

している	419
していない	103
無回答	9

n = 531

419 人/5,404 人 (回答者全数)
=7.8%



(単位：人)

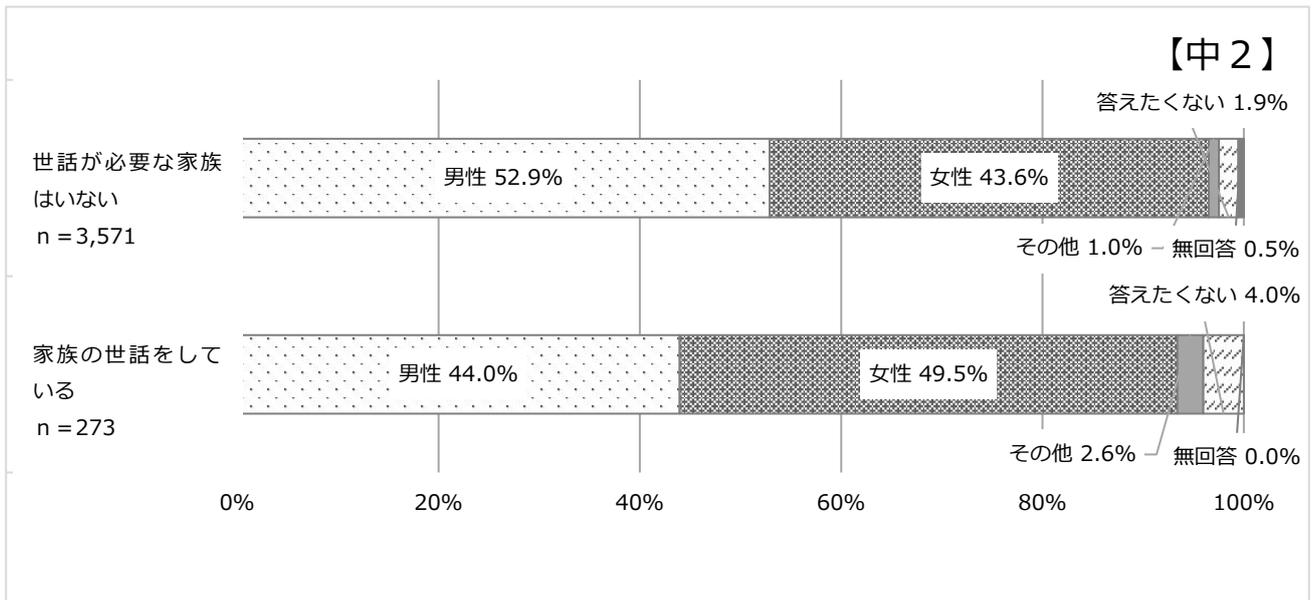
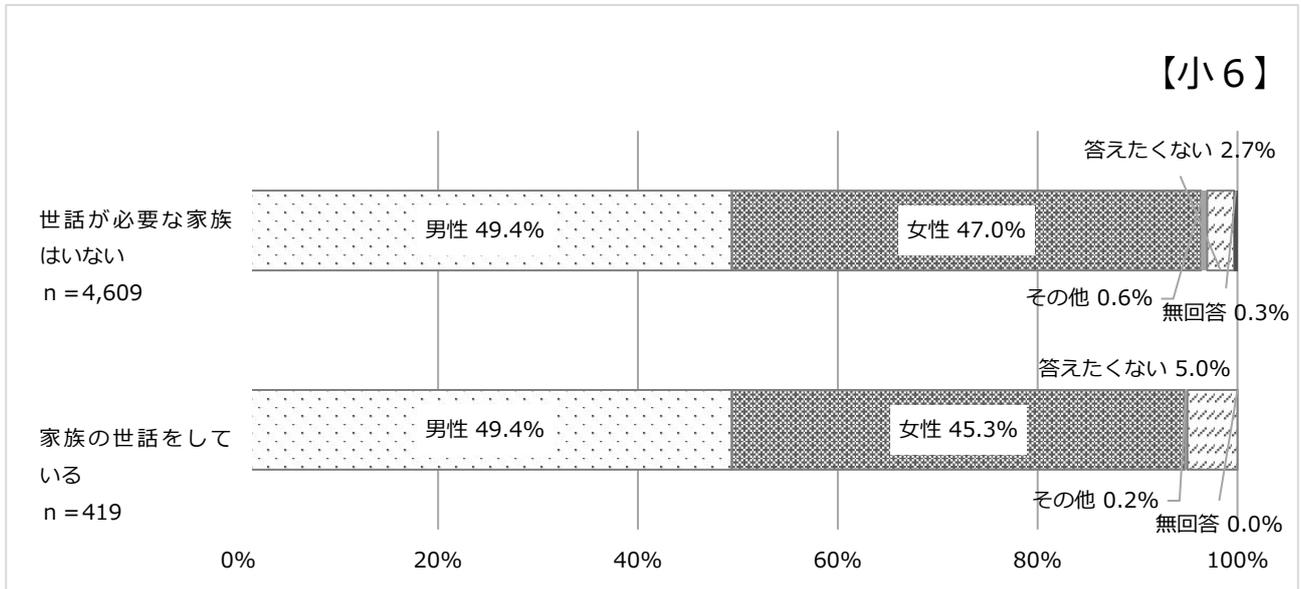
している	273
していない	77
無回答	5

n = 355

273 人/4,162 人 (回答者全数)
=6.6%

【問1】(単一回答) あなたのことについて教えてください(性別)。

図表 1-1-3 性別



1-2 児童・生徒の家庭・生活状況

【問 8】「家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか」で「いない」を選択した「世話が必要な家族はいない」群と、【問 11】「あなたはお世話をしていますか」で「している」を選択した「家族の世話をしている」群（図表 1-1-1、図表 1-1-2）に区分し、クロス集計により、生活状況を比較した。

1-2-1 世帯構成

「世話が必要な家族はいない」群、「家族の世話をしている」群いずれの群においても「2 世代世帯」の割合が最も多いが、「家族の世話をしている」群は、「世話が必要な家族はいない」群に比し、小学生、中学生ともに「3 世代」の割合が高い。また、中学生では「ひとり親世帯」の割合もやや高い（図表 1-2-1-2）。

【問 7】（複数回答）いっしょに住んでいる人はだれですか。

図表 1-2-1-1 いっしょに住んでいる人

（単位：人）

	世話が必要な家族はいない 小 6 n = 4,609	家族の世話をしている 小 6 n=419	世話が必要な家族はいない 中 2 n=3,571	家族の世話をしている 中 2 n=273
お母さん	4,531	411	3,484	262
お父さん	4,121	372	3,120	223
おばあさん	390	64	302	60
おじいさん	228	44	173	27
兄・姉	2,143	148	1,770	113
弟・妹	2,030	287	1,595	175
その他	203	46	161	26
無回答	28	1	20	1

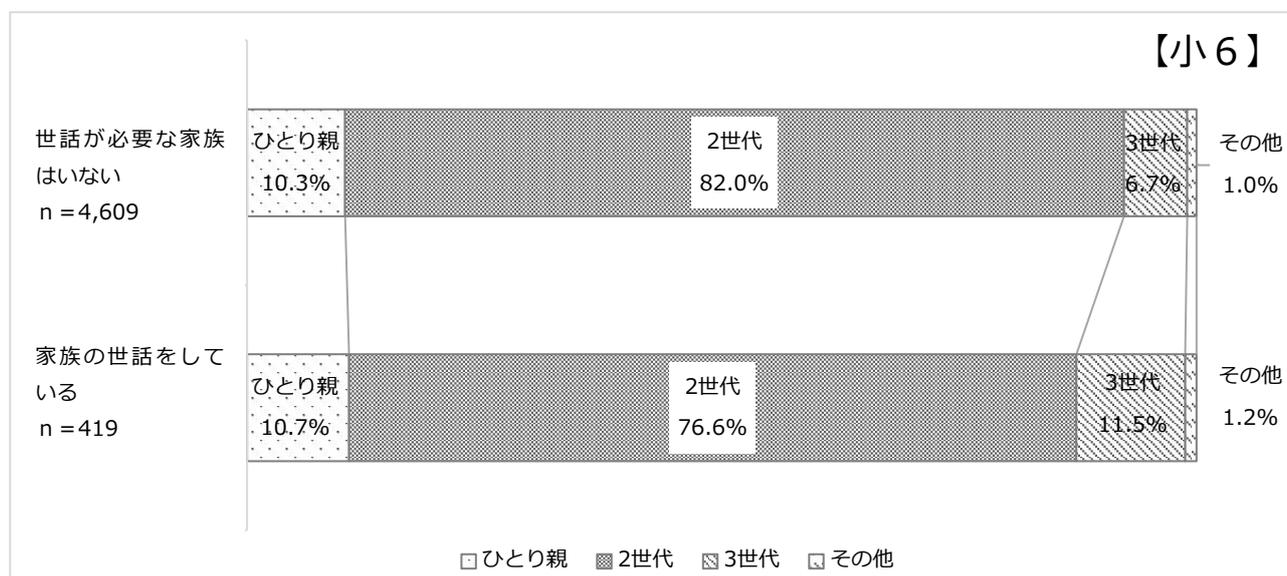
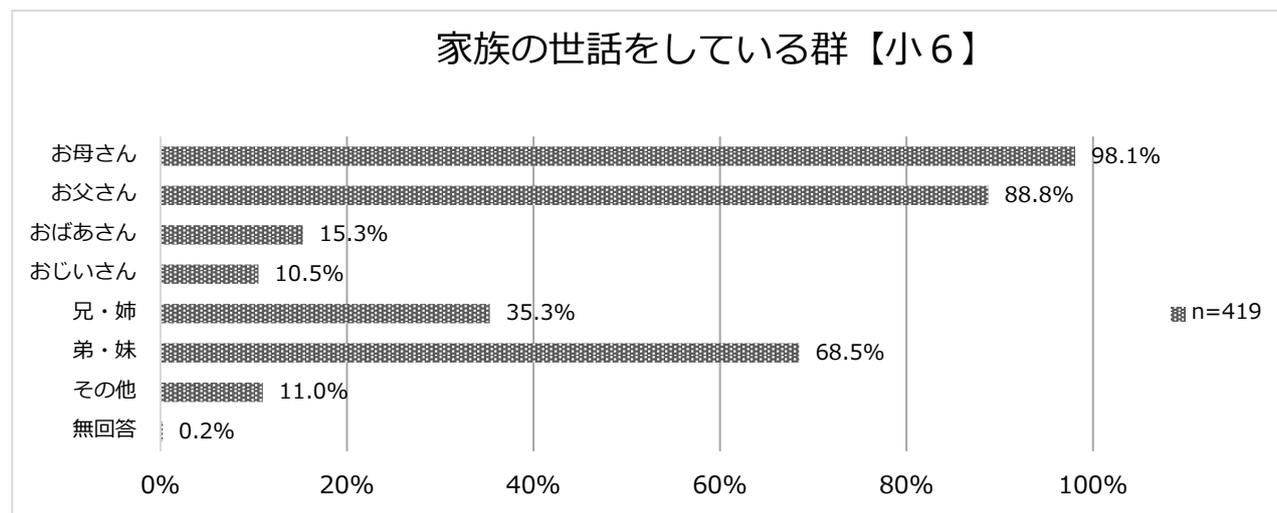
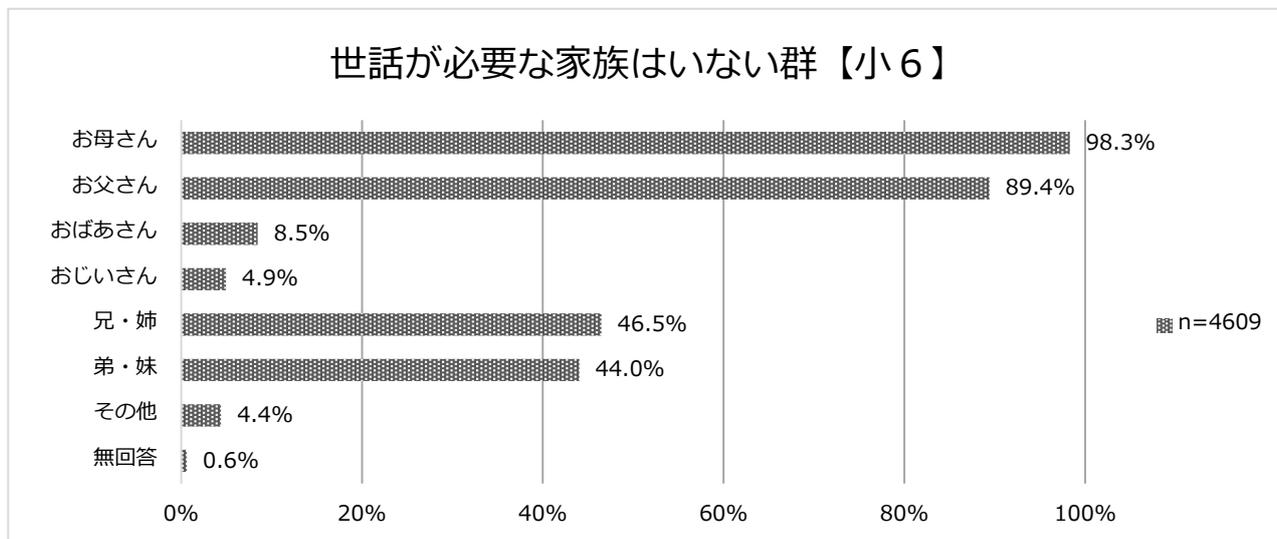
世帯構成の分類方法

【問7】 いっしょに住んでいる人はだれですか（複数回答）の回答をつぎの条件に基づき分類

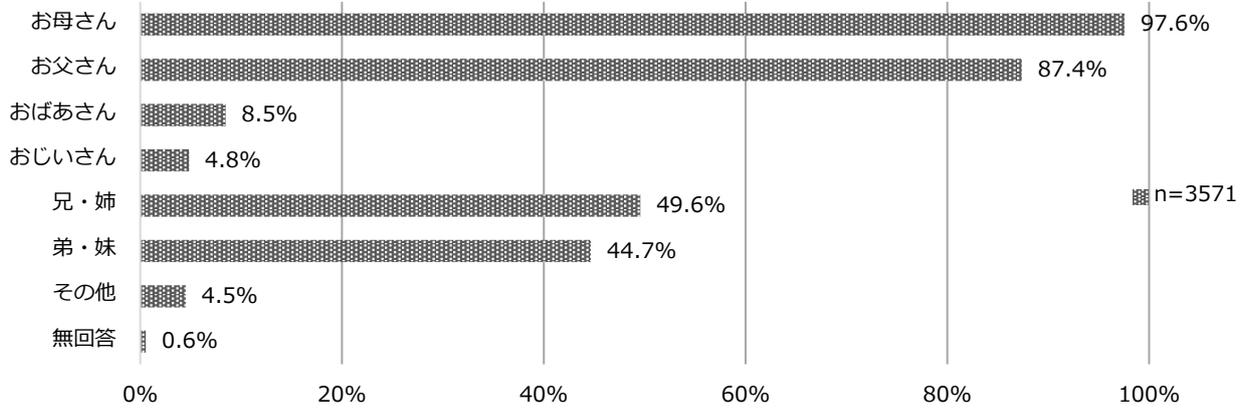
分類	条件
2世代	お母さん、お父さんのいずれにも○があり、おばあさん、おじいさんのいずれにも○がない
3世代	お母さん、お父さんのいずれにも○があり、おばあさん、おじいさんの両方またはいずれかに○がある
ひとり親	お母さん、お父さんのどちらか一方のみに○がある
その他	上記以外 （例）お母さん、お父さんのいずれにも○が無い、選択肢をいずれも選んでいない

【問7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。（回答から世帯状況を分類）

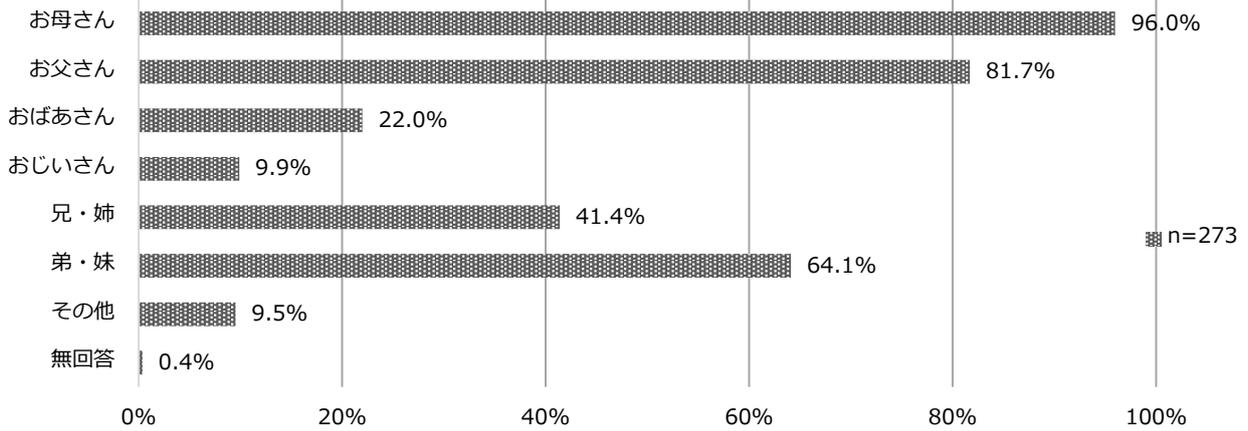
図表 1-2-1-2 同居家族と世帯状況



世話が必要な家族はいない群【中2】



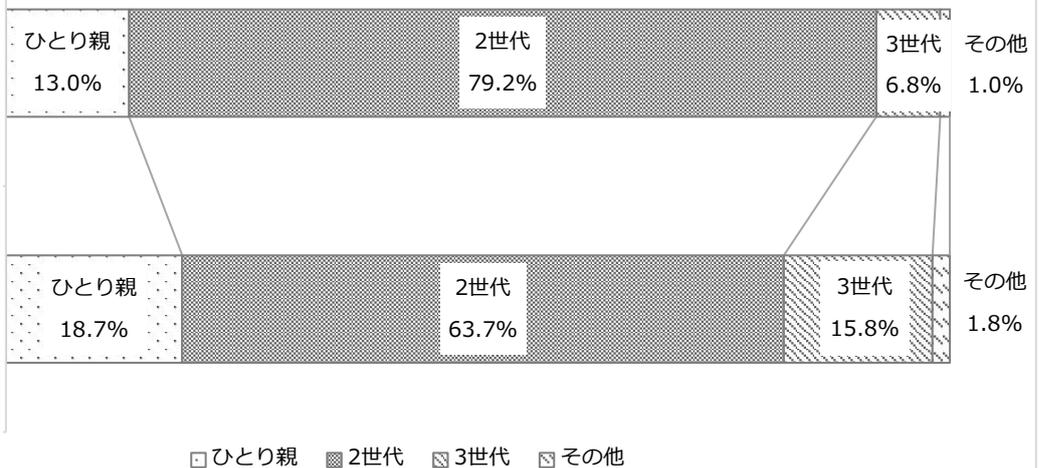
家族の世話をしている群【中2】



【中2】

世話が必要な家族
はいない
n = 3,571

家族の世話をして
いる
n = 273



1-2-2 睡眠と朝食

睡眠時間は、小学生の「家族の世話をしていない」群で「8時間」の項目の割合がやや高いものの、他には特徴的な差は見られない（図表 1-2-2-3）。朝食の喫食状況では、中学生の「家族の世話をしている」群で「世話が必要な家族はいない」群より「毎日食べている」の割合はやや低く、「どちらかといえば」の割合はやや高くなっているが、「毎日食べている」、「どちらかといえば食べている」の2項目を合計した場合で見ると、群間の差はほぼない（図表 1-2-2-4）。

【問 2】（単一回答）平日（学校がある日）朝は、何時ごろに起きていますか。

図表 1-2-2-1 起床時間

（単位：人）

	世話が必要な 家族はいない 小 6 n = 4,609	家族の世話を している 小 6 n = 419	世話が必要な 家族はいない 中 2 n = 3,571	家族の世話を している 中 2 n = 273
午前 6 時より前	451	43	295	29
午前 6 時台	1,956	181	1,375	113
午前 7 時台	2,109	183	1,836	127
午前 8 時過ぎ	25	5	32	3
その他	53	6	25	1
無回答	15	1	8	0

【問 6】（単一回答）平日（学校がある日）夜の寝る時間は何時ごろですか。

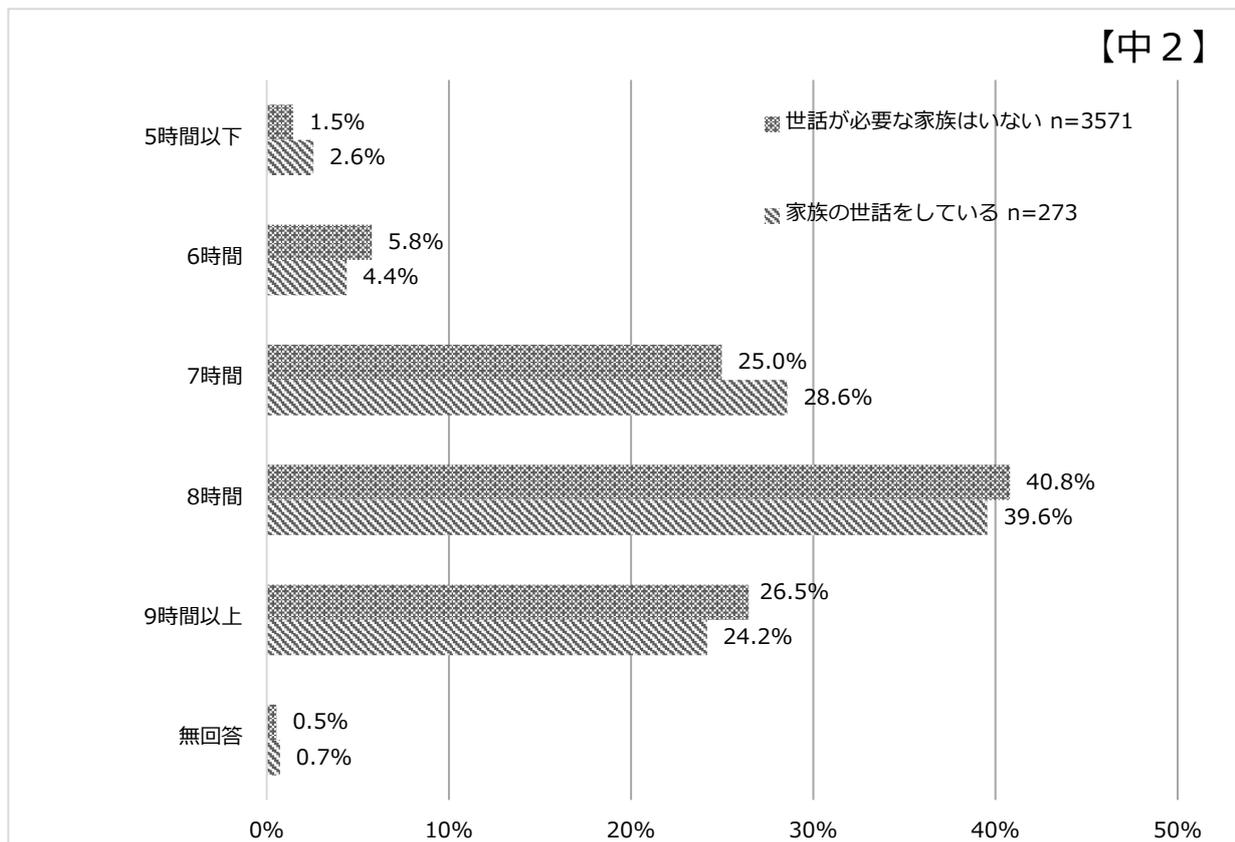
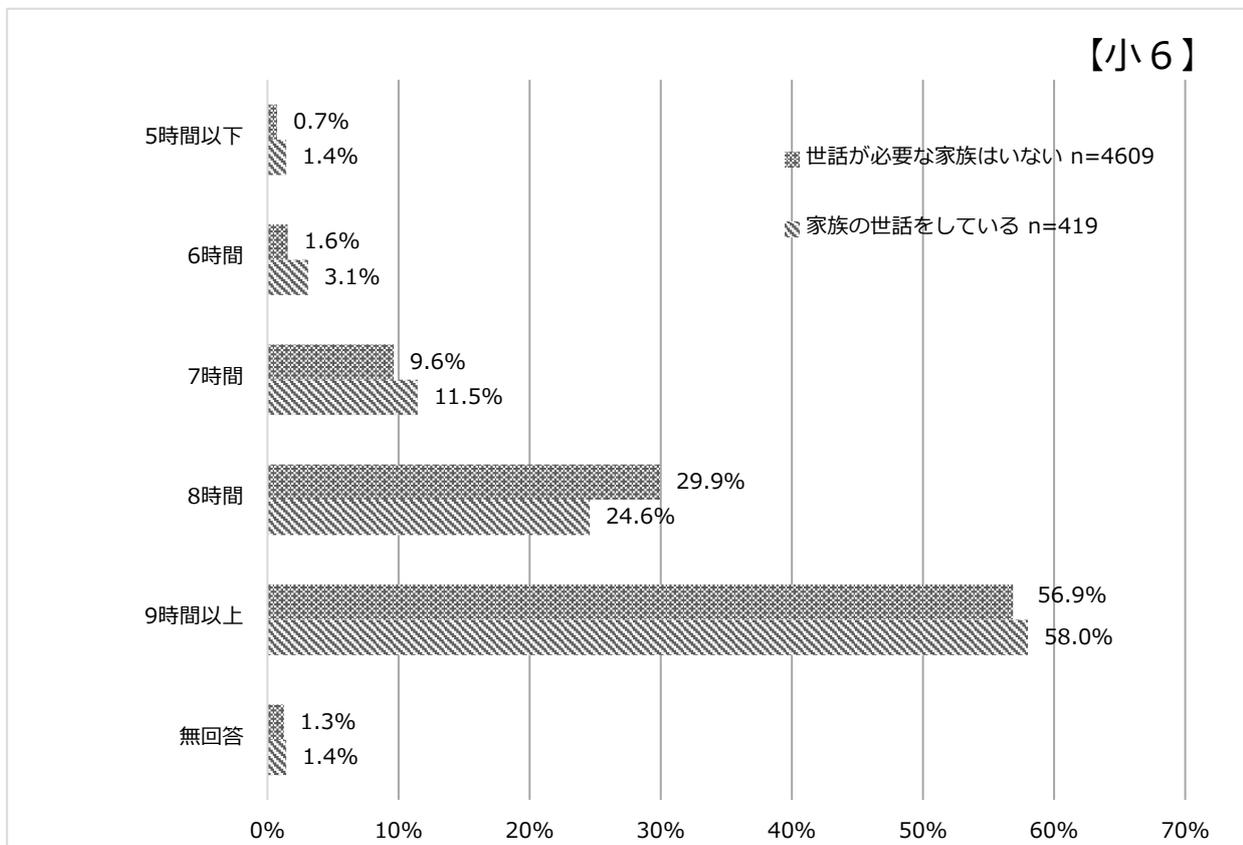
図表 1-2-2-2 就寝時間

（単位：人）

	世話が必要な 家族はいない 小 6 n = 4,609	家族の世話を している 小 6 n = 419	世話が必要な 家族はいない 中 2 n = 3,571	家族の世話を している 中 2 n = 273
午後 9 時過ぎから 10 時の間	1,678	165	380	28
午後 10 時過ぎから 11 時の間	1,932	151	1,344	103
午後 11 時過ぎから午前 0 時の間	635	51	1,261	92
午前 0 時より後	149	25	534	41
その他	172	22	40	8
無回答	43	5	12	1

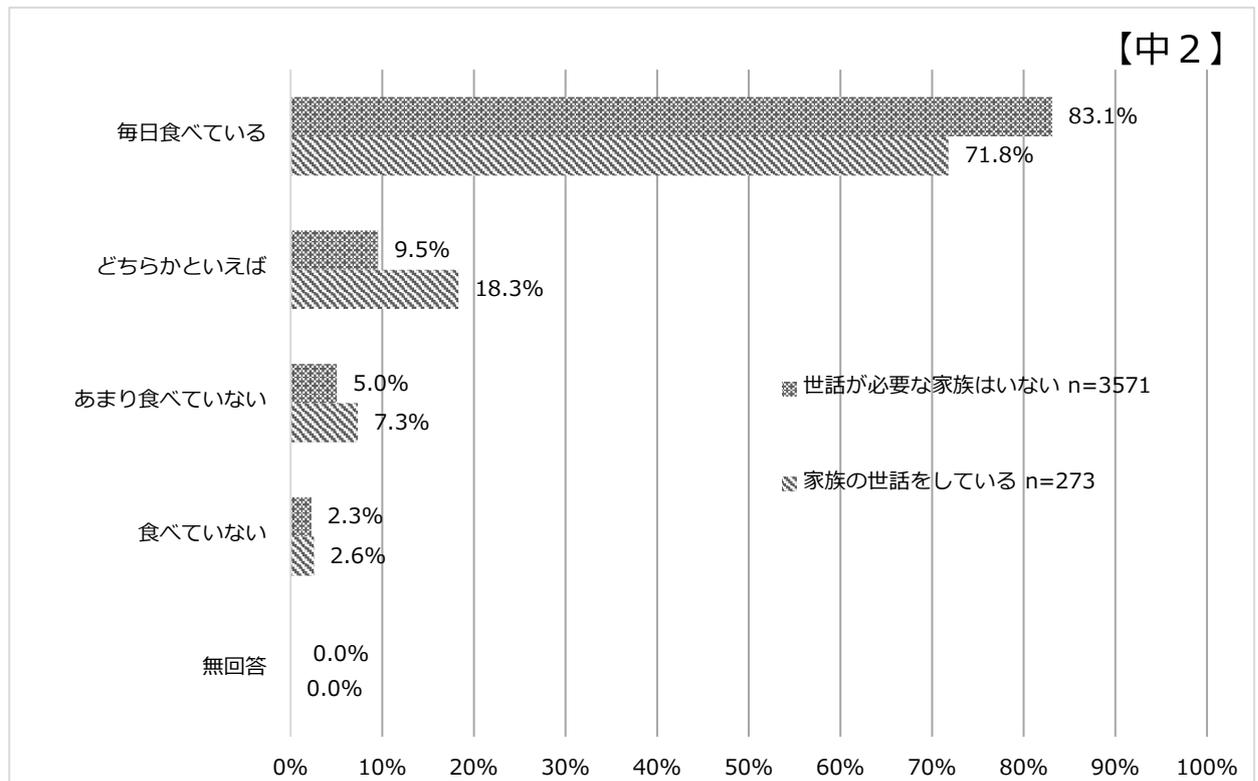
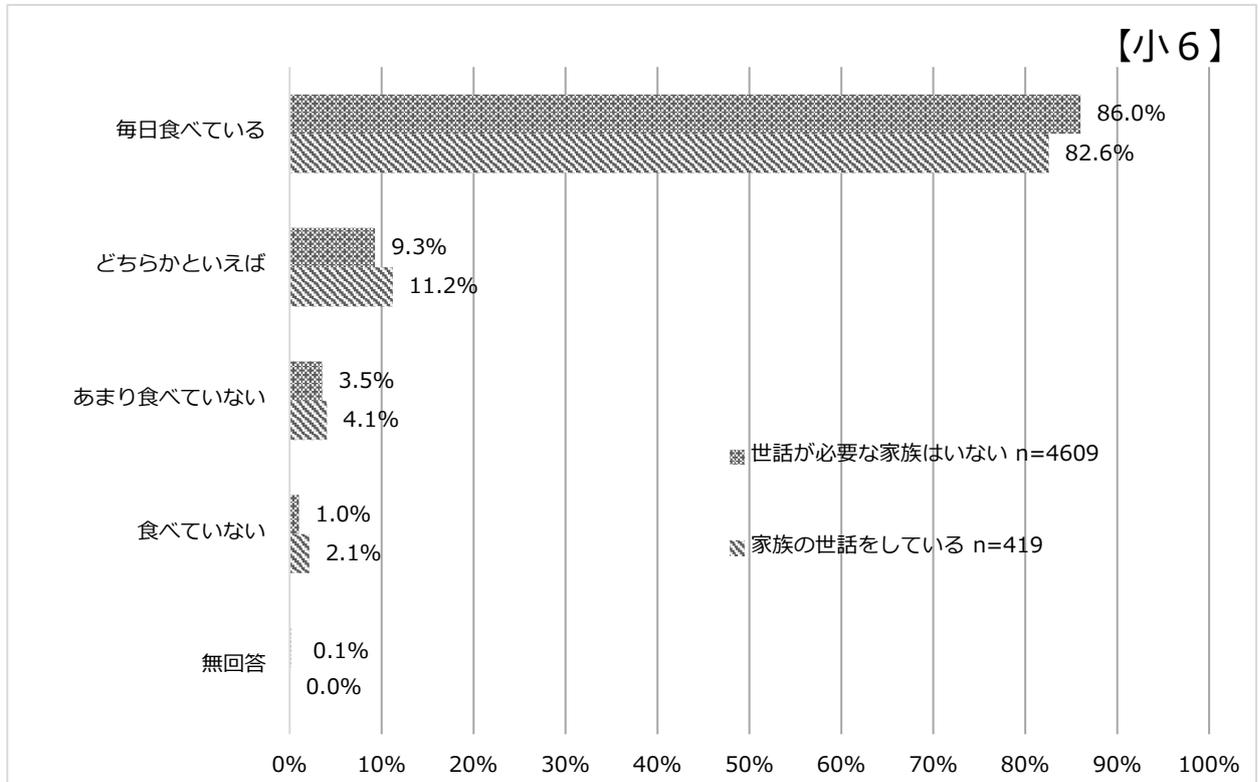
図表1-2-2-3 睡眠時間

※【問2】起床時間と【問6】就寝時間の回答から算出



【問3】（単一回答）平日（学校がある日）朝食を毎日食べていますか。

図表 1-2-2-4 朝食の喫食状況





©2011 練馬区ねり丸

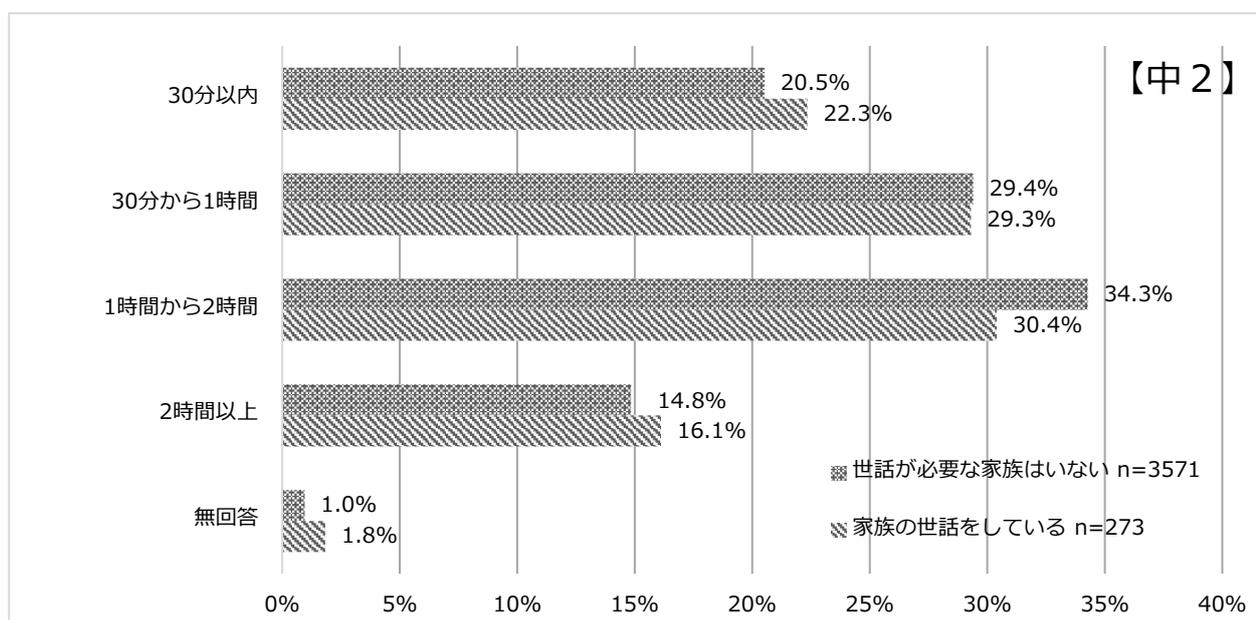
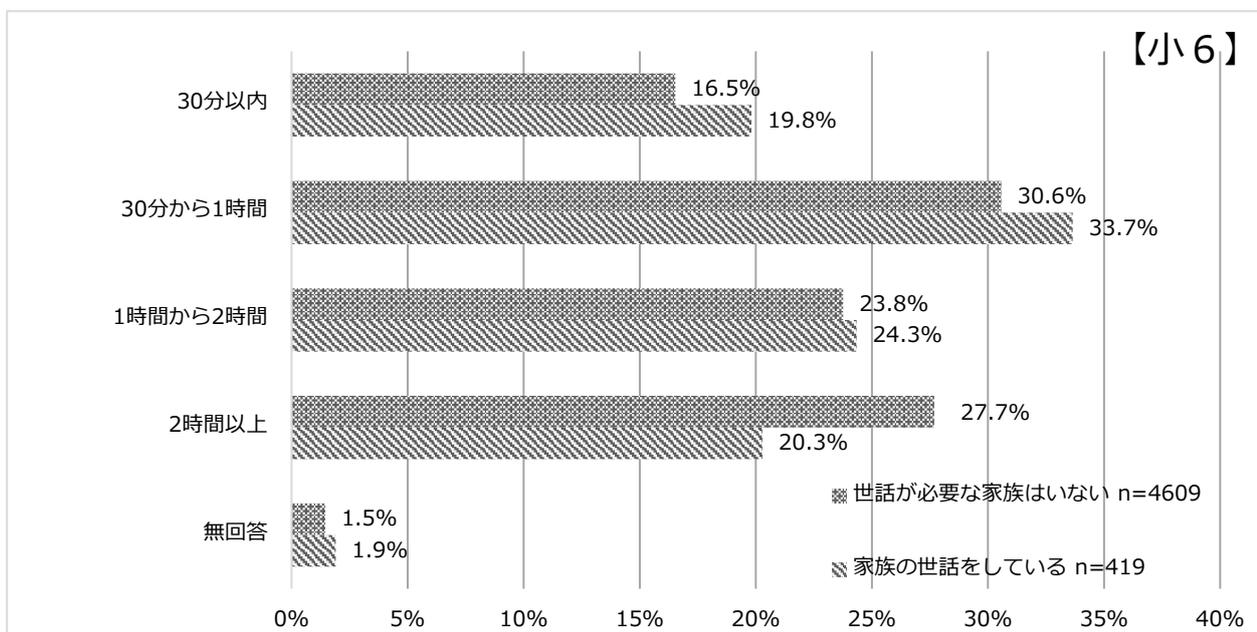
1-2-3 自分の時間

勉強時間について、「家族の世話をしている」群と「世話が必要な家族はいない」群の間で、小学生では「家族の世話をしている」群で「2時間以上」と回答した割合がやや低くなっているものの、特徴的な差はない（図表 1-2-3-1）。

自由時間について、「家族の世話をしている」群と「世話が必要な家族はいない」群の間で、「家族の世話をしている」群で「2時間以上」と回答した割合がやや低くなっているものの、特徴的な差はない（図表 1-2-3-2）。

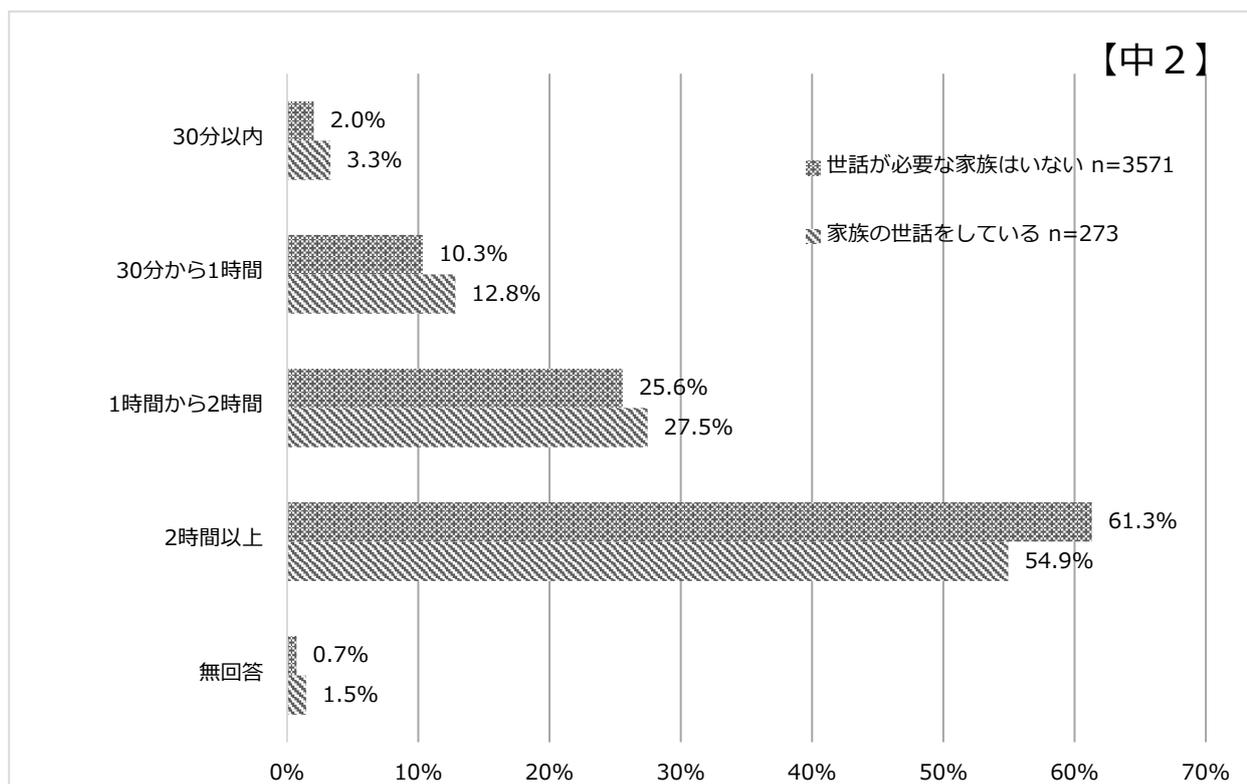
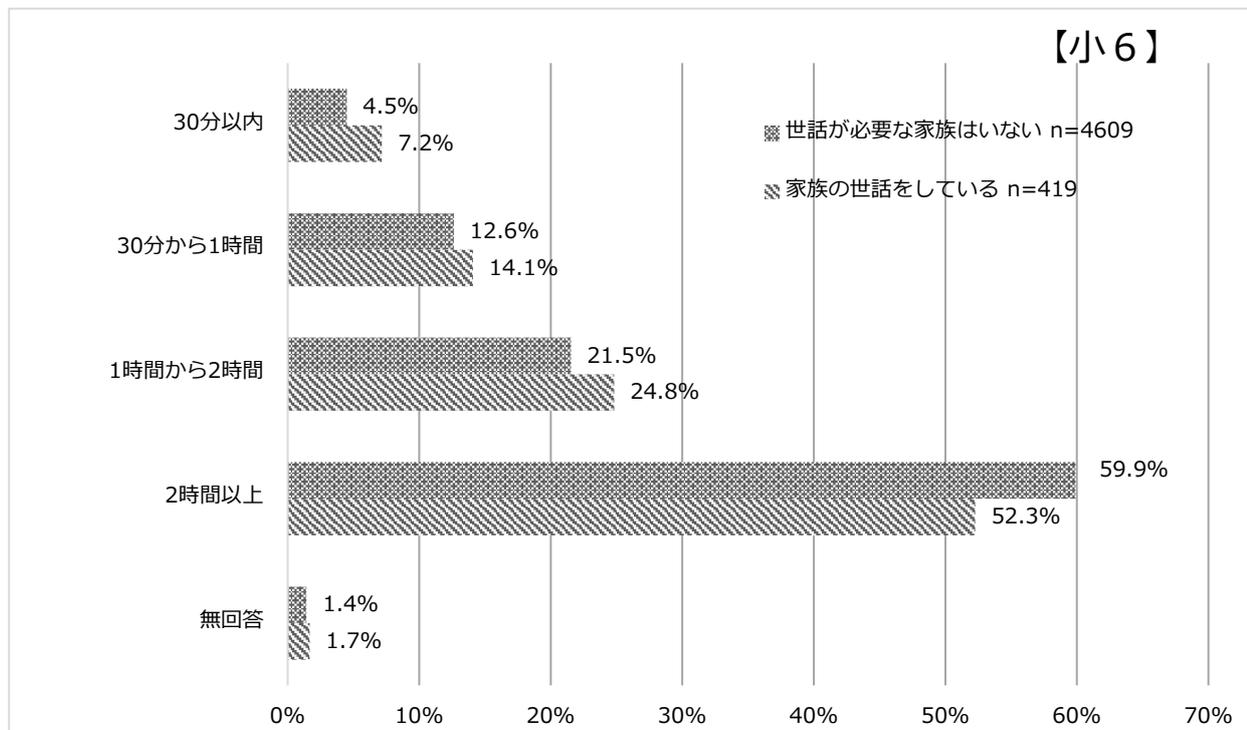
【問 4】（単一回答）平日（学校がある日）学校以外で勉強をする時間は1日どのくらいですか。

図表 1-2-3-1 勉強時間



【問 5】（単一回答）平日（学校がある日）学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいありますか。

図表 1-2-3-2 自由時間



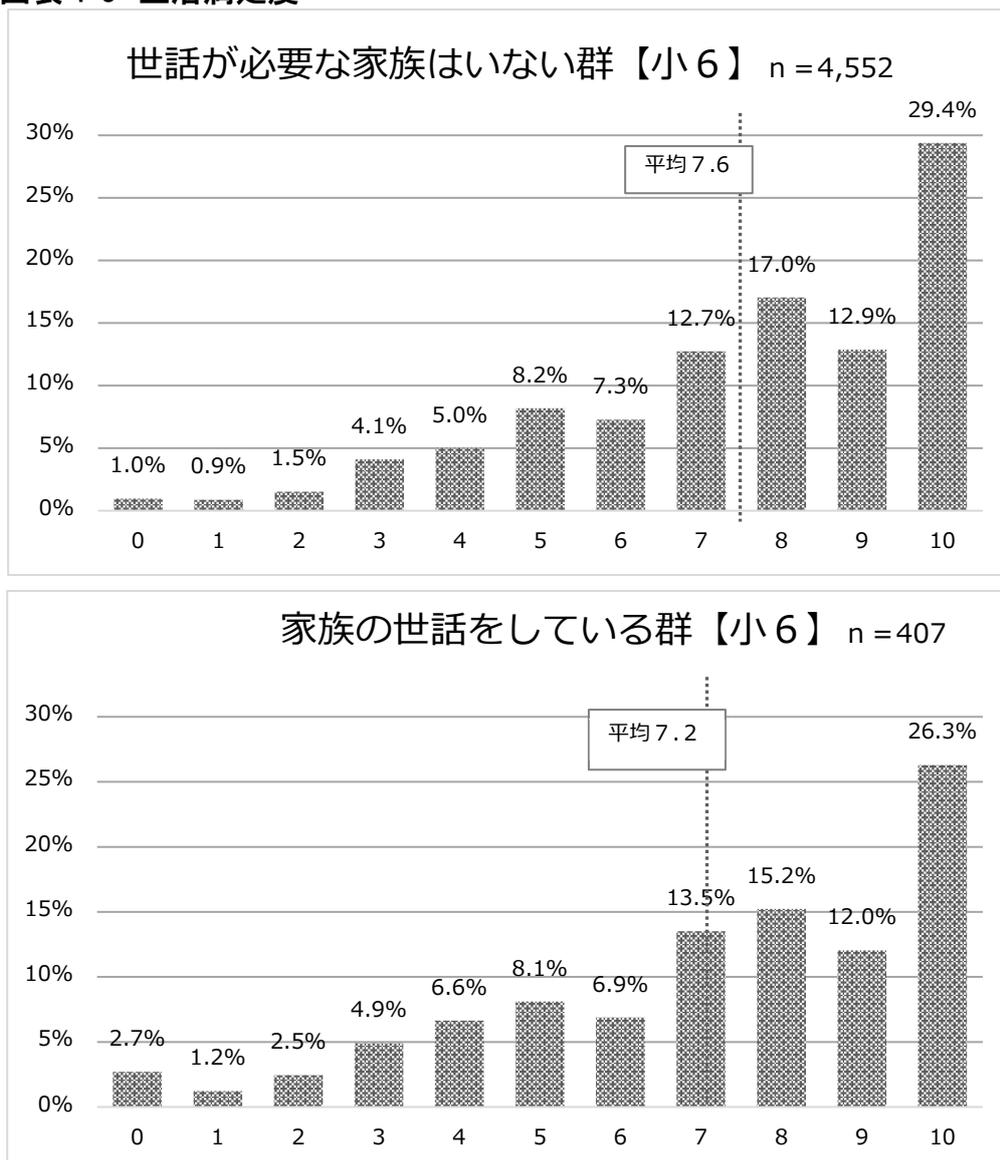
1-3 生活満足度

生活満足度は、現在の生活にどの程度満足しているかを「全く満足していない」の0点から「十分に満足している」の10点までの11段階で調査した。回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値は、中学生の「世話をしている」群が「9」、他の群が「6」であった。最頻値は小学生が「10」、中学生が「8」となっており、群間の差はなかった。平均は「世話が必要な家族はいない」群で小学生は7.6、中学生は6.9、「世話をしている」群で小学生は7.2、中学生は6.5であった。群間では、0.4ポイントの差がある(図表 1-3)。(生活満足度の集計には無回答を母数から除く。)

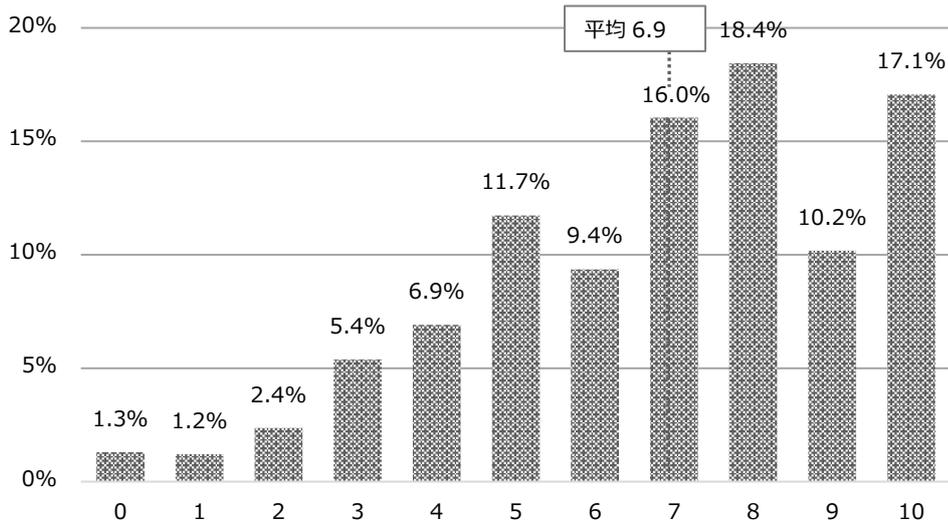
参考として「OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2018 年度調査」によると、日本の生徒 (15 歳) で生活満足度の平均は 6.2 であり、各群ともに全国平均以上である。

【問 23】(単一回答) 最近の生活にどのくらい満足していますか。

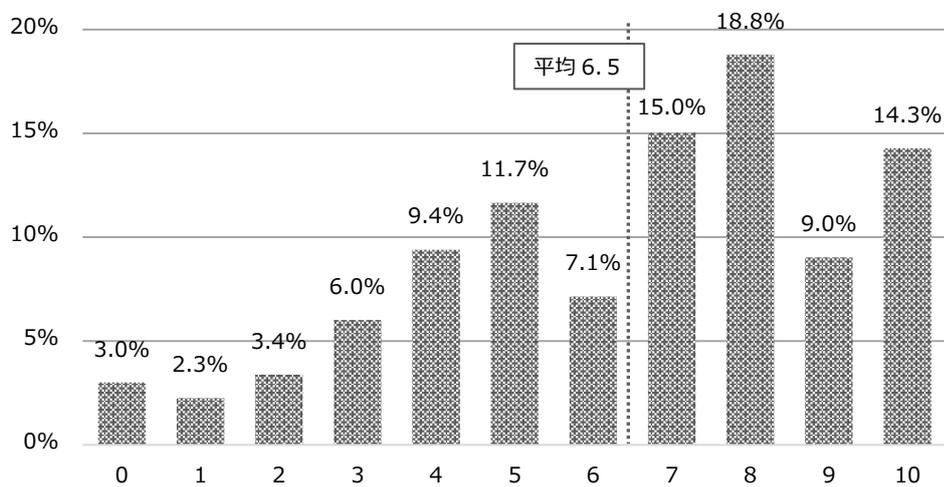
図表 1-3 生活満足度



世話が必要な家族はいない群【中2】 n=3,546



家族の世話をしている群【中2】 n=266



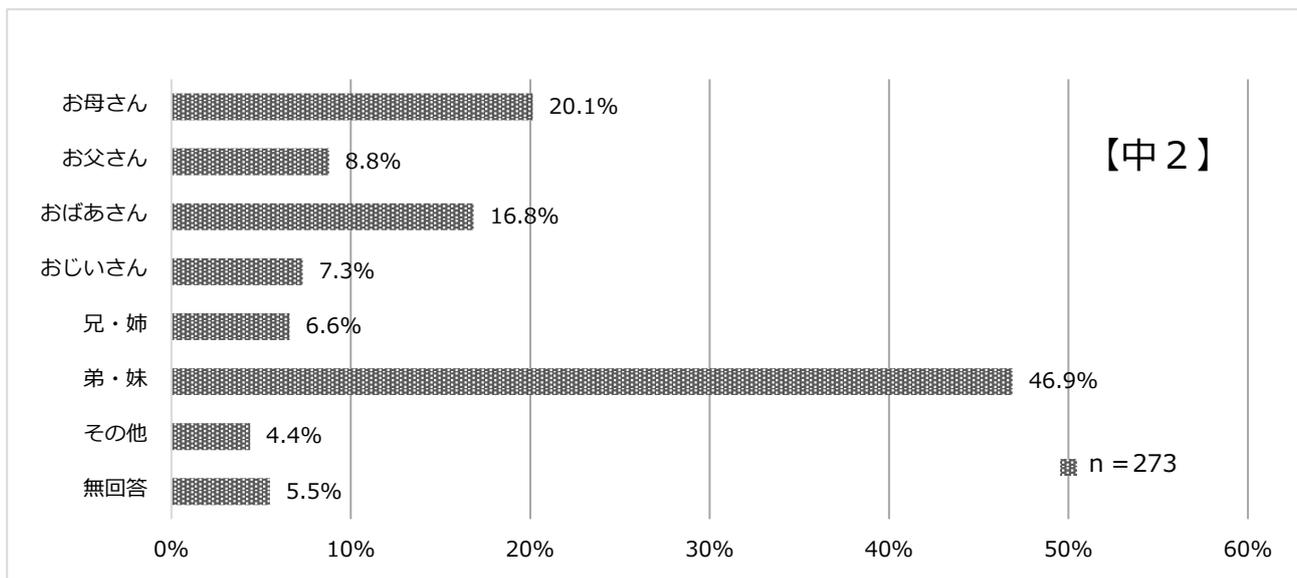
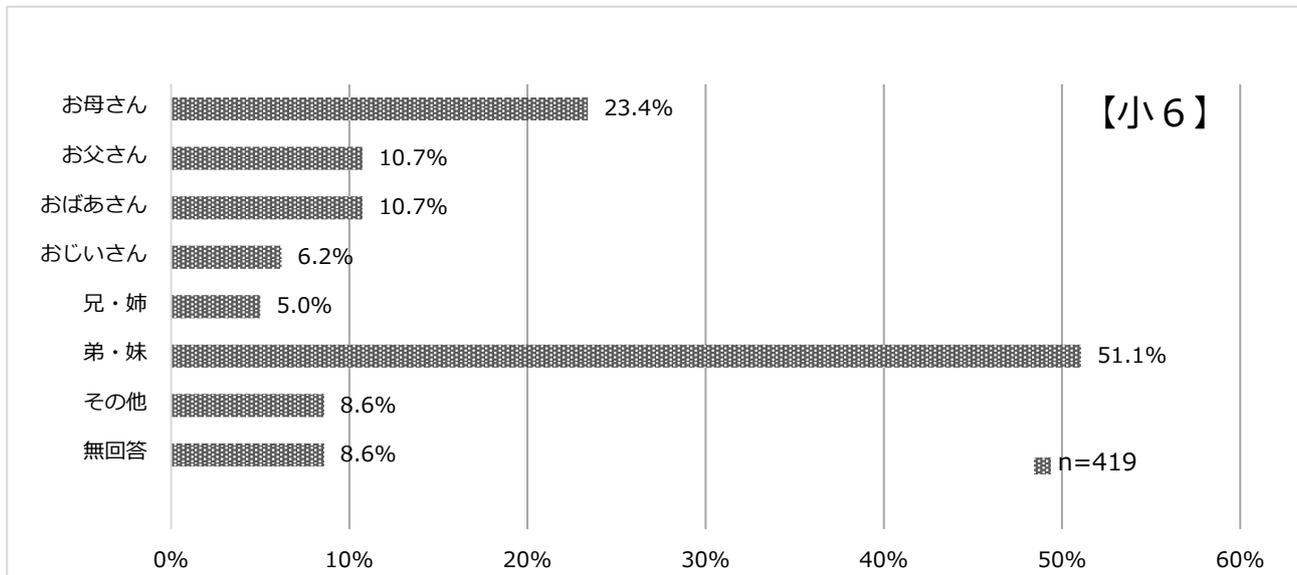
1-4 家族の世話をする児童・生徒の状況

1-4-1 世話をする対象者

世話が必要な家族は、小学生、中学生ともに「弟・妹」が最も多く、約5割の児童・生徒が選択している。次いで「母」を選択した児童・生徒が約2割であった。また、「祖母」は中学生で16%、小学生で10%が選択している（図表1-4-1）。その他では、同居の親族や知人のほか、ペットと回答したものが一定数あった。

【問9】（複数回答）お世話を必要とする人はだれですか。

図表 1-4-1 世話を必要とする家族

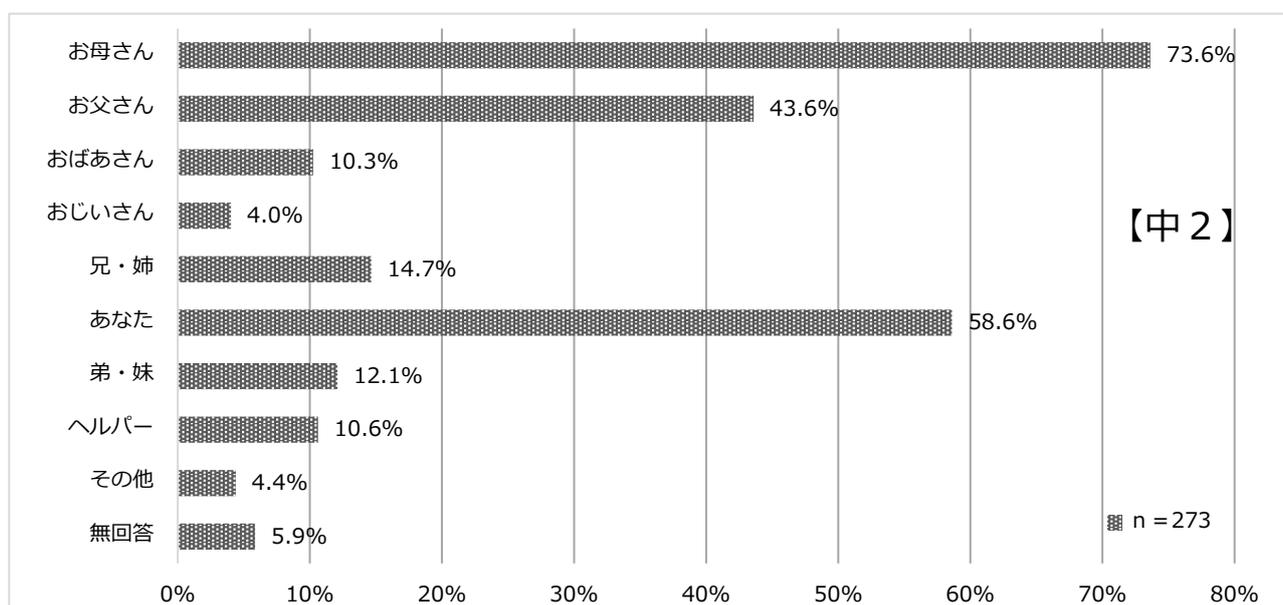
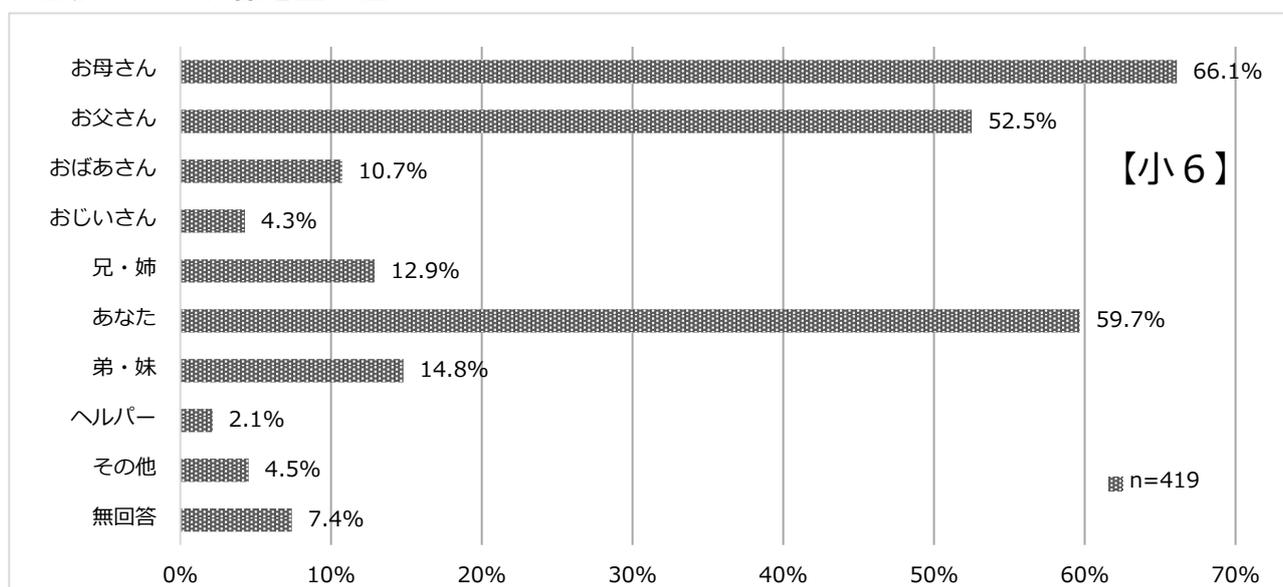


1-4-2 家庭内で世話を担う人

小学生、中学生ともに「世話が必要な家族」の世話を主に担う人として、「母」を選択した児童・生徒は約7割で最も多く、2番目に「あなた（自分）」の選択が約6割となっている（図表 1-4-2）。【問 11】「あなたは世話をしているか」の設問では、児童・生徒の8割弱が「世話をしている」と回答し（図表 1-1-2）、主に世話を担っている子ども（約6割）と、主にではないが世話を担っている子ども（約2割）の存在がわかる。世話の関わり方の違いにより、生活状況等への影響に差が出る可能性があり、さらに詳細な分析が必要である。

【問 10】（複数回答）その人（お世話を必要とする家族）のお世話を主にしている人はだれですか。

図表 1-4-2 世話を主に担う人

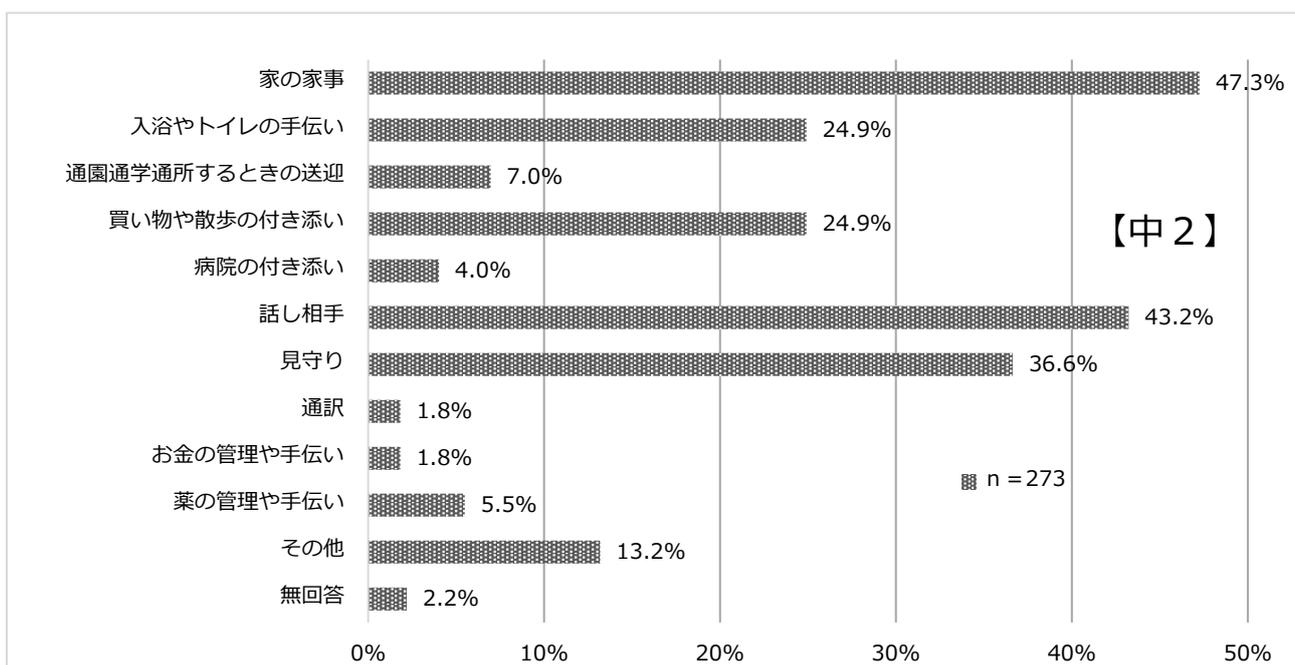
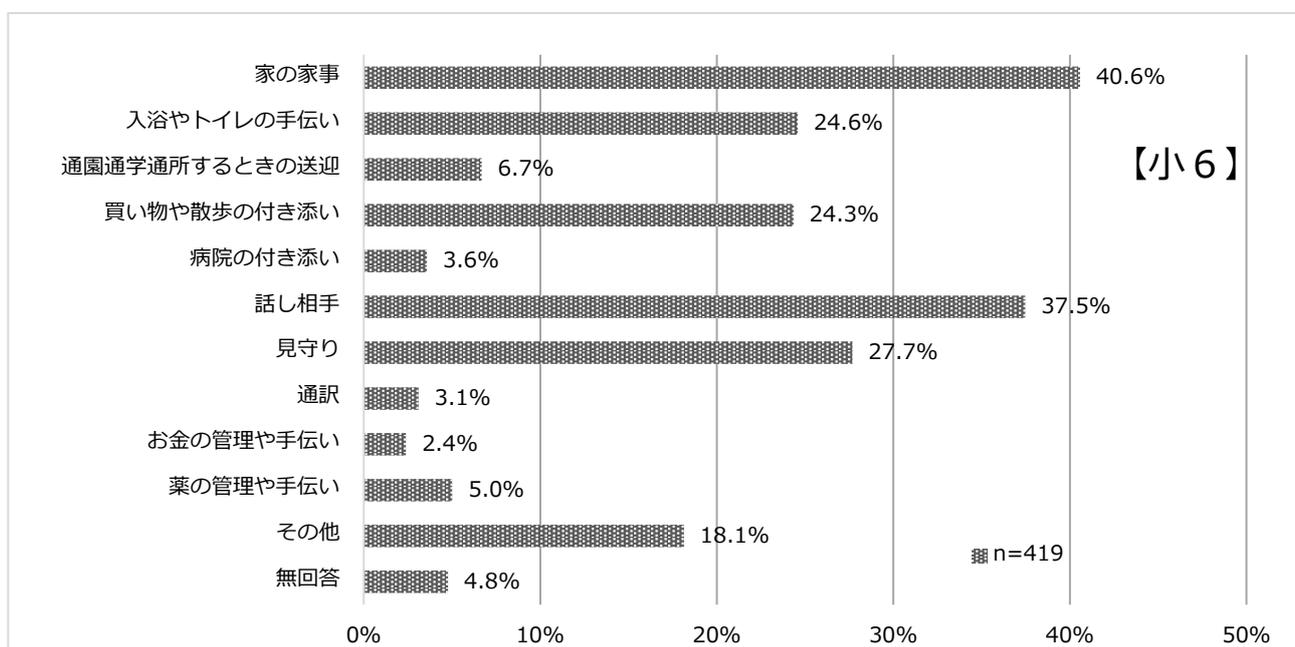


1-4-3 世話の内容

世話の内容については、小学生、中学生ともに「家事」、「話し相手」、「見守り」の順で割合が高くなっている。「家事」は中学生の約5割、小学生の約4割が選択しており、「話し相手」は、中学生・小学生の約4割、「見守り」は、中学生の約4割、小学生の約3割が選択している。割合は極めて低いものの、金銭管理や服薬管理など、より責任が重いとされる役割を選択した児童・生徒がいた（図表 1-4-3）。

【問 12】（複数回答）あなたがしているお世話の内容を教えてください。

図表 1-4-3 世話の内容

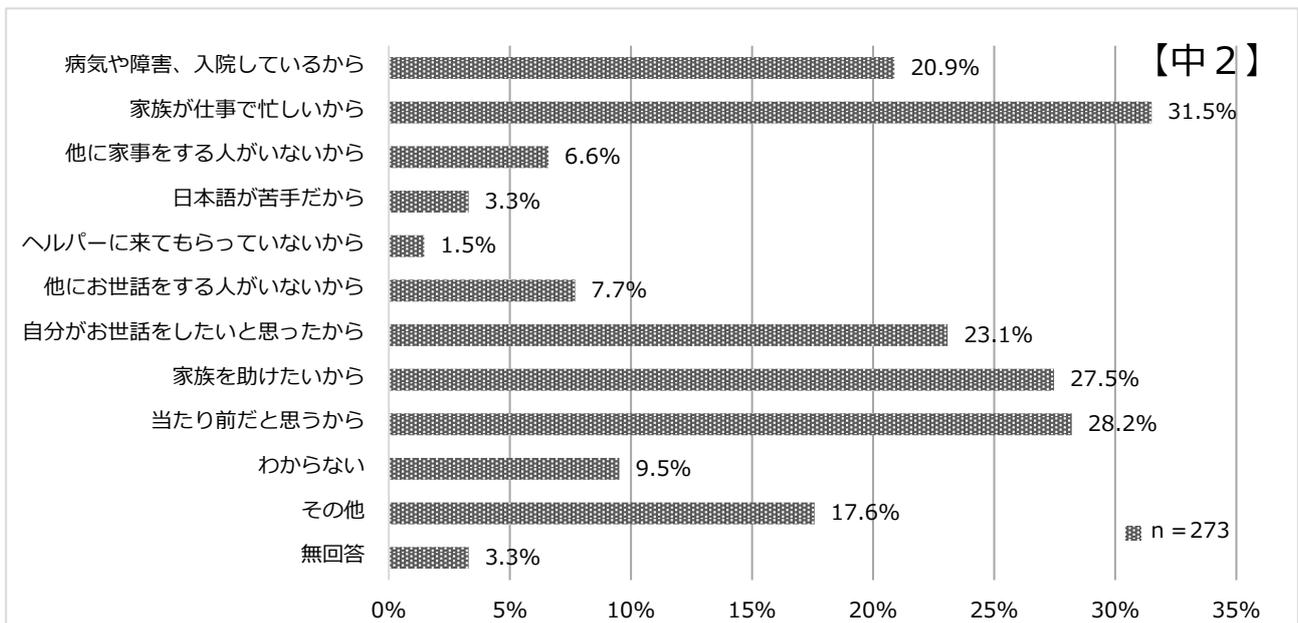
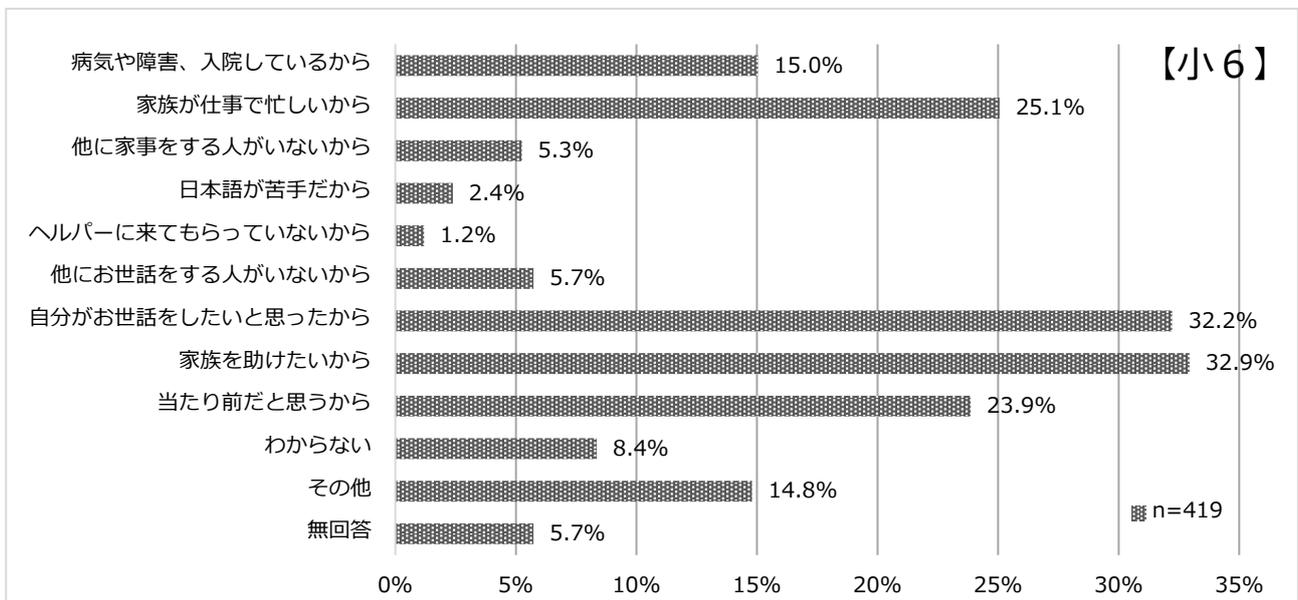


1-4-4 世話をする理由

世話をする理由については、小学生では「自分が世話をしたいと思った」、「家族を助けたい」を選択した割合が3割以上で最も高く、「家族が仕事で忙しい」、「当たり前だと思う」がそれぞれ2割台半ばとなっている。中学生では「家族が仕事で忙しい」が3割以上で最も高く、次いで「当たり前だと思う」、「家族を助けたい」が3割弱となっている。また、家族の「病気や障害、入院」の選択が小学生で1割台半ば、中学生で約2割あった（図表1-4-4）。

【問13】（複数回答）あなたがお世話をしている理由を教えてください。

図表 1-4-4 世話をする理由



1-4-5 世話をする日数・時間

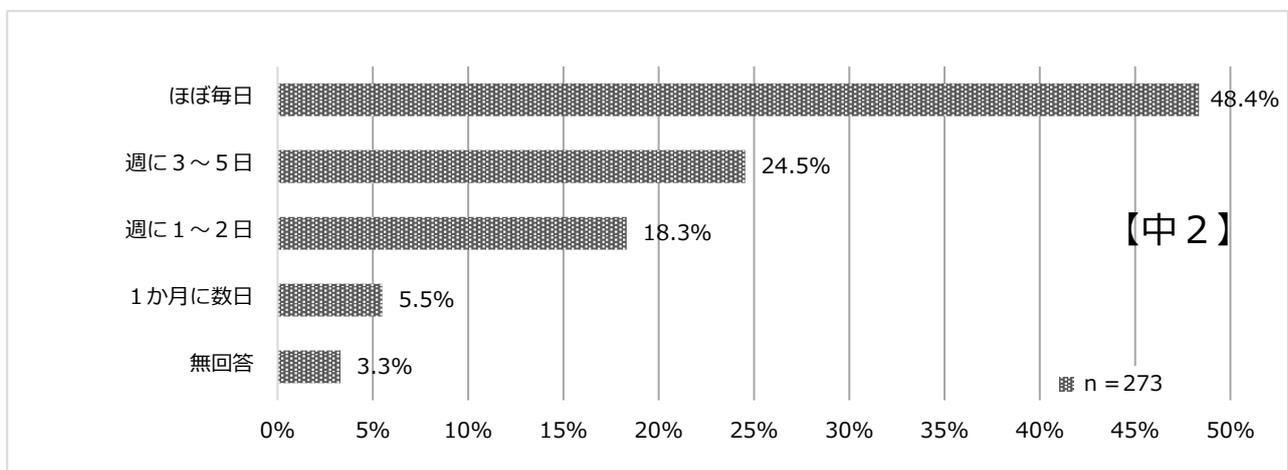
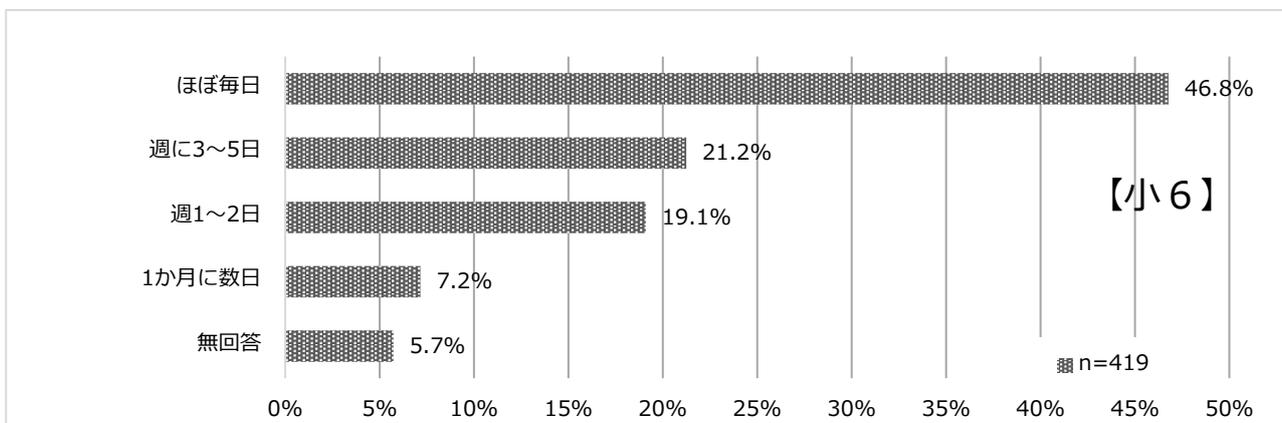
【問 14】世話をする日数は、小学生、中学生ともに約 5 割が「ほぼ毎日」を選択しており、次いで「3 日から 5 日」を児童・生徒の約 2 割が選択している（図表 1-4-5-1）。

【問 15】世話をする時間は、小学生、中学生ともに「30 分から 1 時間」が最も多く、児童・生徒の 4 割弱となっている。次いで「30 分以内」が小学生、中学生ともに約 3 割となっている。1 日 2 時間以上世話をしている児童・生徒は 1 割以下（小学生で 5.5%、中学生で 7%）となっており、「その他」の選択肢には、5 時間以上の長時間の記載もあった（図表 1-4-5-2）。

約 7 割の児童・生徒が日常的に家族の世話に関わっていることがわかる一方で、1 日あたりに関わる時間は 1 時間以内が 7 割となっている。支援に向けて子どもの負担を把握するためには、より詳細な分析が必要である。

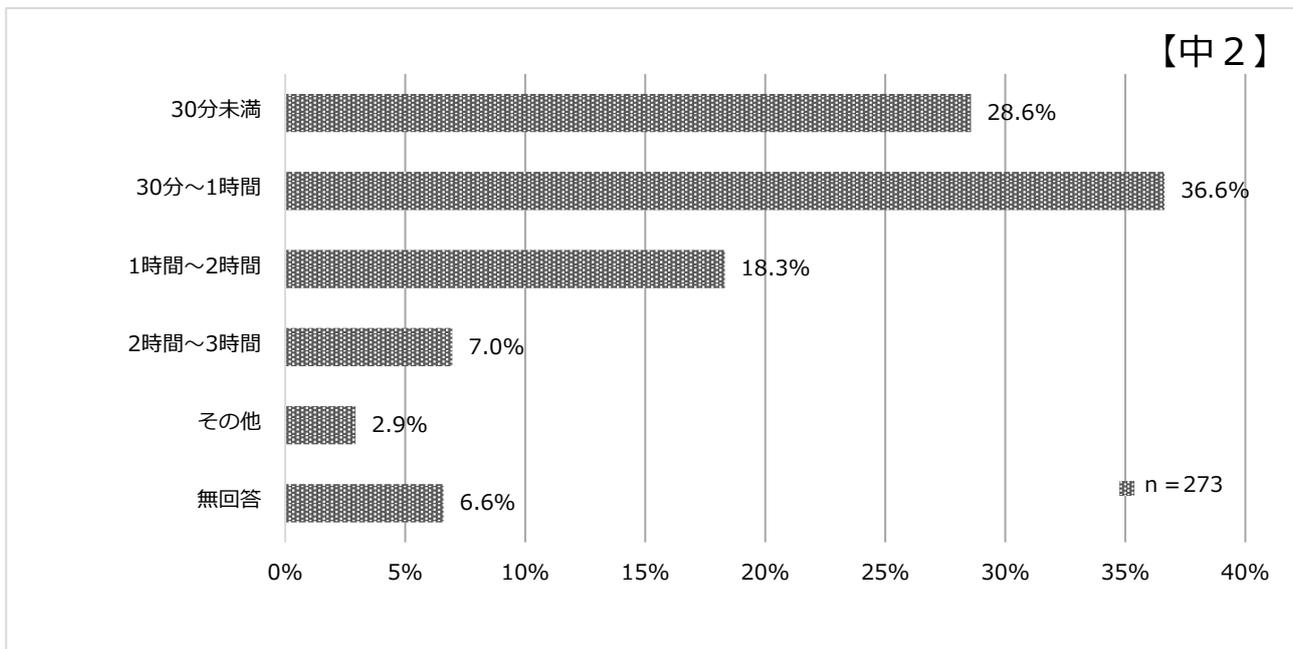
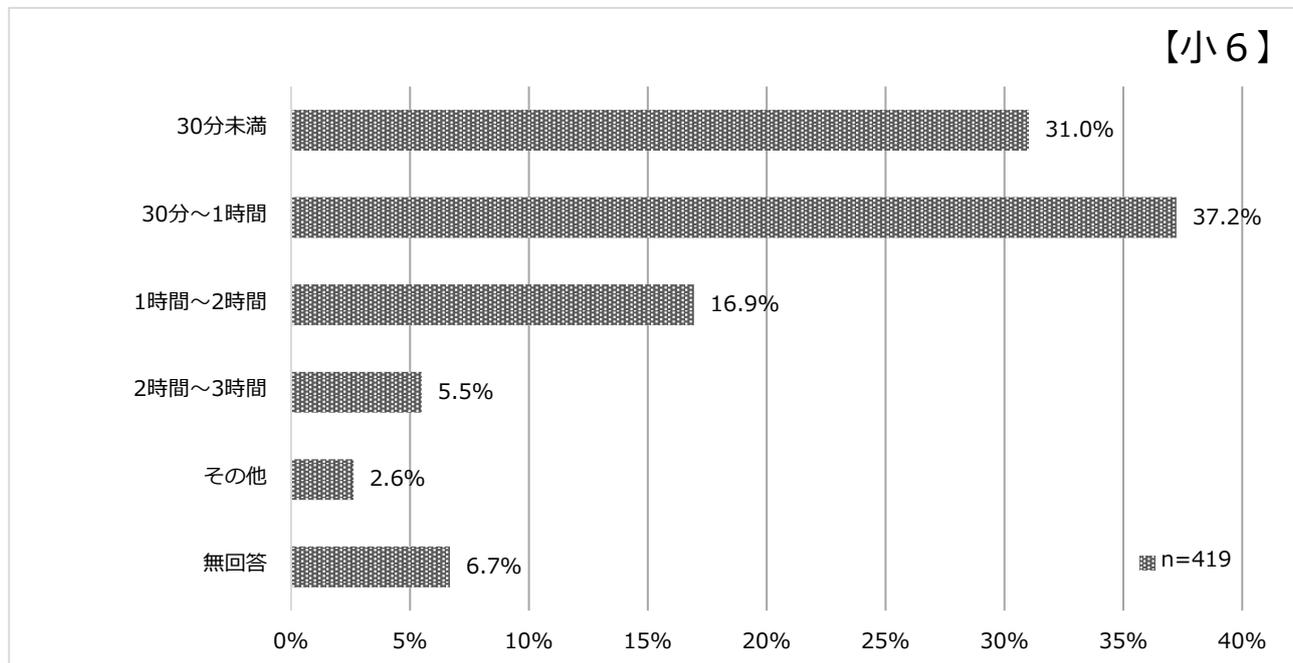
【問 14】（単一回答）あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか。

図表 1-4-5-1 世話をする日数



【問 15】（単一回答）あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか。

図表 1-4-5-2 世話をする時間



1-5 世話をすることによる影響と思い

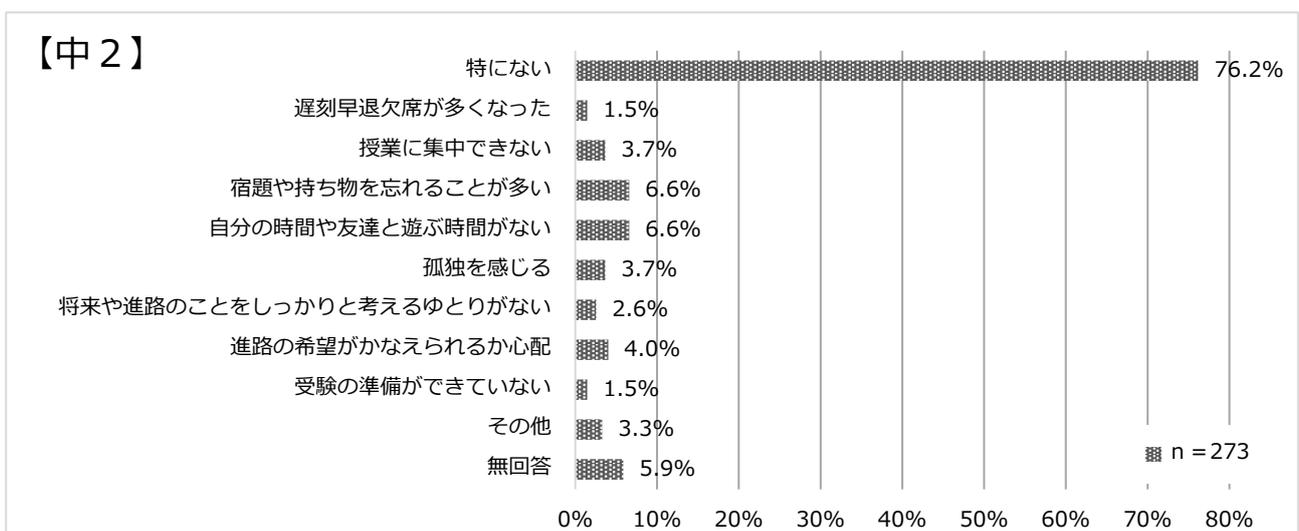
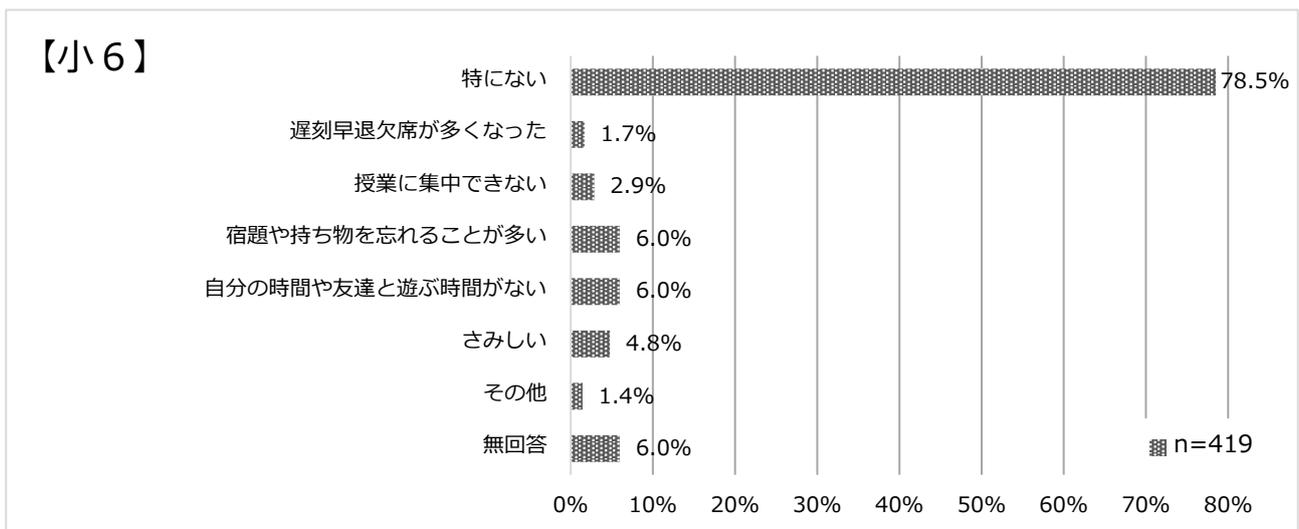
1-5-1 世話をすることによる影響

世話をすることによる影響については、小学生、中学生ともに8割近くが「特にない」としており、他の項目の選択はいずれも1割を下回っている。「特にない」以外では、「自分の時間や友達と遊ぶ時間がない」、「宿題や持ち物を忘れることが多い」を選択した割合が高く、次いで小学生では「さみしい」、中学生では「進路の希望がかなえられるか心配」を選択した割合が高い。（図表 1-5-1）

国の調査ではヤングケアラーが受ける影響として「宿題忘れ」や「遅刻欠席早退」などが高い割合となることが示されており、本調査の結果と差異がある。

【問 16】（複数回答）お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか。

図表 1-5-1 世話をすることによる影響



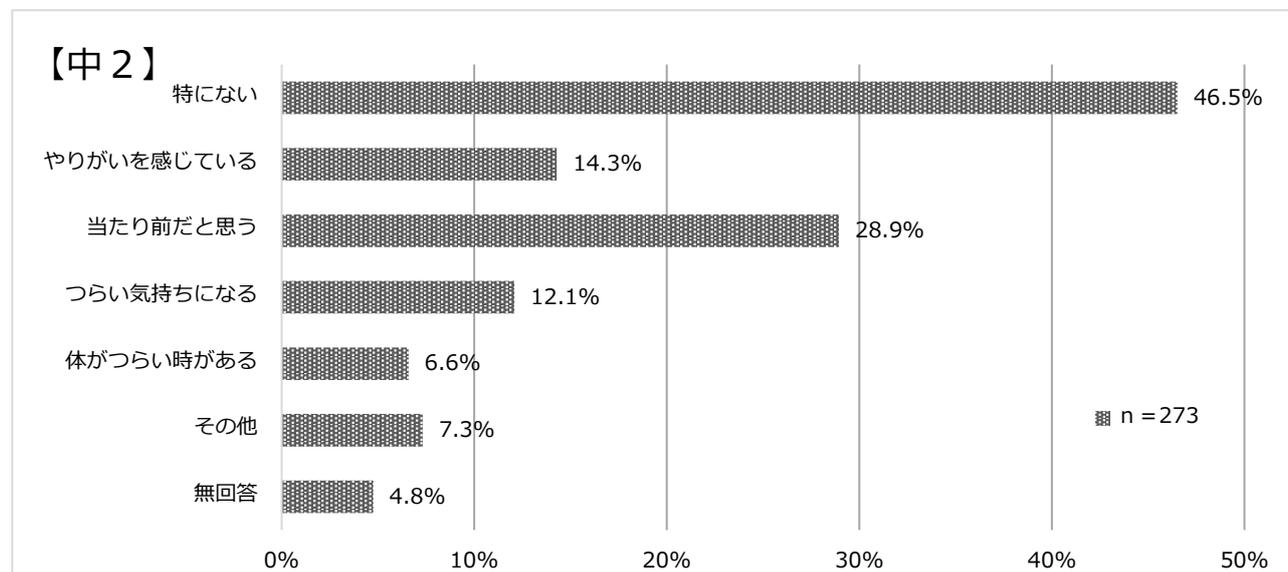
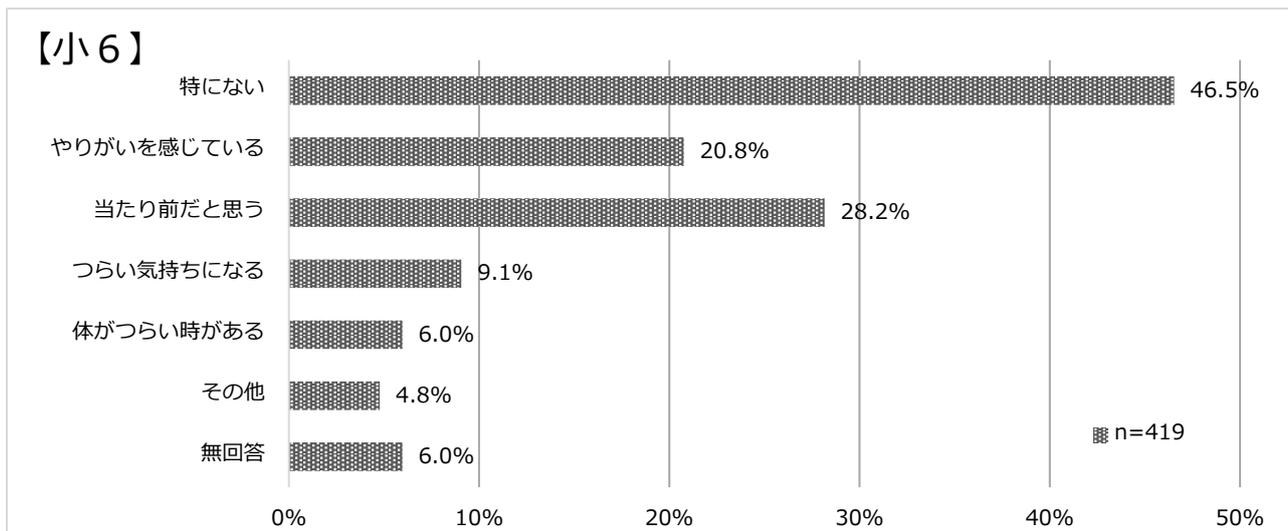
1-5-2 世話をすることについて思っていること

本人が思っていることは、小学生、中学生ともに「特にない」が最も多く約5割となっている。次に「当たり前だと思う」の割合が約3割、「やりがいを感じている」も小学生で約2割、中学生で1割台半ばの選択があった。また、「つらい気持ちになる」と回答した児童・生徒が約1割、「体がつらい時がある」と回答した児童・生徒が小学生の6%、中学生の7%いた（図表 1-5-2）。

家族の世話を当たり前と思いながら、やりがいを感じて世話をしている子どもの中に、つらい気持ちになったり、体がきつくなったりと、世話の負担が過度になっている子どもが一定数いることがわかる。

【問 17】（複数回答）お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください。

図表 1-5-2 世話をすることについて思っていること



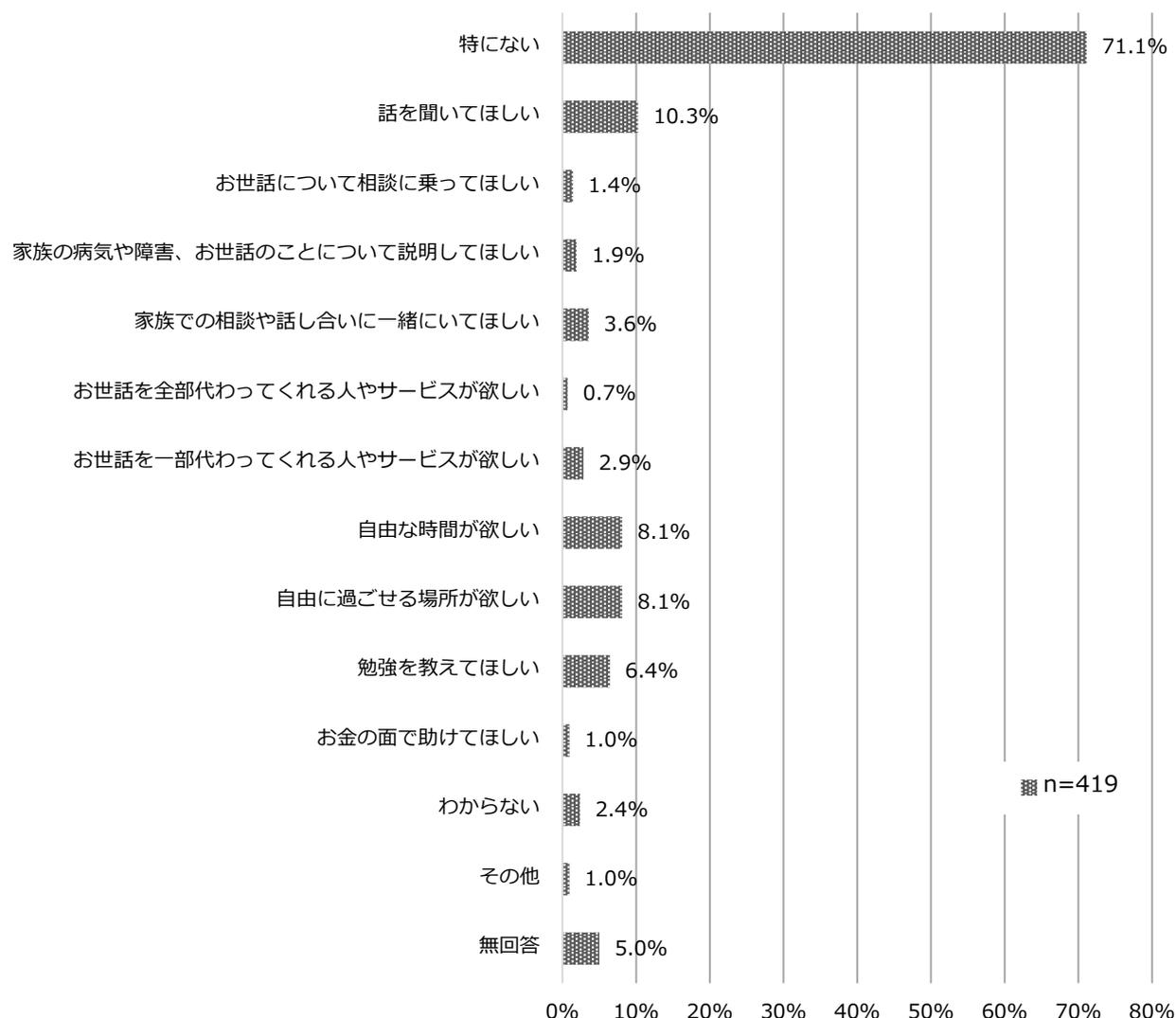
1-5-3 周囲に助けてほしいこと

周囲に助けてほしいことは、小学生、中学生ともに約7割が「特にない」と回答している。次に多い割合は「話を聞いてほしい」の項目であり、小学生、中学生の約1割が選択している。「自由な時間」、「自由に過ごせる場所」、「勉強を教えてほしい」については、小学生、中学生ともに1割に満たないが選択があり、中学生では「進路などの相談にのってほしい」も約7%が選択している。一方で、「世話を代わってくれるサービスが欲しい」を選択した児童・生徒は小学生3%、中学生で1%以下であった（図表1-5-3）。

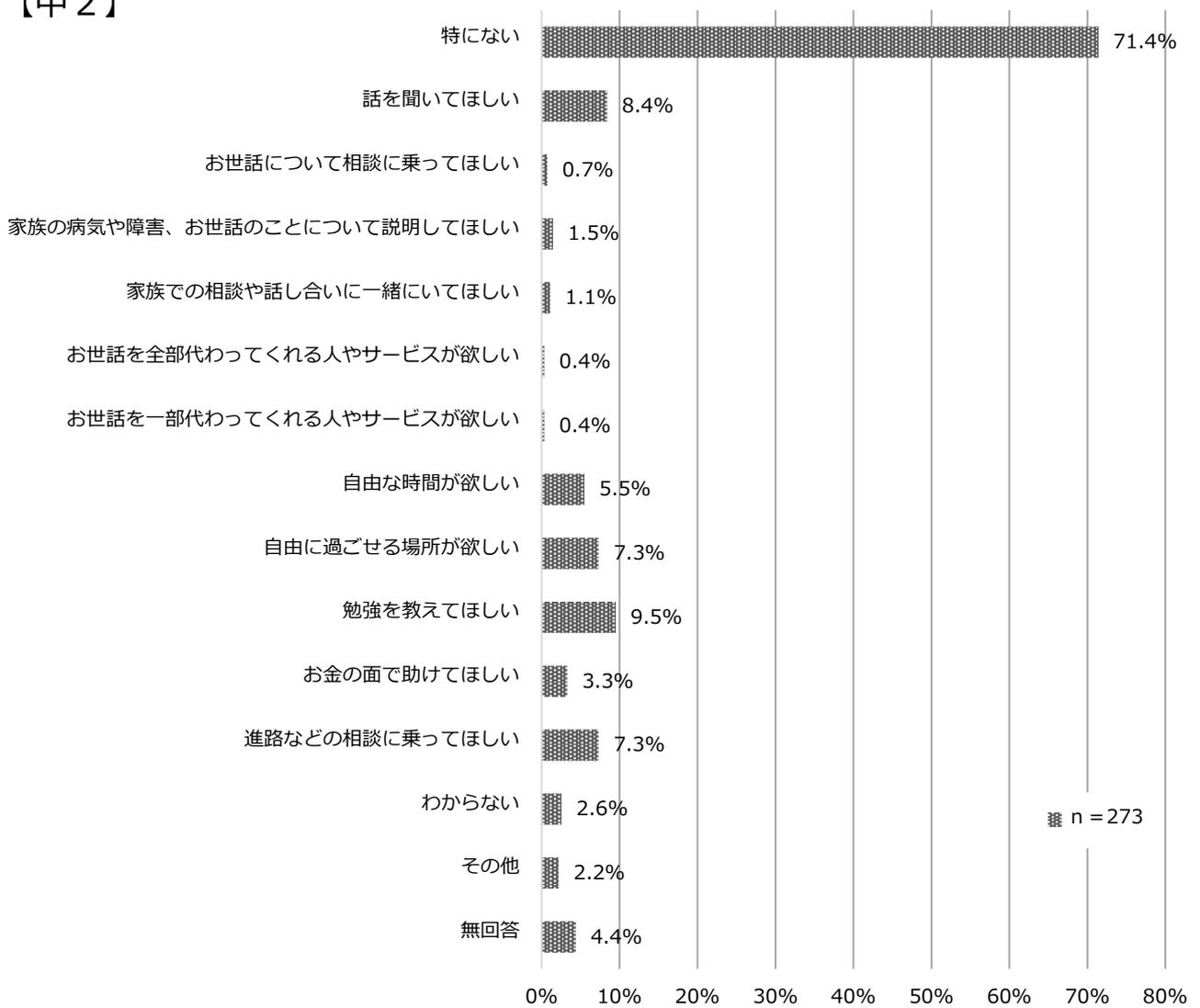
【問18】（複数回答）学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。

図表 1-5-3 学校や周りの大人に助けてほしいこと

【小6】



【中2】



1-6 相談の状況

1-6-1 相談の状況

世話に関する相談経験については、小学生、中学生ともに「経験がある」が約2割にとどまり、世話の相談経験は少ない（図表 1-6-1-1）。また、相談する相手は、小学生、中学生ともに「母」、「友だち」の順で多く、次いで「父」、「きょうだい」が多い。主に家庭内で相談している様子がある。外部での相談は、学校（先生、養護教諭、スクールカウンセラー等）での相談が多く、小学生、中学生ともに2割程度あり、中でも「先生（教員）」への相談が最も多く約14%となっている。

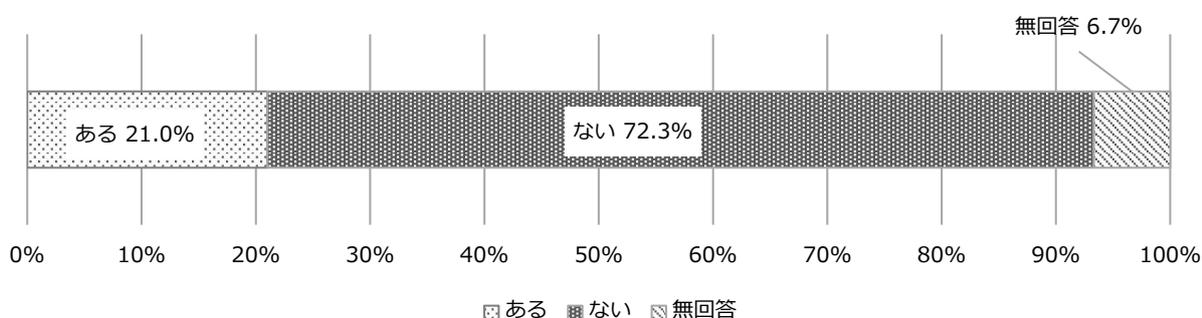
中学生ではより「友だち」に相談する傾向が顕著になるほか、「SNSの知り合い」も小学生よりやや多い。割合としては低いが、公的な機関への相談経験も一部にあった（図表 1-6-1-2）。

【問 19】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

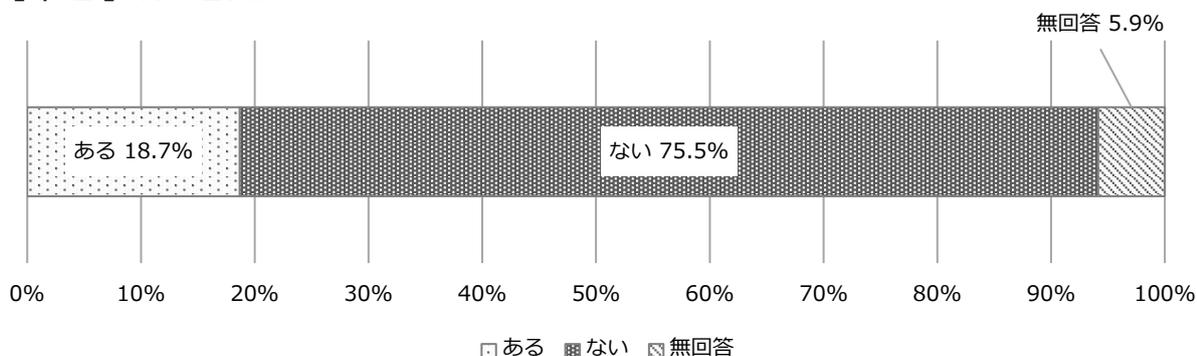
【問 20】（複数回答）相談した相手の人はだれですか。

図表 1-6-1-1 世話についての相談経験の有無

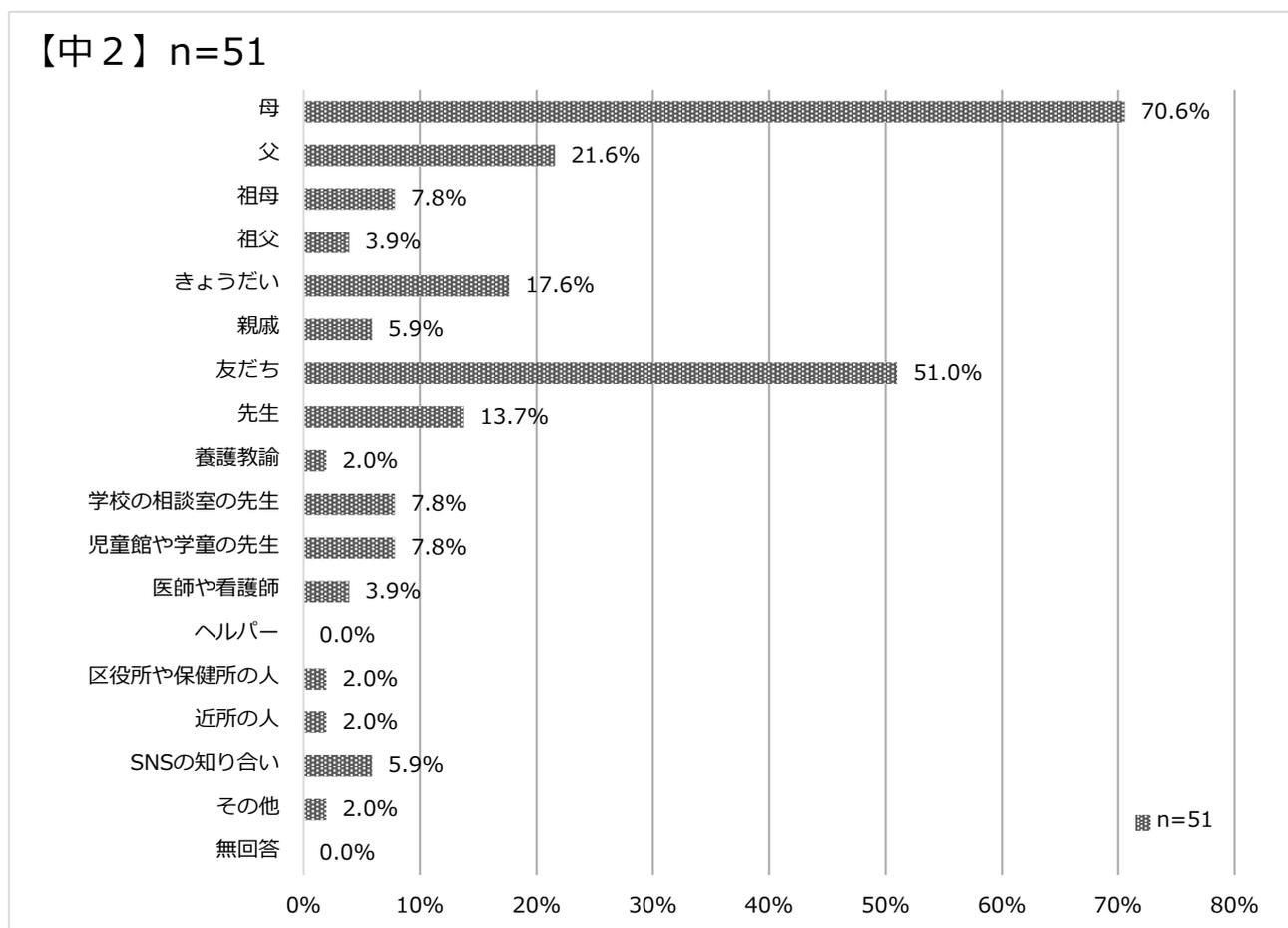
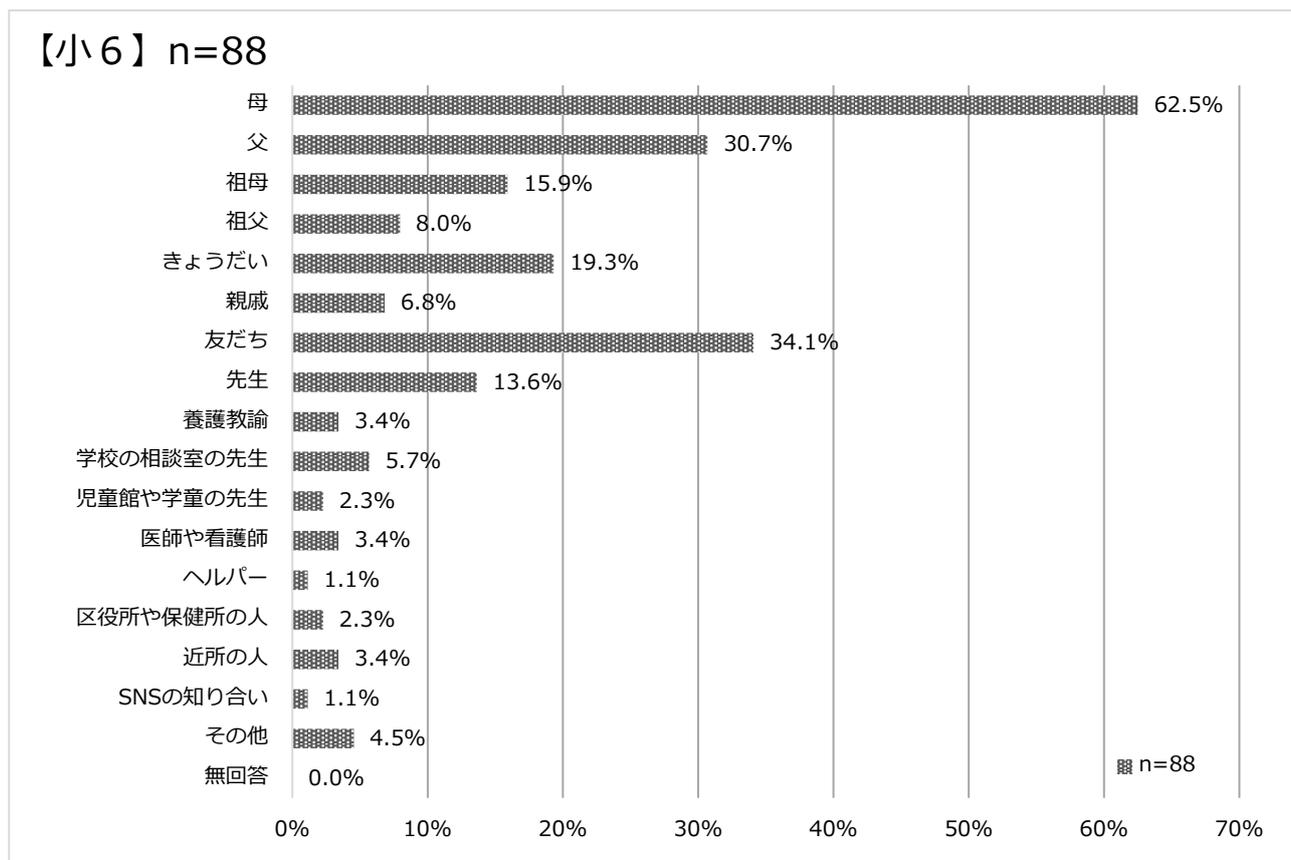
【小6】 n=419



【中2】 n=273



図表 1-6-1-2 世話についての相談相手



1-6-2 相談していない理由

相談していない児童・生徒は約 8 割となっている（図表 1-6-1-1）。

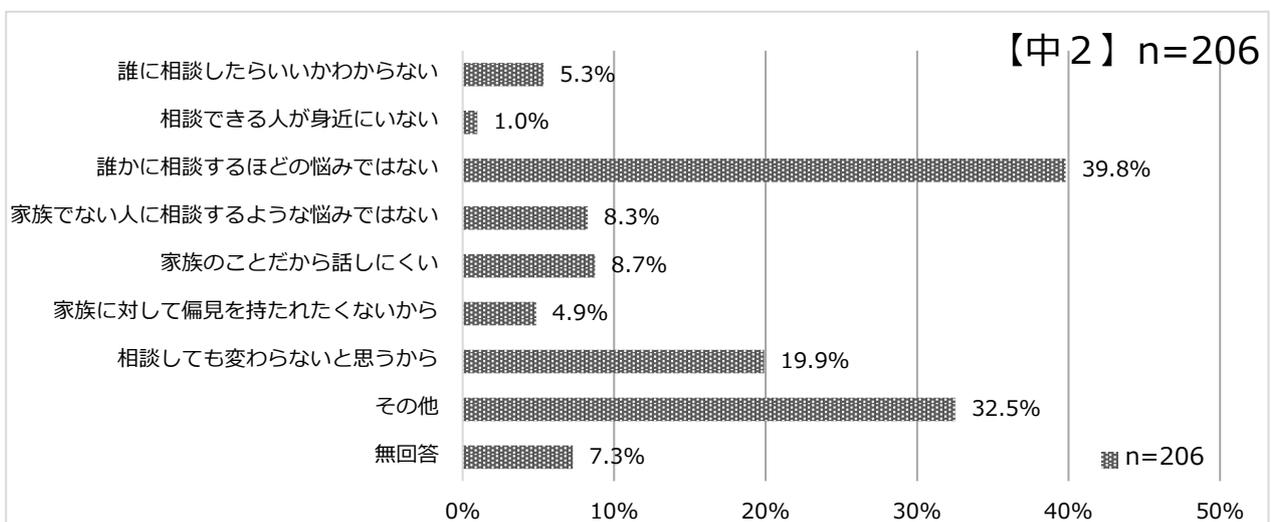
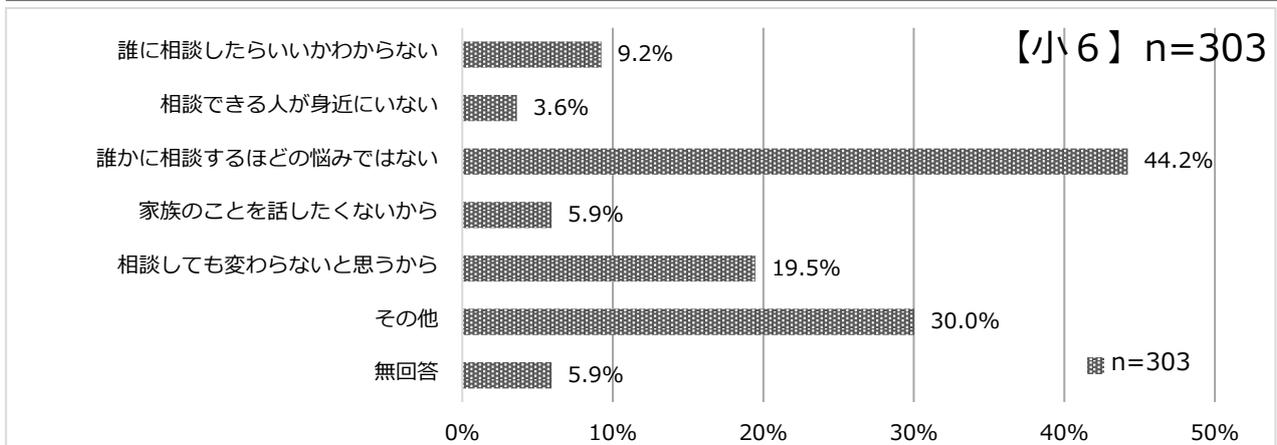
相談しない理由としては「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も多く、小学生で 4 割台半ば、中学生で約 4 割となっている。「相談しても何も変わらないと思うから」の回答も多く約 2 割あり、「誰に相談したらよいかわからない」「相談できる人が身近にいない」の回答も 1 割程度あった（図表 1-6-2-1）。「その他」では、「悩んでいない（悩みがない）」の記載が大半を占めたが、「相談したくない」「自分で考える」などの外部に助けを求めない記載もあった。設問【問 22】で、悩みを聞いてくれる人の有無については、小学生、中学生ともに 3 割弱の児童・生徒が「いない」と回答している（図表 1-6-2-2）。

図表 1-6-2-1 相談していない理由

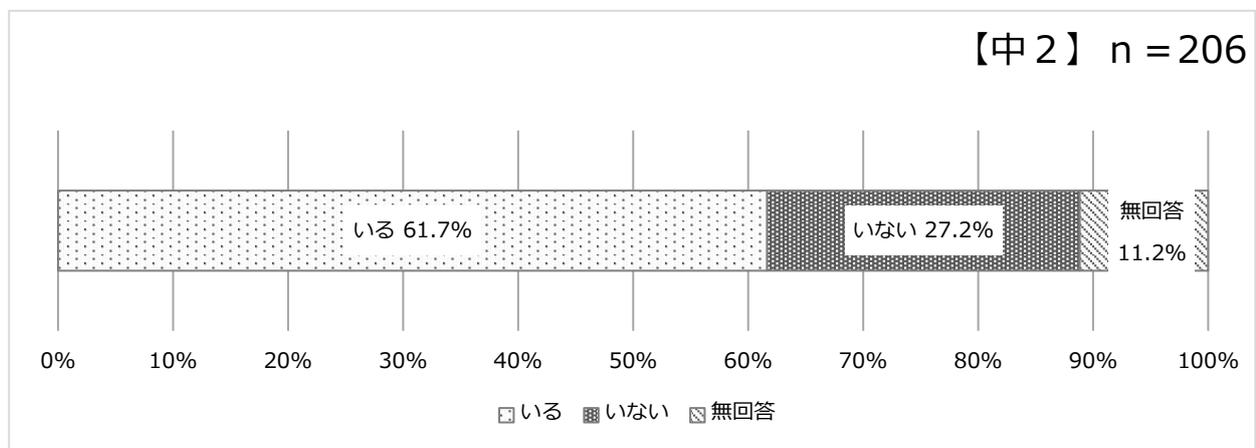
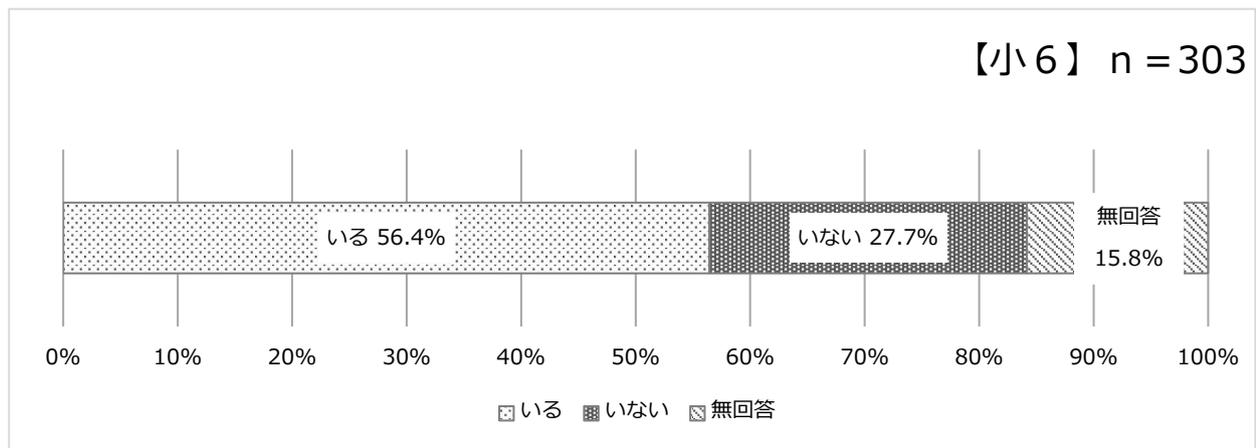
（相談経験のない回答者対象）

【問 21】（複数回答）相談していない理由を教えてください。

【問 22】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。



図表 1-6-2-2 悩みを聞いてくれる人の存在



第2章 世話の関わり方による児童・生徒の状況

(世話の関わり方別 クロス集計)

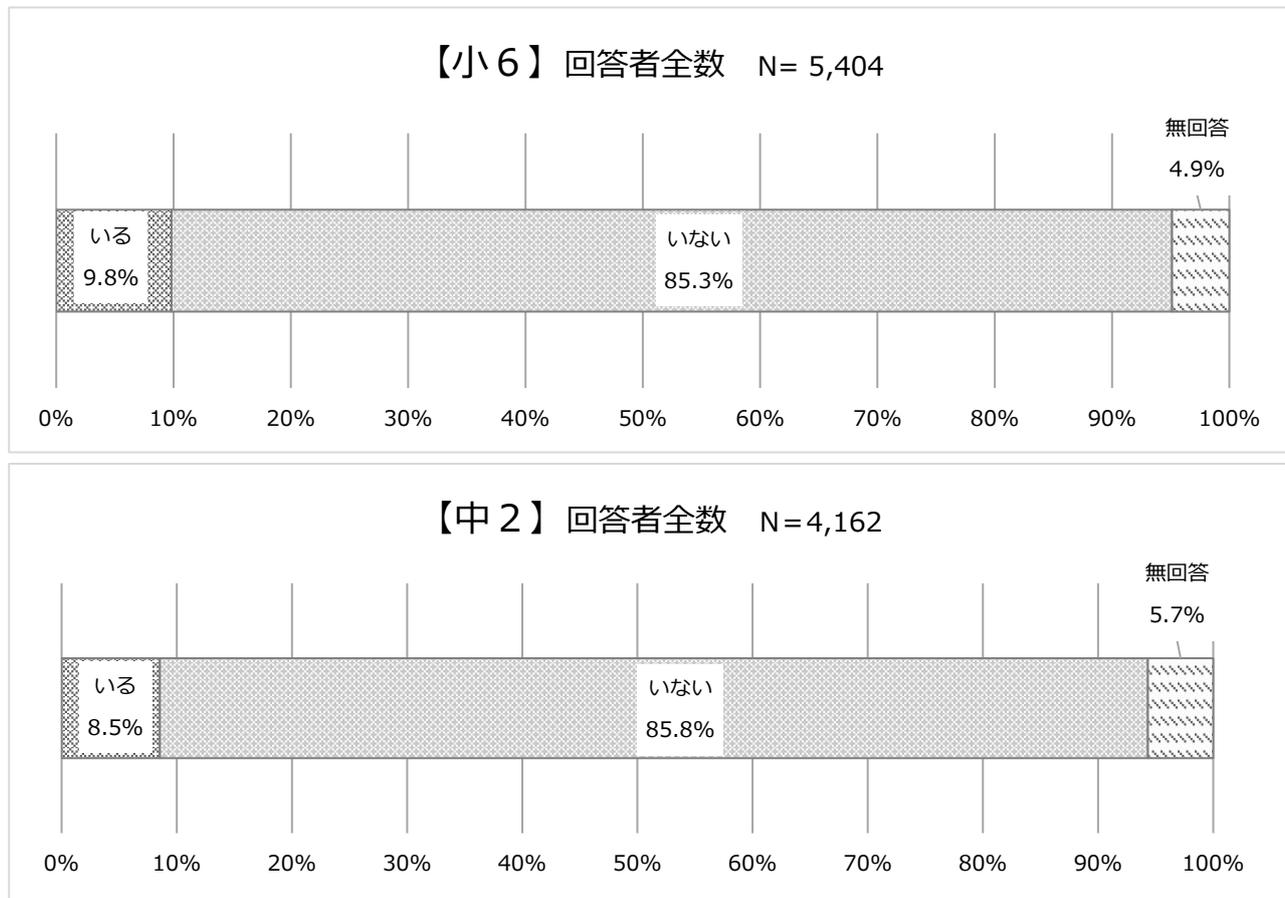
2-1 回答者の属性

【問 8】において、「家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人がいる」と回答した小学生は 9.8%、中学生は 8.5%であった（図表 2-1-1）。

【問 10】により世話を主にしている人を特定（図表 2-1-2）し、【問 11】において、児童・生徒が手助けや世話に関わっているかを尋ねたところ、小学生は 419 名、中学生は 273 名から世話をしていると回答があった。第 2 章では、「世話をしている」児童・生徒を世話の関わり方（①自分だけで世話をしている群、②自分と家族で主に世話をしている群、③主に世話をする人は別にいる群）で 3 区分（図表 2-1-3）し、生活状況の詳細を確認する。

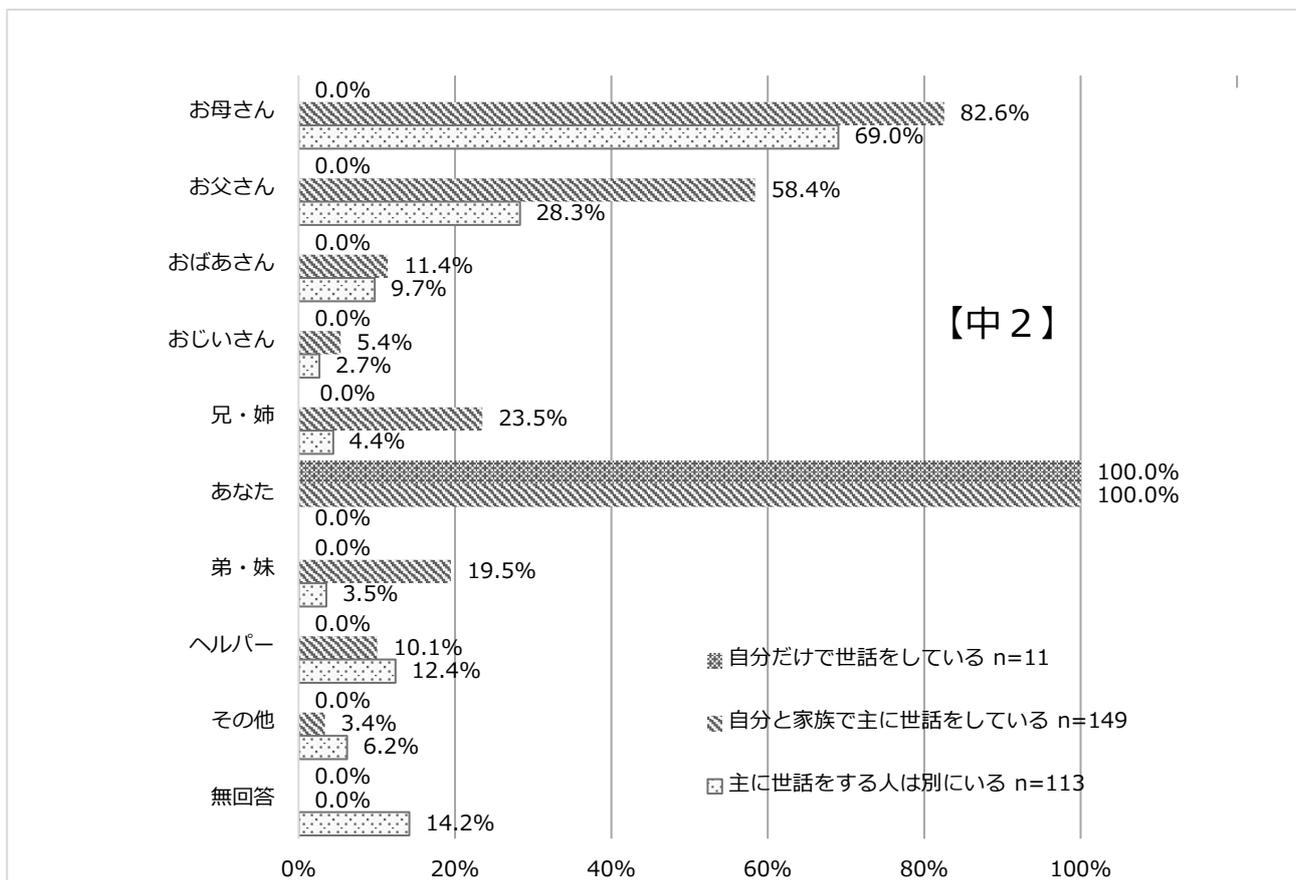
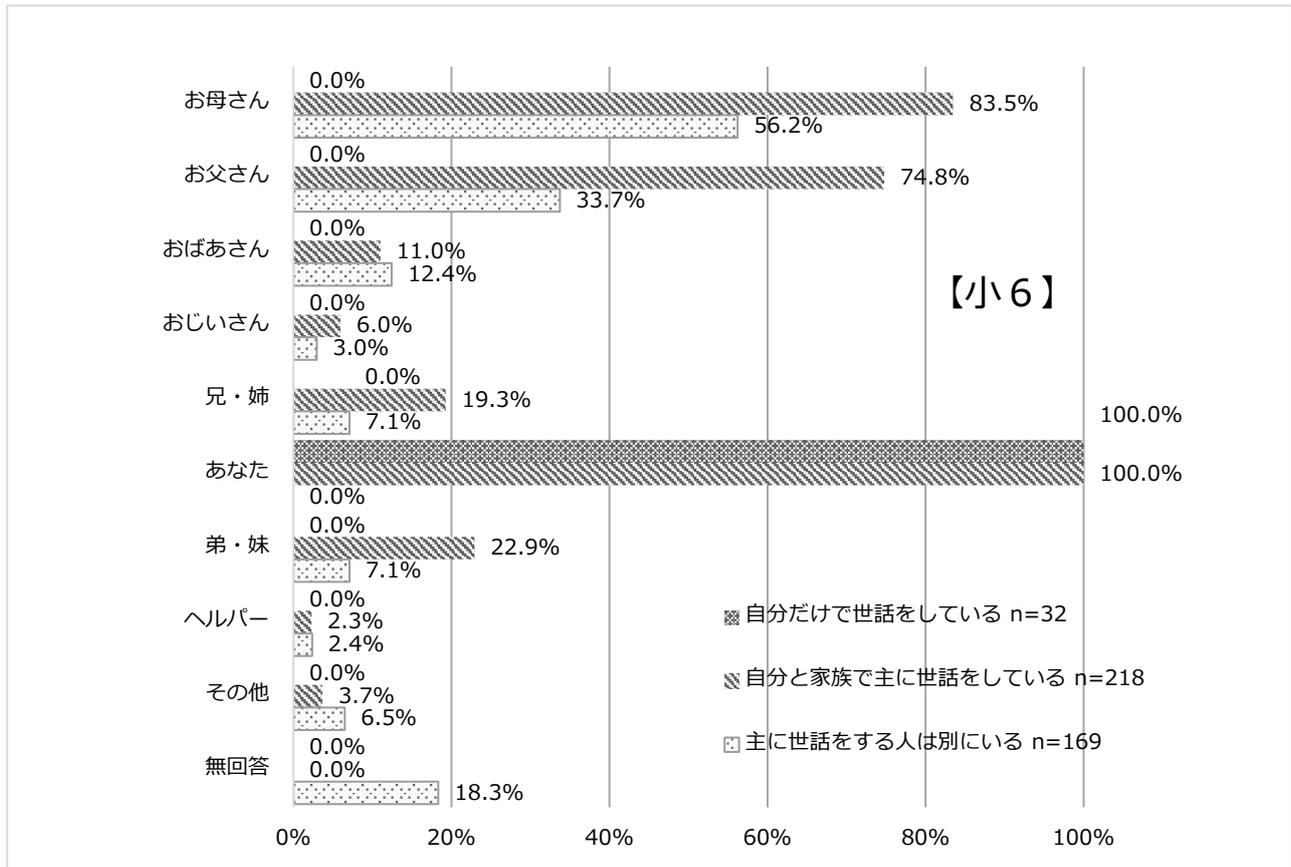
【問 8】（単一回答）家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか。

図表 2-1-1 手助けや世話を必要とする家族の有無



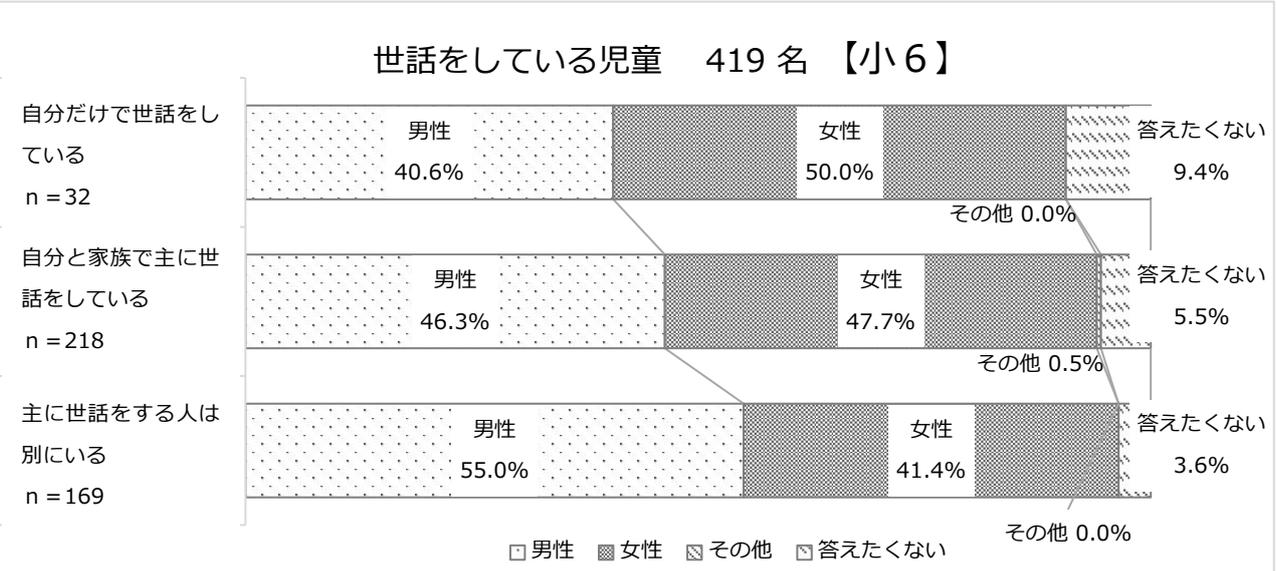
【問 10】（複数回答）その人（お世話を必要とする家族）のお世話を主にしている人はだれですか。

図表 2-1-2 世話を主に担う人



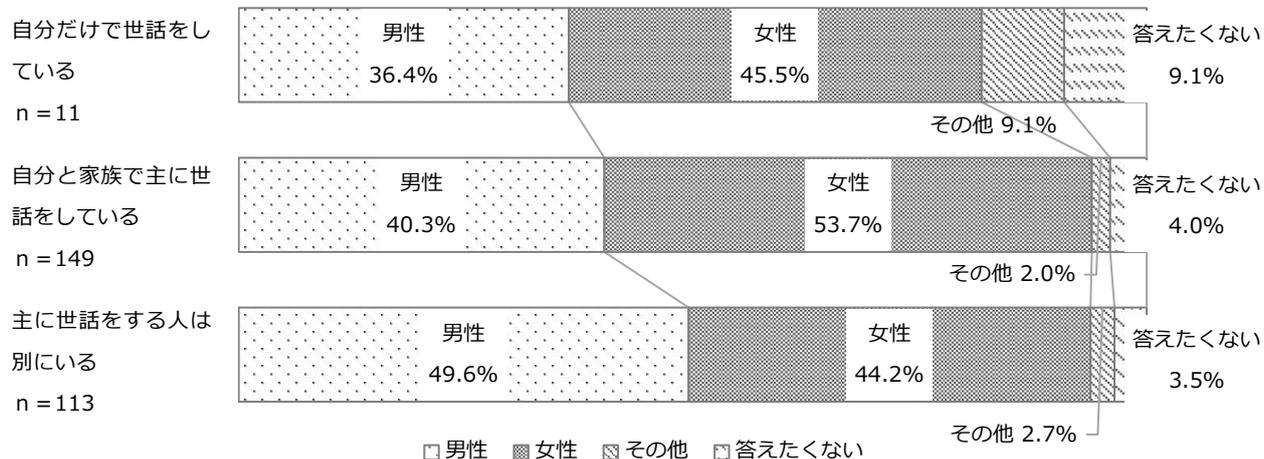
【問 11】（単一回答）あなたはお世話をしていますか。（クロス集計により、関わり方で3分類）

図表 2-1-3 家族の手助けや世話への児童・生徒の関り方



	自分だけで世話をしている	自分と家族で主に世話をしている	主に世話をする人は別にいる
男 性	13	101	93
女 性	16	104	70
その他	0	1	0
答えたくない	3	12	6
計	32	218	169

世話をしている生徒 273名【中2】



	自分だけで世話をしている	自分と家族で主に世話をしている	主に世話をする人は別にいる
男性	4	60	56
女性	5	80	50
その他	1	3	3
答えたくない	1	6	4
計	11	149	113

2-2 家族の世話をする児童・生徒の状況

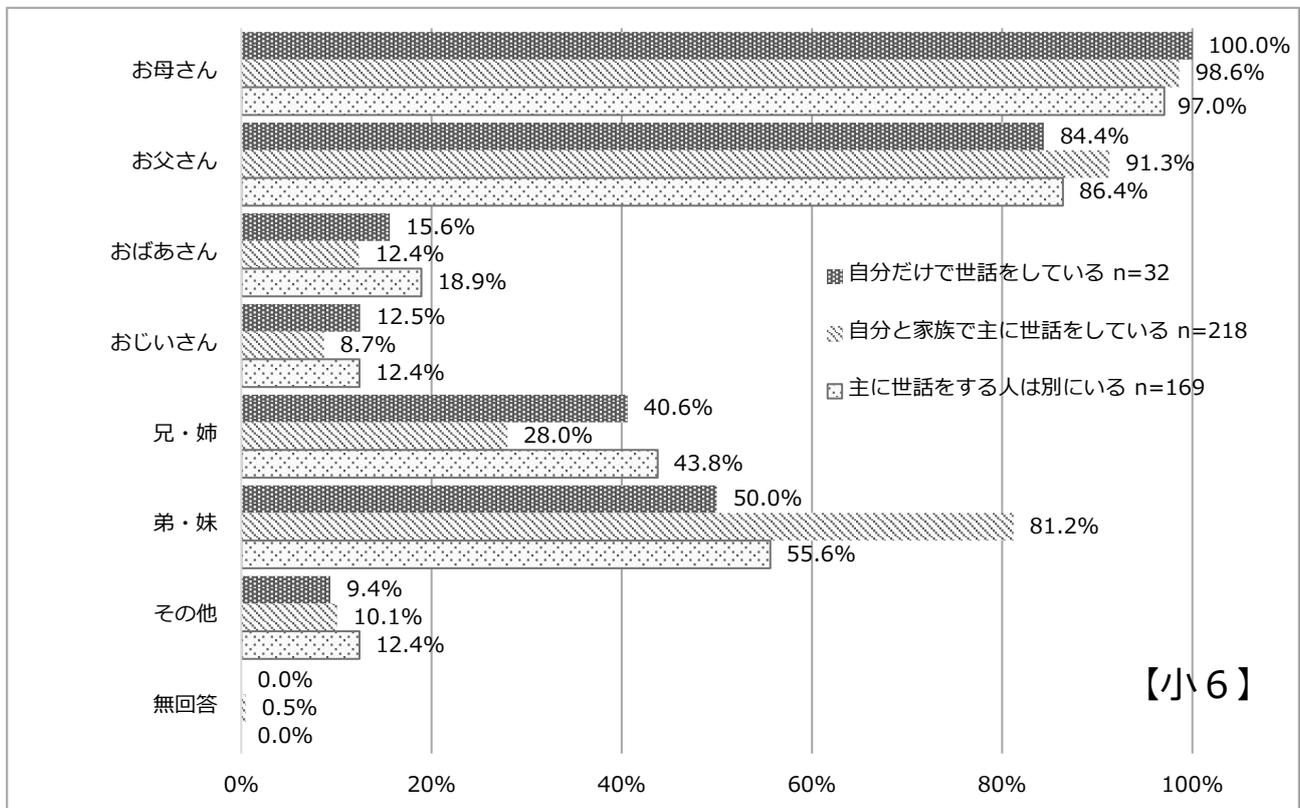
2-2-1 世帯構成

いずれの群においても「2世代世帯」の割合が多いが、「自分と家族で主に世話をしている」群に比し、「自分だけが世話をしている」群では「ひとり親世帯」の割合が多くなっている。

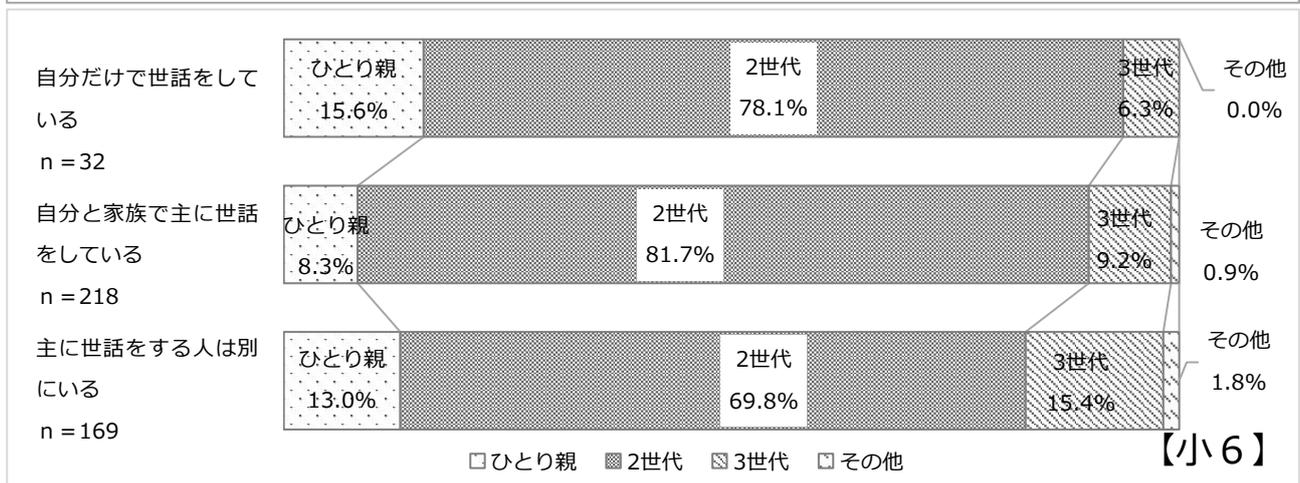
また、「主に世話をする人は別にいる」群では、「3世代世帯」の割合が高くなっている（図表 2-2-1）。

【問 7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。（回答から世帯状況を分類）

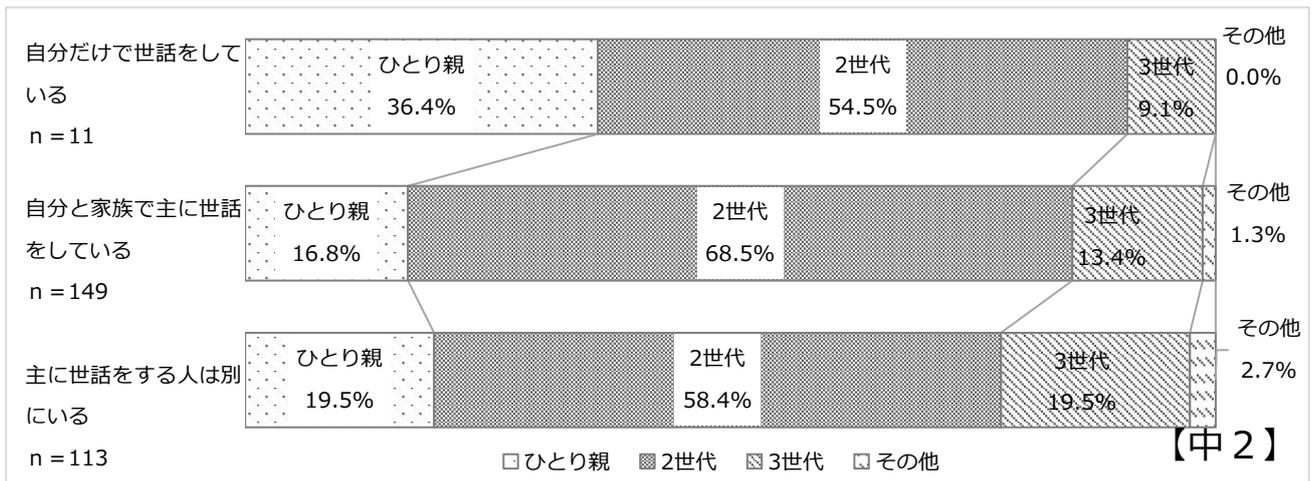
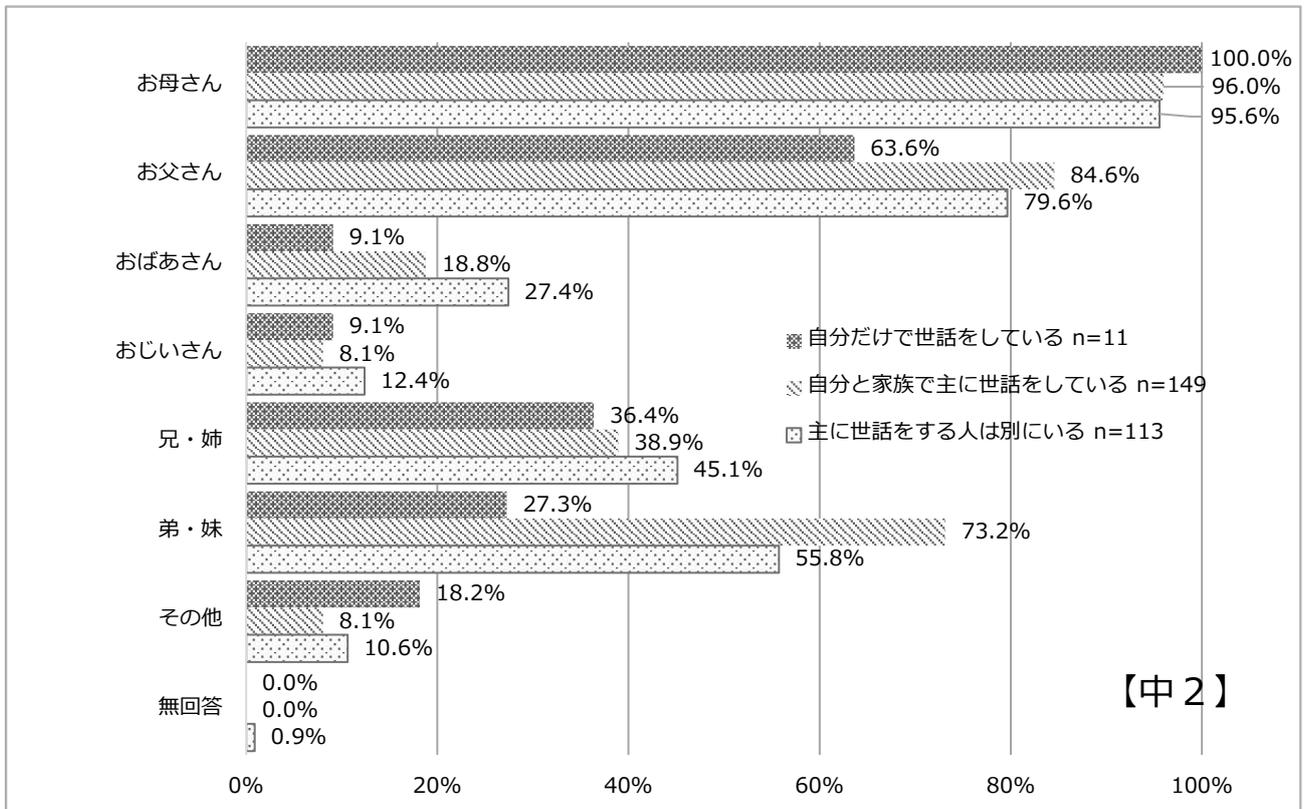
図表 2-2-1 同居家族と世帯状況



【小6】



【小6】

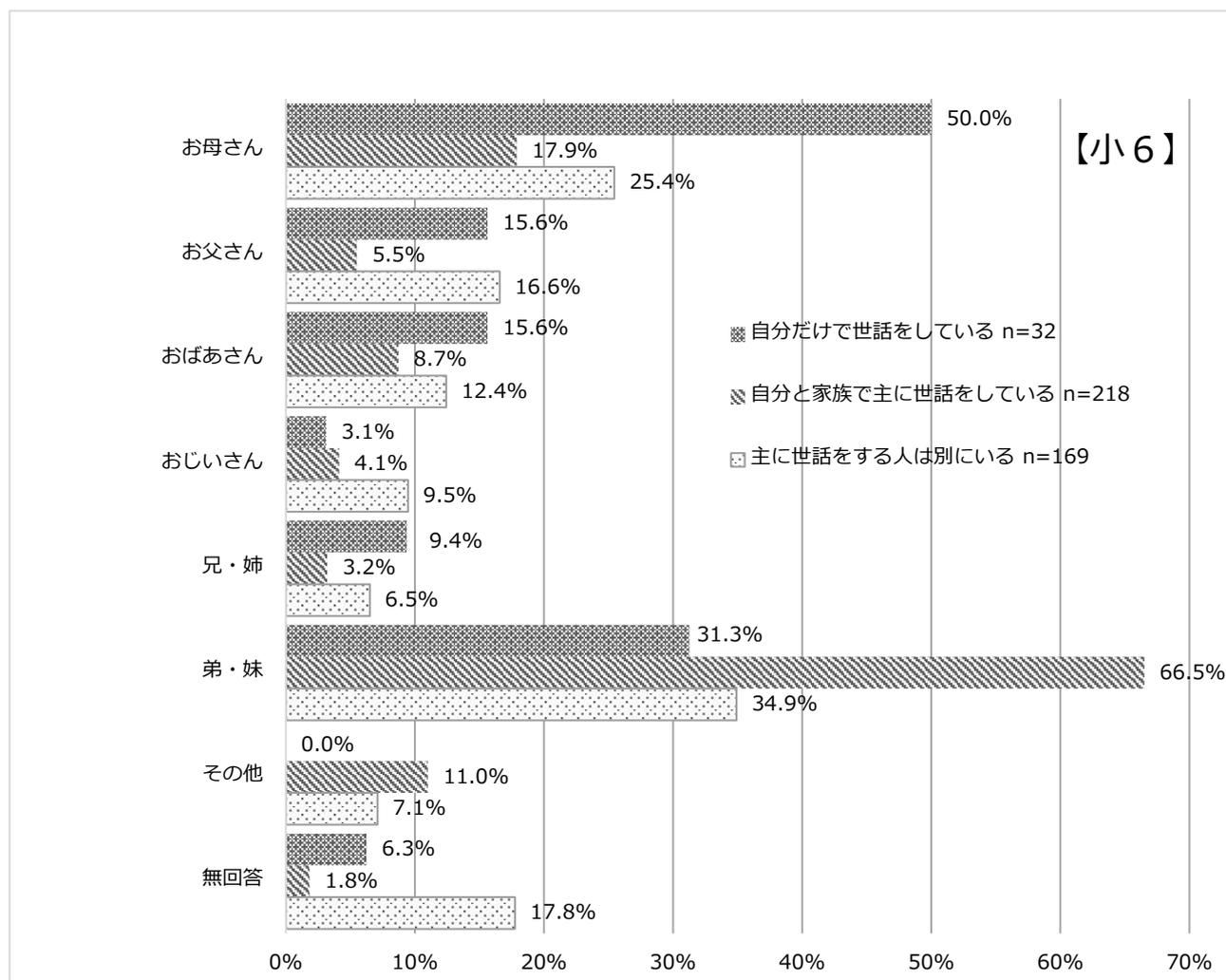


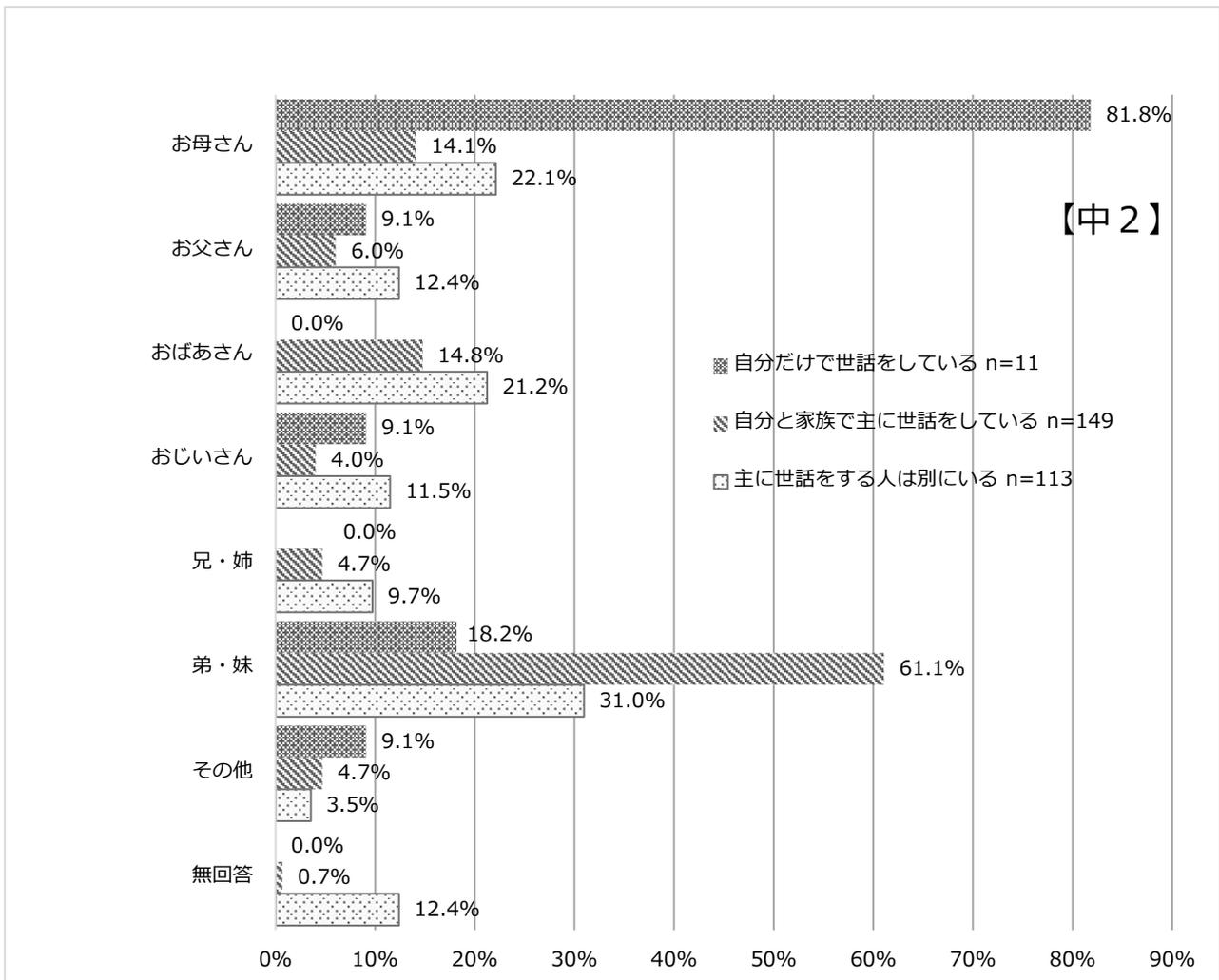
2-2-2 世話をする対象者

世話が必要な家族について、「自分だけが世話をしている」群では半数以上が「母」と回答し（中学生では約8割）、次いで「弟・妹」。「自分と家族で主に世話をしている」群では「弟・妹」が最も多く（6割以上）、「主に世話をする人は別にいる」群では「弟・妹」、「母」の順となる（図表 2-2-2）。

【問9】（複数回答）お世話を必要とする人はだれですか。

図表 2-2-2 世話を必要とする家族





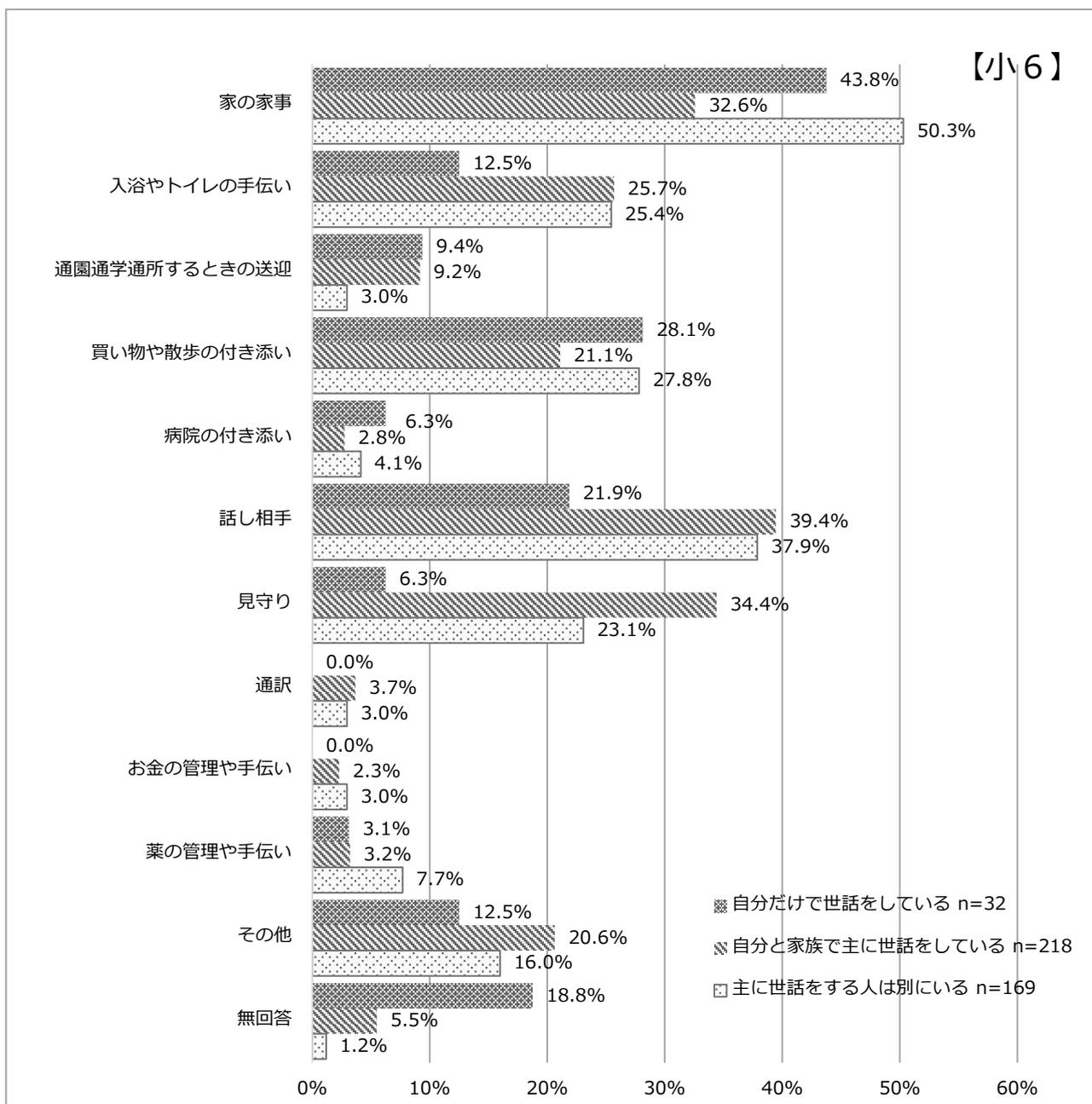
2-2-3 世話の内容

世話の内容は、全体では「家事」、「話し相手」、「見守り」が多い。「自分だけが世話をしている」群では「家事」の割合が最も多く、「自分と家族で世話をしている」群では、「話し相手」、「見守り」、「主に世話をする人は別にいる」群は、「家事」「話し相手」の順で多くなっている。

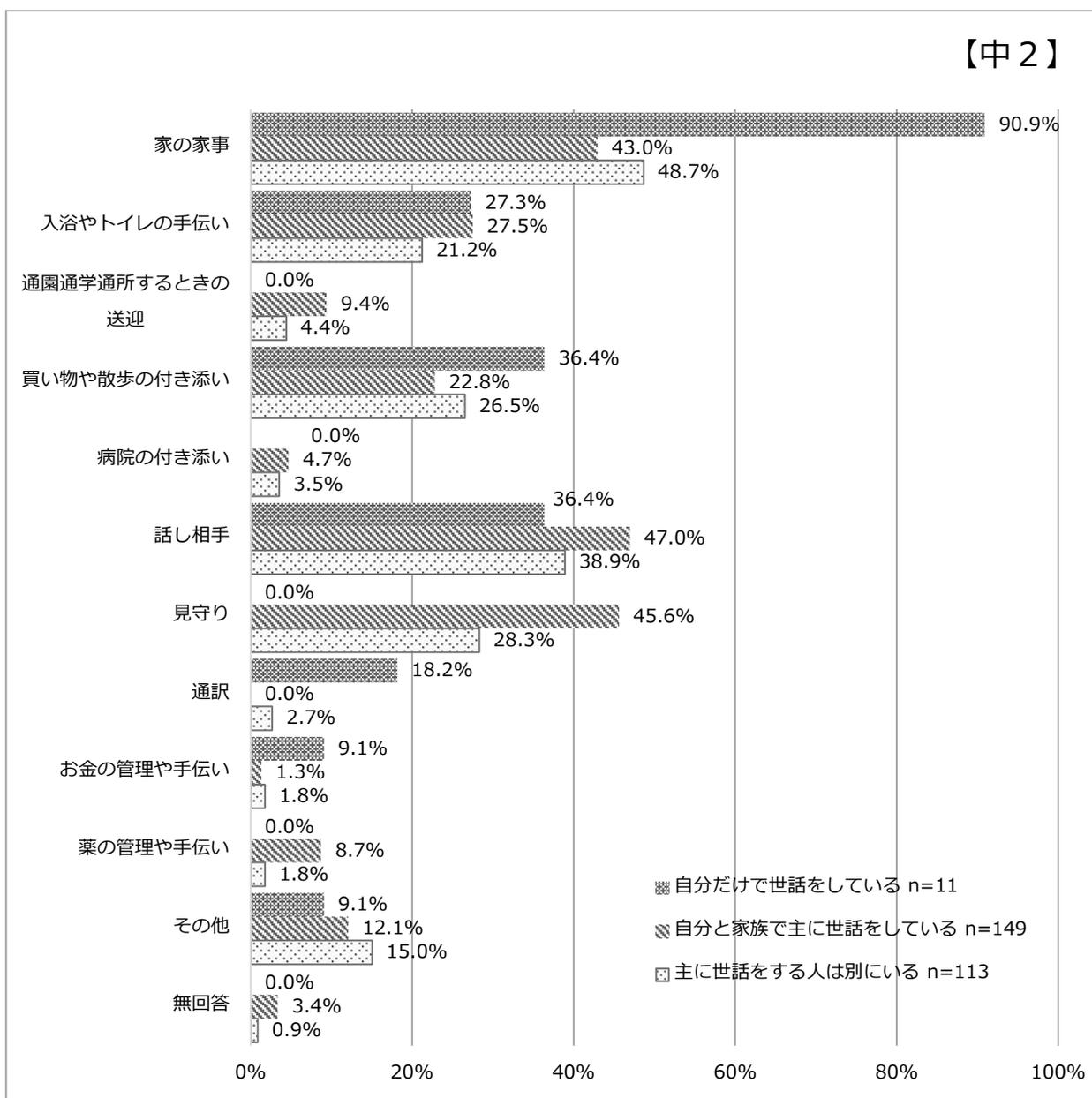
また、中学生の「自分だけが世話をしている」群では、90.9%が「家事」をあげている（図表 2-2-3）。

【問 12】（複数回答）あなたがしているお世話の内容を教えてください。

図表 2-2-3 世話の内容



【中2】

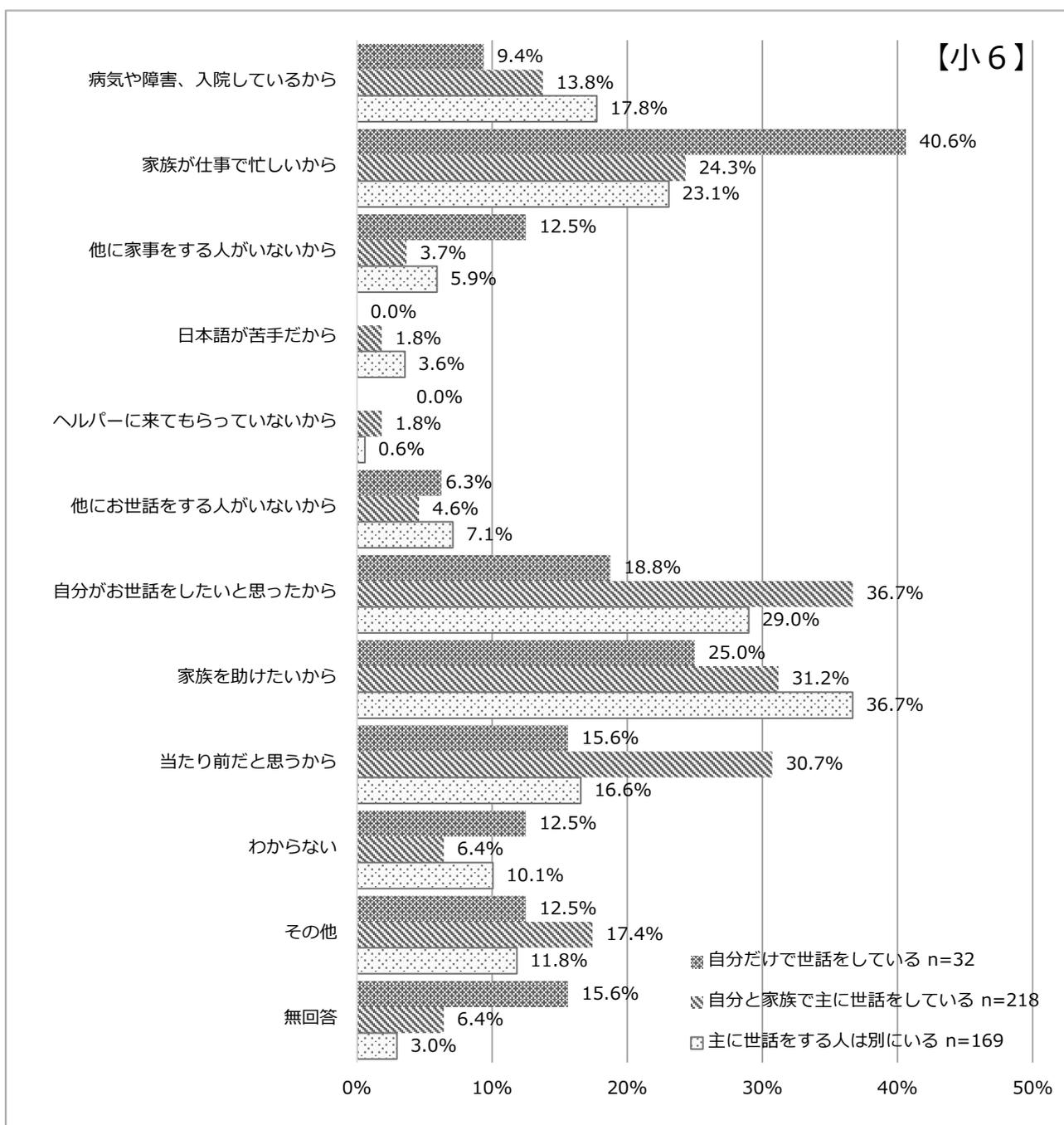


2-2-4 世話をする理由

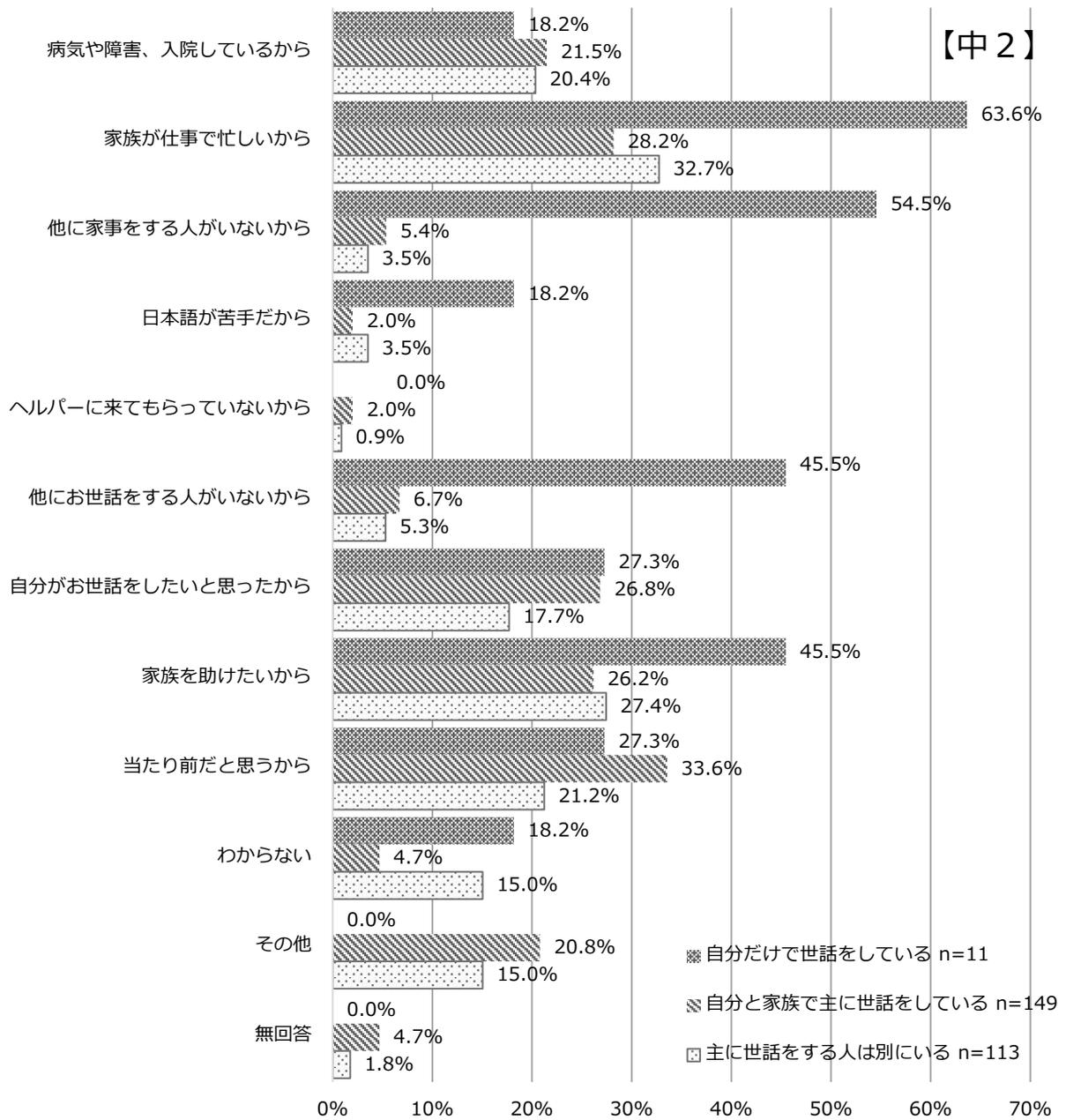
世話をする理由として、小学生では「自分だけが世話をしている」群が、「家族が仕事等で忙しいから」の割合が高いのに対し、他の群では「自分がお世話をしたいと思ったから」、「家族を助けたいから」の割合が高くなっている。中学生では、「自分だけが世話をしている」群で、「家族が仕事等で忙しいから」のほか、「他に家事をする人がいないから」、「他にお世話をする人がいないから」など具体的な家庭状況に基づく回答が多くなっている（図表 2-2-4）。

【問 13】（複数回答）あなたがお世話をしている理由を教えてください。

図表 2-2-4 世話をする理由



【中2】



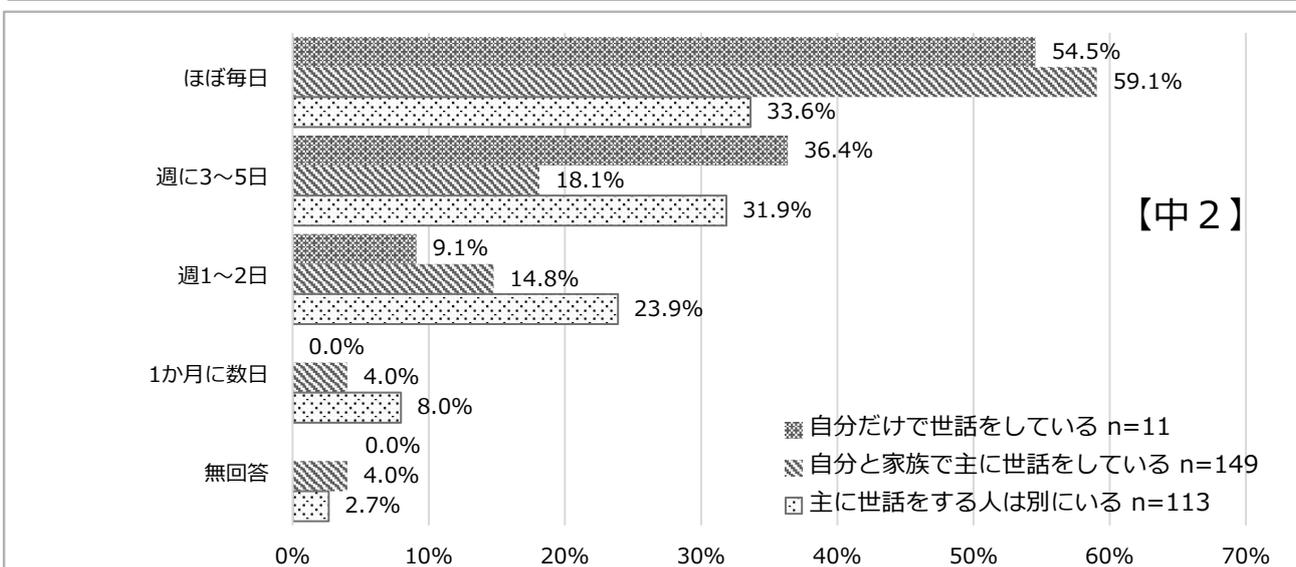
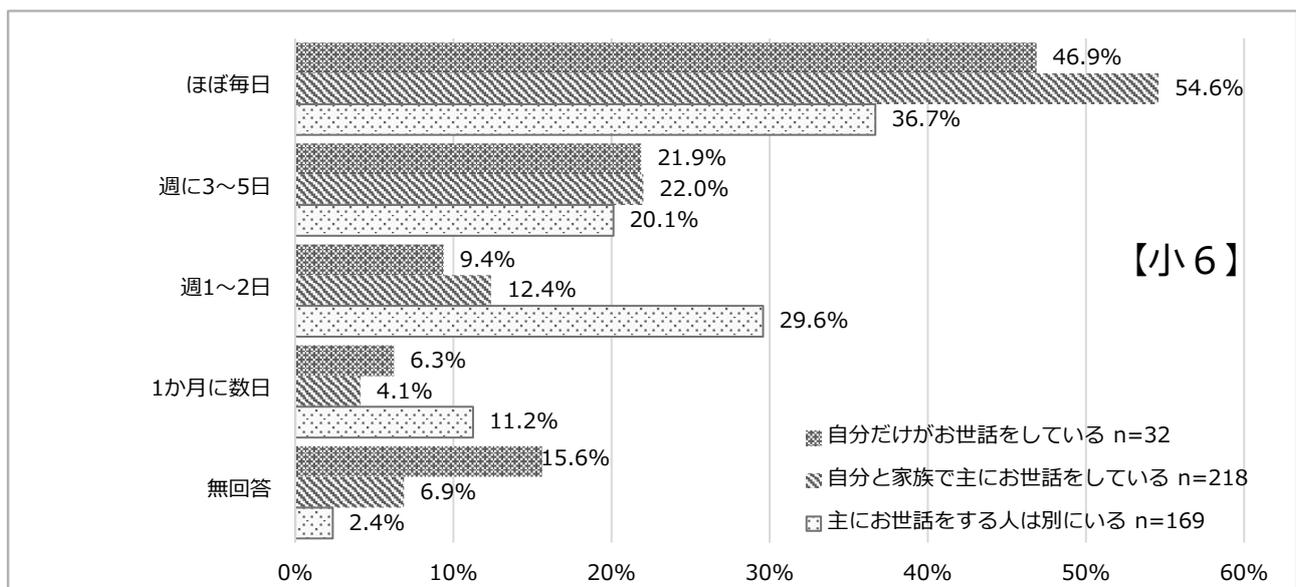
2-2-5 世話をする日数・時間

世話をする日数については、中学生の「自分だけが世話をしている」群において、「ほぼ毎日」と「週に3～5日」を合算すると、90.9%と高い割合を占める。一方、「主に世話をする人は別にいる」群は、他の群に比し、「週に1～2日」、「1か月に数日」が多くなっている（図表 2-2-5-1）。

また、時間数では、中学生の「自分だけが世話をしている」群で、「2時間～3時間」が18.2%、選択時間枠にない3時間以上の「その他」も18.2%となるなど、長時間傾向のケースが多いことがわかる。一方、「主に世話をする人は別にいる」群は、他の区分に比し、「30分未満」の回答が多い（図表 2-2-5-2）。

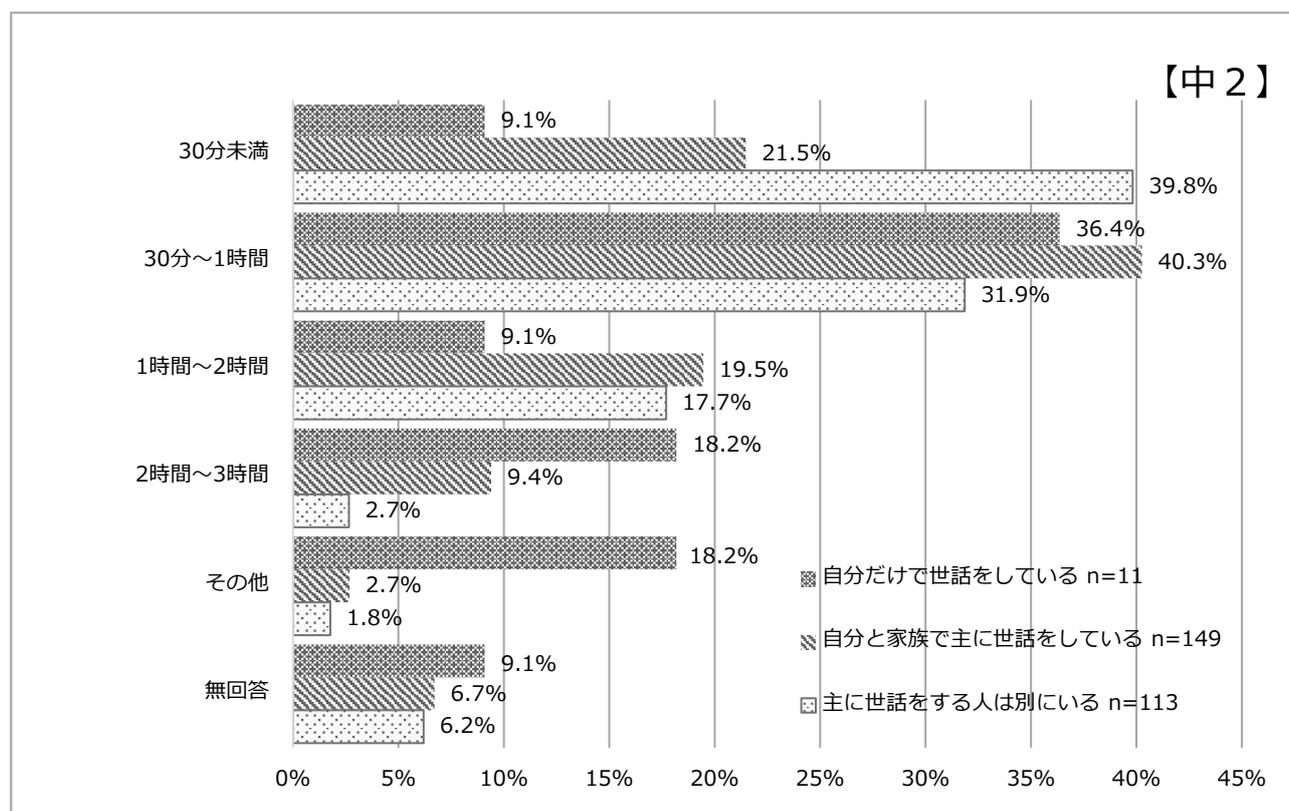
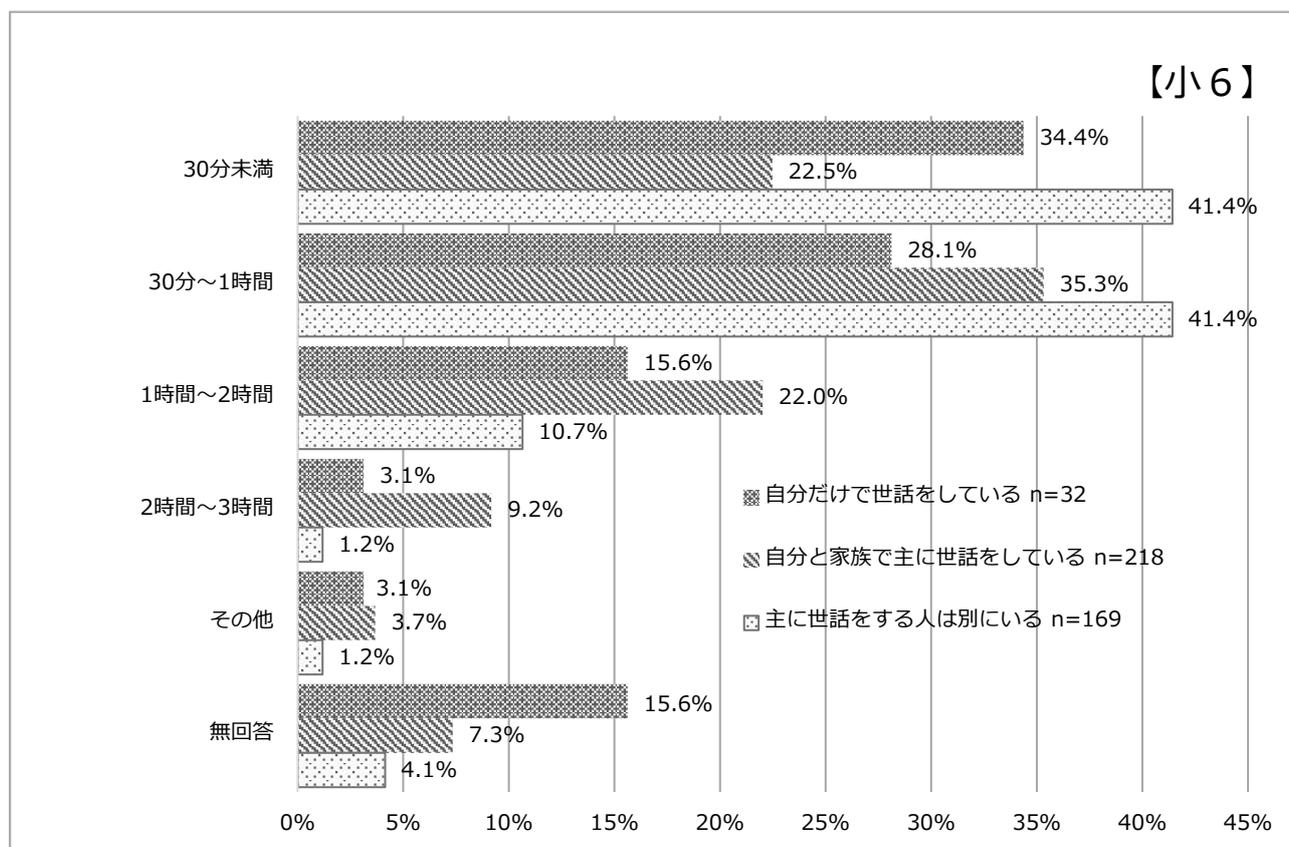
【問 14】（単一回答）あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか。

図表 2-2-5-1 世話をする日数



【問 15】（単一回答）あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか。

図表 2-2-5-2 世話をする時間



2-3 世話をすることによる影響と思い

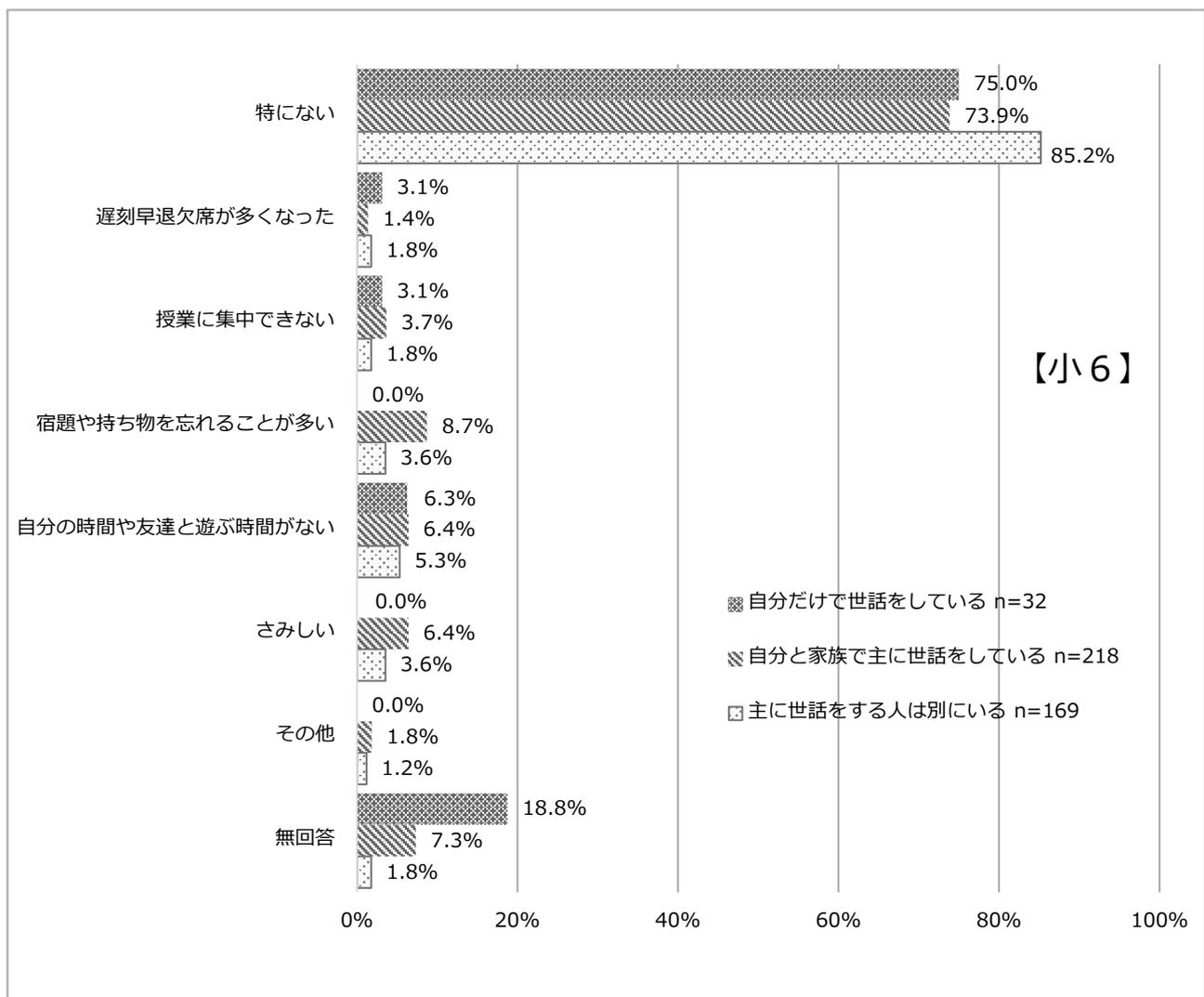
2-3-1 世話をすることによる影響

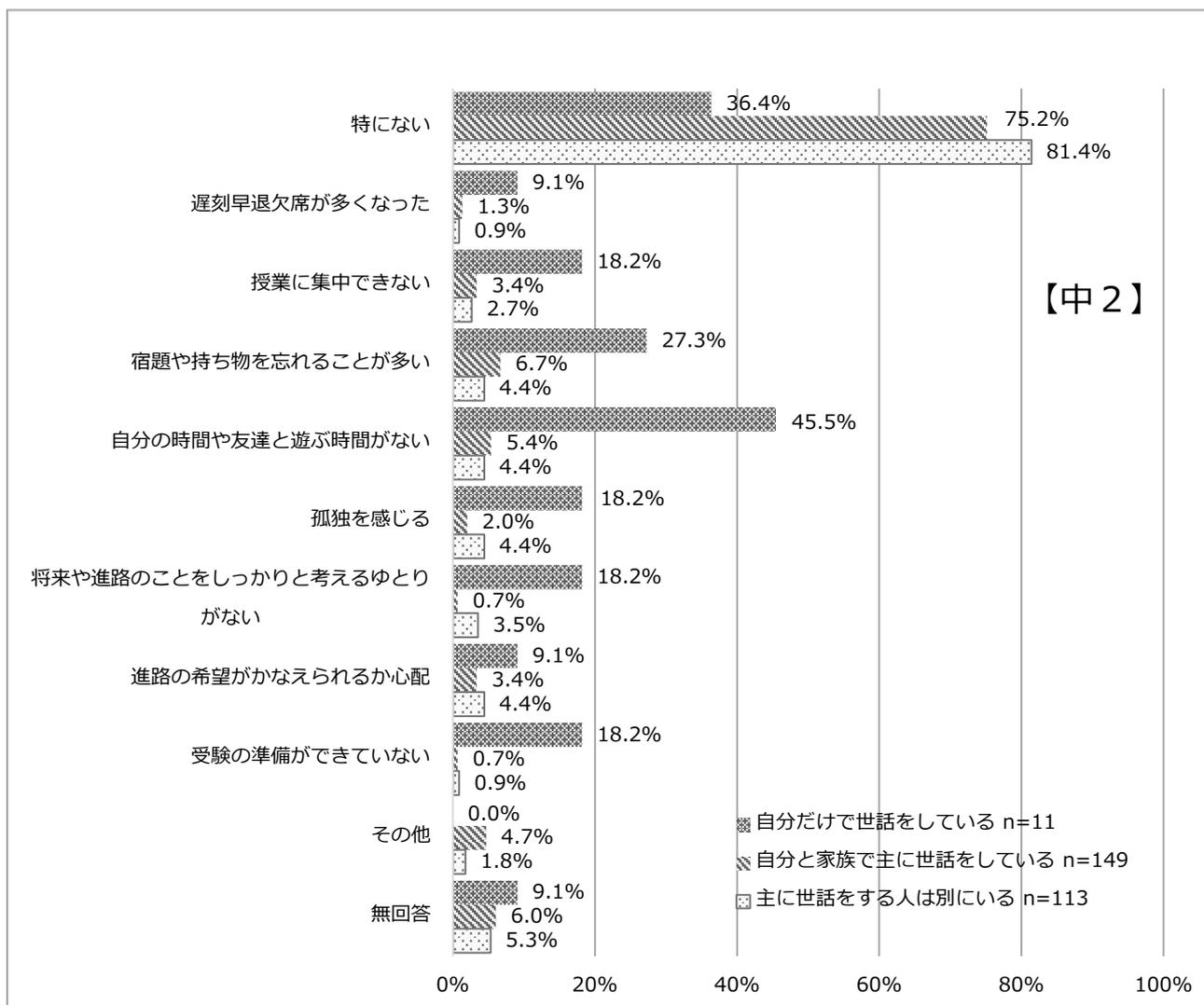
世話をすることによる影響について、他の群では7割以上が「特にない」と回答しているが、中学生の「自分だけが世話をしている」群は「特にない」が36.4%にとどまり、具体的な影響項目を選択している。特に「自分の時間や友だちと遊ぶ時間がない」は45.5%と他の群に比して選択が顕著であるほか、「宿題や持ち物を忘れることが多い」、「授業に集中できない」、「孤独を感じる」といった項目も多くなっている。

中学生のみにある進路関係の設問の、「将来や進路のことをしっかりと考えるゆとりがない」、「進路の希望がかなえられるか心配」、「受験の準備ができない」などの項目においても「自分だけが世話をしている」群の選択は多くなっている（図表 2-3-1）。

【問 16】（複数回答）お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか。

図表 2-3-1 世話をすることによる影響



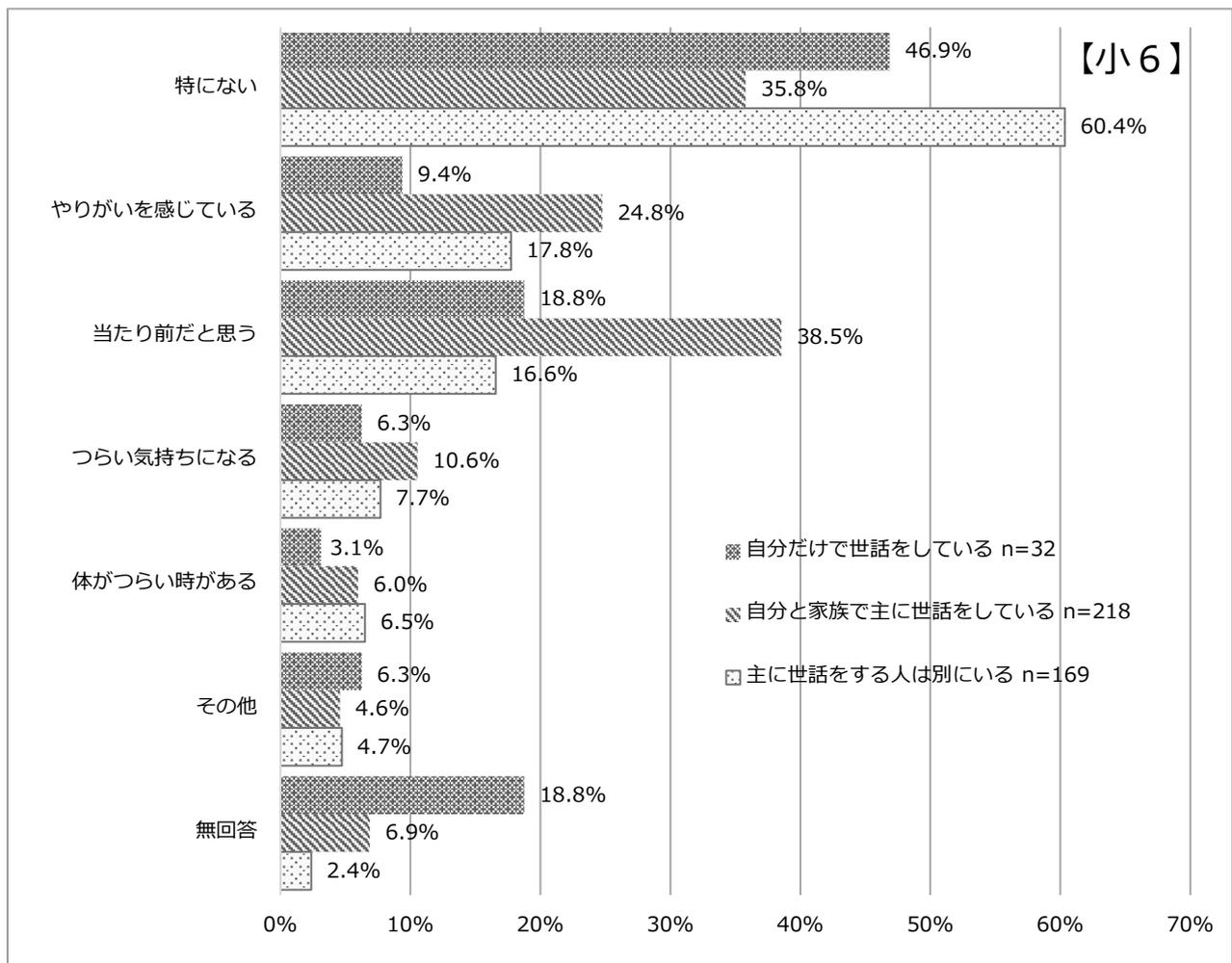


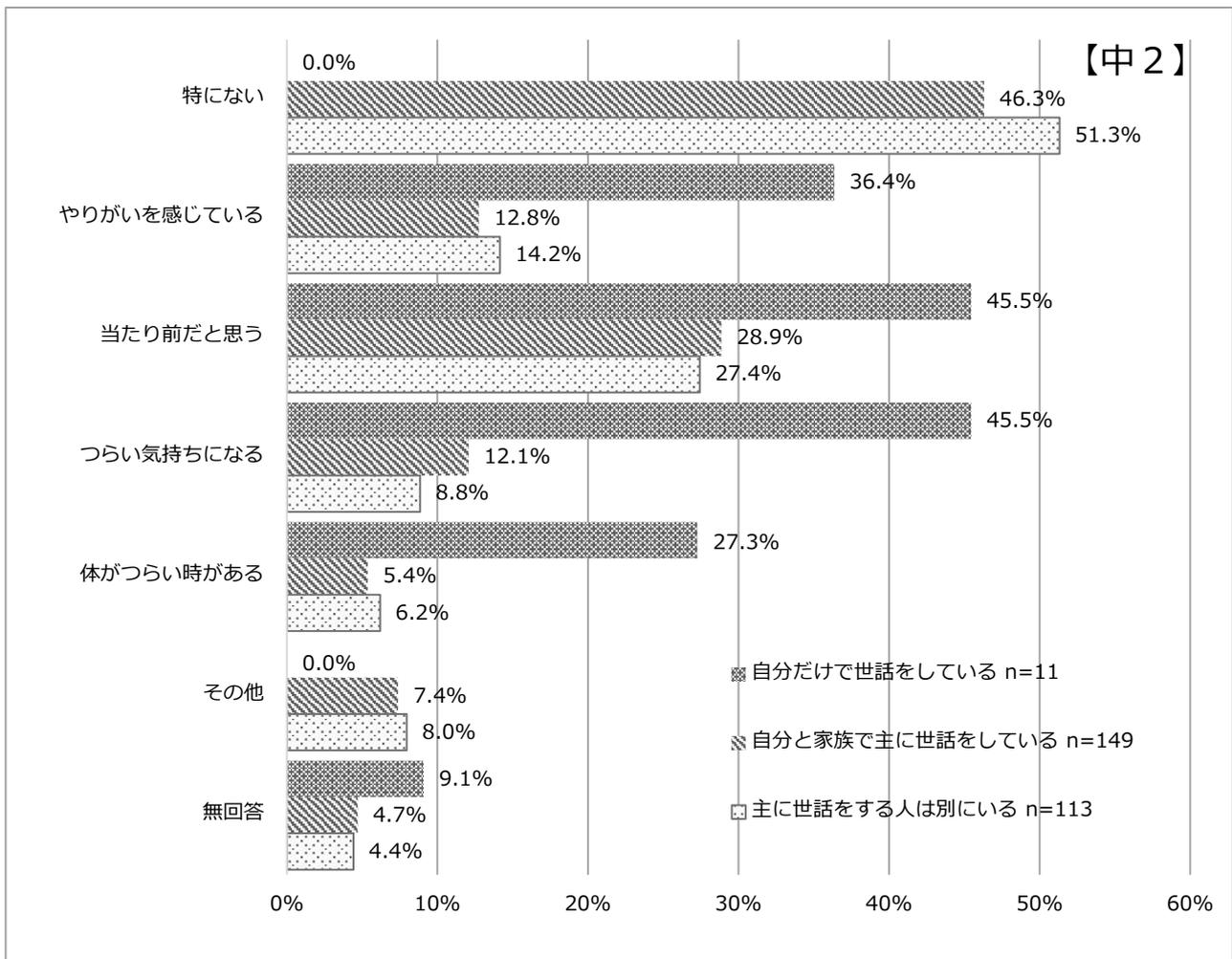
2-3-2 世話をすることについて思っていること

本人が思っていることとしては、中学生の「自分だけが世話をしている」群では、「家族を助けることにやりがいを感じている」、「家族だから世話をするのは当たり前だと思う」の選択が多い一方、「つらい気持ちになることがある」、「体がつらいときがある」と心身への影響があることも自覚している状態が読み取れる（図表 2-3-2）。他の群においては「特にない」とする回答が多いため、中学生の「自分だけが世話をしている」群は、「特にない」は0%であり、当該群は全員が何らかの思いがあることがわかる。

【問 17】（複数回答）お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください。

図表 2-3-2 世話をすることについて思っていること



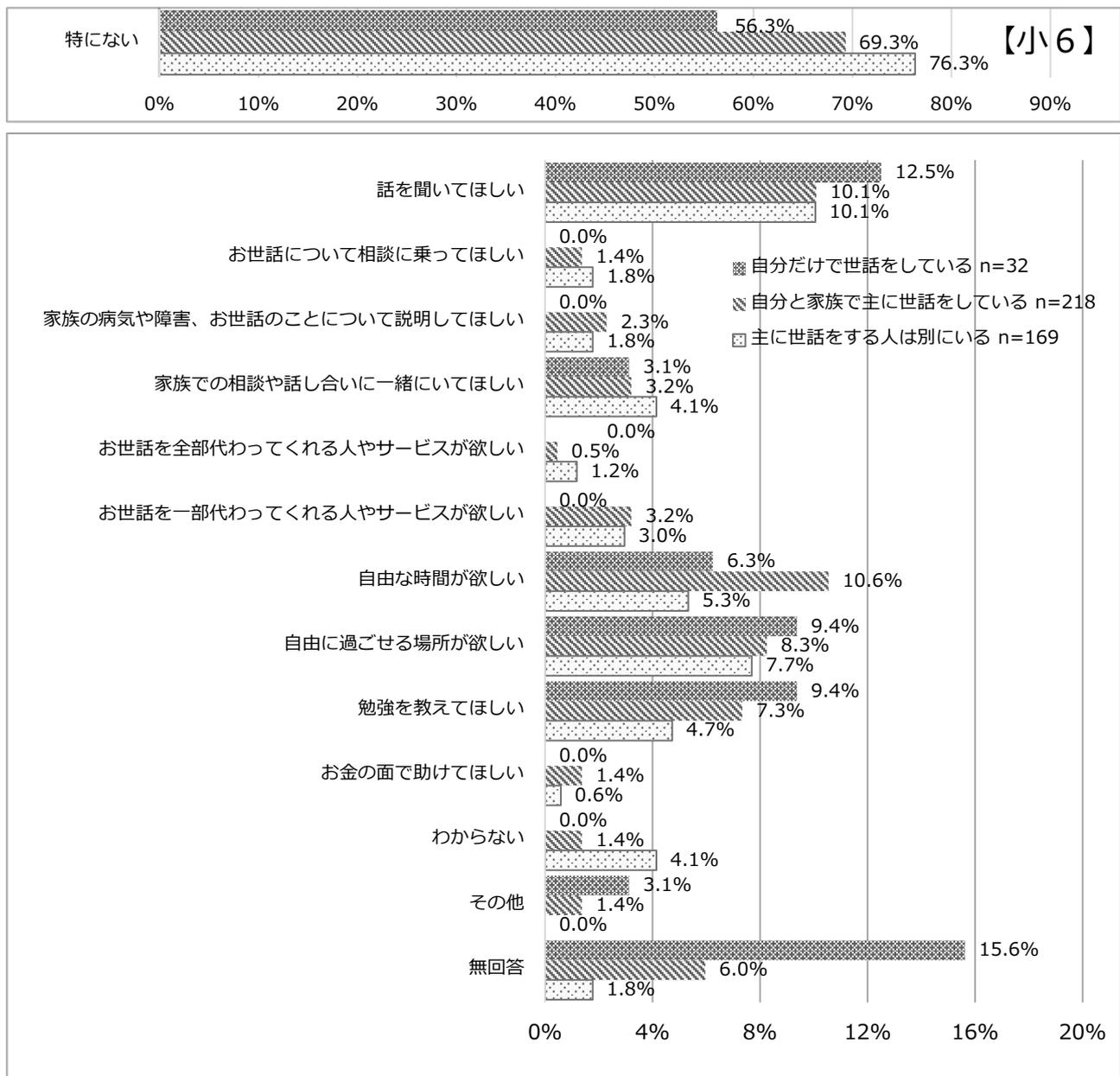


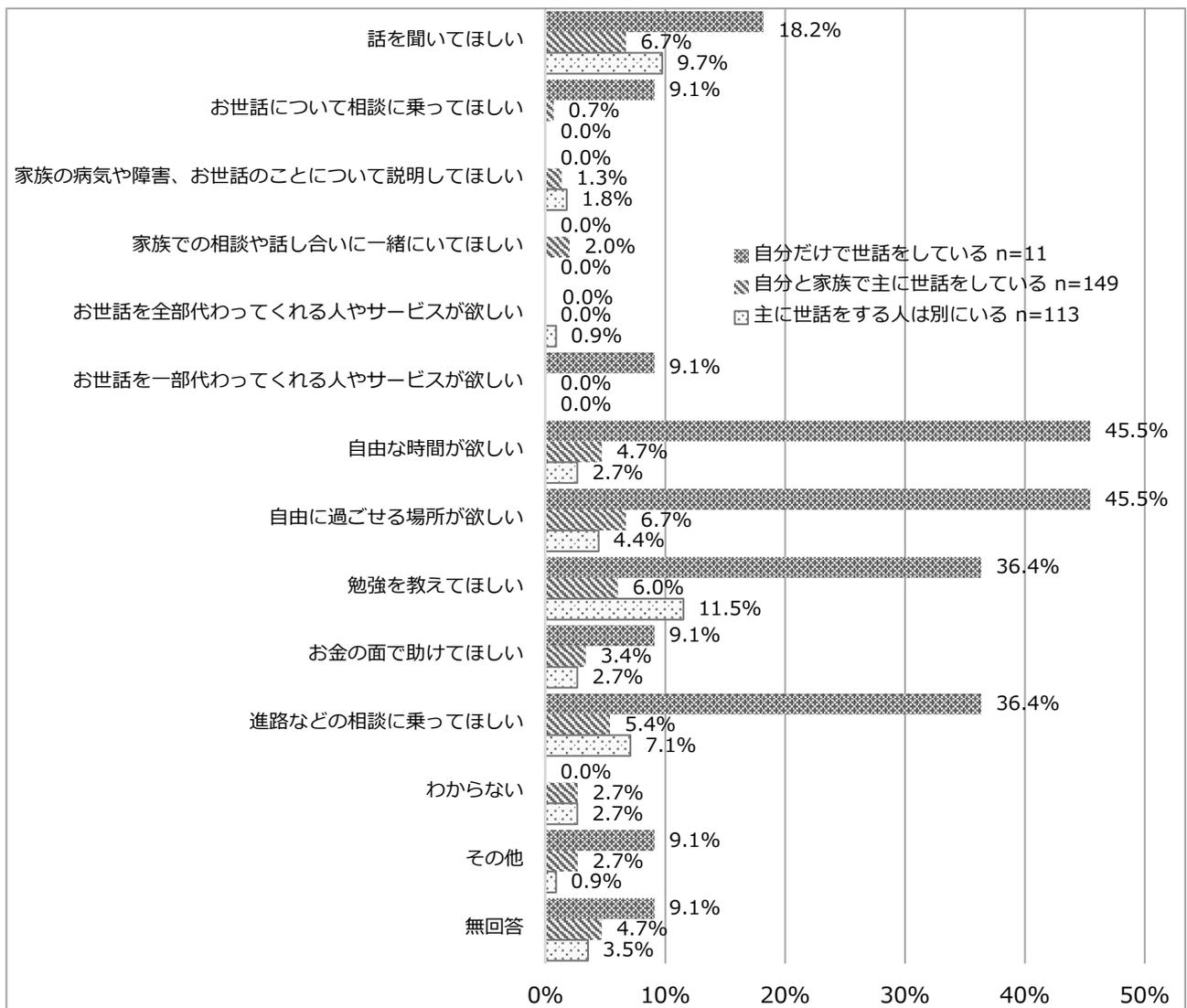
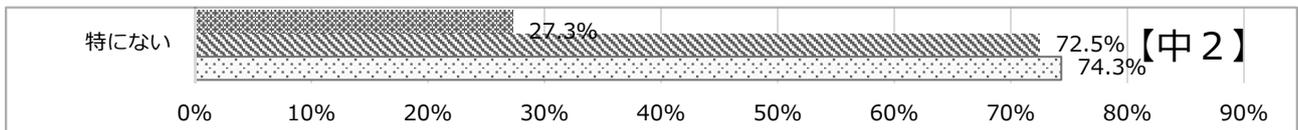
2-3-3 周囲に助けてほしいこと

学校や周りの大人に助けて欲しいこととして、小学生では全体的に「話を聞いてほしい」、「自由な時間が欲しい」、「自由に過ごせる場所が欲しい」、「勉強を教えてほしい」等が多くなっている（図表 2-3-3）。中学生では「自分だけが世話をしている」群に特徴的な傾向が見受けられる。特徴として、他群で 7 割以上を占める「特にない」の回答がこの群では 27.3%にとどまり、具体項目を選択している。「自由な時間が欲しい」、「自由に過ごせる場所が欲しい」（いずれも 45.5%）が最も多く、次いで「勉強を教えてほしい」、「進路などの相談に乗ってほしい」（いずれも 36.4%）であった（図表 2-3-3:具体項目を明確にするため「特にない」を分離して表示）。

【問 18】（複数回答）学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。

図表 2-3-3 学校や周りの大人に助けてほしいこと





2-4 相談の状況

2-4-1 相談の状況

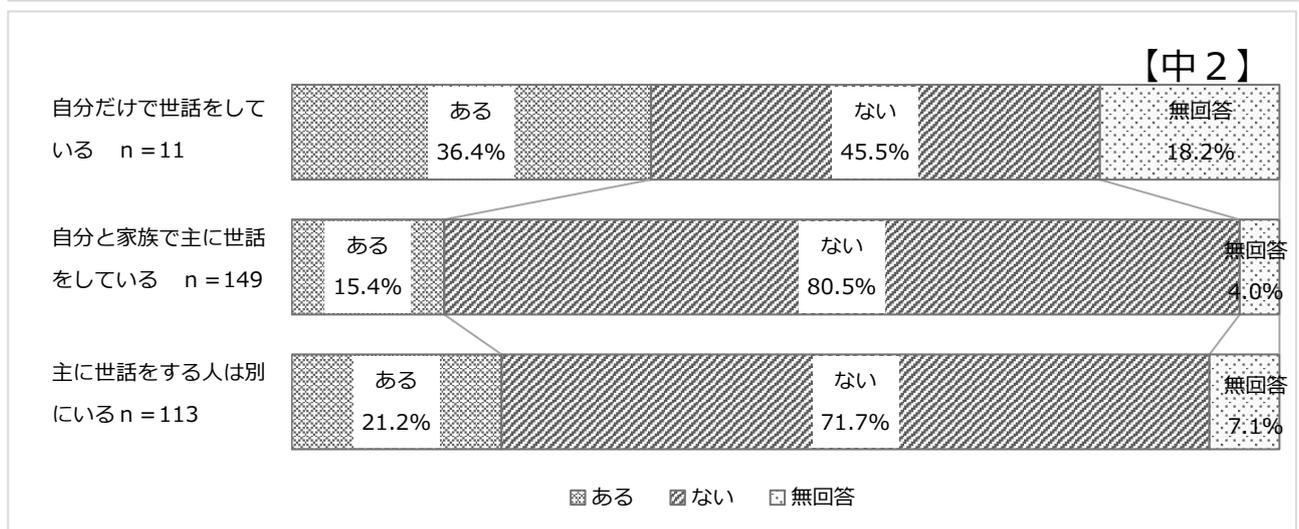
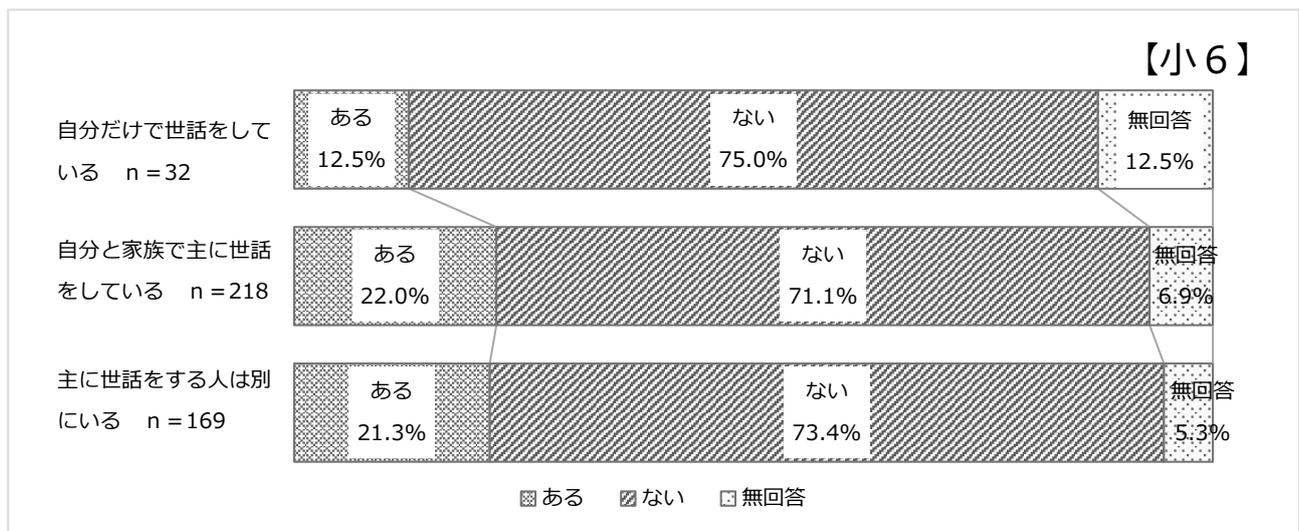
世話の相談経験については、世話の関わり方の違いによる傾向は見いだせないが、「自分だけが世話をしている」群で、小学生の「相談経験あり」が12.5%にとどまるのに対し、中学生では36.4%となっている（図表2-4-1-1）。

また、相談する相手は、小学生、中学生ともに「母」、「友だち」の割合が高いが、中学生ではより「友だち」が多くなるほか、「SNSの知り合い」、「学校の相談室の先生」、「児童館職員」など家族以外のさまざまな相談相手も増えている（図表2-4-1-2）。

【問19】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

【問20】（複数回答）相談した相手の人はだれですか。

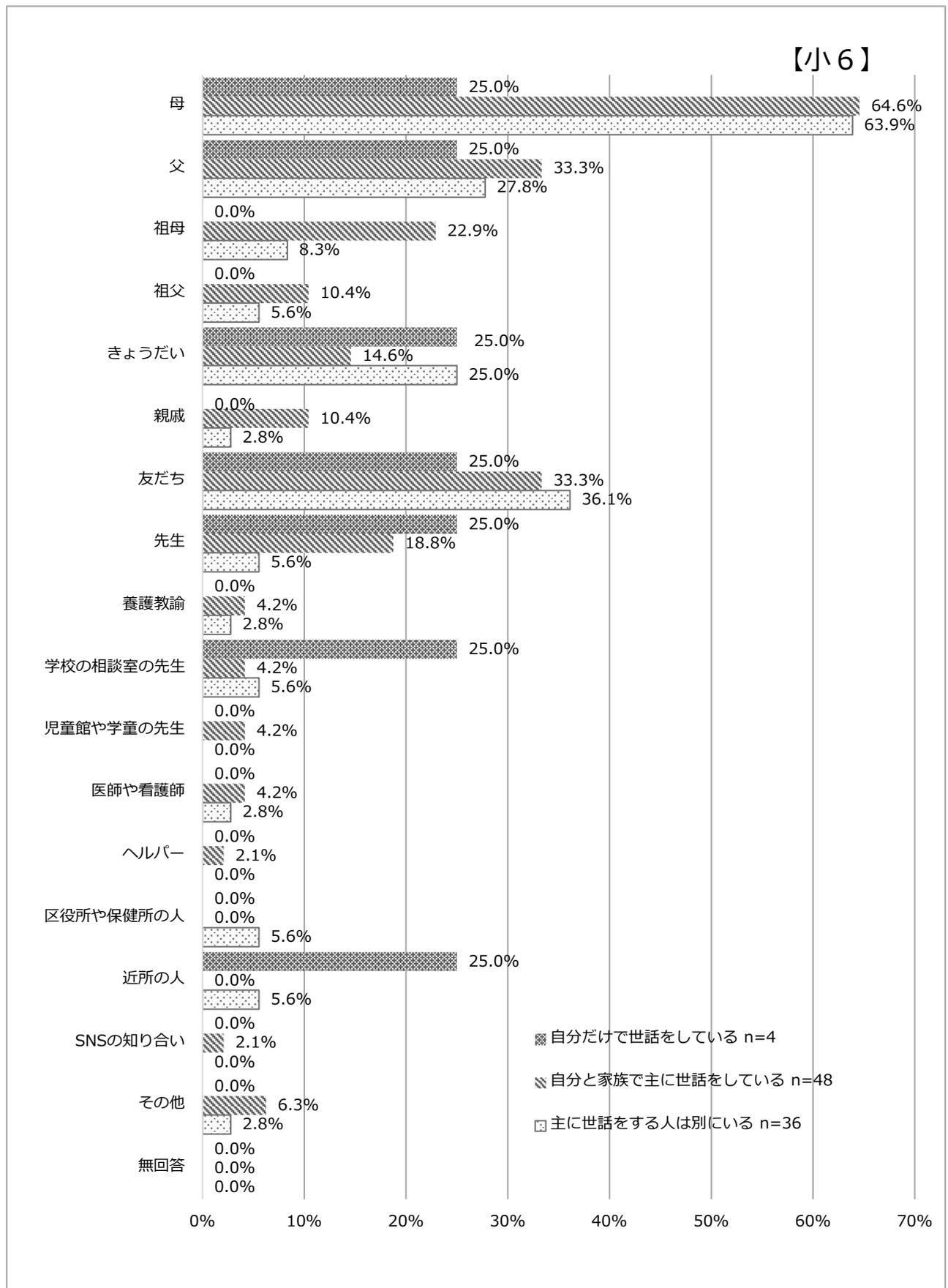
図表 2-4-1-1 世話についての相談経験の有無



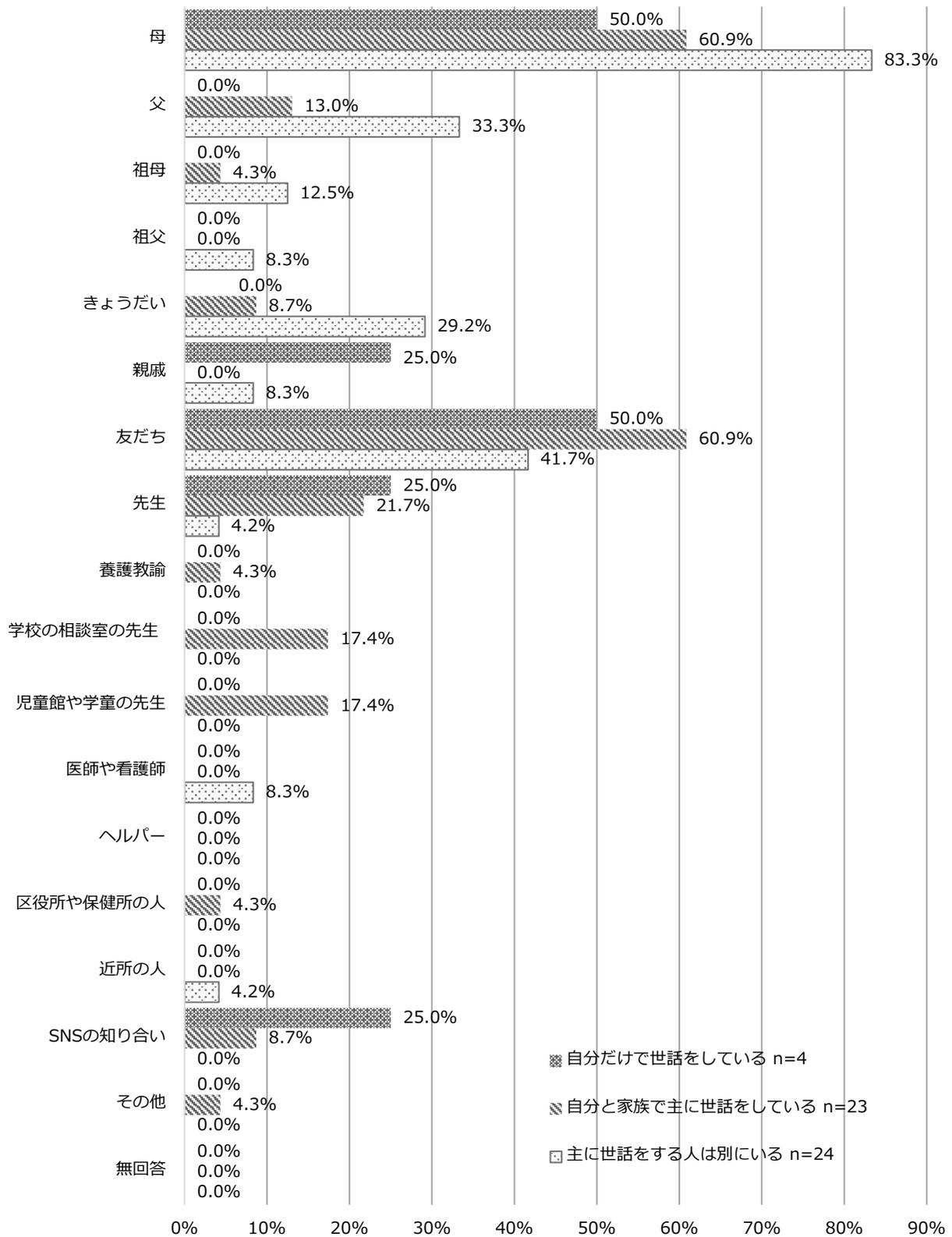


©2011 練馬区ねり丸

図表 2-4-1-2 世話についての相談相手



【中2】



2-4-2 相談していない理由

相談していない理由としては、小学生では「誰かに相談するほどの悩みではない」、「相談しても変わらないと思うから」、「誰に相談したらいいかわからない」が多い。中学生では世話の関わり方で傾向が明確になり、「自分と家族で世話をしている」群と「主に世話をする人は別にいる」群では「誰かに相談するほどの悩みではない」と回答する中学生が多い一方で、「自分だけが世話をしている」群では「相談しても変わらないと思うから」との回答が多くなる（図表 2-4-2-1）。

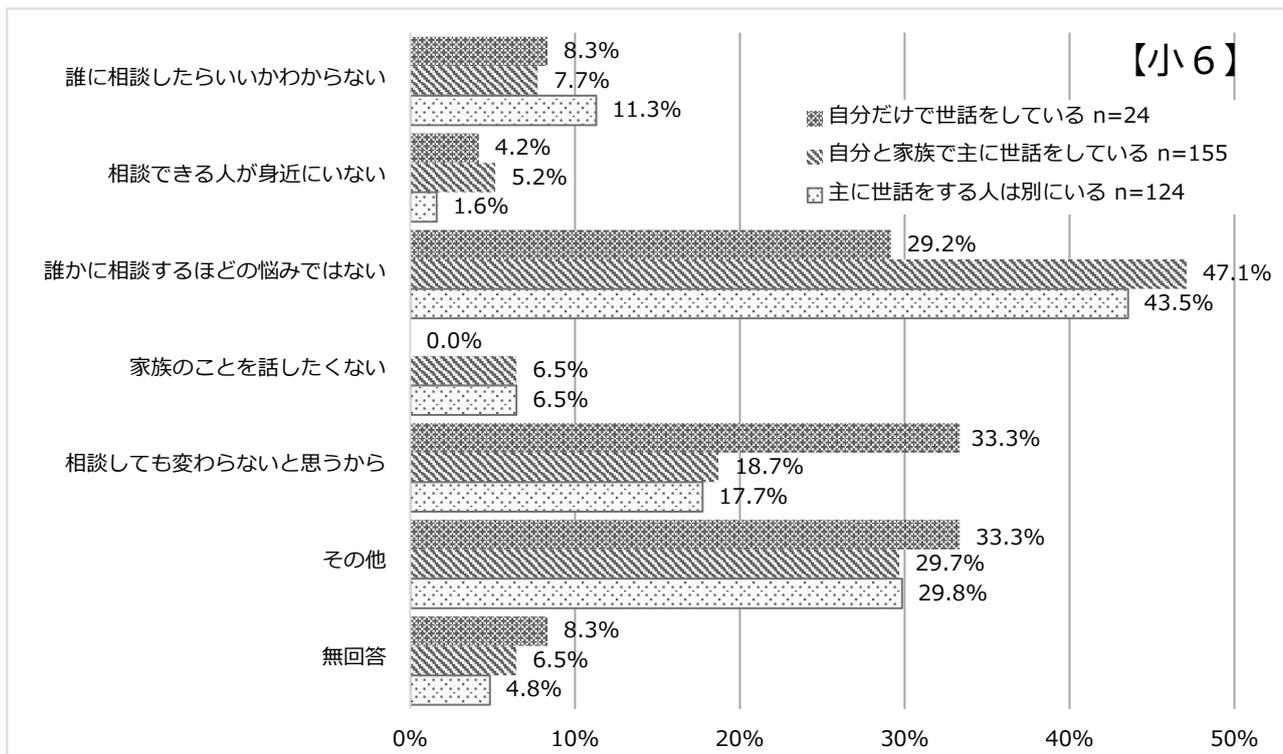
また、問 22「悩みを聞いてくれる人がいるか」に対して、小学生は全ての群で「いる」と答えた児童の方が多く、中学生でも「自分と家族で世話をしている」群と「主に世話をする人は別にいる」群は同様の結果となった（図表 2-4-2-2）。

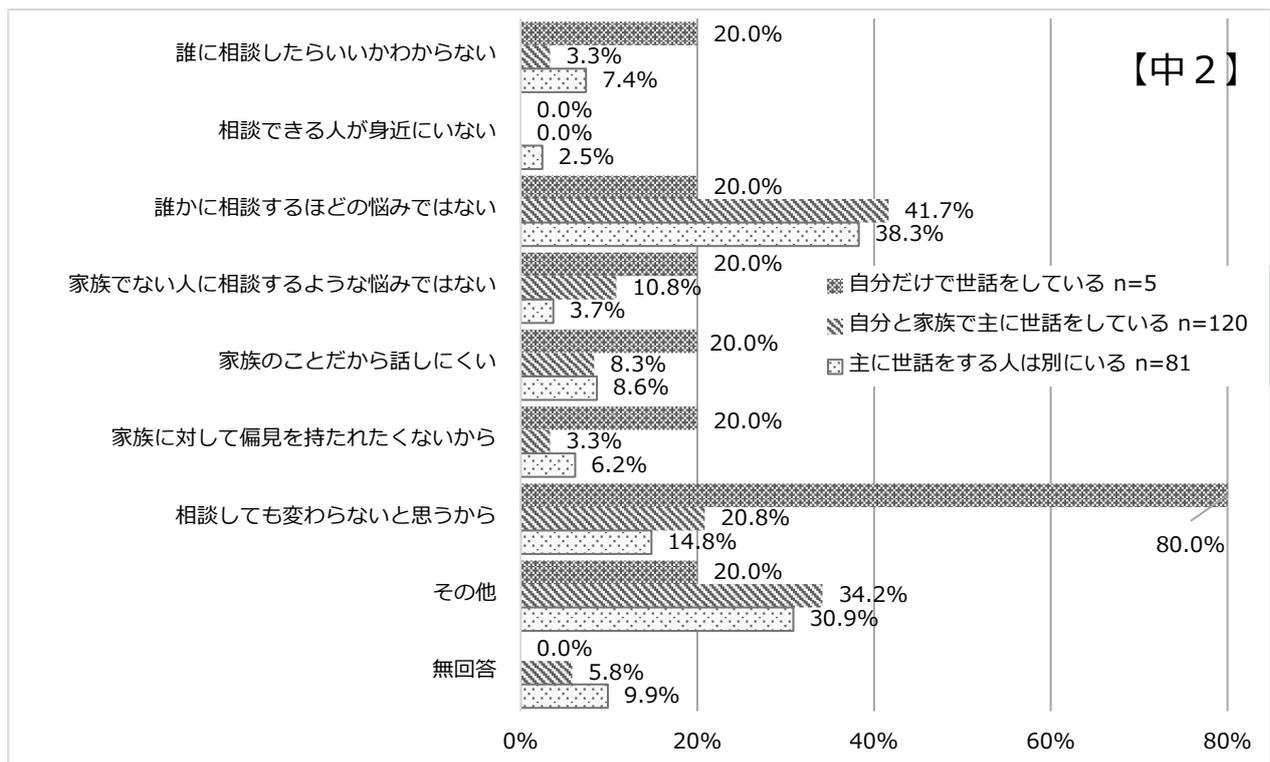
（相談経験のない回答者対象）

【問 21】（複数回答）相談していない理由を教えてください。

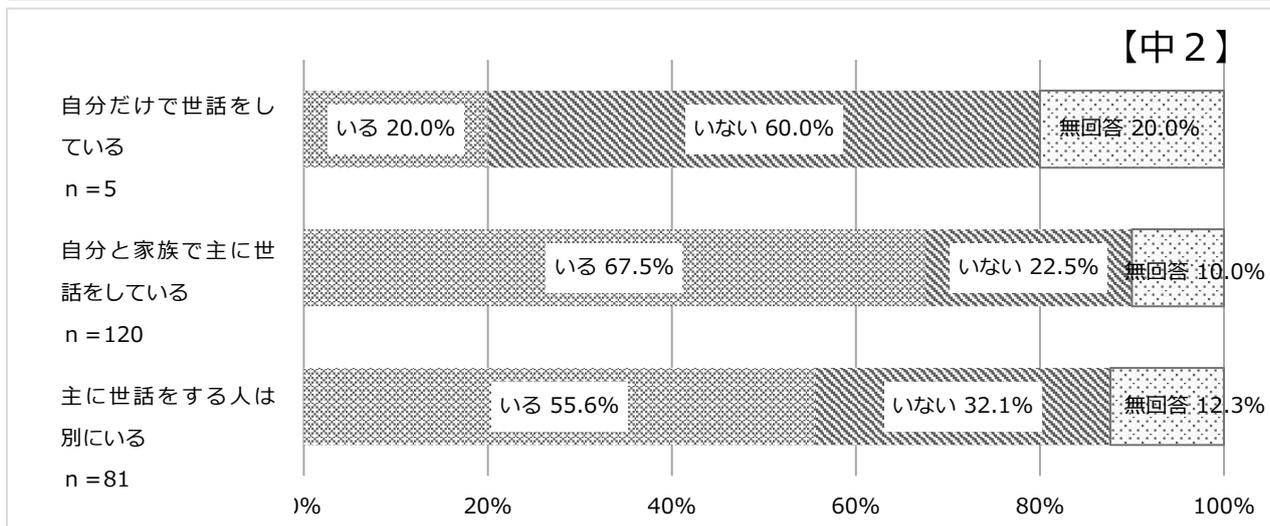
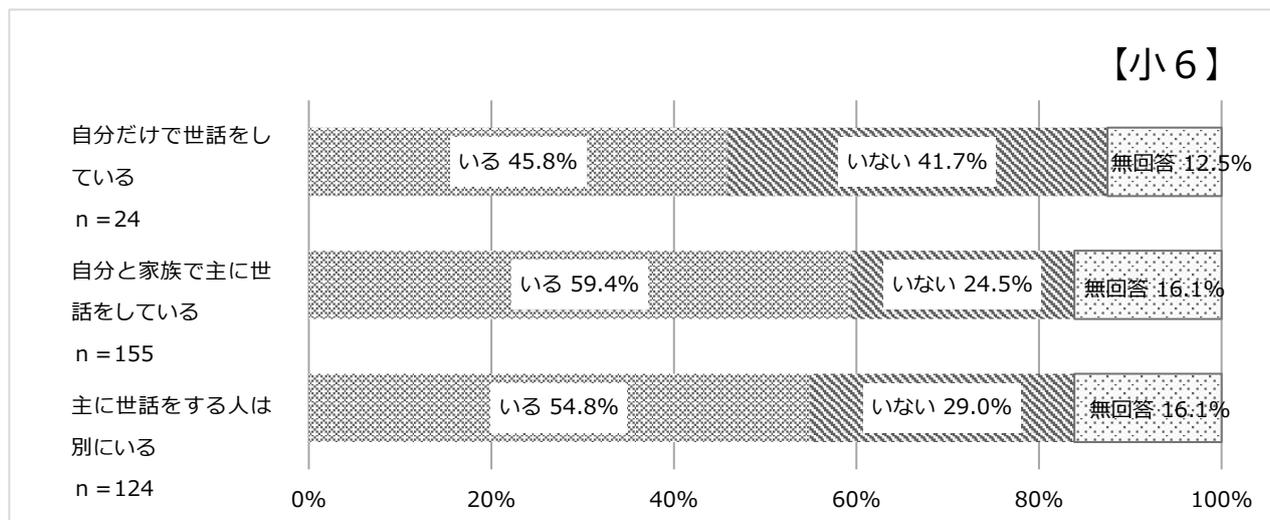
【問 22】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

図表 2-4-2-1 相談していない理由





図表 2-4-2-2 悩みを聞いてくれる人の存在



2-5 家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況

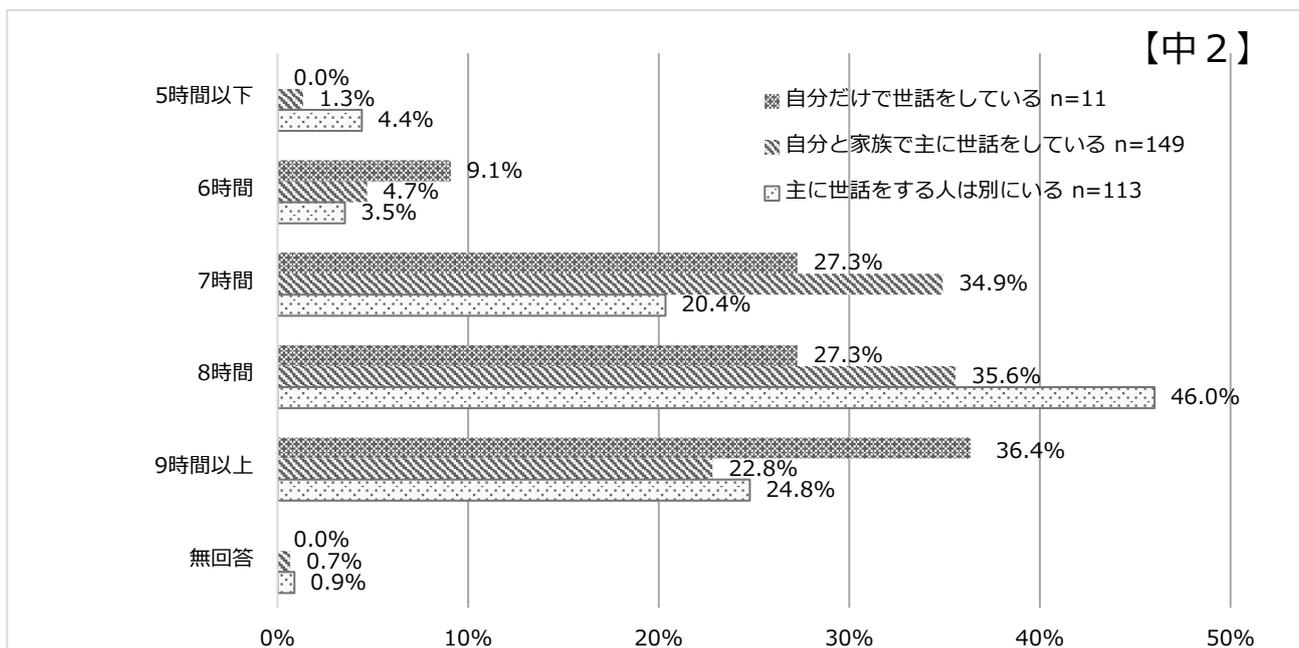
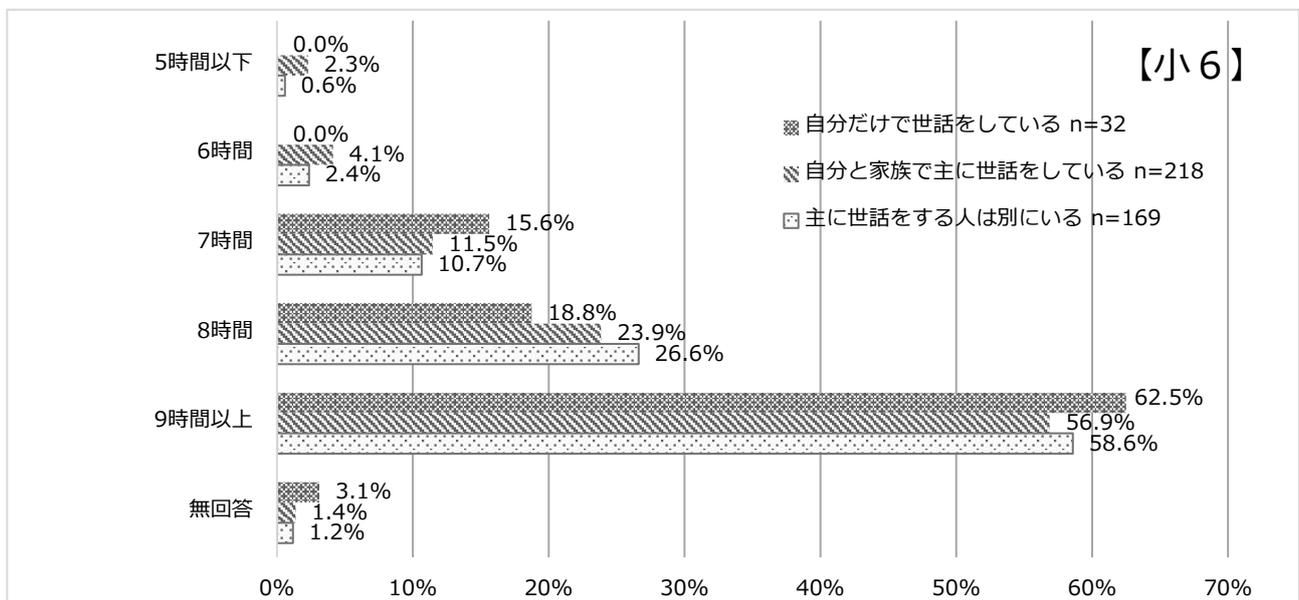
2-5-1 睡眠と朝食

睡眠時間については、各群間の特徴的な差はほとんど見られない。小学生、中学生ともに「自分だけが世話をしている群」は、9時間以上の回答が他の群より多く、5時間以下の回答が最も少なくなっている（図表2-5-1-1）。

朝食の喫食状況については、中学生の「自分だけが世話をしている群」が他の群に比べ、「毎日食べている」割合が低く、「あまり食べていない」割合が高い（図表2-5-1-2）。

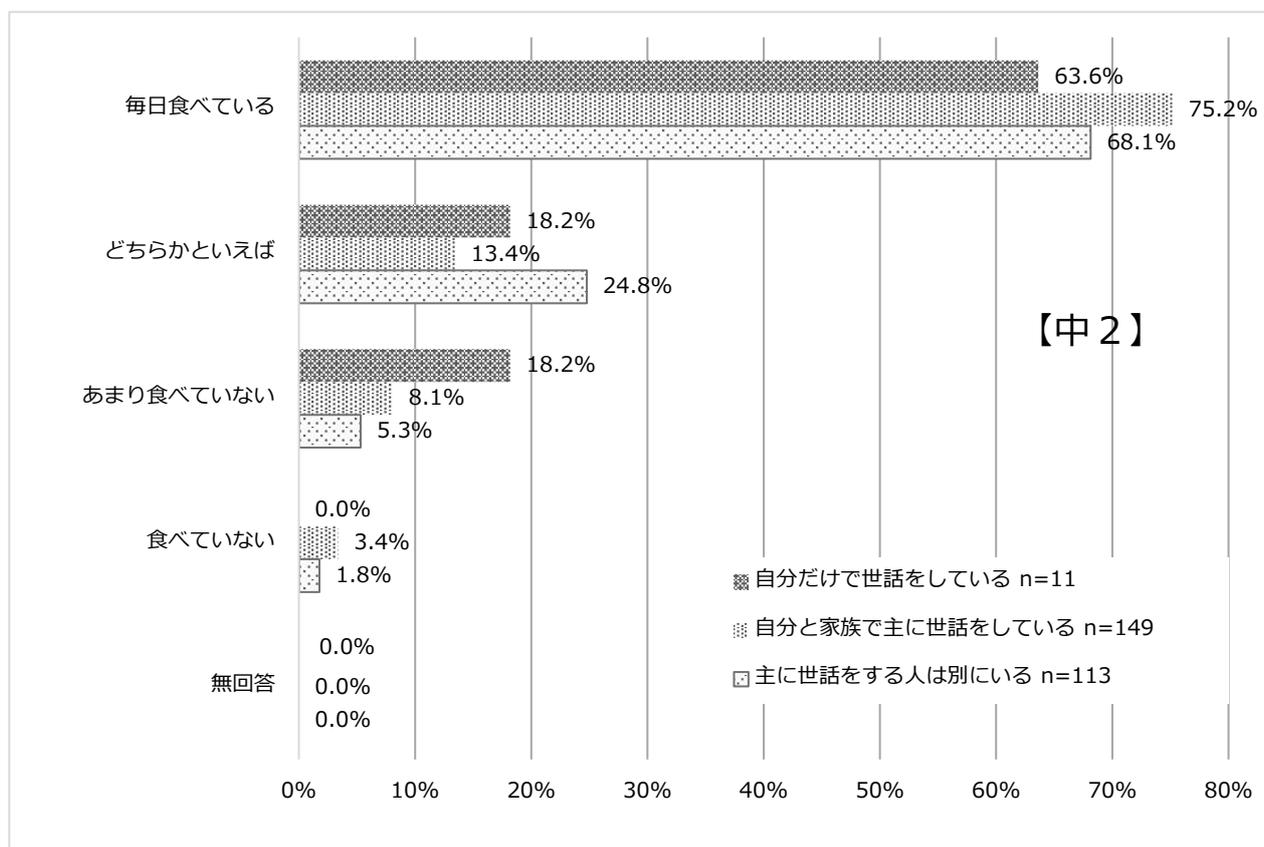
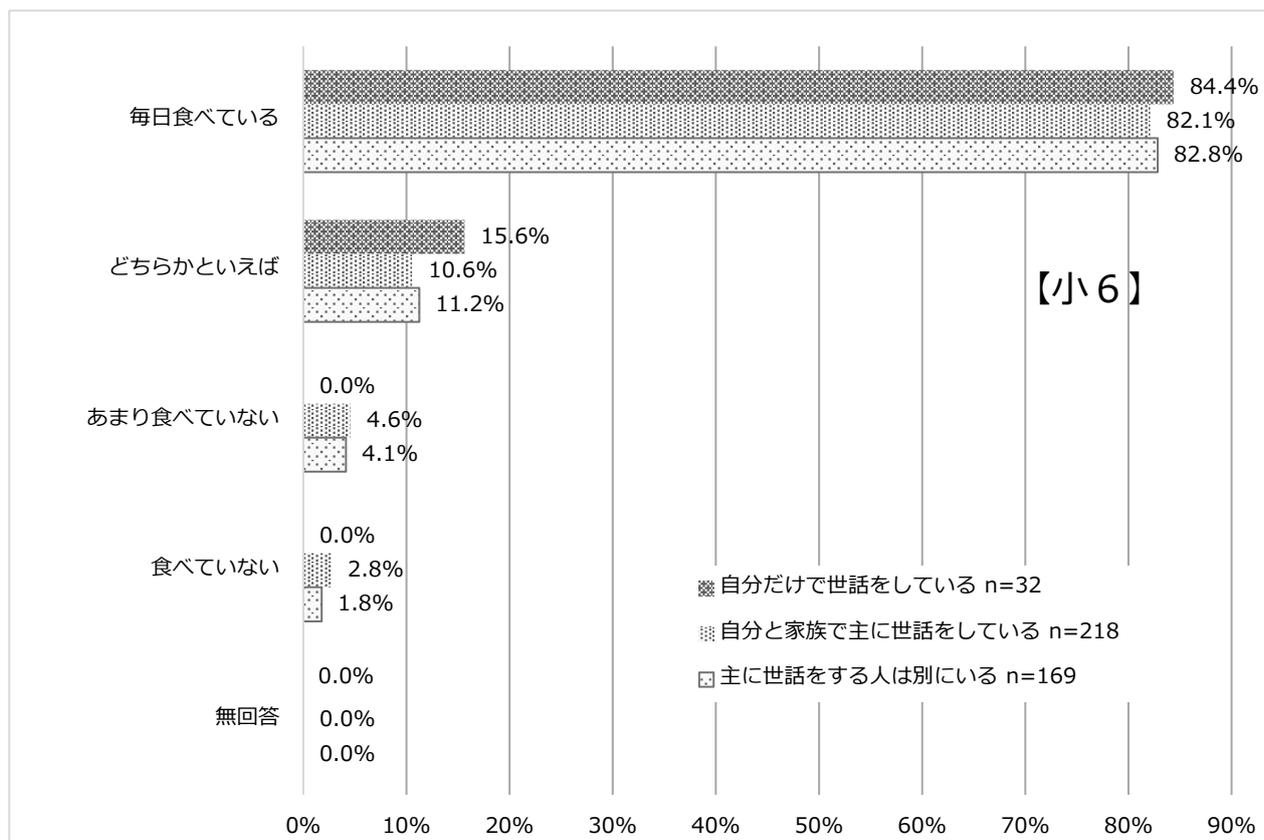
※【問2】起床時間と【問6】就寝時間の回答から算出

図表 2-5-1-1 睡眠時間



【問 3】（単一回答）朝食を毎日食べていますか。

図表 2-5-1-2 朝食の喫食状況

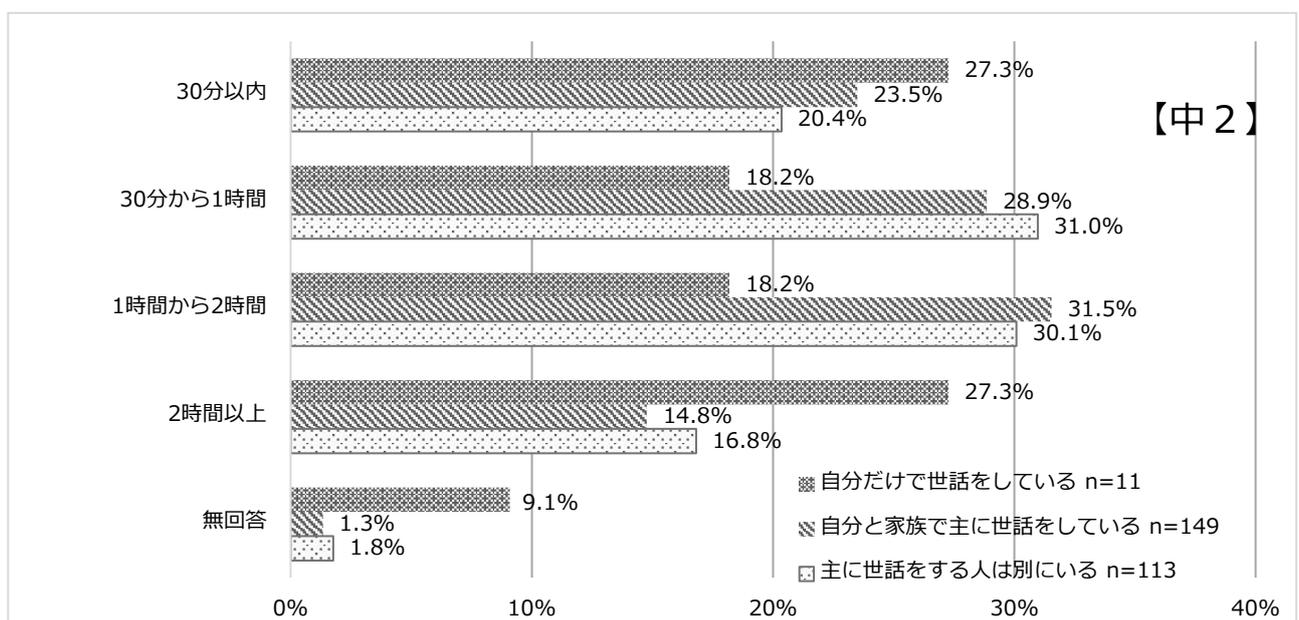
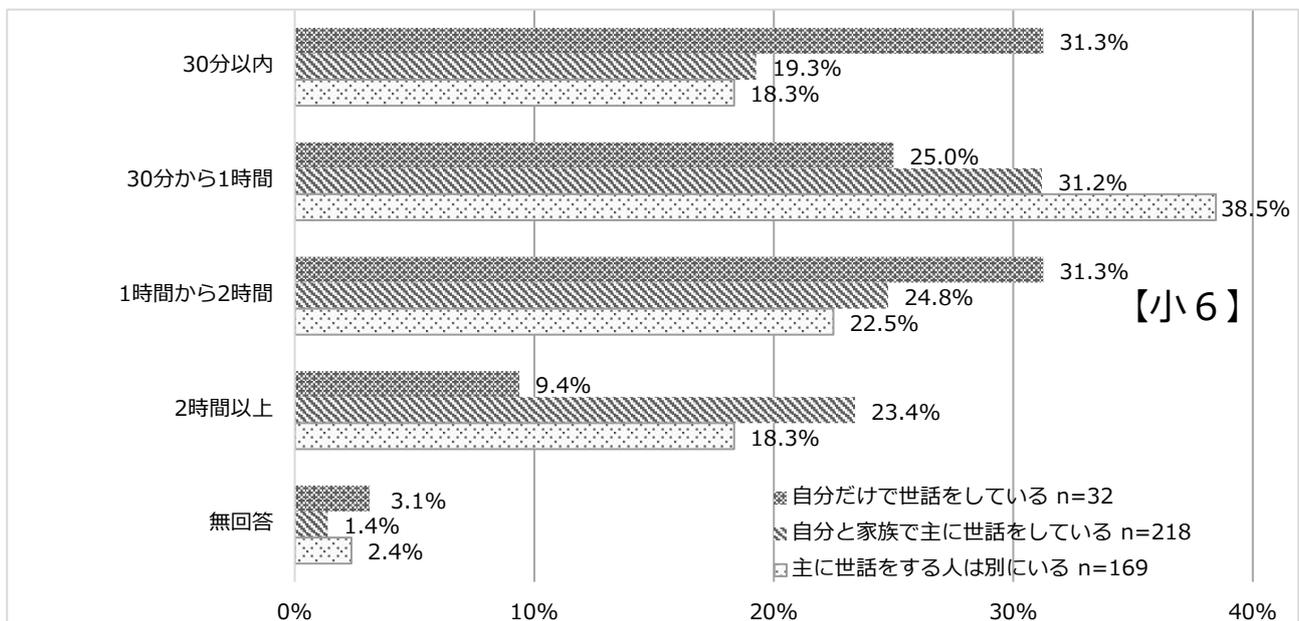


2-5-2 自分の時間

勉強時間については、小学生の「自分だけが世話をしている」群が他の群より「30分以内」の割合が高く、「2時間以上」の割合が低くなっている。一方、中学生の「自分だけが世話をしている」群は、他の群より勉強時間が長めの傾向にある（図表 2-5-2-1）。自由時間については、小学生では各群間に特徴的な差異は認められないが、中学生の「自分だけが世話をしている」群は、他の群に比べ「30分以内」、「30分から1時間」の割合が高くなっている（図表 2-5-2-2）。

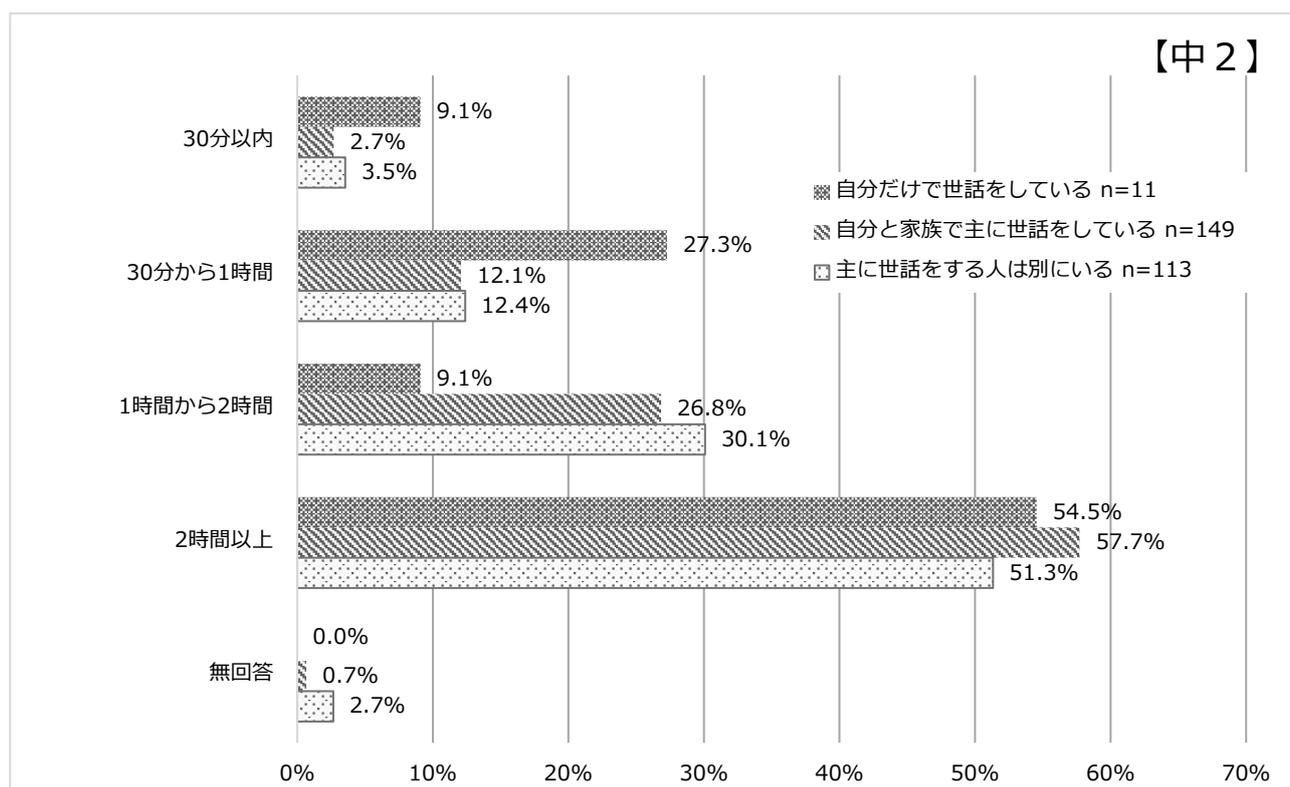
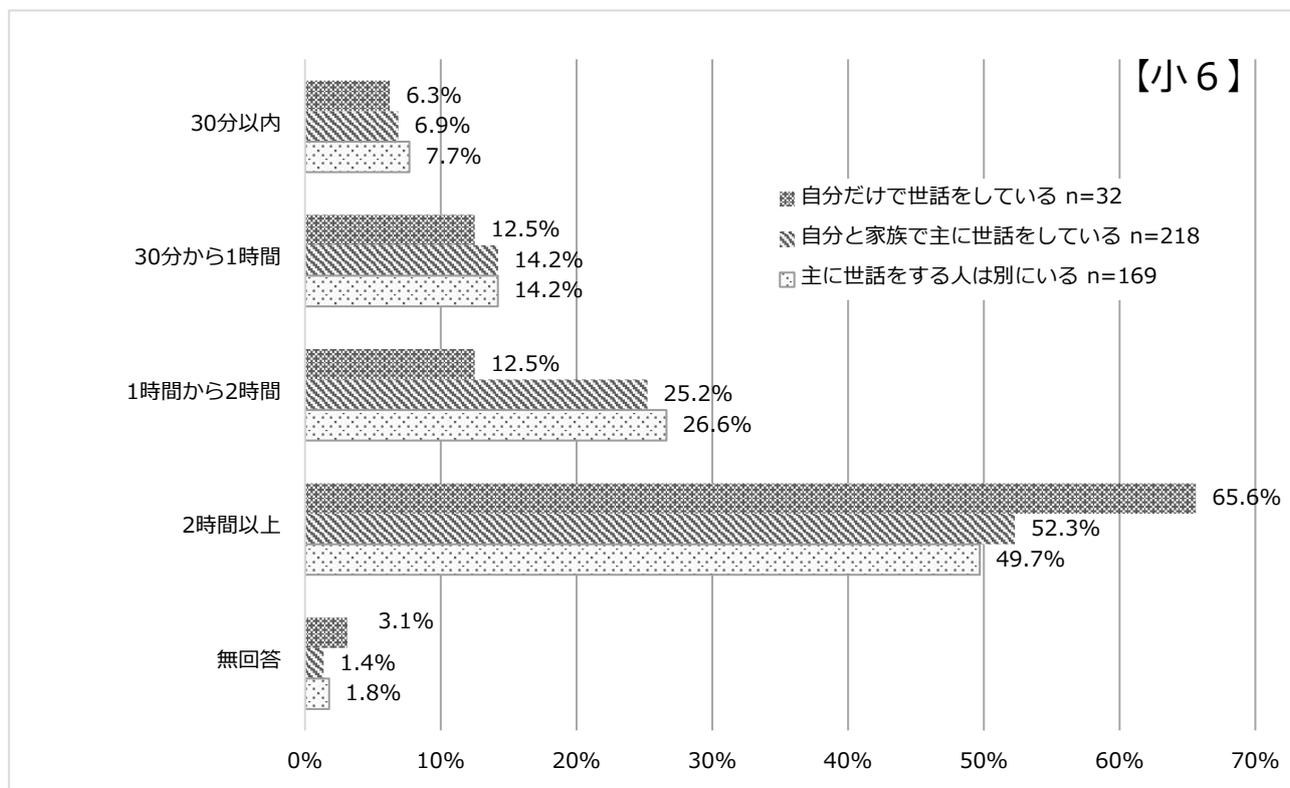
【問 4】（単一回答）学校以外で勉強する時間は1日どのくらいですか。

図表 2-5-2-1 勉強時間



【問5】（単一回答）学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいですか。

図表 2-5-2-2 自由時間

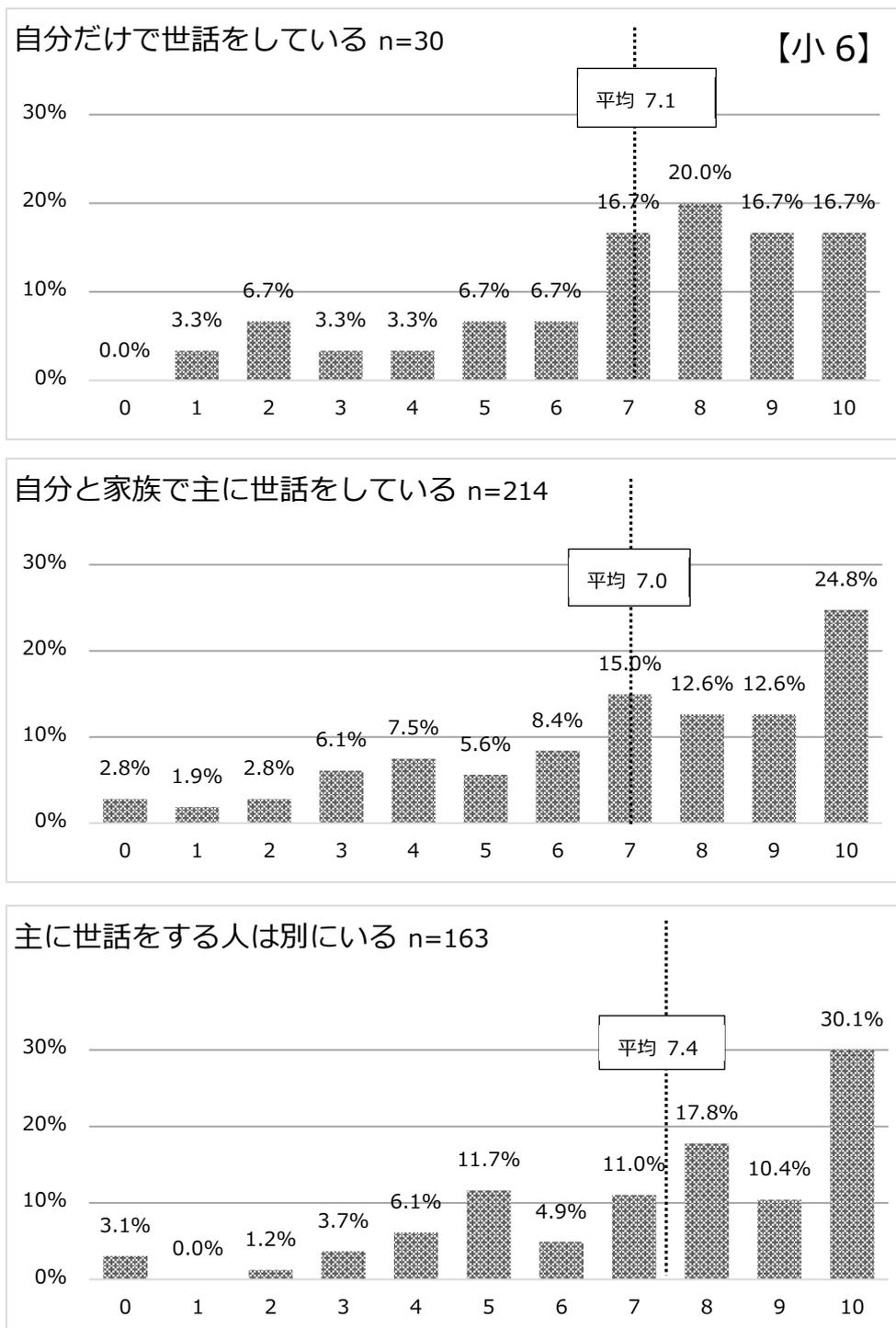


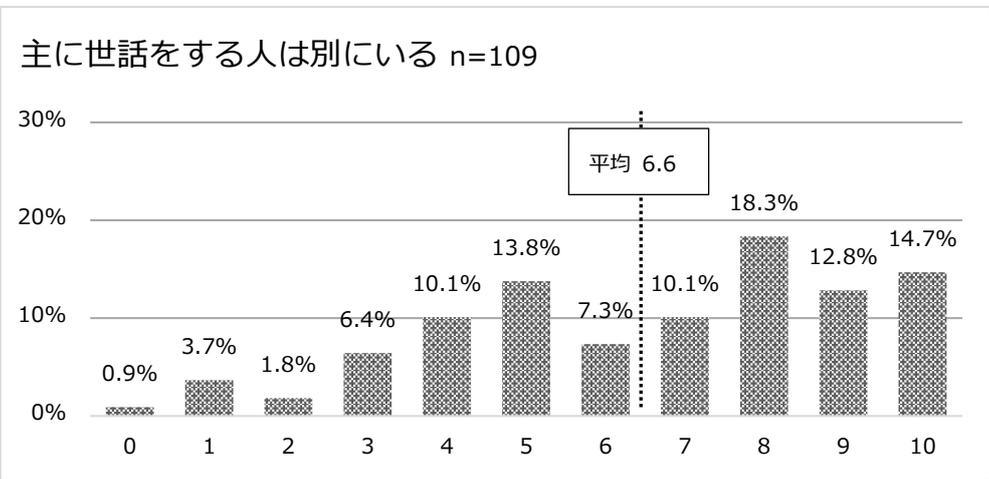
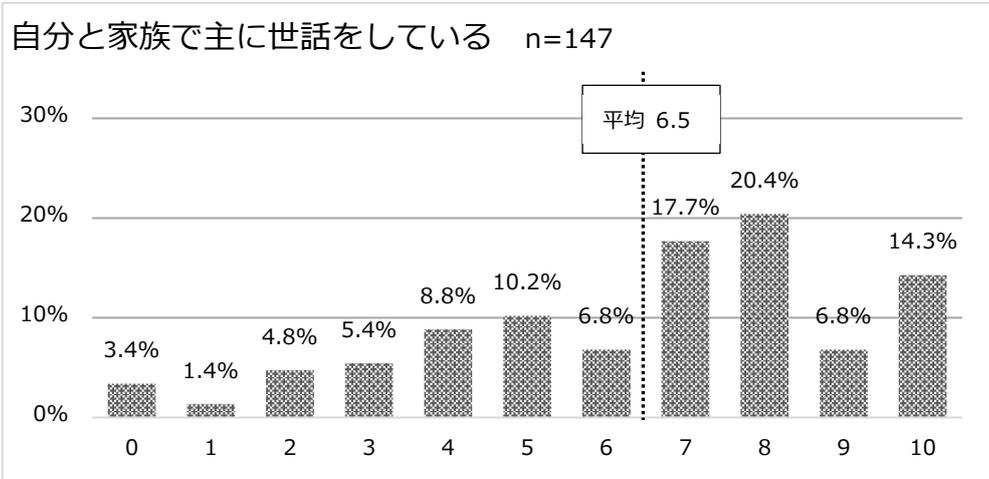
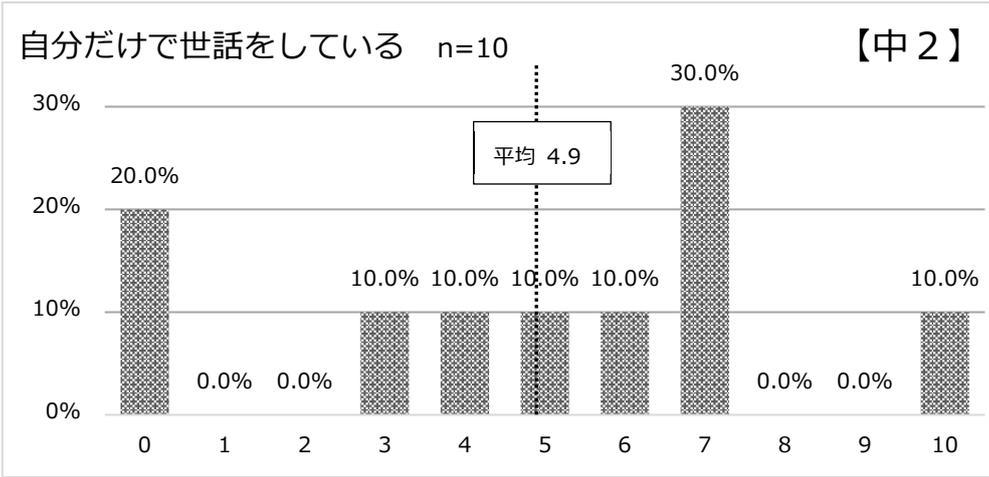
2-6 生活満足度

生活満足度の平均を比較すると、小学生では各群間に特徴的な差異は認められないが、中学生では「自分だけでお世話している群」の平均が他群に比べ低い結果となった(図表 2-6)。ただし、「自分だけで世話をしている」群はデータの個数が少なく、比較にあたっては留意が必要である。※生活満足度の集計には無回答を母数から除いている。

【問 23】(単一回答) 最近の生活にどのくらい満足していますか。

図表 2-6 生活満足度





第3章 世話の時間の長さによる児童・生徒の状況

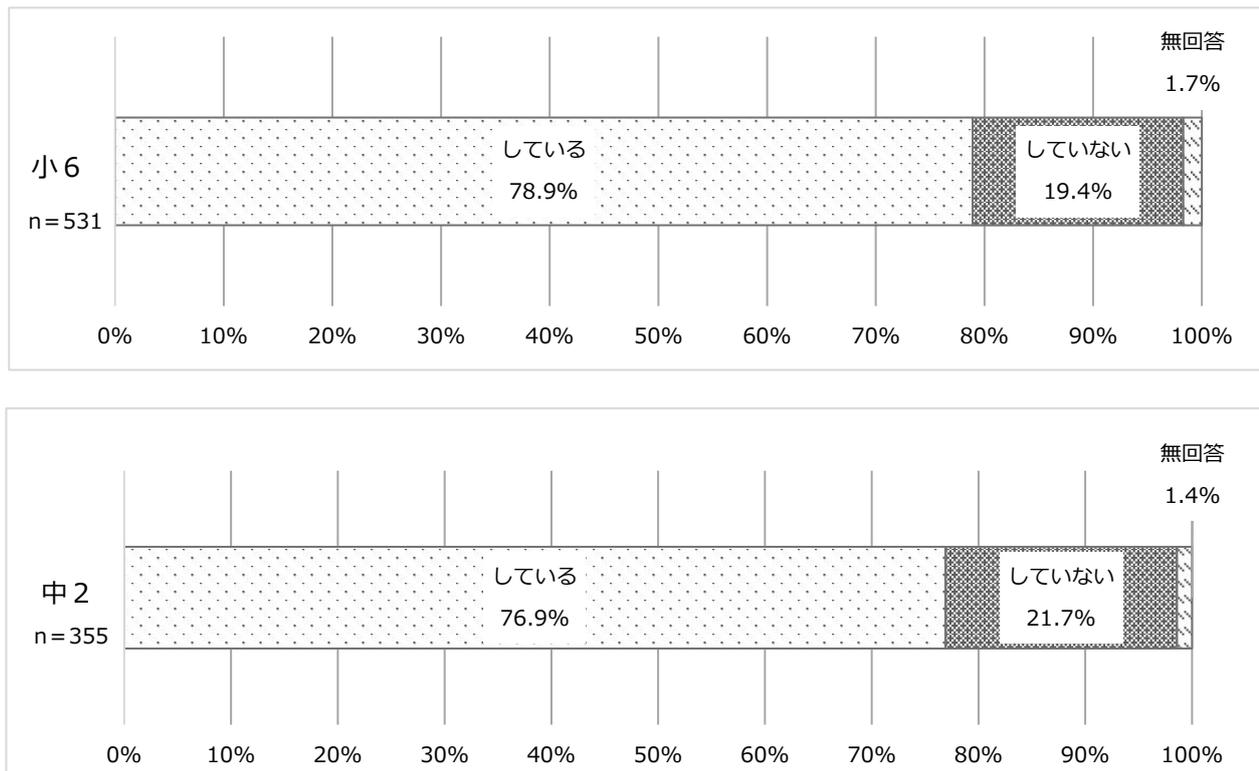
(世話の時間の長さ別 クロス集計)

3-1 回答者の属性

【問 11】において、「あなたは家族のお世話をしていますか」に小学生 419 名、中学生 273 名が「世話をしている」と回答している。【問 11】で「世話をしている」児童・生徒を特定し、世話をしている日数（【問 14】、図表 3-1-4）と平日に世話をしている時間（【問 15】、図表 3-1-5）で世話の時間の長さに3分類（図表 3-1-2）し、生活状況の詳細を確認する。

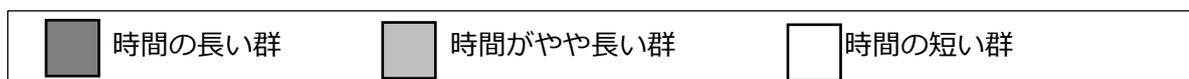
【問 11】（単一回答） あなたはお世話をしていますか。

図表 3-1-1 世話をしている子どもの割合



図表 3-1-2 子どもが家族の世話をする時間の長さ

小 6		問 15 による世話の時間で分類					
		3 時間超	2 ~ 3 時間	1 ~ 2 時間	30 分 ~ 1 時間	30 分 未 満	無回答
問 14 による世話の日数で分類	ほぼ毎日	9	19	47	72	47	32
	週に 3 ~ 5 日	1	1	11	48	27	
	週に 1 ~ 2 日	0	2	8	28	39	
	1 か月に数日	28					
	無回答	分類不能					



中 2		問 15 による世話の時間で分類					
		3 時間超	2 ~ 3 時間	1 ~ 2 時間	30 分 ~ 1 時間	30 分 未 満	無回答
問 14 による世話の日数で分類	ほぼ毎日	4	14	37	41	28	21
	週に 3 ~ 5 日	0	3	6	41	16	
	週に 1 ~ 2 日	0	2	5	14	26	
	1 か月に数日	15					
	無回答	分類不能					

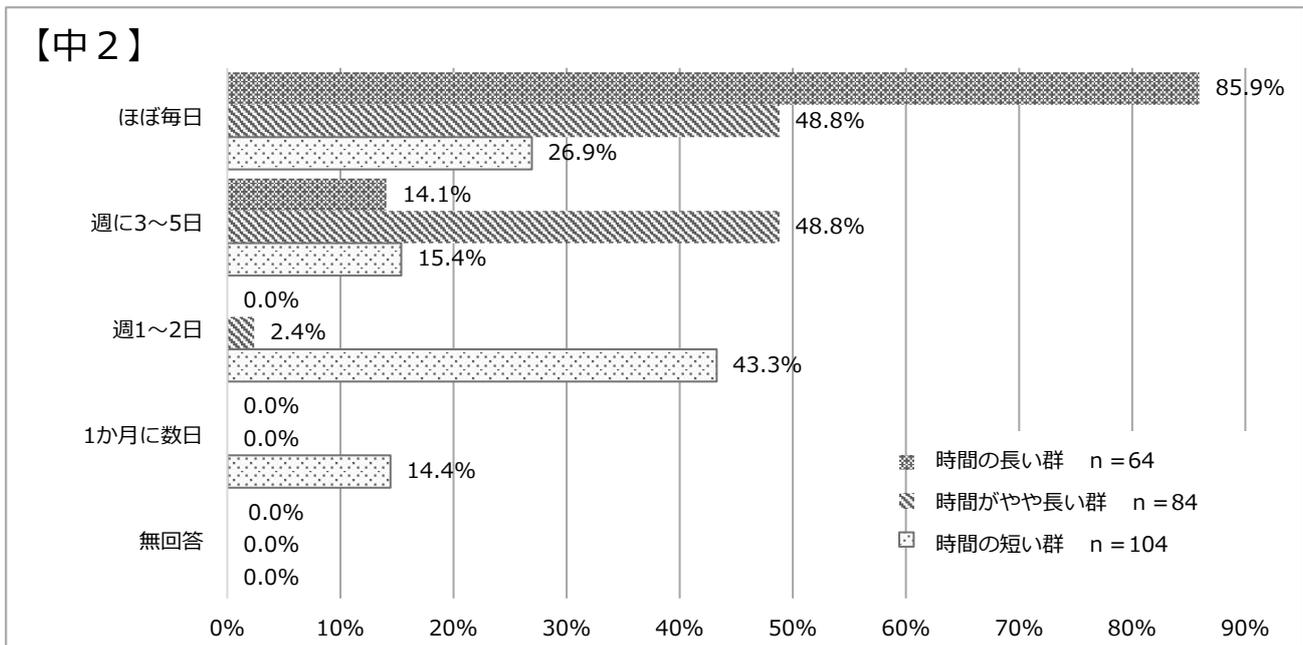
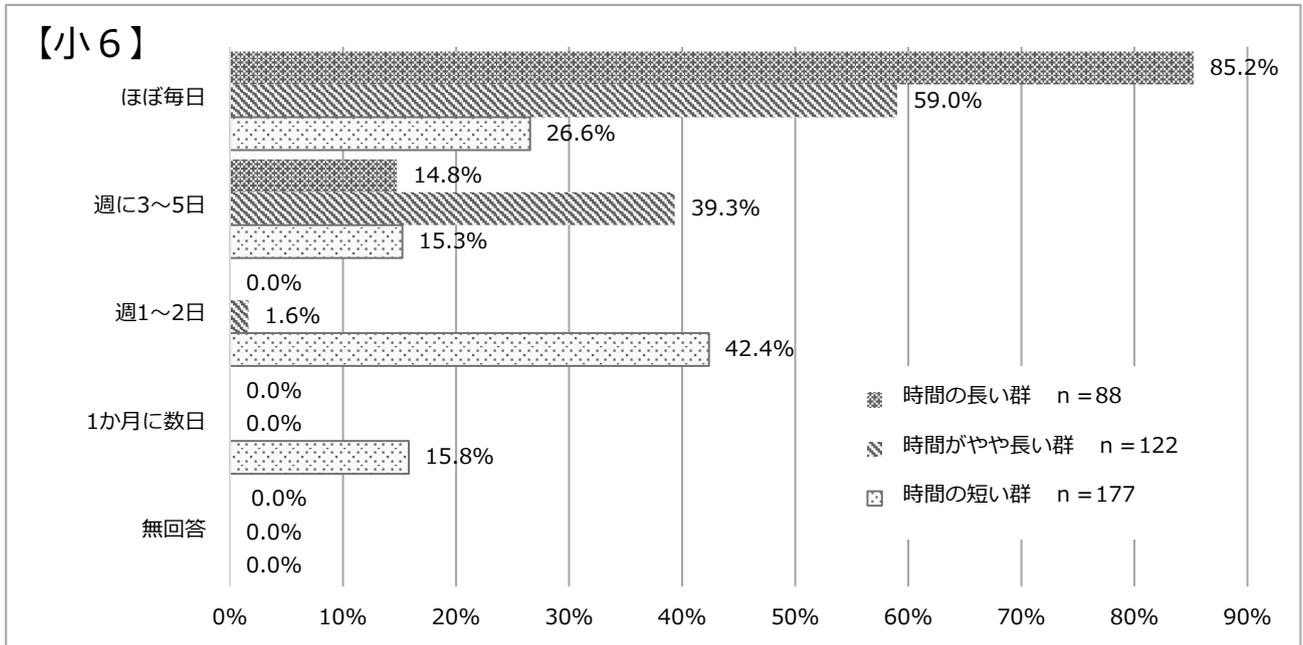


図表 3-1-3 「世話の有無」、「世話をしている日数」、「世話をしている時間」のクロス集計により算出した各分類群に属する子どもの数

	時間の長い群	時間がやや長い群	時間の短い群	(分類不能)
小学 6 年生	88 人	122 人	177 人	(32 人)
全体に占める割合 (n = 5,404)	1.6%	2.3%	3.3%	(0.6%)
中学 2 年生	64 人	84 人	104 人	(21 人)
全体に占める割合 (n = 4,162)	1.5%	2.0%	2.5%	(0.5%)

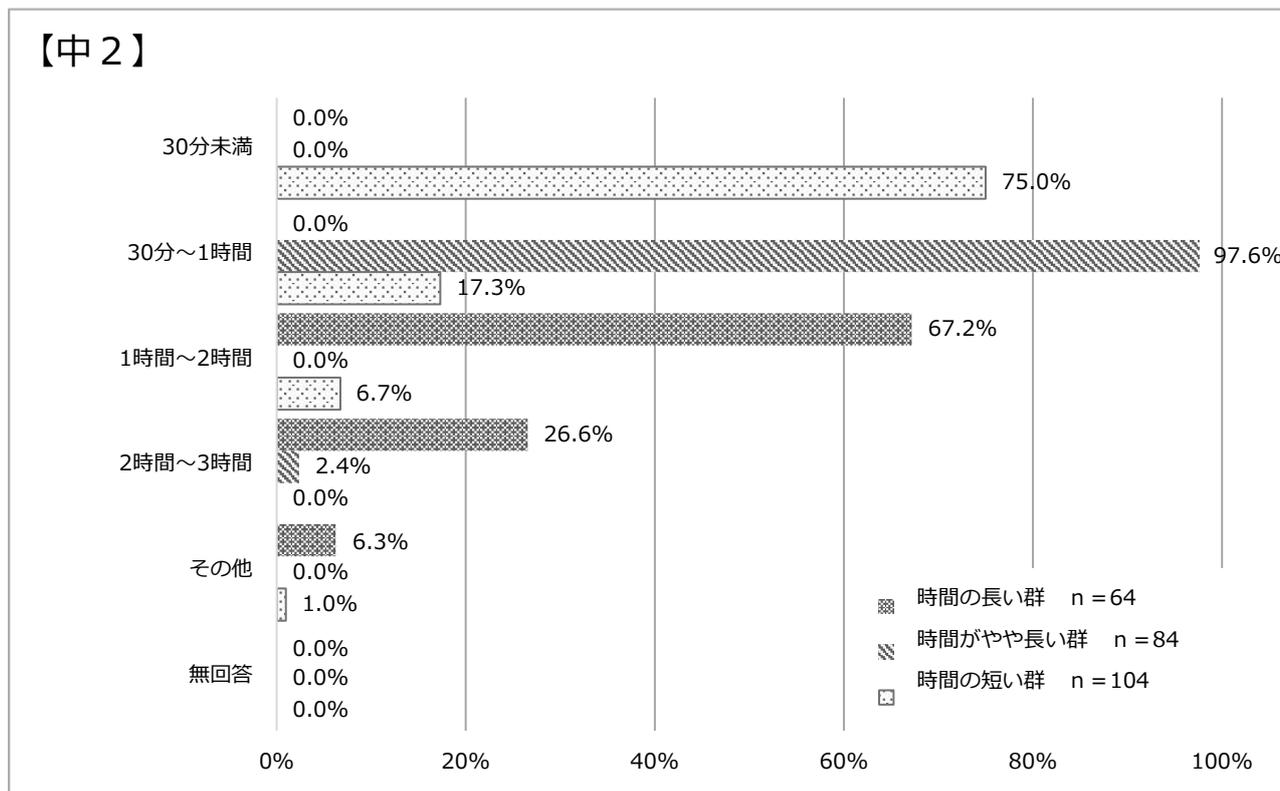
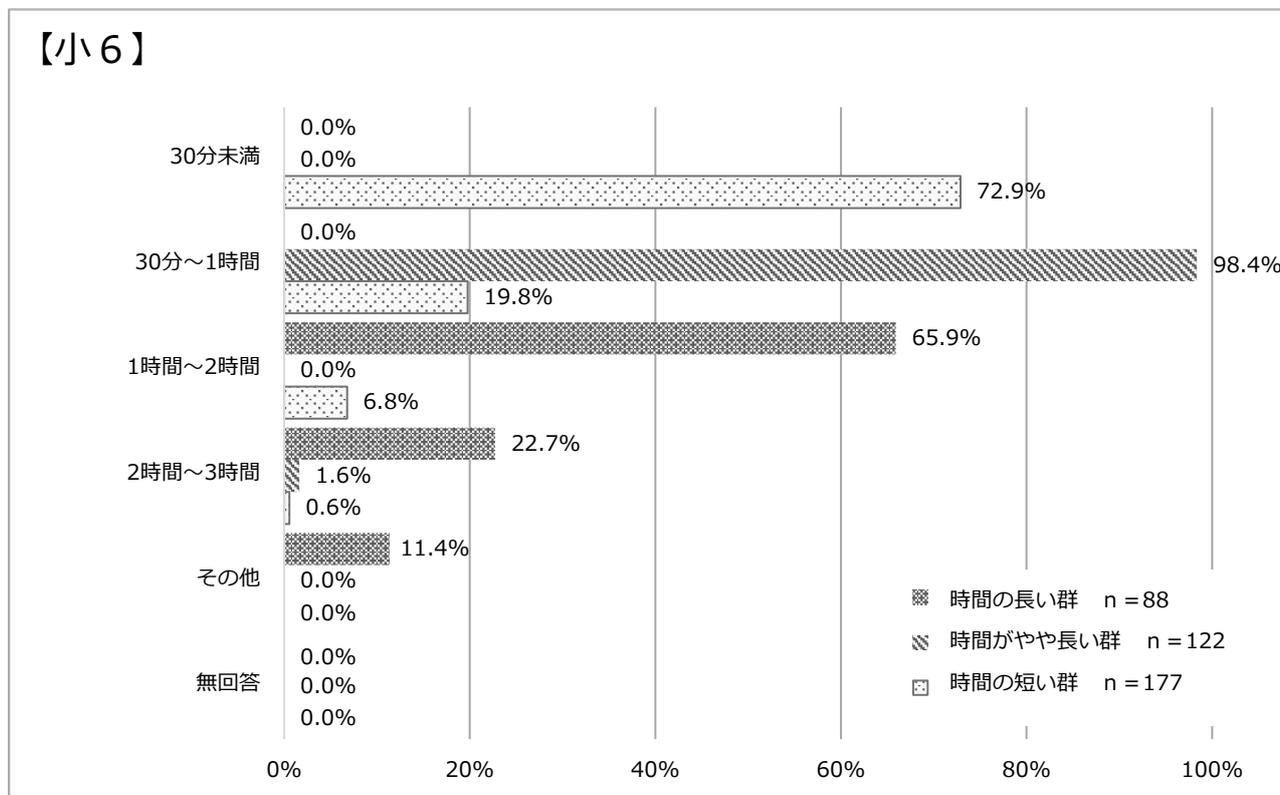
【問 14】（単一回答）あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか。

図表 3-1-4 世話をする日数

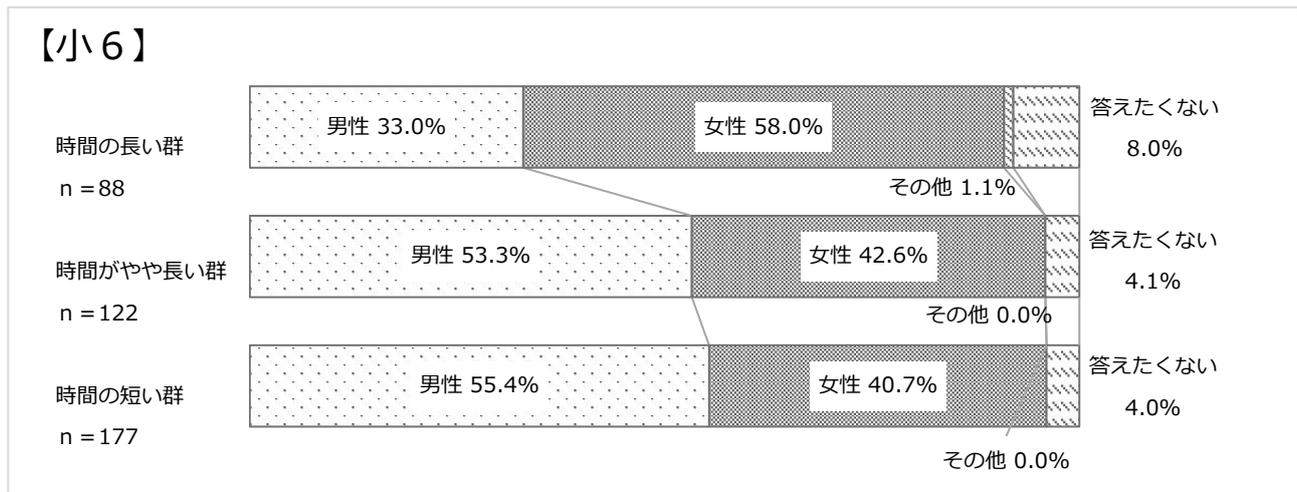


【問 15】（単一回答）あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか。

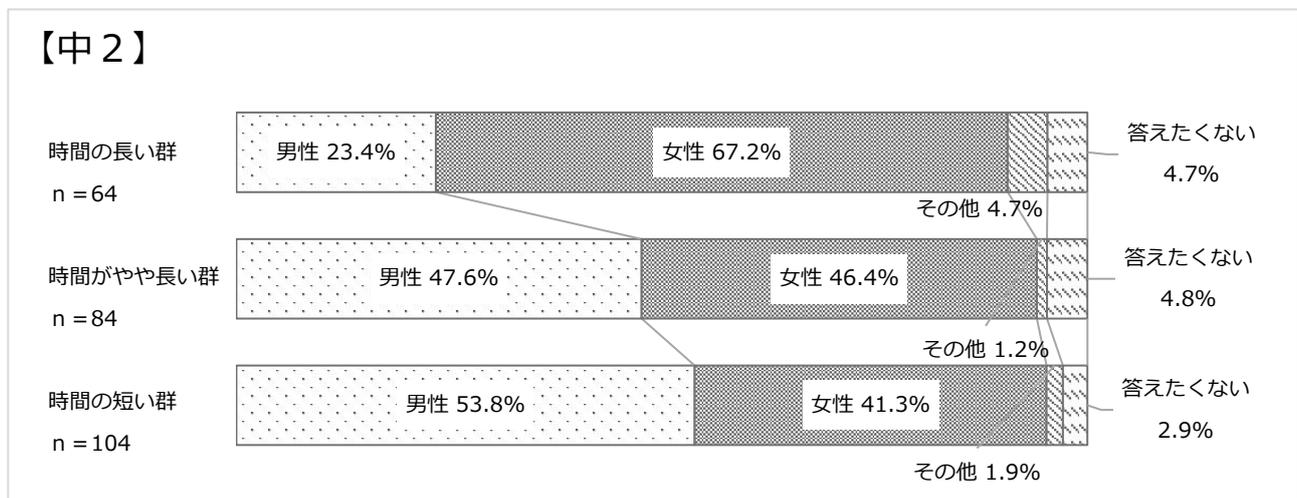
図表 3-1-5 世話をする時間



図表 3-1-6 世話の時間の長さ別 男女比



性別	時間の長い群	時間がやや長い群	時間の短い群
男性	29	65	98
女性	51	52	72
その他	1	0	0
答えたくない	7	5	7
計	88	122	177



性別	時間の長い群	時間がやや長い群	時間の短い群
男性	15	40	56
女性	43	39	43
その他	3	1	2
答えたくない	3	4	3
計	64	84	104

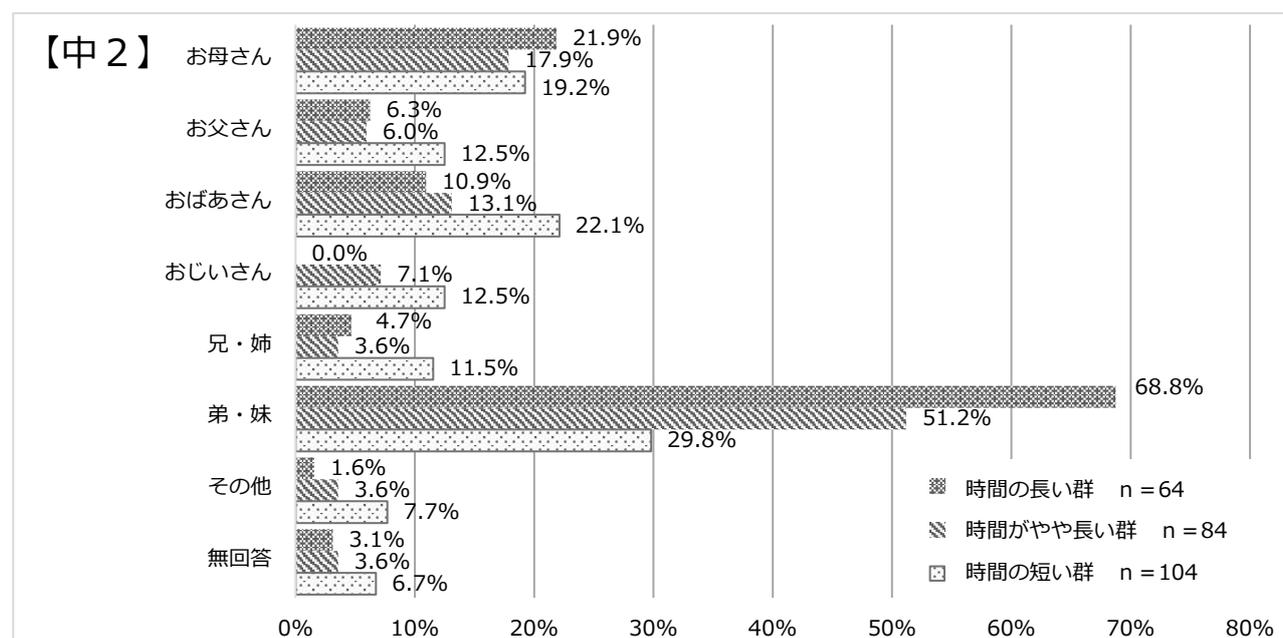
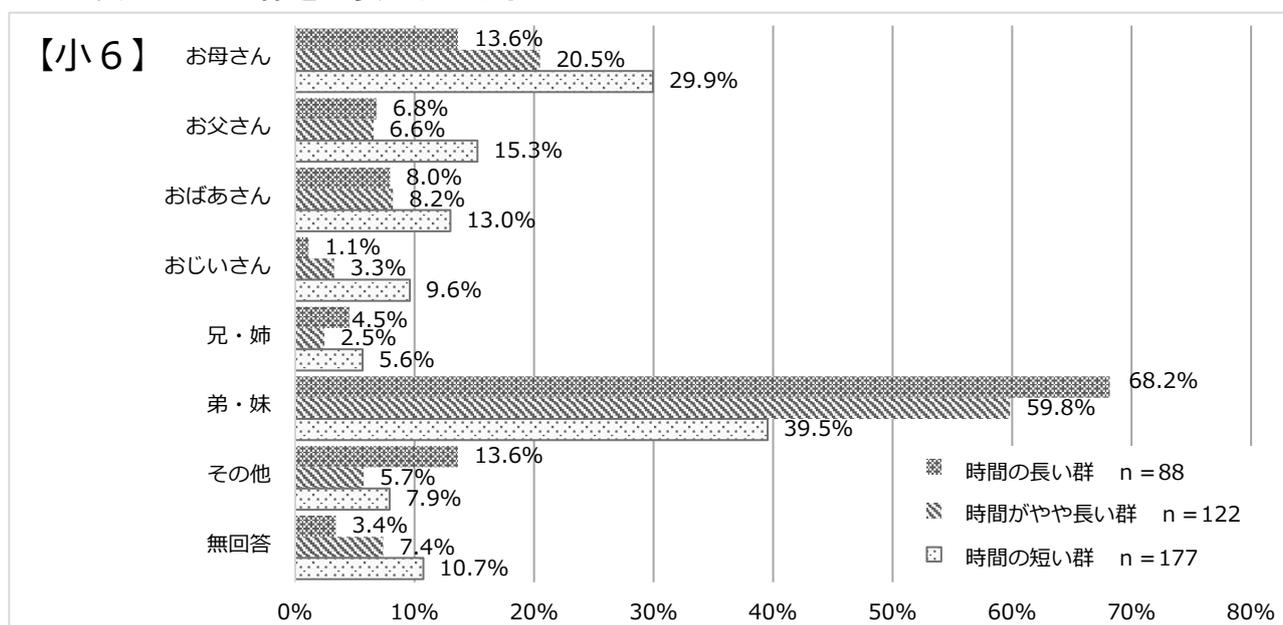
3-2 家族の世話をする児童・生徒の状況

3-2-1 世話をする対象者

世話を必要とする家族は、いずれの群も「弟・妹」が多く、小学生、中学生ともに「時間の長い」群でその回答が多くなる特徴がある。「時間の短い」群では、「祖父母」が他の群と比べてやや多くなっている（図表 3-2-1）。

【問 9】（複数回答）お世話を必要とする人はだれですか。

図表 3-2-1 世話を必要とする家族

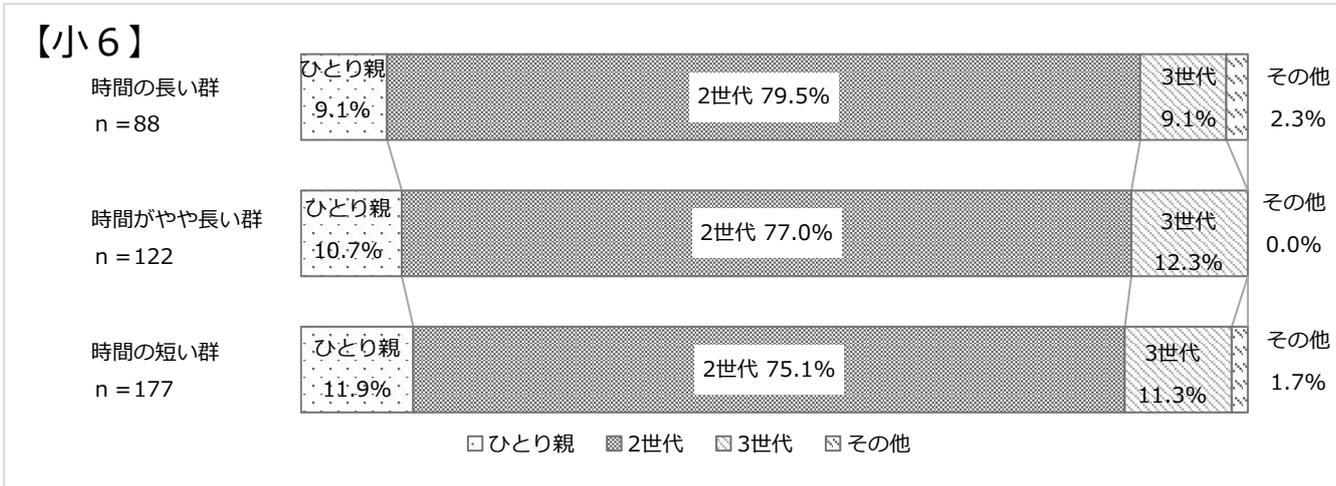
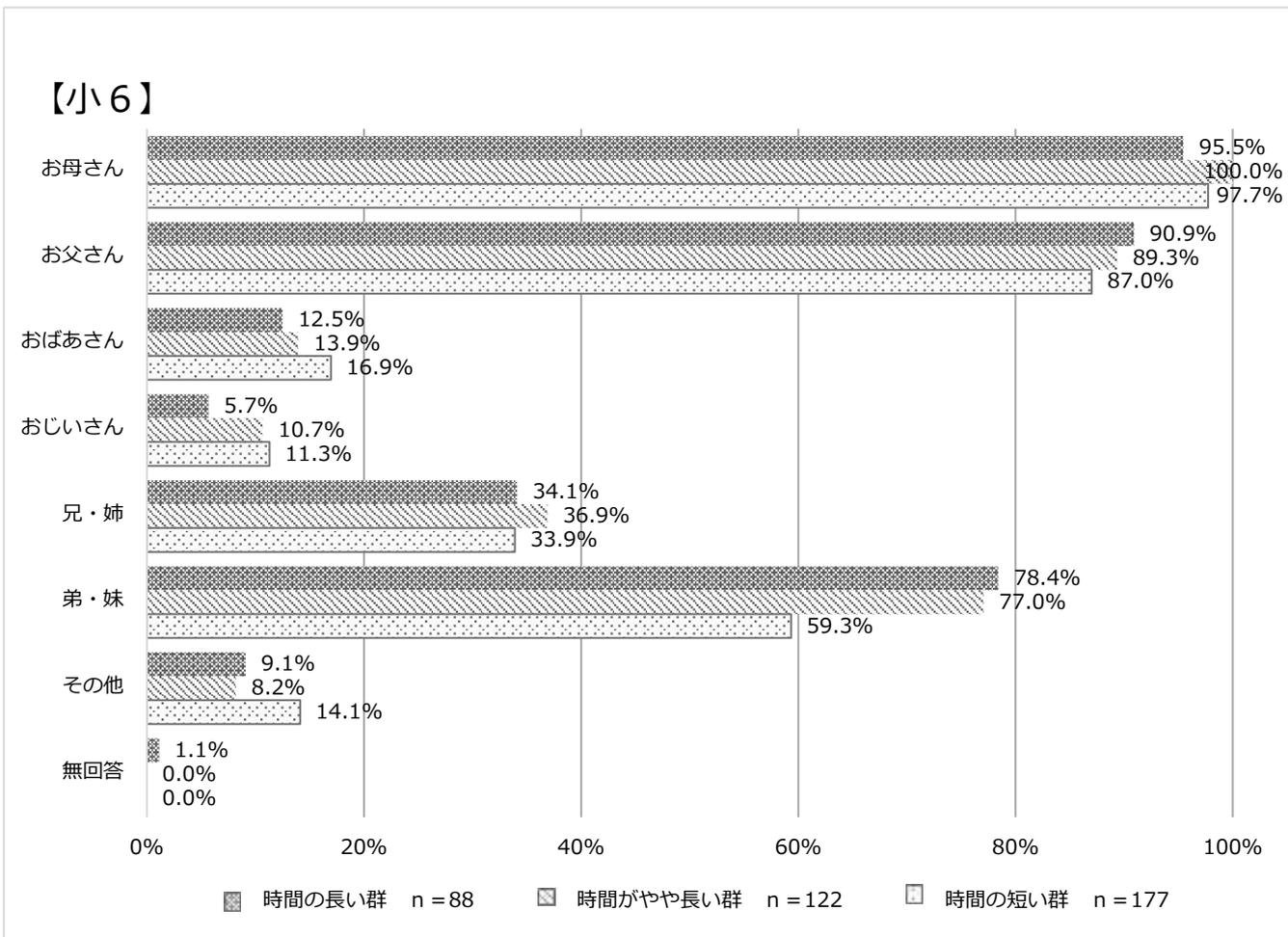


3-2-2 世帯構成

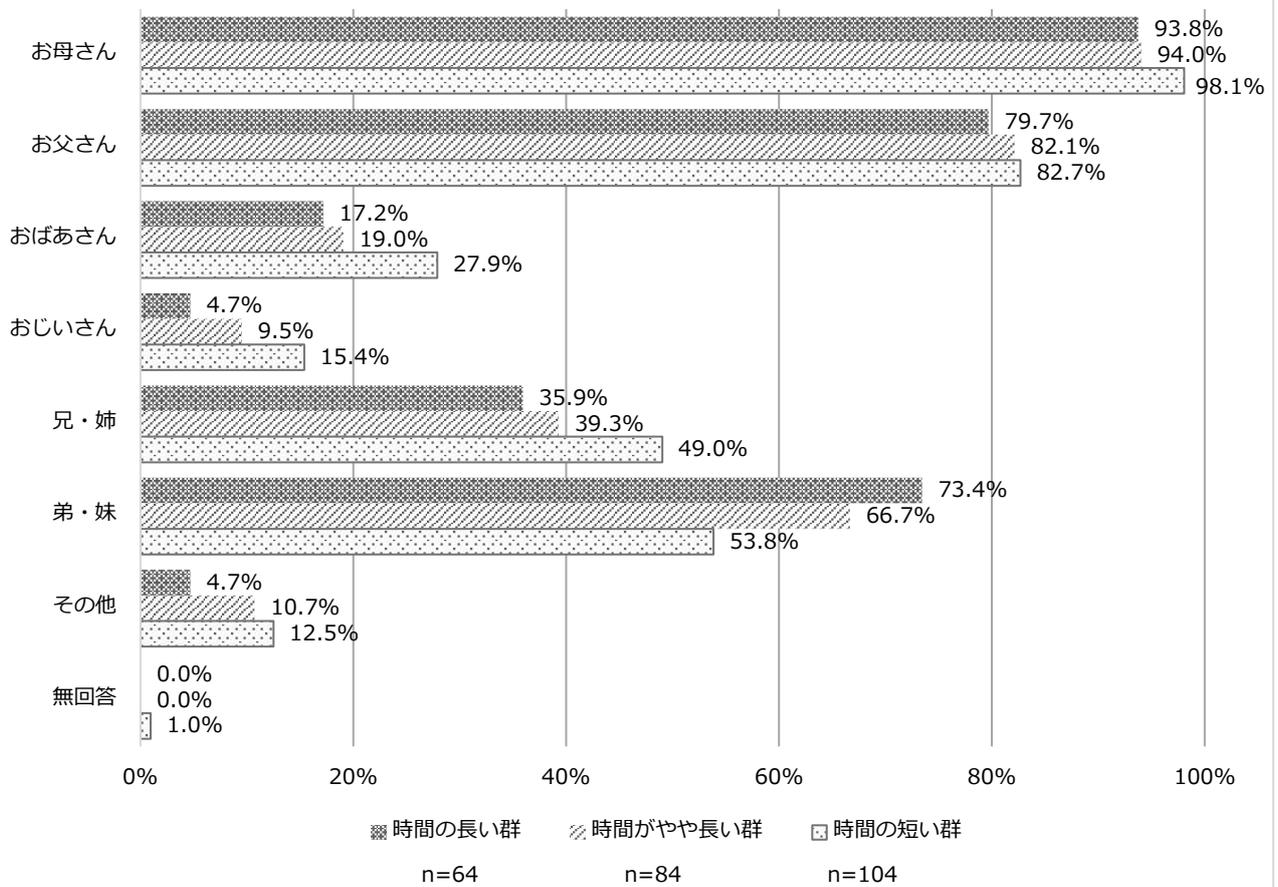
世帯構成においては、すべての群で「2世代」が多いが、中学生においては「時間の長い」群で「ひとり親世帯」がやや多く、「時間の短い」群で「3世代」が多い特徴がみられる（図表 3-2-2）。

【問7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。（回答から世帯状況を分類）

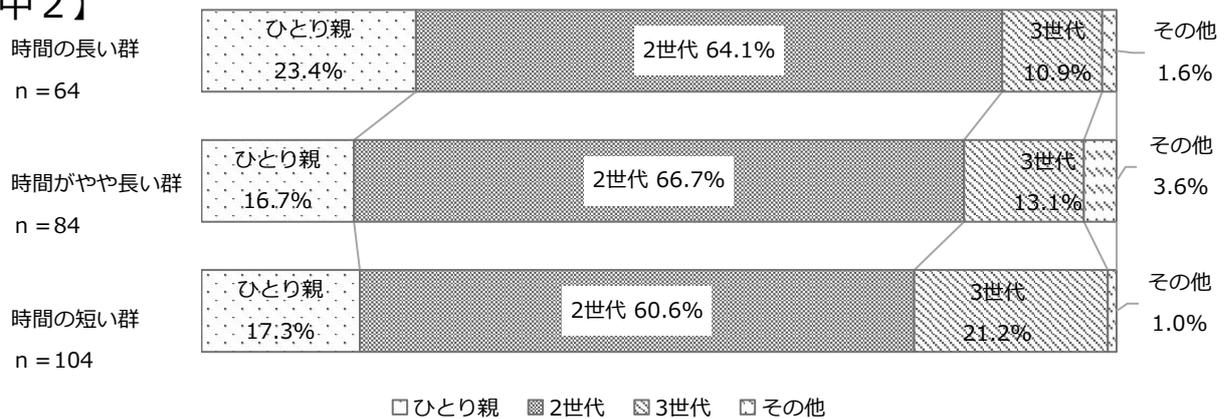
図表 3-2-2 同居家族と世帯状況



【中2】



【中2】



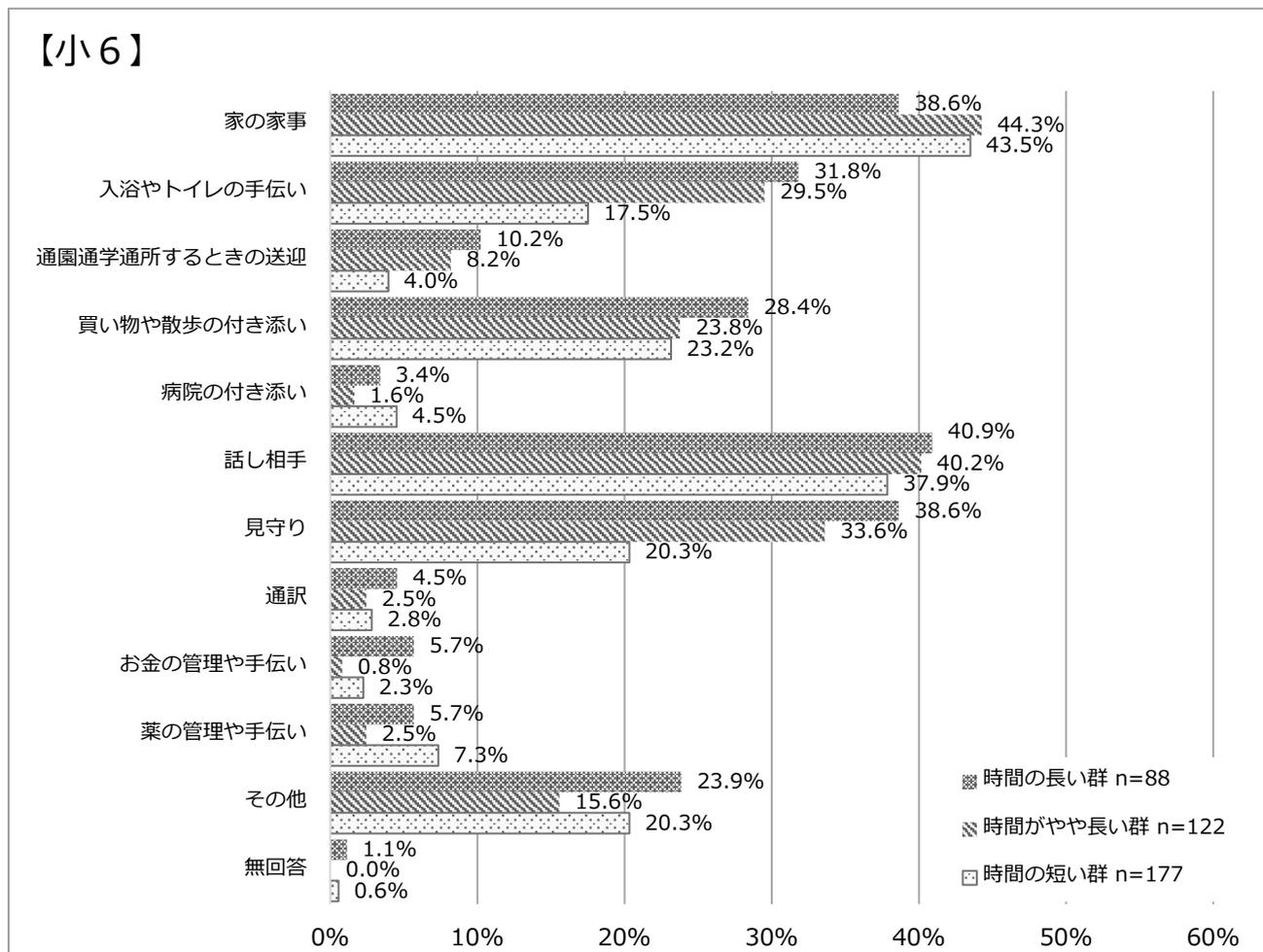
3-3 世話の内容と理由

3-3-1 世話の内容

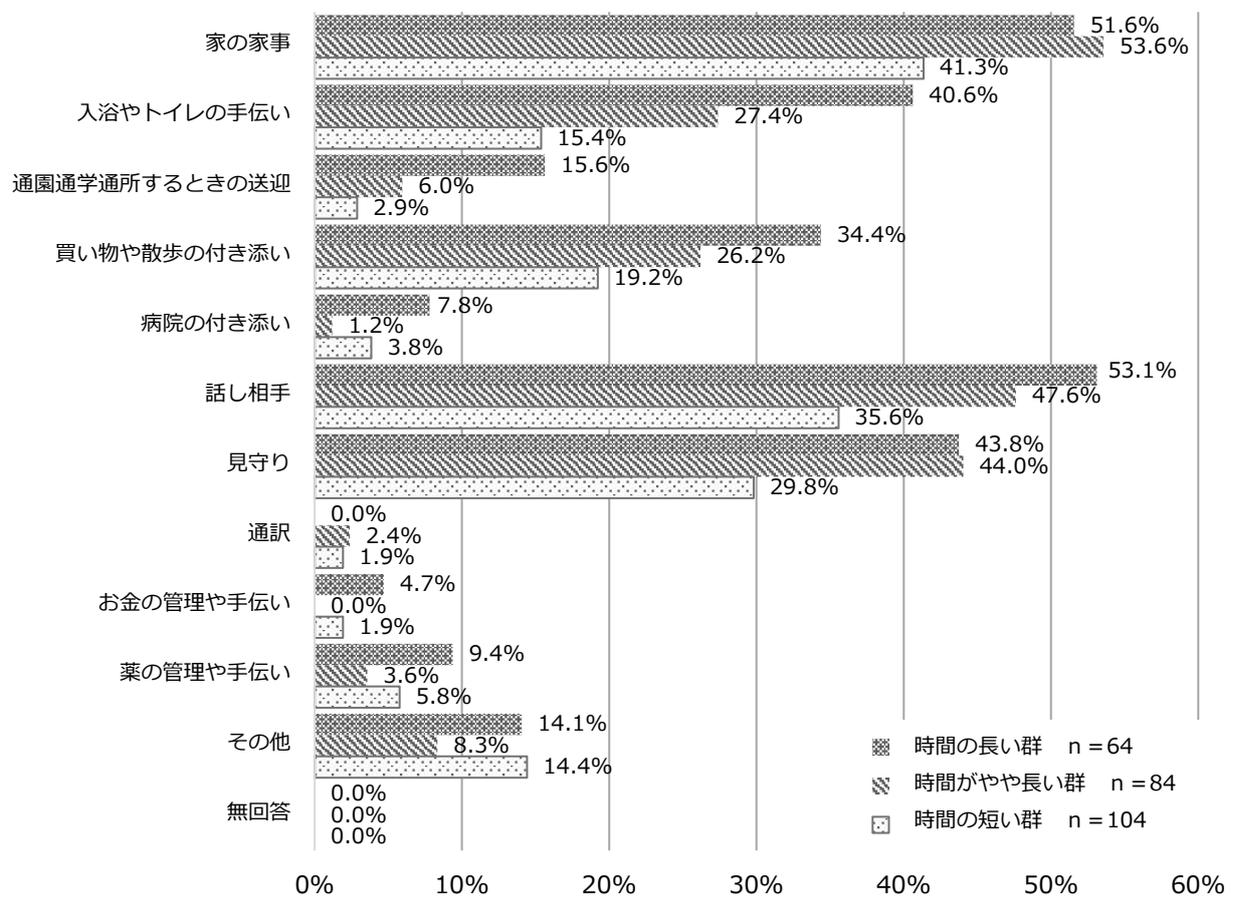
世話の内容では、すべての群で「家事」や、「話し相手」、「家族の見守り」が多いが、順位は群によって異なっている。「時間の長い」群では、「話し相手」、「家事」の順であるが、他の群では「家事」、「話し相手」となっている（図表 3-3-1）。また、中学生の「時間の長い」群では、「入浴やトイレの手伝い」、「買い物や散歩の付き添い」なども多く、子どもが幅広く日常生活で家族の世話に関わっていると考えられる。

【問 12】（複数回答）あなたがしているお世話の内容を教えてください。

図表 3-3-1 世話の内容



【中2】



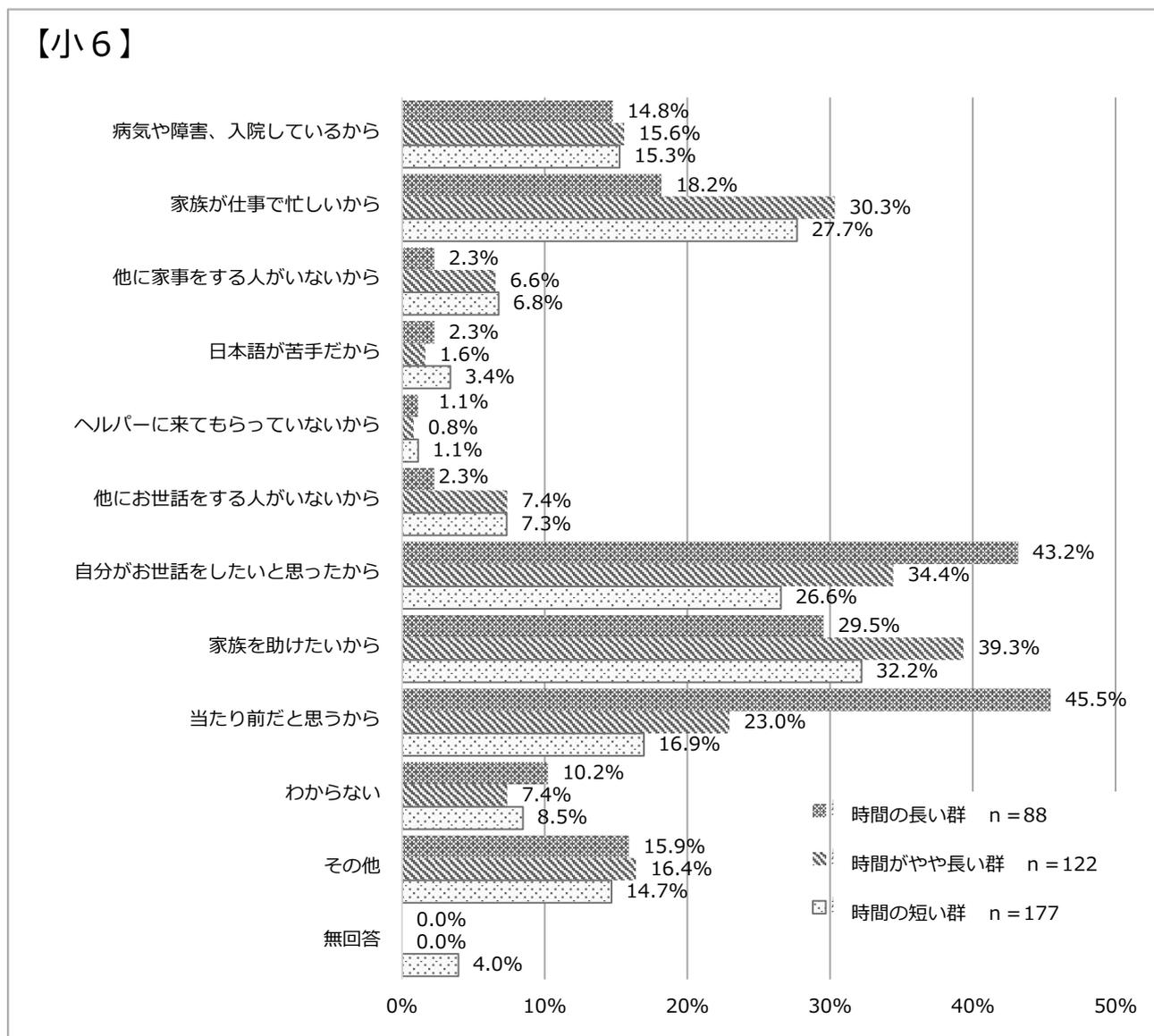
3-3-2 世話をする理由

世話をする理由では、「自分が世話をしたいと思った」、「当たり前だと思う」、「家族を助けたい」といった世話に自発的に関わろうとする気持ちを理由にした回答がすべての群において多く、特に「時間の長い」群で「当たり前だから」の回答が多い特徴がある。

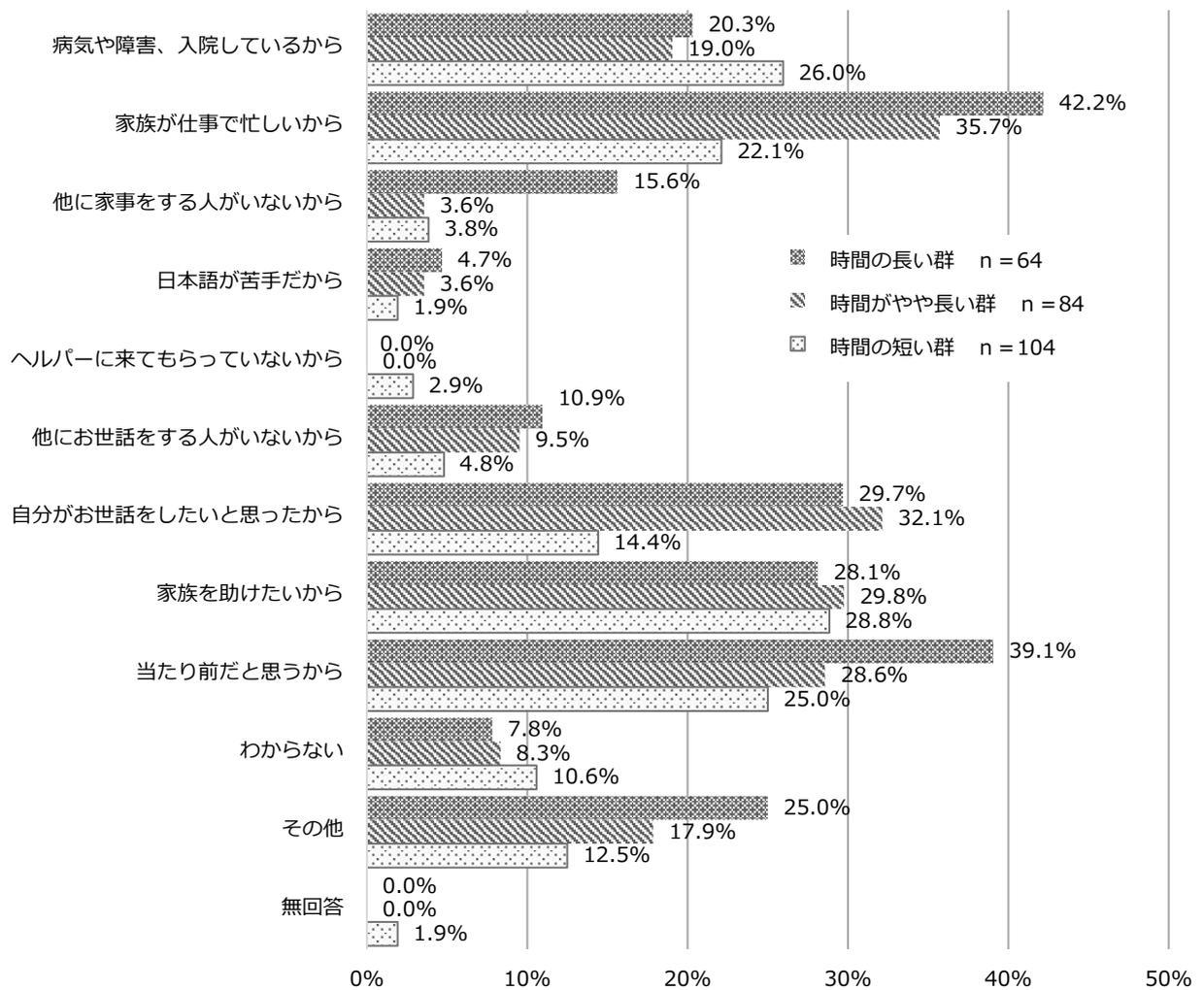
また、中学生の「時間の長い」群および「時間がやや長い」群では、気持ちによる理由よりも、具体的な家庭状況の「家族が仕事で忙しいから」の割合が最も高くなっている（図表 3-3-2）。中学生は、自分の置かれた環境をより理解して回答していると考えられる。

【問 13】（複数回答） あなたがお世話をしている理由を教えてください。

図表 3-3-2 世話をする理由



【中2】



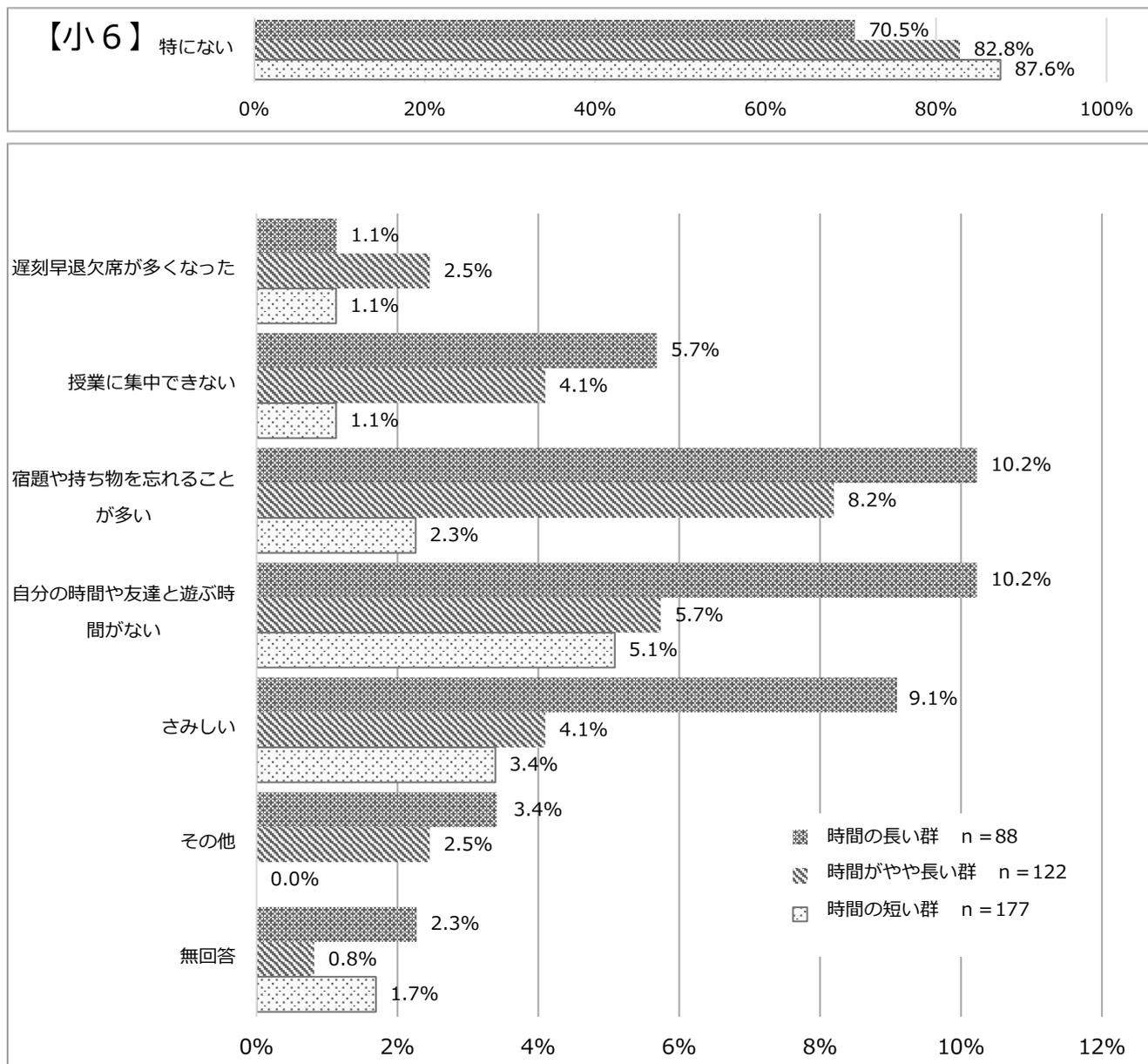
3-4 世話をすることによる影響と思い

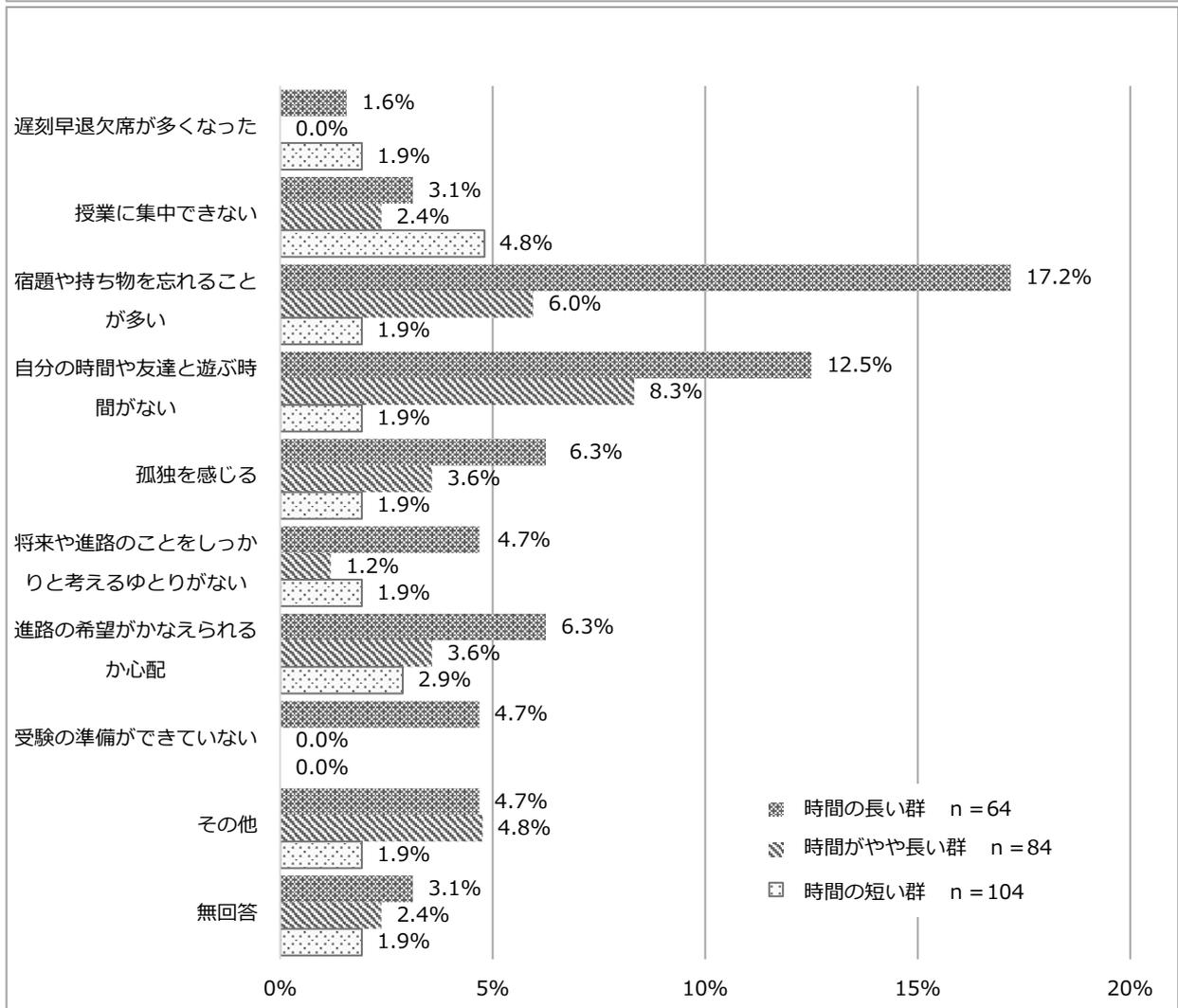
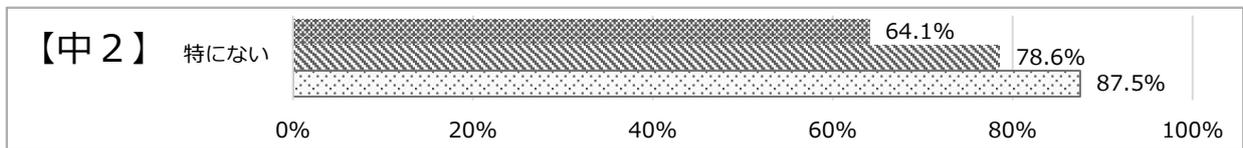
3-4-1 世話をすることによる影響

世話をすることによる影響は、小学生、中学生ともに「特にない」がすべての群で特に多いが、「時間の短い」群でより回答は多くなる。「時間の短い」群では、具体的な選択が少なくなる傾向がある。「宿題や持ち物を忘れることが多い」、「自分の時間や友達と遊ぶ時間がない」の選択は「時間の長い」群が他の群と比して多くなっており、他の具体的な項目の選択も多い傾向にある（図表 3-4-1）。「時間の長い」群は具体的に世話の影響を感じていると考えられる。

【問 16】（複数回答）お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか。

図表 3-4-1 世話をすることによる影響





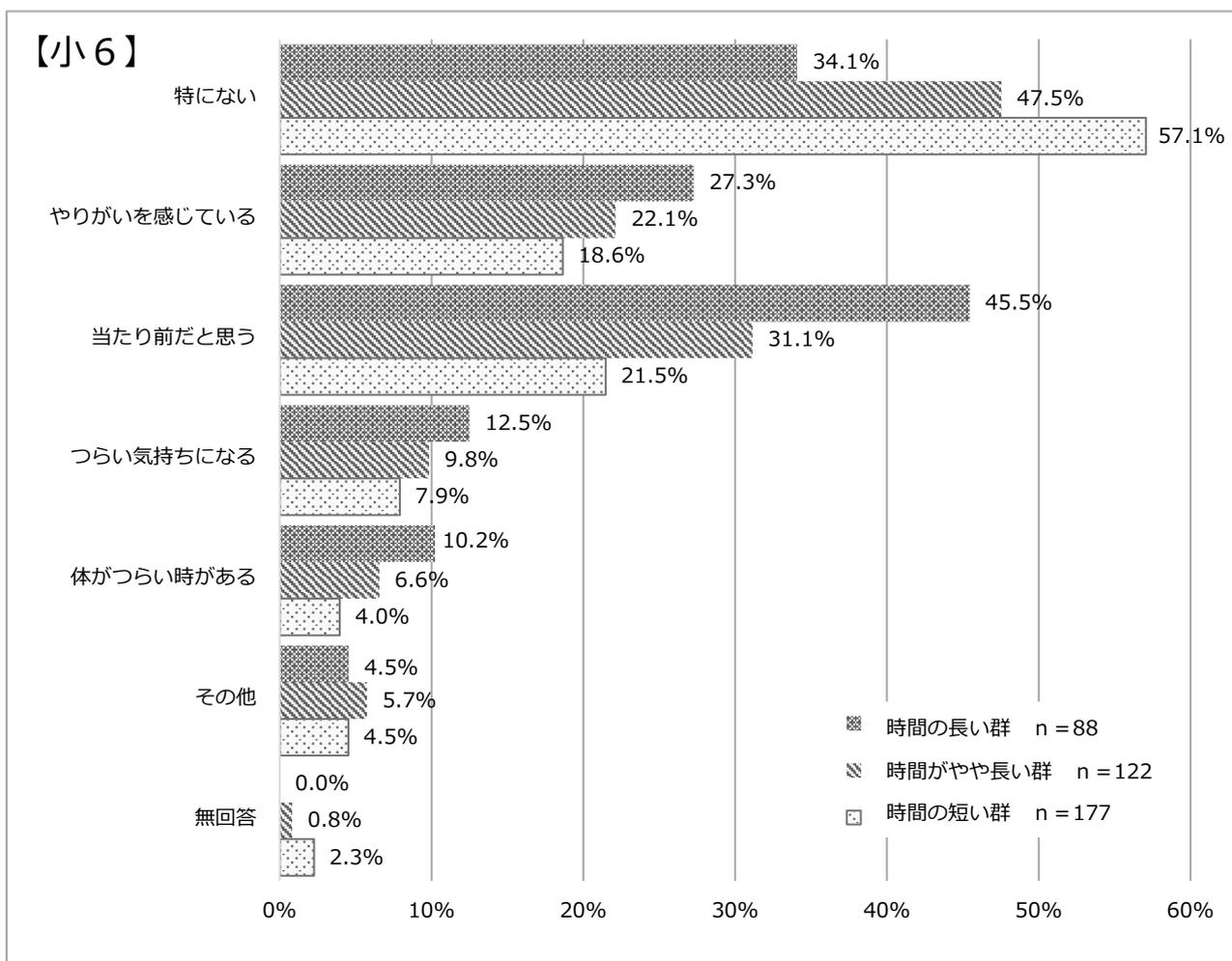
3-4-2 世話をすることについて思っていること

本人が思っていることとしては、すべての群で「特にない」が多い。特徴的な傾向として、「時間の長い」群で具体的な項目の選択が他の群に比して多くなっており、世話をすることによる影響と類似の傾向がある。また、「時間の長い」群でのみ「当たり前だと思う」が「特にない」より多くなっており、世話をすることに対する思いが、他の群に比べ強いと考えられる（図表 3-4-2）。

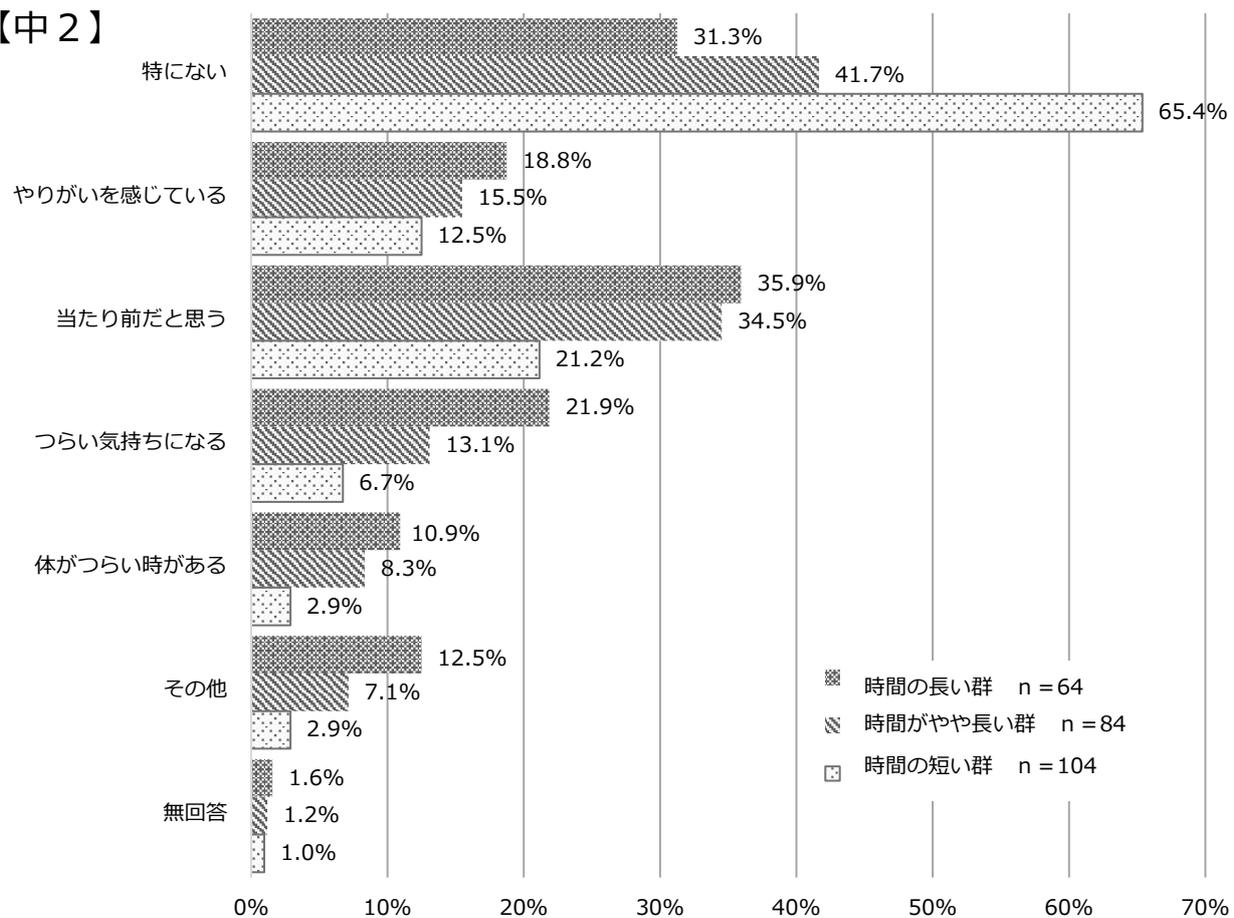
また、「世話をすることによる影響」【問 16】と「世話をすることについて思っていること」【問 17】の両設問における「特にない」が選択された割合を比較すると、「世話をすることについて思っていること」の方がすべての群で3割程度低くなっていることから、影響は具体的に答えられないが、思っていることは具体的に答えられたことがわかる（図表 3-4-1、図表 3-4-2）。

【問 17】（複数回答）お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください。

図表 3-4-2 世話をすることについて思っていること



【中2】

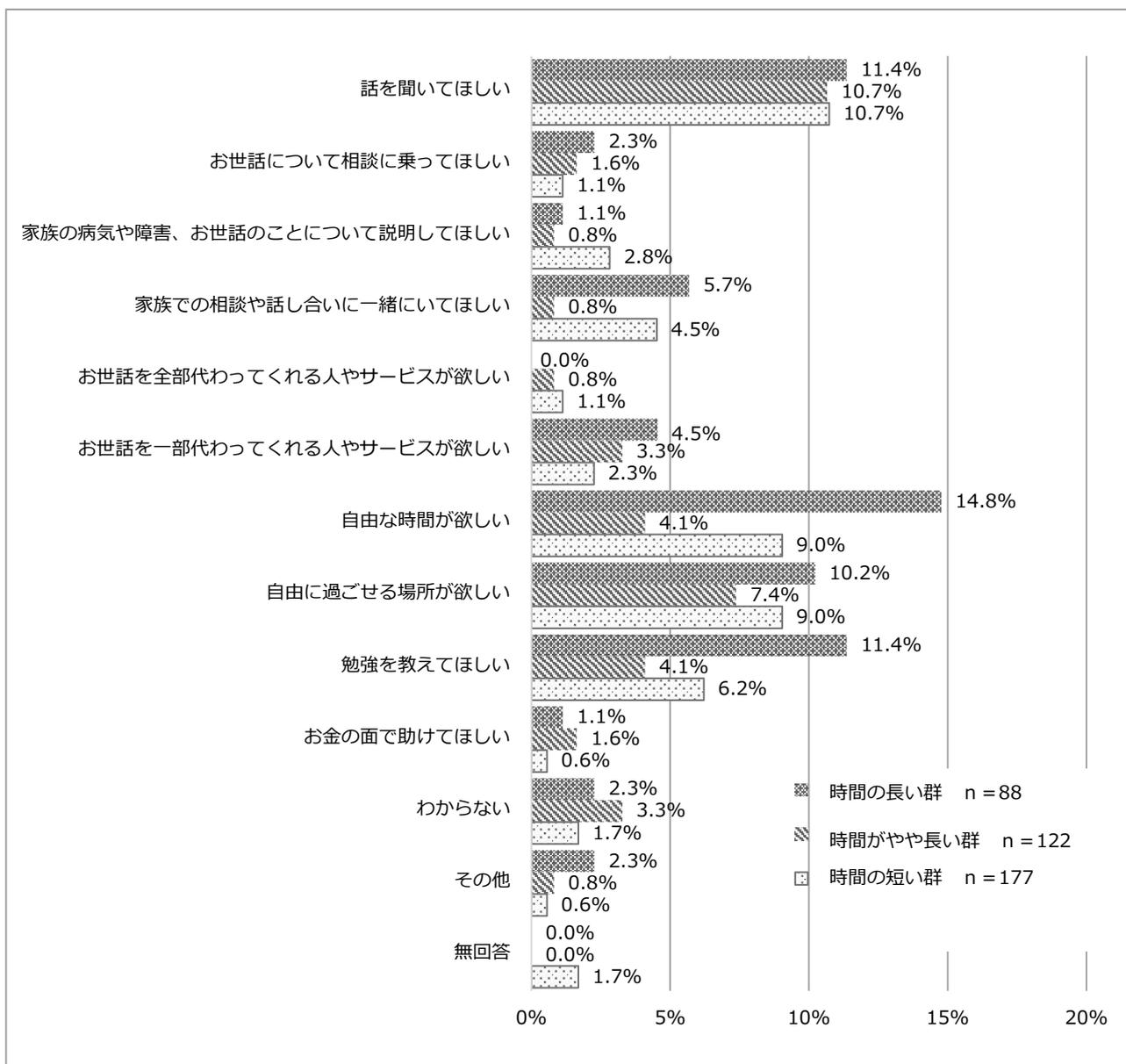
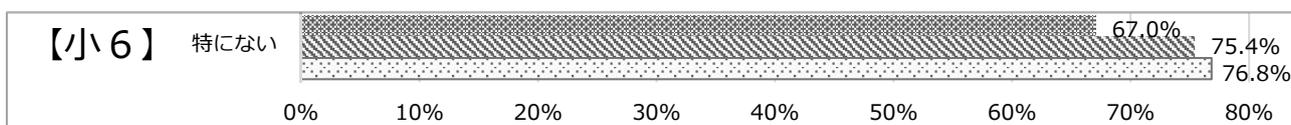


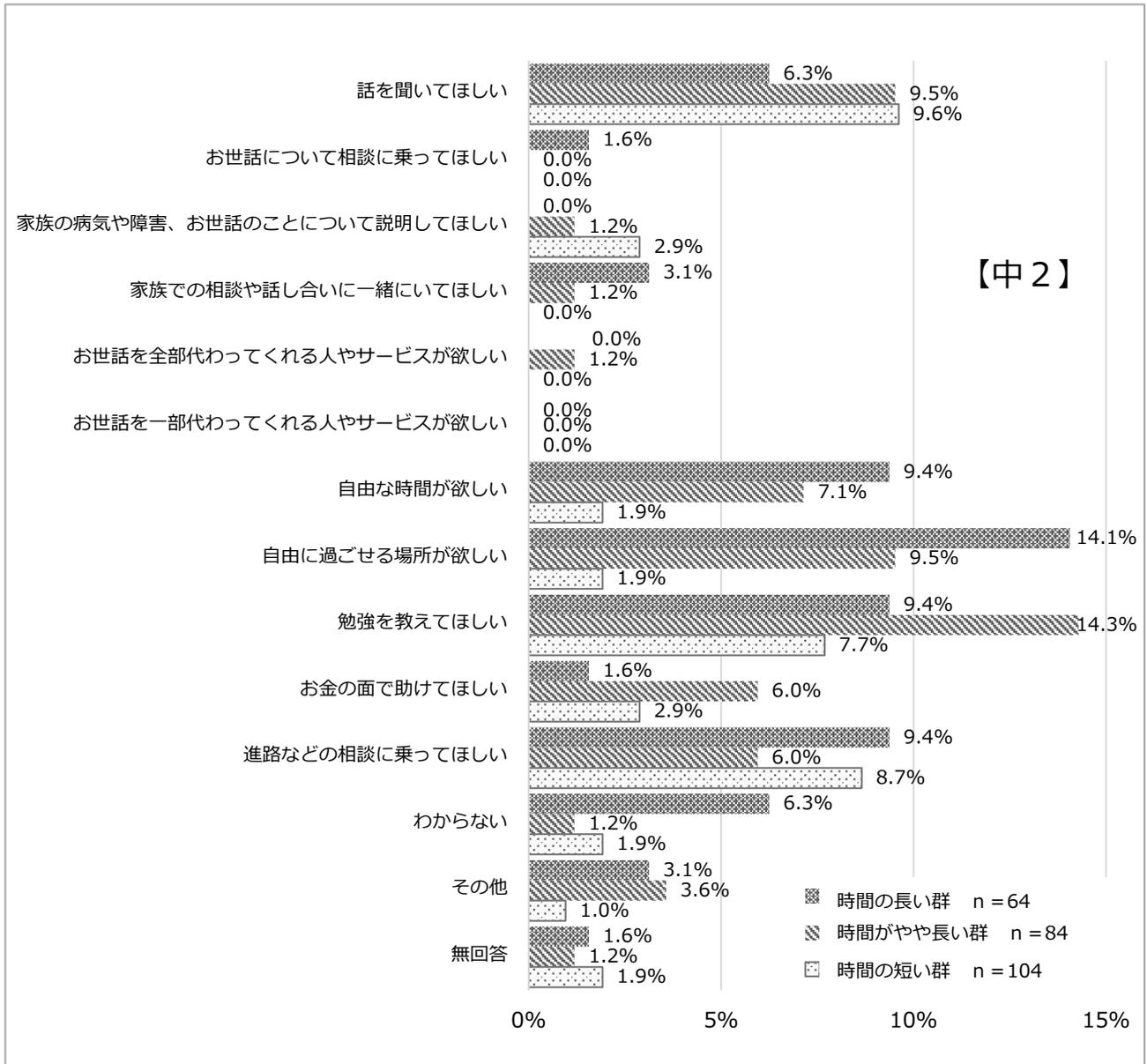
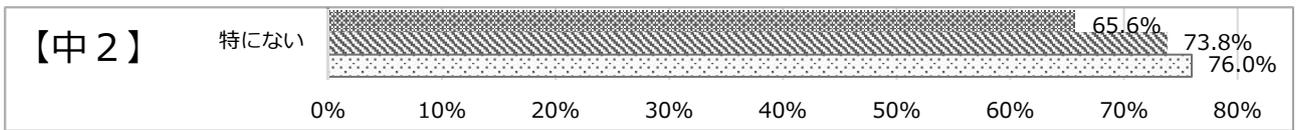
3-4-3 周囲に助けてほしいこと

学校や周りの大人に助けてほしいことでは、すべての群で「特にない」が7割前後と多くなっている。具体的な項目では、すべての群で「話を聞いてほしい」が約1割あり、群間で差異のある項目は、小学生の「時間の長い」群の「自由な時間が欲しい（15%）」、中学生の「時間の長い」群の「自由に過ごせる場所が欲しい（14%）」の回答がやや多くなっている（図表3-4-3）。

表 3-4-3 学校や周りの大人に助けてほしいこと

【問18】（複数回答）学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。



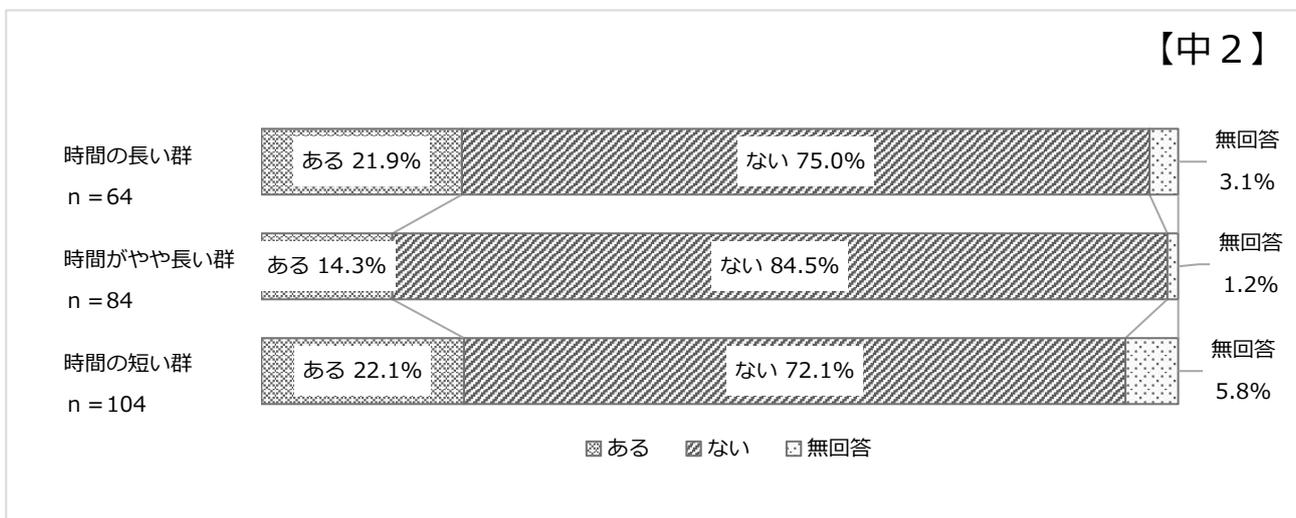
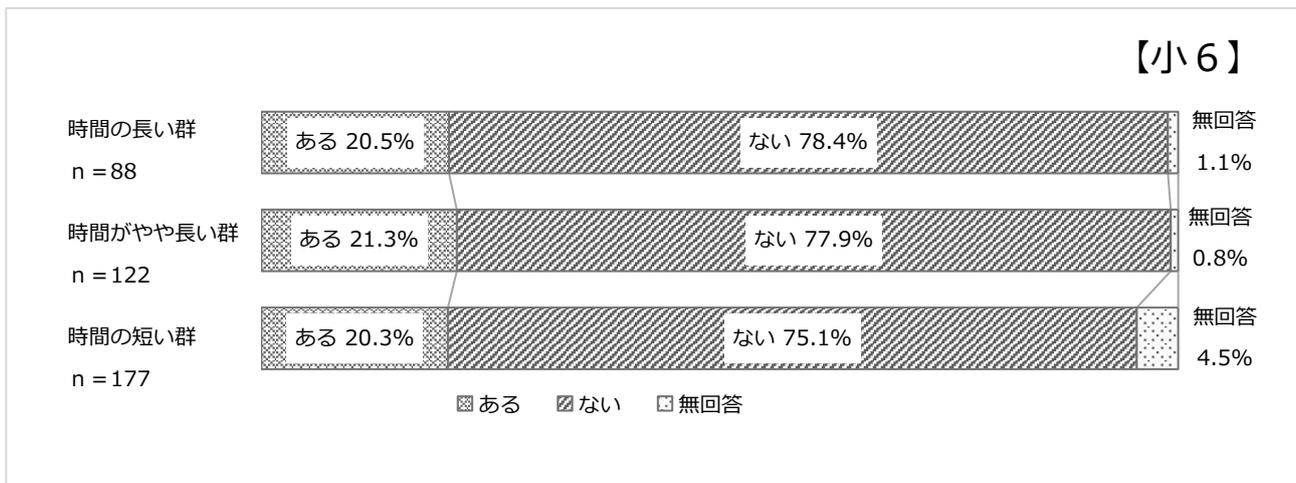


3-5 相談の状況

世話の悩みの相談経験は、「ある」の割合が、すべての群で約2割であり、多くの児童・生徒に相談経験がなかった（図表 3-5）。

【問 19】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

図表 3-5 世話についての相談経験の有無





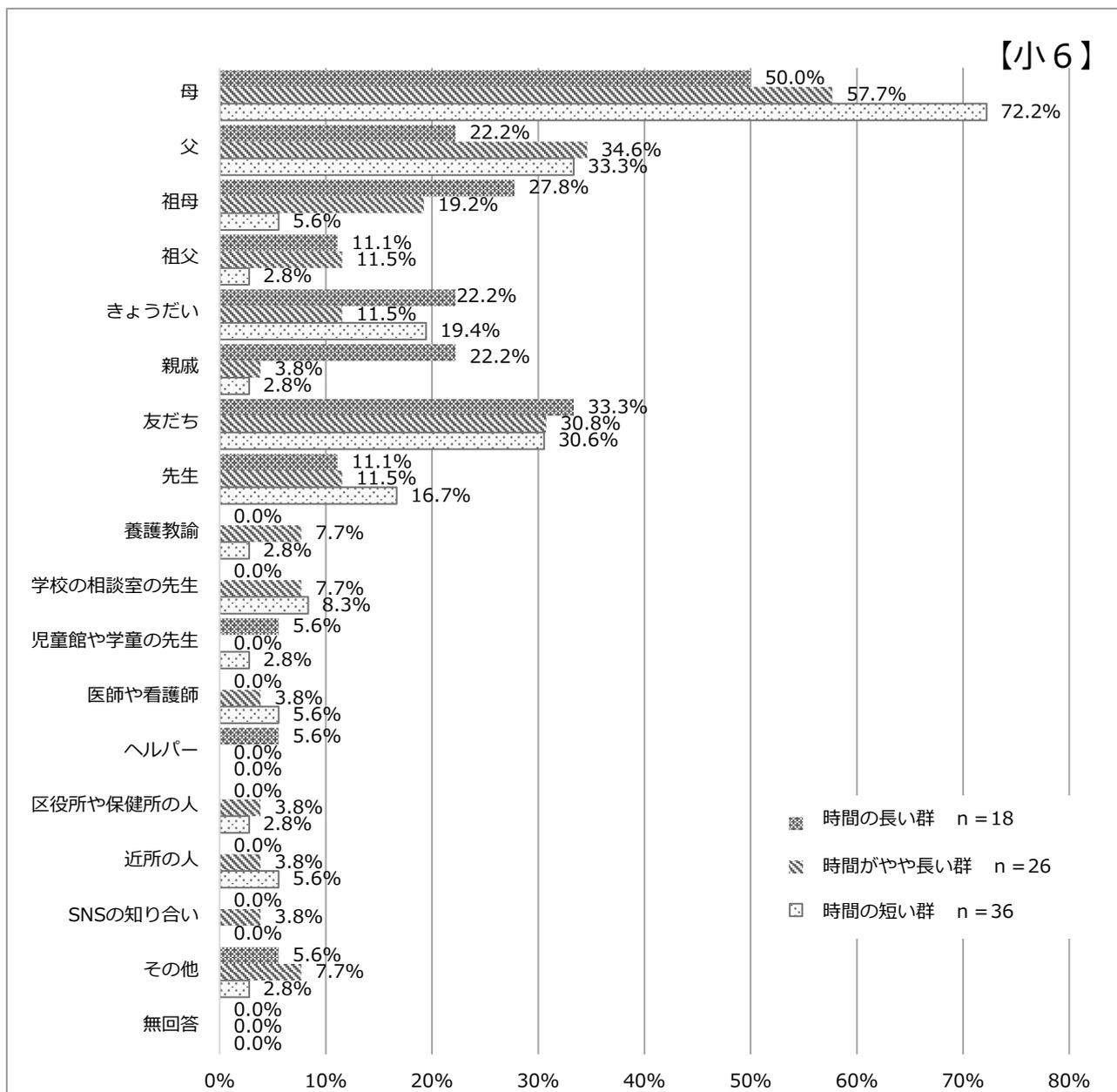
©2011 練馬区ねり丸

3-5-1 相談経験のある子どもの状況

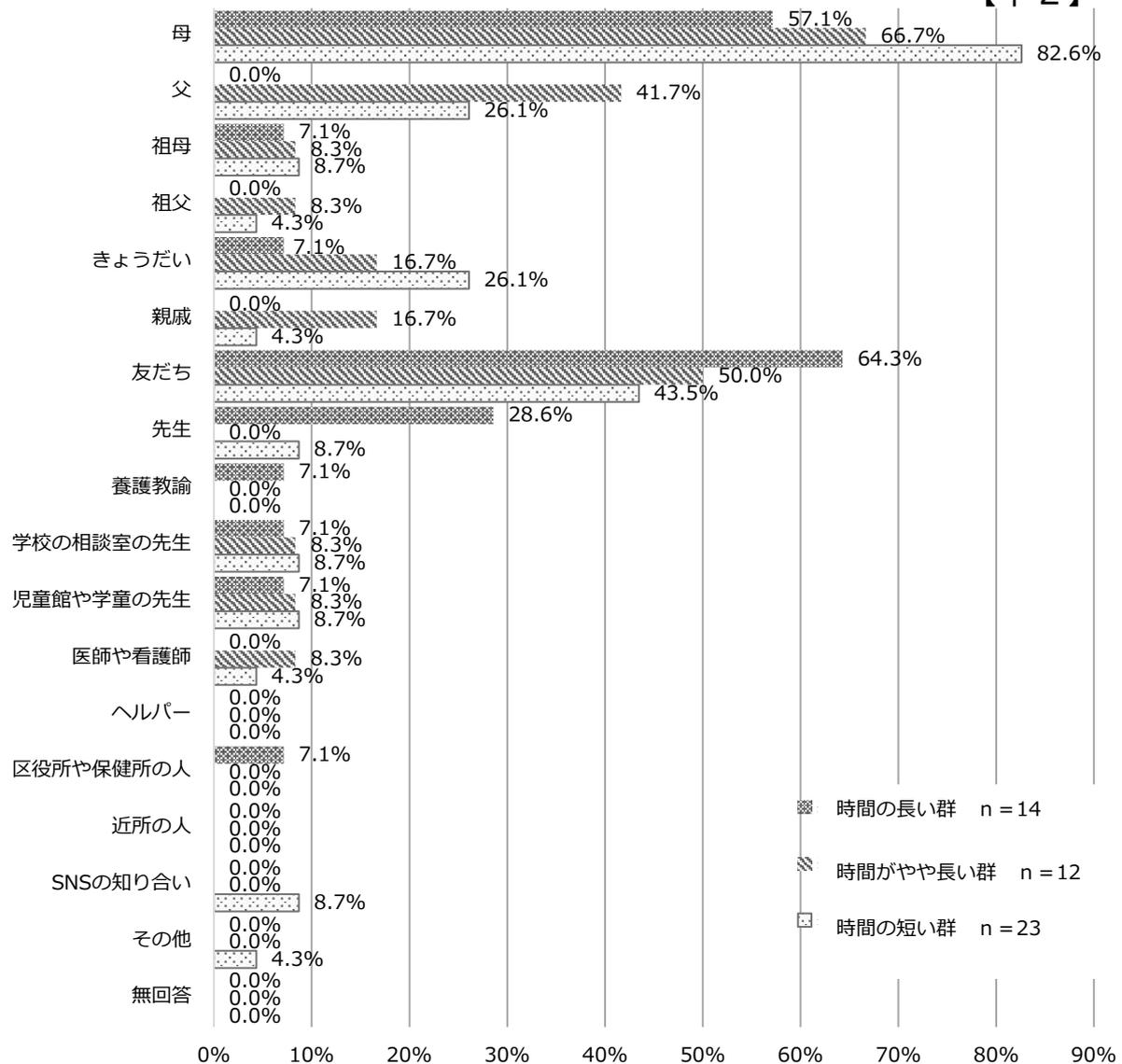
相談経験のある子どもが相談した相手は、「母」、「友だち」が多くなっている。また、「父」や「きょうだい」も一定数あり、世話に関する相談は、家族内での相談が主となっていると考えられる。相談の経験が「ある」【問 19】については、データの個数が少ないため、群間の詳細な分析には留意が必要である。

【問 20】（複数回答）相談した相手の人はだれですか。

図表 3-5-1 世話についての相談相手



【中2】



3-5-2 相談していない理由

相談経験が「ない」と回答した児童・生徒の「相談していない理由」は、すべての群において「誰かに相談するほどの悩みではない」が一番多く、中学生の「時間の長い」群以外のすべての群で4割を超えた。次いで「相談しても変わらないと思うから」が多く、中学生の「時間の長い」群では約3割あり、他の群より約1割多くなっている（図表 3-5-2-1）。

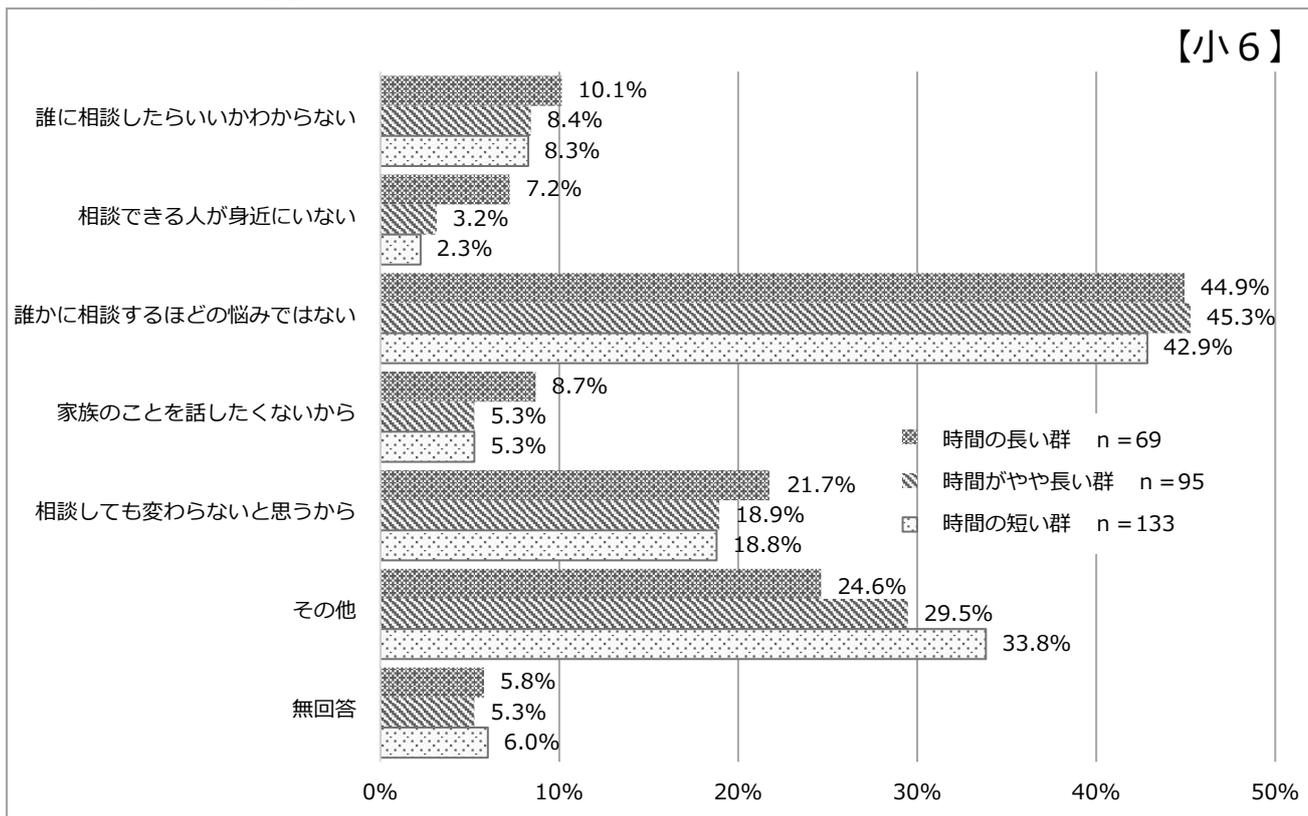
【問 22】悩みを聞いてくれる人の存在において「いる」の回答は、小学生、中学生ともに「時間の長い」群で一番少なくなっている（図表 3-5-2-2）。

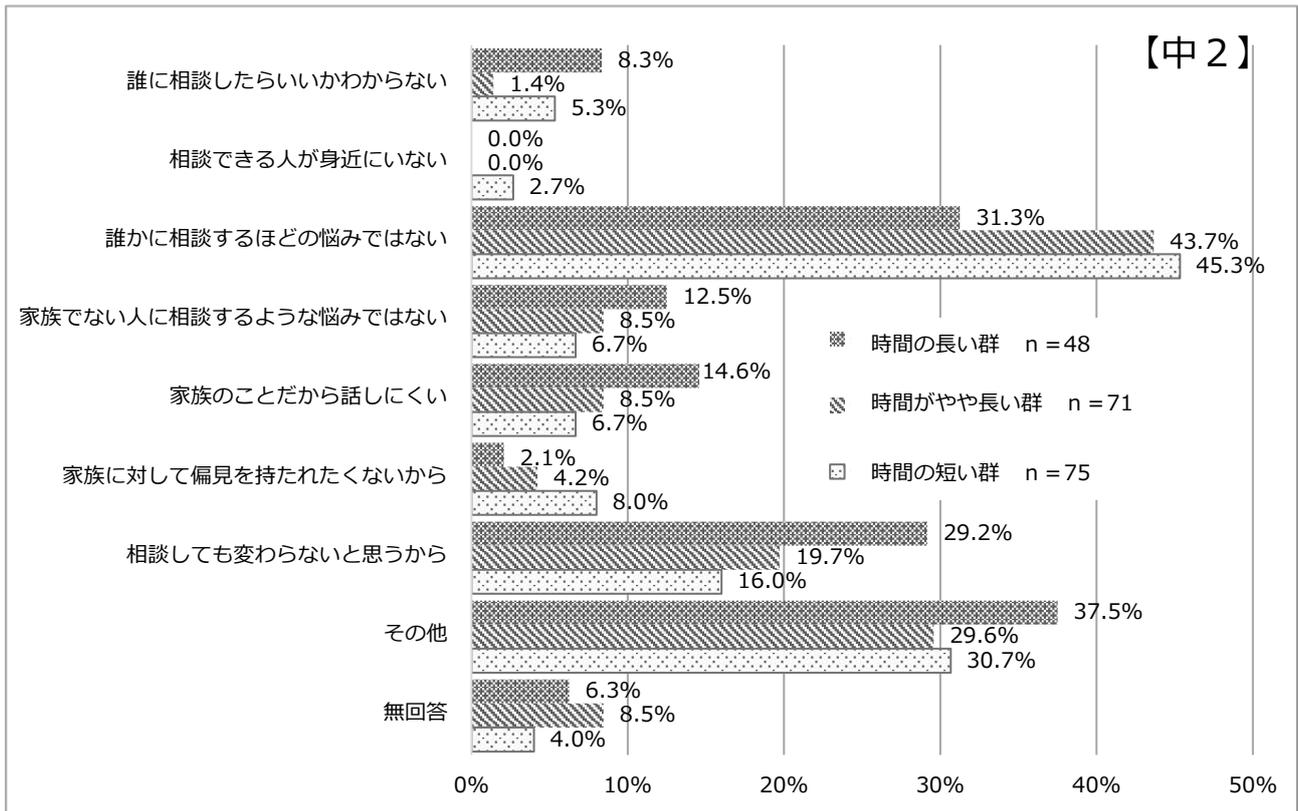
（相談経験のない回答者対象）

【問 21】（複数回答）相談していない理由を教えてください。

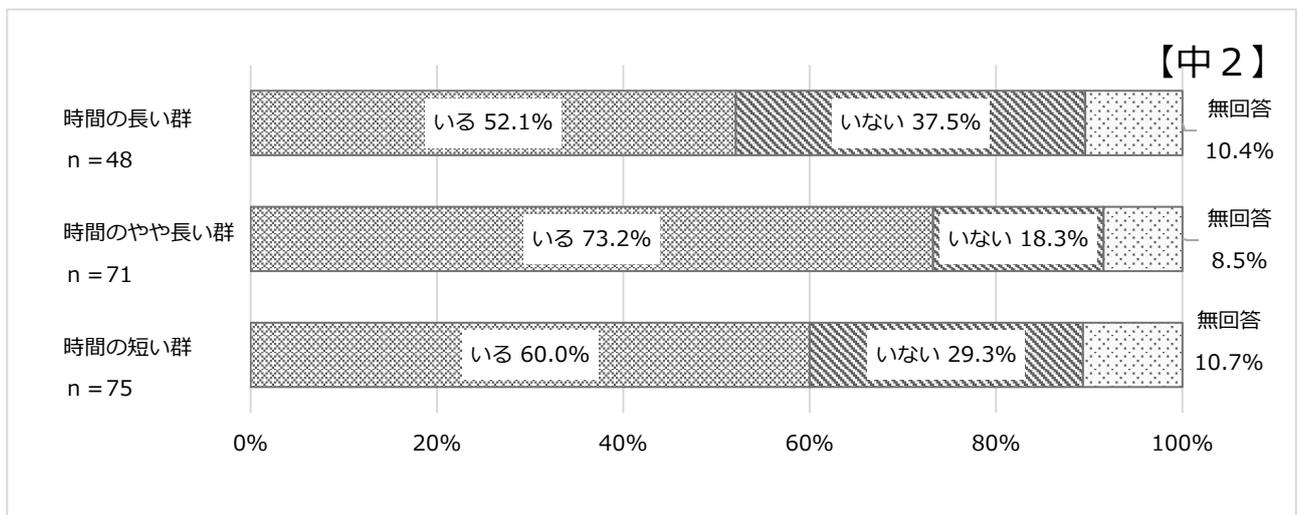
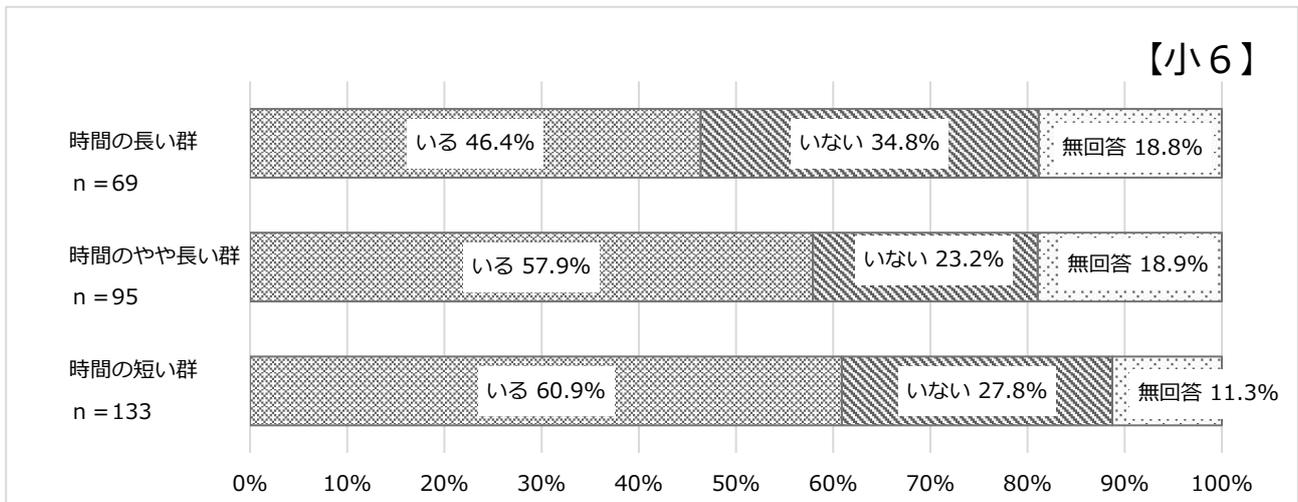
【問 22】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

図表 3-5-2-1 相談していない理由





図表 3-5-2-2 悩みを聞いてくれる人の存在



3-6 家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況

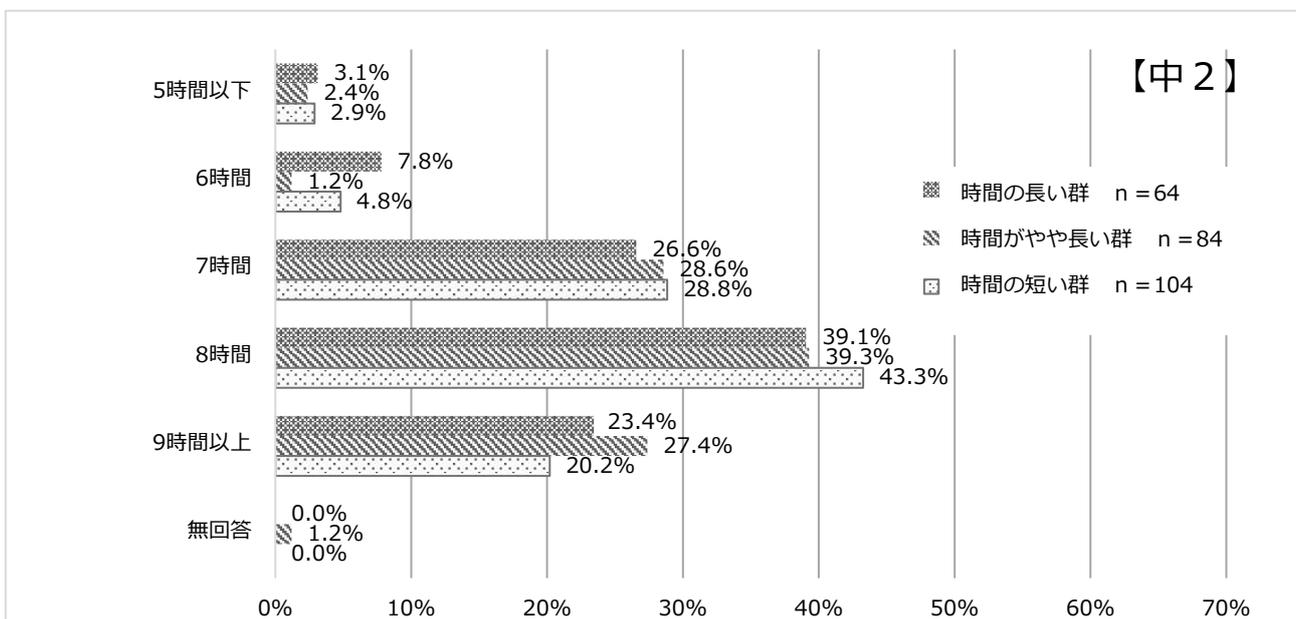
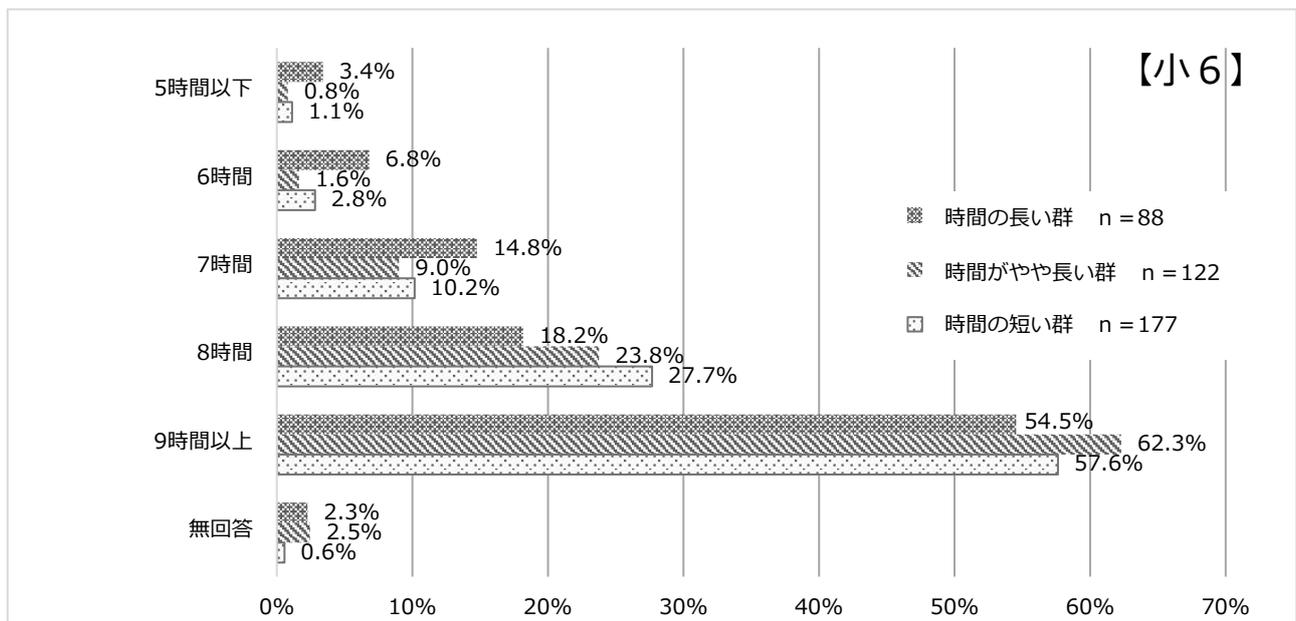
3-6-1 睡眠と朝食

睡眠時間については、「時間の長い」群で、小学生で7時間以下、中学生で6時間以下が他の群よりやや多い傾向があるが、差は小さく評価には留意が必要である（図表 3-6-1-1）。

朝食の喫食状況については、「時間の長い」群は他の群より「毎日食べている」の回答が少ない。「どちらかといえば食べている」を合わせてもその傾向は変わらない（図表 3-6-1-2）。

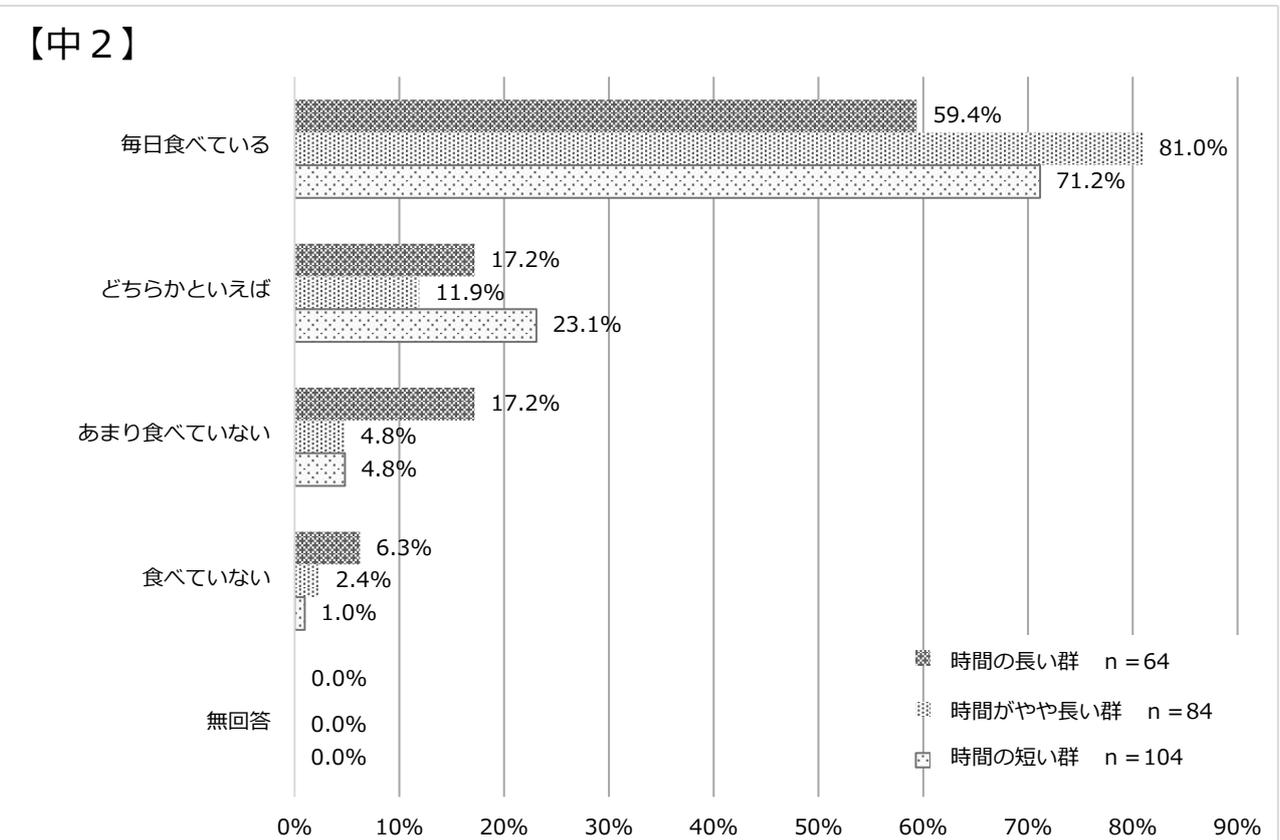
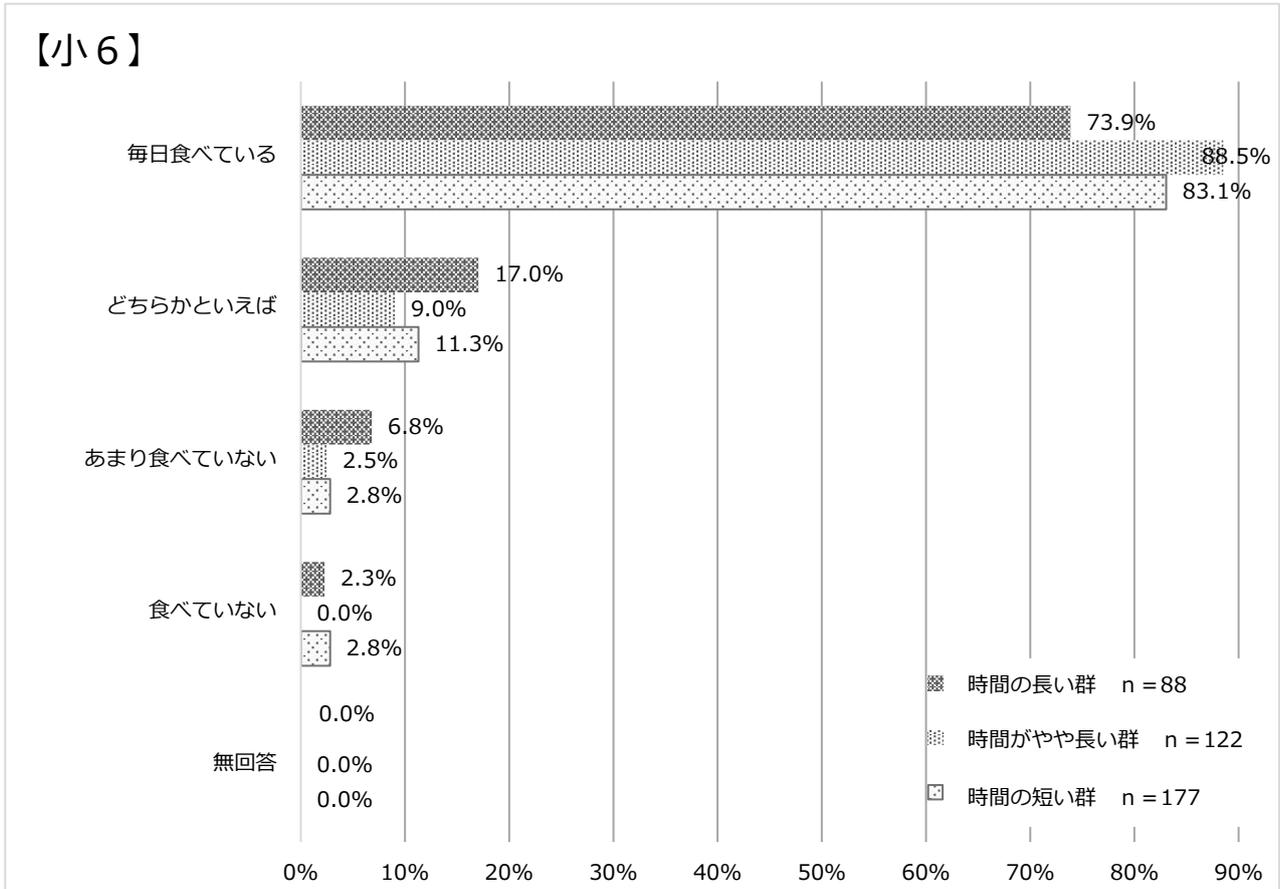
※【問 2】起床時間と【問 6】就寝時間の回答から算出

図表 3-6-1-1 睡眠時間



【問 3】（単一回答）朝食を毎日食べていますか。

図表 3-6-1-2 朝食の喫食状況



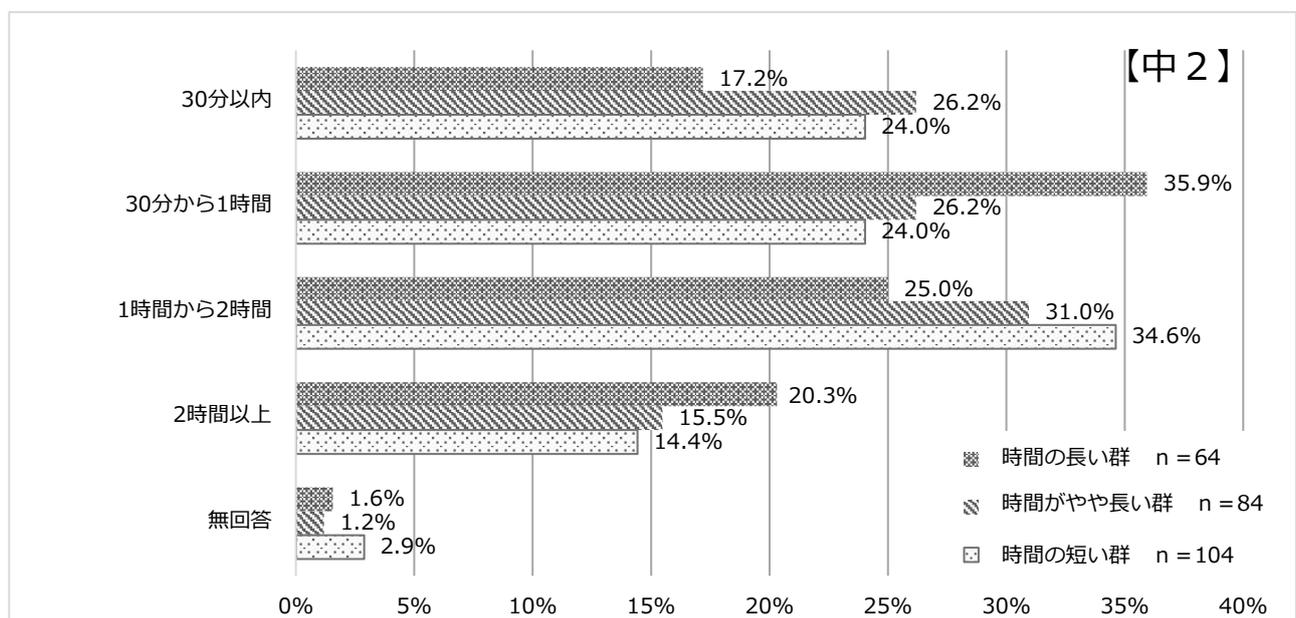
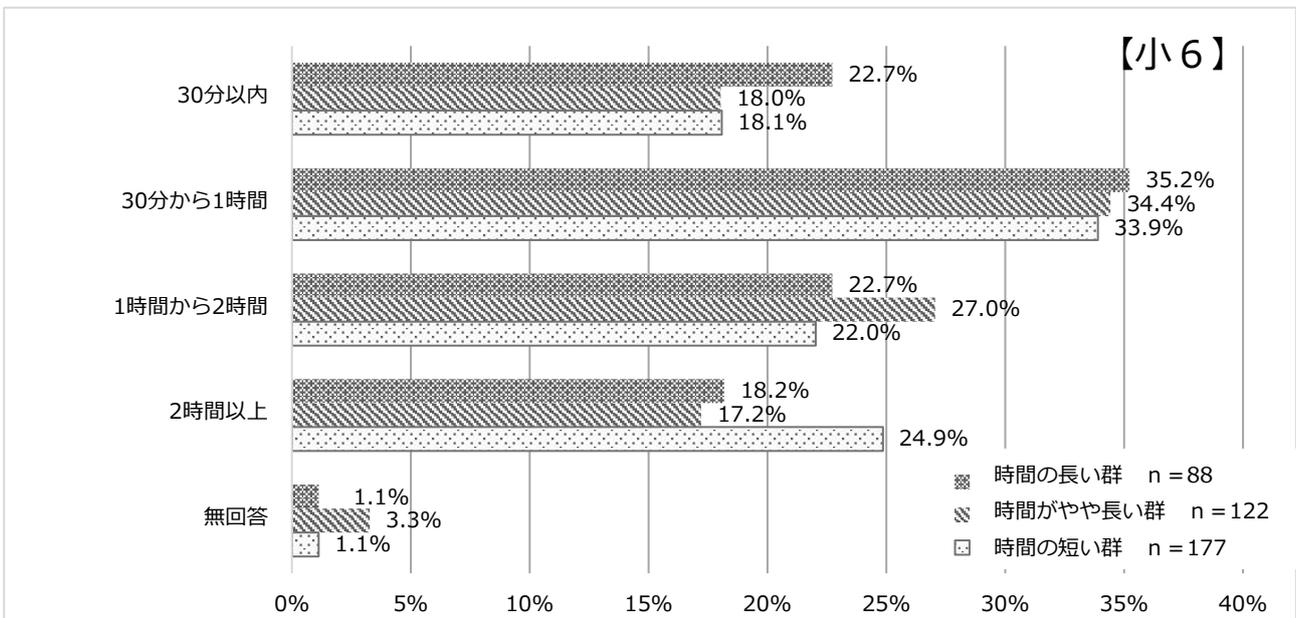
3-6-2 自分の時間

勉強時間については、小学生では「時間の長い」群で他の群より「30分以内」の回答がやや多く、「2時間以上」は「時間の短い」群で多くなっている。一方で、中学生では「時間の長い」群の「30分以内」が他の群と比べて少なく、「2時間以上」は多くなっている。小学生と中学生の結果には顕著な差異がある（図表 3-6-2-1）。

自由時間については、小学生では各群間に特徴的な差異は認められないが、中学生では「時間のやや長い」群で「1時間から2時間」の割合が高くなっている。

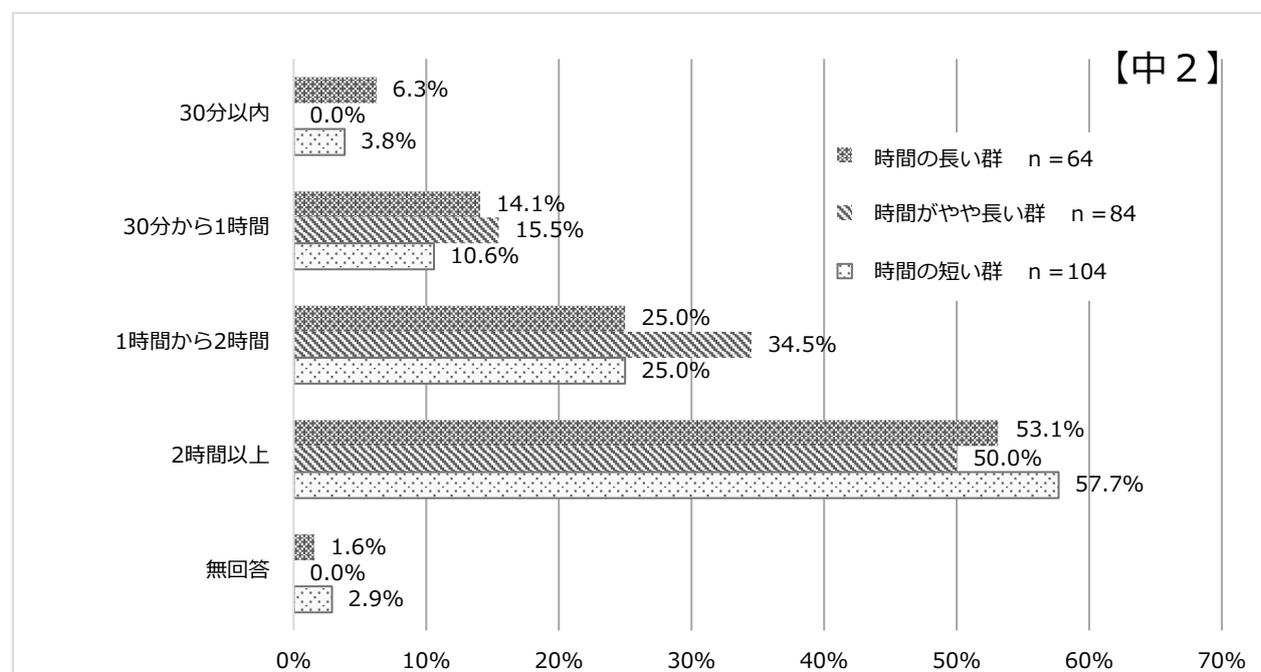
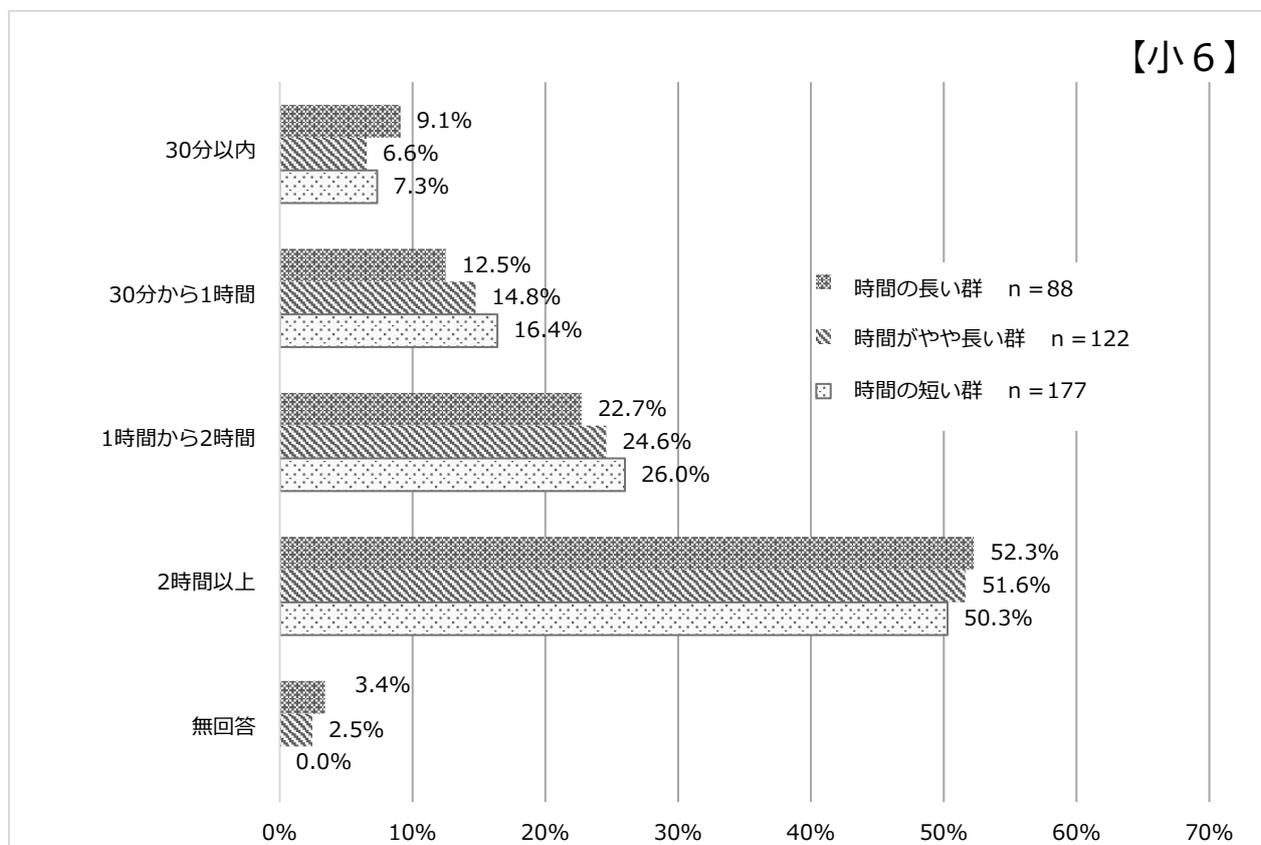
【問 4】（単一回答）学校以外で勉強する時間は1日どのくらいですか。

図表 3-6-2-1 勉強時間



【問5】（単一回答）学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいですか。

図表 3-6-2-2 自由時間



3-7 生活満足度

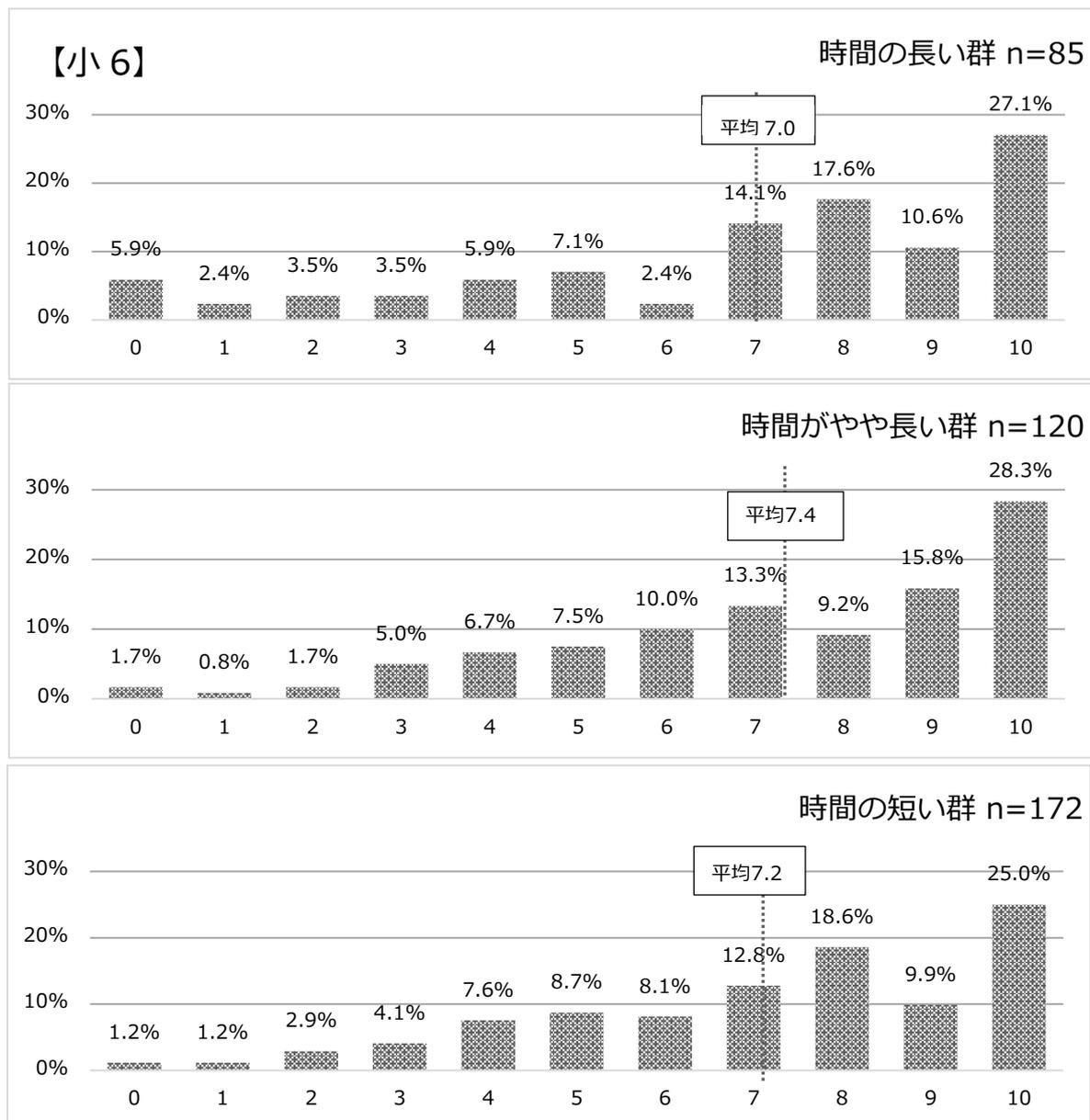
生活満足度では、回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値について、小学生、中学生ともに「時間の長い」群で中央の値が「0」となっており、他の群とは差がある。中学生の最頻値は、他の群が「8」であるのに対し、「時間の長い」群では「7」となっている。また、平均でも差異がある。小学生においては、すべての群の最頻値は「10」であり、平均にも大きな差はない(図表 3-7)。

※生活満足度の集計には無回答を母数から除いている。

「OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2018 年度調査」の日本の生徒 (15 歳) で生活満足度の平均は 6.2 であった。

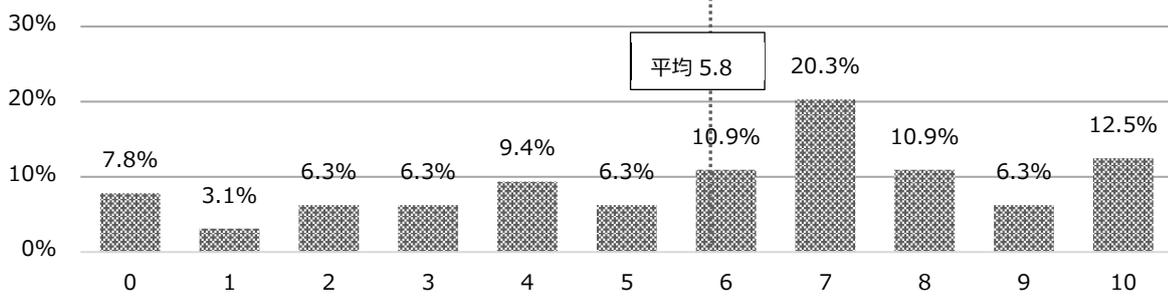
【問 23】 (単一回答) 最近の生活にどのくらい満足していますか。

図表 3-7 生活満足度

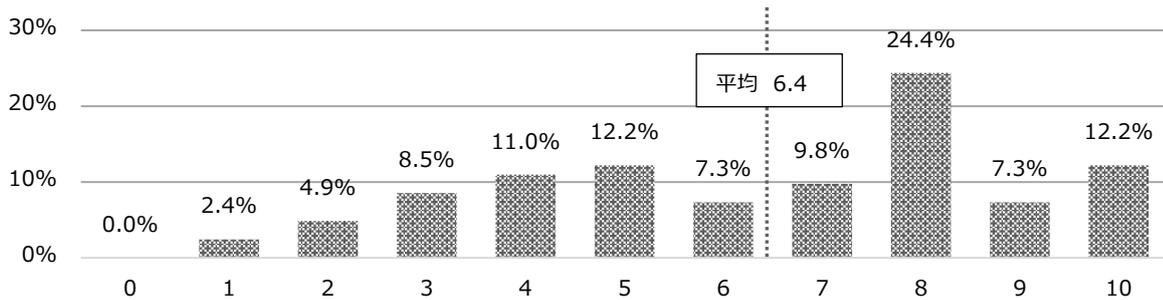


【中2】

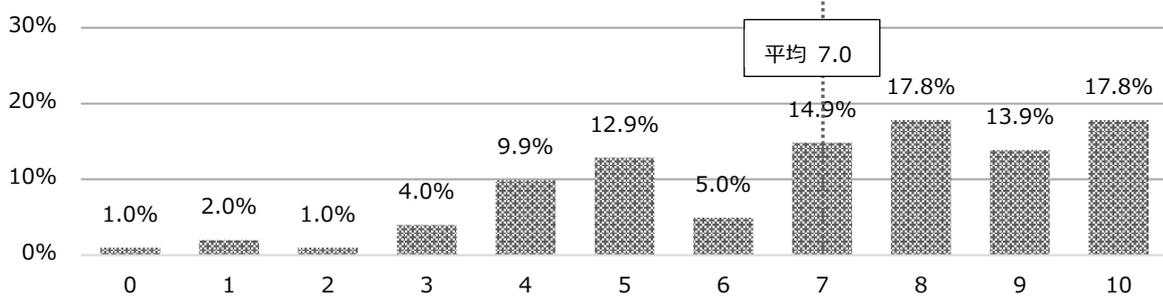
時間の長い群 n=64



時間がやや長い群 n=82



時間の短い群 n=101



第4章 ヤングケアラー概念の認知度と自由記述

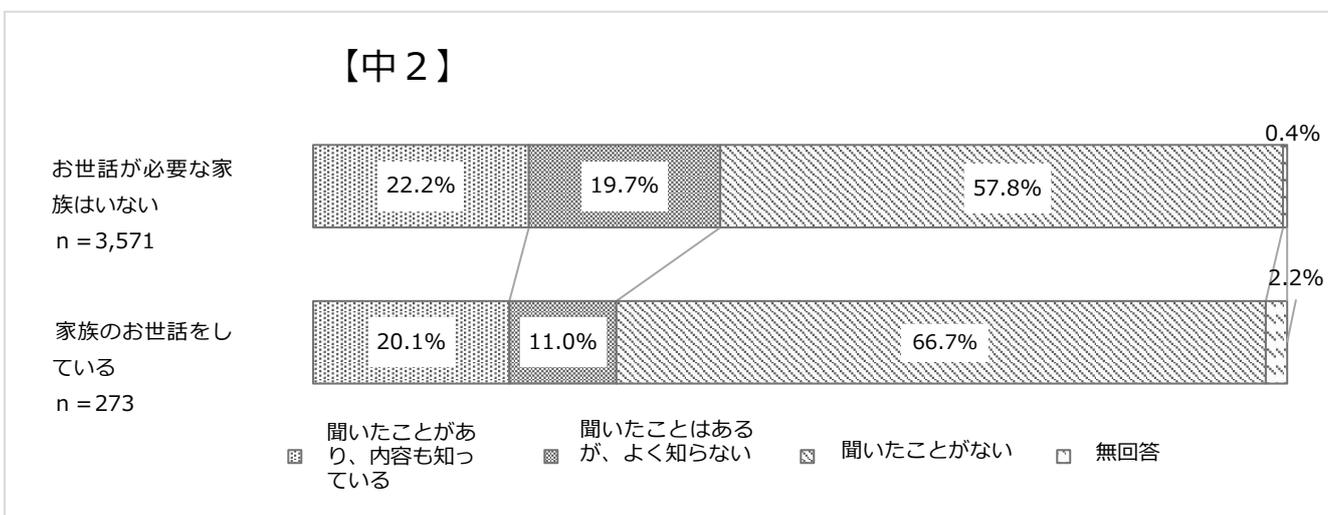
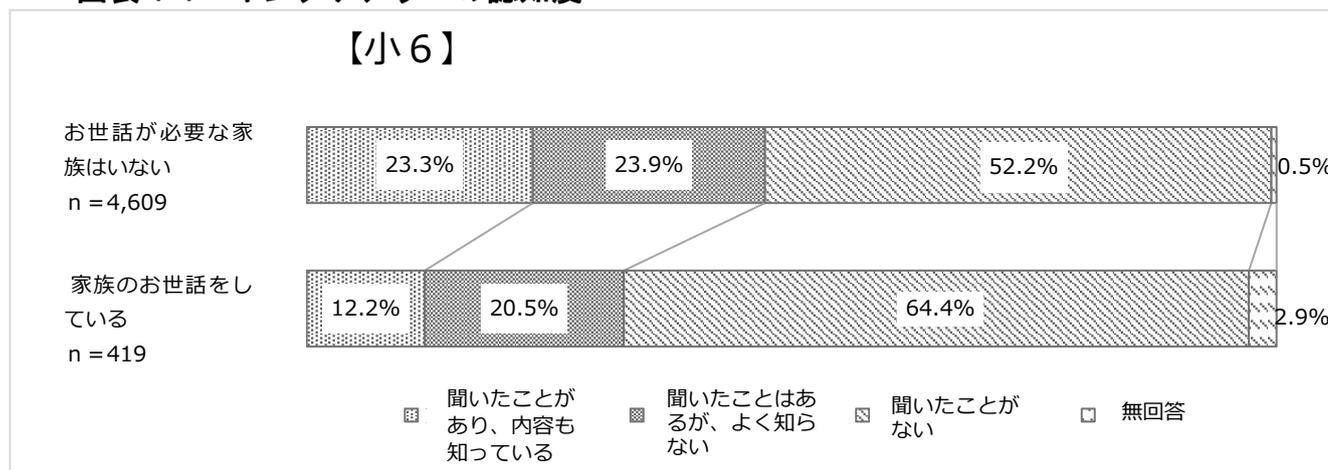
4-1 ヤングケアラー概念の認知度

本調査は「家庭・生活状況調査」として実施したが、調査の終盤で「ヤングケアラー」という言葉の認知度を質問した。

「自分が世話をしている」群において「聞いたことがない」の回答は、小学生で64.4%、中学生で66.7%であった。小学生、中学生ともに、「世話が必要な家族がいない」群より約1割多く「聞いたことがない」と回答しており、「世話をしている」群では「世話が必要な家族がいない」群と比して「ヤングケアラー」の認知度が低くなっている（図表4-1）。

【問24】（単一回答） これまでに「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか

図表4-1 ヤングケアラーの認知度



4-2 家族の世話をする子どもに必要なと思うこと、してもらいたいこと

問 25 では、子どもの気持ちや支援のニーズをより具体的に把握するために自由記述で調査した。【問 11】で「家族の世話をしている」と回答した子どものうち、小学生の 3 割弱、中学生の 4 割弱から回答があった。回答には、回答者自身の要望と、家族の世話をしている子ども一般に関しての意見等がある。内容は、「話を聞いてほしい」、「時間がほしい」、「助けてほしい」、「お世話について思っていること」にまとめられる。少数であるが、家族の世話を担う自分の生活状況や今後の不安を具体的に記載しているものがある。記述はできる限り要約せず掲載し、類似のものは件数を（ ）内に記載した。

【問 25】家族の世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことなどを自由に書いてください。

図表 4-2 自由記述 記述率

小学 6 年生	母数	記述あり	記述率	中学 2 年生	母数	記述あり	記述率
全体	5,404	2,335	43.2%	全体	4,162	1,972	47.4%
世話をしている児童	419	121	28.9%	世話をしている生徒	273	100	36.6%

自由記述 【小 6】

(話を聞いてほしい、相談先がほしい)

もうお世話したくないな—とと思っている人のために家族の仕事量を減らすとか、あ、こういうサポートがあるんだって知ってもらえたらその人が楽になる。妹とか誰かのお世話が辛くて病んでいる人の相談できる場所とか、話を聞く←長くても聞いてあげられるとかそういう感じでいい。あと勉強面でハテナがある所は中受をしていて難関中、大に受かっている人に頼りたい

学校などで打ち明ける場所を設ければ、ヤングケアラーさんたちの助けになると思います。

困ったことがあったらすぐに相談できる人がほしい。

その困っている悩みがあるなら他の人に話せば少しは晴れるから誰かと相談をしたらよいと思う。

気軽に相談をしてほしい。

話を安心してきけるようにしたらいいと思う。

心配だと思ったことは誰かに相談したほうが良いと思います。

子どもの中には悩みを抱えている子がいるかもしれないから、身近な大人が積極的に相談や話しかけてくれた方が安心すると思います。
子どもの悩みにしっかり向き合ってほしい。（私は悩みはありません。生活に満足しています！）
しっかりと自分の思いや悩みを聞いてくれる人、自分から誰かに相談できる人が少しでも増えてほしいです。
世話が足りなくて将来人に迷惑をかけてしまう事があるから気持ちを相談してくれる人が必要。
家族の世話をしている子どものために大人たちに相談して解決してほしい。
相談に乗ってほしい人の力になってほしい。
相談相手。
何か辛そうにしている人には優しく話を聞いてあげてほしい。
話を聞いてほしい（様々な面で）。
お世話をしてる人がいたら相談に乗ってあげたりお手伝いをしてあげたらいいと思います。
悩みを聞いてほしい。
話を聞いたりその子によりそう。
積極的に悩み事を聞いてほしい(自分は大丈夫)。
話を聞く。
自分のことをよく分かってもらい、認め合えるようにしたり。

（時間がほしい、休みがほしい）

遊ぶ時間をもう少し長くしてほしい。
世話をしていて、自由な時間がない人もいると思う。だからその人の楽しいことや好きなことを少しでもさせてあげる事。
十分な自分の時間や勉強する時間。
周りの人の手助けや自由に過ごせる時間。
家族のために世話をしているけど、もう少し自分が自由に過ごせる時間を作ってあげてほしい。
自分の時間が必要だと思う。(勉強など) 私は少ししかお手伝いをしていないからもっとしたい。
ゲームをさせてほしい。
もっと自由な時間が欲しい。習い事があるからしょうがないけど。
一人で遊ぶ時間。
自分の時間がほしい。
自由時間。
手伝いなどしてくれる人を呼ぶ。自由時間を作ってあげる。

家族の世話をしている子たちにも、自由時間を作ってあげてほしい。1～2か月に1回くらい、家族の世話をしている子の話を聞いてあげてほしい。
休憩を取らしてあげて。
疲れたら少し休んでもいいと思う。
休むこと。
たまには世話をしなくてもいい日を作るのがいいと思う。
休憩やリラックス。

(協力、助けがほしい)

困っている人は周りの大人ができるだけ協力してあげたほうがいいと思う。
世の大人がなんとかしたらいいと思う。
国や身近な人がその子の手伝い、支援をしてあげたらよいと思う。
助けてくれる人を多くしてほしい。
子ども一人にやらせるのではなく無料で手助けをしてほしい。
他の人たちもその子どもを助けてあげる。
助けたり一緒にやる。
その子のために色々できないことを手伝ってもらいたい。
大変だから助けてほしい。

(その他ほしいもの、ほしい支援)

たまにはごほうびがほしい。
ほうびを出す（お菓子やお金）。
おかしをいっぱい買ってほしい。
家族の世話をしたらおこづかいをもらう。
ボーナス。
保険を税金で払ってくれる仕組みをつくる。
金。
金が欲しい。
本当に助けが必要としている人に、国が人をはけんすれば…と思った。お金の支援をすればいいのでは？
ちょっとだけでもお金をあげる。
赤ちゃんなどをいつも預けられる施設。
お迎え。
リラックスできる場所。ちがいにすぐ対応できる大人を増やす（育てる）。

一番小さい弟が自由に遊べるスペースが欲しい。
赤ちゃんが一人で遊べるような物がほしい。
ボランティアなどのヘルパーを準備すべきだと思う（家族の世話をしている子どものために「自分は世話をしていない」）。
お金がかからないヘルパーをつくる。
もう少しヘルパーの助けを増やす。値段を下げたほうがいい。
かいごを増やしたほうがいいと思う。
そうゆうことは必要ないと思う。子どもが働くこと自体がおかしいので、フリーに家政婦でもやとえばいいんじゃないかと思う。
お金の管理など大事な物や危ない物。
皿洗いの仕方などを教えてもらう。
粉薬を飲んだだけで体がぴんぴんする薬を作ってほしい。
世話を全て代わってほしい。
家事。
夜の学校&学校に行かなくても勉強できる場所。
宿題を減らす。
子どもたちが遊んでいるときは先生の方から声をかけ、学校が楽しいと感じさせて、毎日が満足させるようにしてほしい。でも先生などの大人も無理はしないで。

（家族の世話について思っていること）

赤ちゃんの時にすごく助けてくれたから今度は自分が母や父を助けたい。
親だけで大変だからぼくも世話をしています。
親にめいわくをかけないで楽をさせる。
お父さんに甘えてほしい。けんかしない家族を作りたい。
家族が大変そうだし少しでも楽になってほしいから。
よく世話をされているけど、たくさん次はお世話してあげたい(家族など)。
家族の時間を作りたい。
しっかりいいことをした時はほめてほしい。
もっとお世話するか楽しさをあげたい。
お世話の楽しみを見つけたほうがいい。
やさしく接してあげる。（2）
お世話をしている人の気持ちになってする。
お世話が必要としている人への配りよが必要。

おねえちゃんと一緒にあそびたい。
妹の自分勝手にやめさせてほしい。
世話が必要な弟に愛情を注いでほしい。
妹をほったらかしにしたら階段から転落してしまうかもしれないからみていないといけない。
妹の学校が心配。
弟が病気で、言っていることはわかっているけどすごくかわいい子だから、弟じゃなくて私が病気になるれば、弟は幸せだったと思います！来世は幸せでいてほしいです！（弟が）
たくさん遊んであげる。
もう少しいっしょに遊んであげたりすること。
トイレとかお風呂が一人のできるようになったからすごいと思います。
一人で頑張り過ぎない。
かかえこまない。どんなにつらくても無理しないこと。死んではいけないこと。
お世話も大切だが自分のことも大切にしてネ。
特にない。自分がしたくてしているから。
必要なものは人それぞれちがうと思います。
いじめない。
誰でもくらしやすい世界。
みんな幸せでいてほしい。
色々な事ができる心の広さ。
体の不自由な方や高齢者を見かけたら、「何かできることはありますか？」などの声掛けをしてほしい。←勇気をもって
これからも支える必要のある人のことを多くの人で手助けしていきたい。支えが必要な人のためにも、周りのみんなで話し合うことを増やしていきたい。
(家族のお世話との関連が薄いとおもわれること)
ペットのこと、学校の授業の内容などに関する記述で、特に家族のお世話と関連しないと思われること (10 回答)

自由記述 【中2】

(話を聞いてほしい、相談先がほしい)

相談相手が必要だと思う。
相談に乗ってくれる相手を作る・無理しすぎないで息抜きもする。
周りの大人に相談すること。(2)

相談に乗ってあげてくれることをすればいいと思います。(3)
しっかりと相談に乗って悩みを話す。
相談することが必要だと思った。
「相談するのが怖い」という子たちが集まる「相談所」のような場所が欲しい→同じような環境の子どもがいると安心するし「相談したい」と思えるから。
あまりむりをしないで、程々にする。自分一人だけでも大変ならだれか身近な人に相談する。
自分が世話をしている楽しければ良いと思うが辛いと思ったら他の大人の人や相談できる人に相談する。
大人がその人の悩みを気付いてあげる事。
周りから相談できる環境を作ってほしい・とにかくつらいときにどうしていいかわからない。
周りの大人は子どもが自分から言うのを待つのではなく、ささいな事でも大人自身が聞くべきだと思う。子どもはあなたたち人間と同じだということをしっかり分かってほしい。
自分から助けを求められない人に対して少しの異変でも声をかけてあげてほしい。
つらい~と思ってそうな時はさっして助けてあげてほしい。
私は特に悩んでいませんが、悩んでいる子の話を聞いたり助けてあげたりすることは必要なのかもしれない。
家族の世話をしている子どもには悩みを聞いてあげられる人が身近にいることが必要だと思います。
自分が信頼できる大人がそばにいて、一人で抱え込まないことが大切だと思います。
相談できる人がいる事/子どもは結構ため込みすぎてしまう子が多いので定期的に話を聞いてあげてください。
家族のために自分の時間を使っている子もいるので学校で定期的に相談を聞く。
何でもいいから定期時に雑談を聞いてほしい(強制参加)。
話を聞く時間か、大変なことを聞いて受け止める時間を設ける。本人のしたい事か、どうして欲しいのかを聞く。
周りの先生などがアンケートなどを通して悩みを聞く。
思いやりを持つこと相談を聞く。そういう子どもに関心や理解をする。
私はお母さんやお父さんがいないときに少し留守番ついでに面倒見るくらいだし、今の生活にあまり不満はないけど。将来お父さんとお母さんが亡くなった後、兄と私はどうすればいいのかわかりたい兄の世話を私がするのかそうなった場合の対処や考えを教えてほしい。これから兄は私よりも力や体格が大きくなるし、ぼうりよ的になってしまったらどうすればいいのか?できる限りでいいから、将来の事を他の兄弟達や親せきに伝えるべきです。

私は自分から送り迎えをしたいと思い、夏休みに手伝うていどですが、私なんかより大変な人はもっとたくさんいると思うのでこのアンケートの回数が増えたらいいと思いました。

(時間がほしい、休みがほしい)

時間 (2)
自由な時間 (2)
その子がお世話している分、自由な時間を作ってあげると良いと思う。
家族の世話をしている子どもが友達と遊べる時間を作ってあげるなど。
自分の時間・リラックスする時間
親に何も注意されない時間を作る。
その子に好きなことをさせてくれる時間。
世話はするけど自分の時間を与えること、一人でも頼れる大人がいる事。
世話をしている分、ゆとりを持たせてあげるのが必要だと思う。

(協力、助けがほしい)

手伝ってあげてほしい (2)
手助けが欲しい。
助けてもらうこと。
みんなが助け合うことでこの世界は変わっていくと思います。みんなで助け合い協力していきましょう。
お手伝いさんが欲しい。
自分はちがうけど、お金の面での支援や専門のヘルパーなどやってあげたらよいと思う。
地域近りんと的交流もたくさんすること→万が一の時に大切。
ヤングケアラーの事をもっといろんな人、世代に知ってもらう。

(その他ほしいもの、ほしい支援)

気持ちの面とお金の事で助けてあげたらいいと思います。
たくさんのお金。気軽に話せるようにすること。自由。
勉強をしているときにわからない問題を教えて欲しいです。
金をあげる。
お金に困っているなら、補助金を出してあげてほしい。
生活ができる最低限のお金をあげる。家族の病気を理由に世話をしている人はその病気を治す事ができる技術ある病院や施設、年齢の影響の場合は、老人ホームや施設に家族を送る。
政府に金をだしてもらう。
子どもの生活環境を整えてあげてほしい。

ヤングケアラーが増えてきているようなので、何か取り組むことが必要なんだと思います。
養護施設をもっと増やして、簡単に入れるようにしてほしい。
世話をしてくれる専門の人を家に呼ぶ。悩みを聞いてあげる。
全て子どもに任せるのではなくヘルパーさんなどに相談することが必要だと思う。
障害者手当のような金銭的な援助の申請を分かりやすく簡単にかつ厳重に行う事。目が届かないところで苦しんでいる人を見つけること・気軽に相談できる窓口を設置すること。

(家族のお世話について思っていること)

お父さんとお母さんだけでは家の事を済ませるのは大変だから常に家族の役に立ちたいとおもっている。
世話をしている人の事をよく知って自分の出来るはんいの事を全力でそっせんしてやる事。
楽しむこと(2)
うるさくしないでください。
家族の考えや違いっていうのを否定しないでほしい。
変な同情とがなく、いつも通りに接して、その上で理解する。
やりがいを知ってほしい。
すぐくえらいからほめてあげたいとか。
感謝される。
とにかく家族と常に仲良くする。それで助けてもいい時にすぐ対応してくれる。
その子に気づかって他の家族もすることが大事。
相手の気持ちを考え、お互いを信じる。
意見を聞く。
一人一人の意見を大切にすることだと思います。
自分にできることを教えてほしい(能力)。
理解すること。
子どもまだ小さいから出来ないこともあるからできないところをしてあげる。
弟はうるさいです。
遊んであげる。
障害者の事を知ってください。確実に周りにいますから、辛さを知ってください。「大変だね。」という言葉だけで済まさないでください。心配してあげてください。
家族になるべくストレスをためさせないでなるべく楽な状態にしておきたい。
自分が~だったらどうしてほしいかを教えて、世話をするといいと思います。
怒ったり、きげんを悪くして接しない事。

感謝すること。
明るく接する態度。
あまり、せかさないでほしいです。家で自由に過ごせる時間は2時間ほどですその中でお風呂に入ったりご飯を食べたりしなきゃいけないので勉強したくても少ない時間でしかできません。そのところ理解してほしいです。
子どもにもできることは限りないから、風呂やトイレなどは同性の人がやってほしい。
家族の世話は「やれっ」言われるからやるんじゃなくて家族のために手伝うと思った方が良い。
安楽死制度やれ。
がまんすること。
必要だと思ったことは、お手伝いを毎日できるようにする。
声がうるさい・冷静の判断すべきだと思う。
食べる。
(家族のお世話との関連性がうすいとおもわれること)
スポーツのこと、ボランティア活動のこと等(5回答)

第5章 ヤングケアラーに関する学校調査

(教員対象 単純集計)

5-1 属性

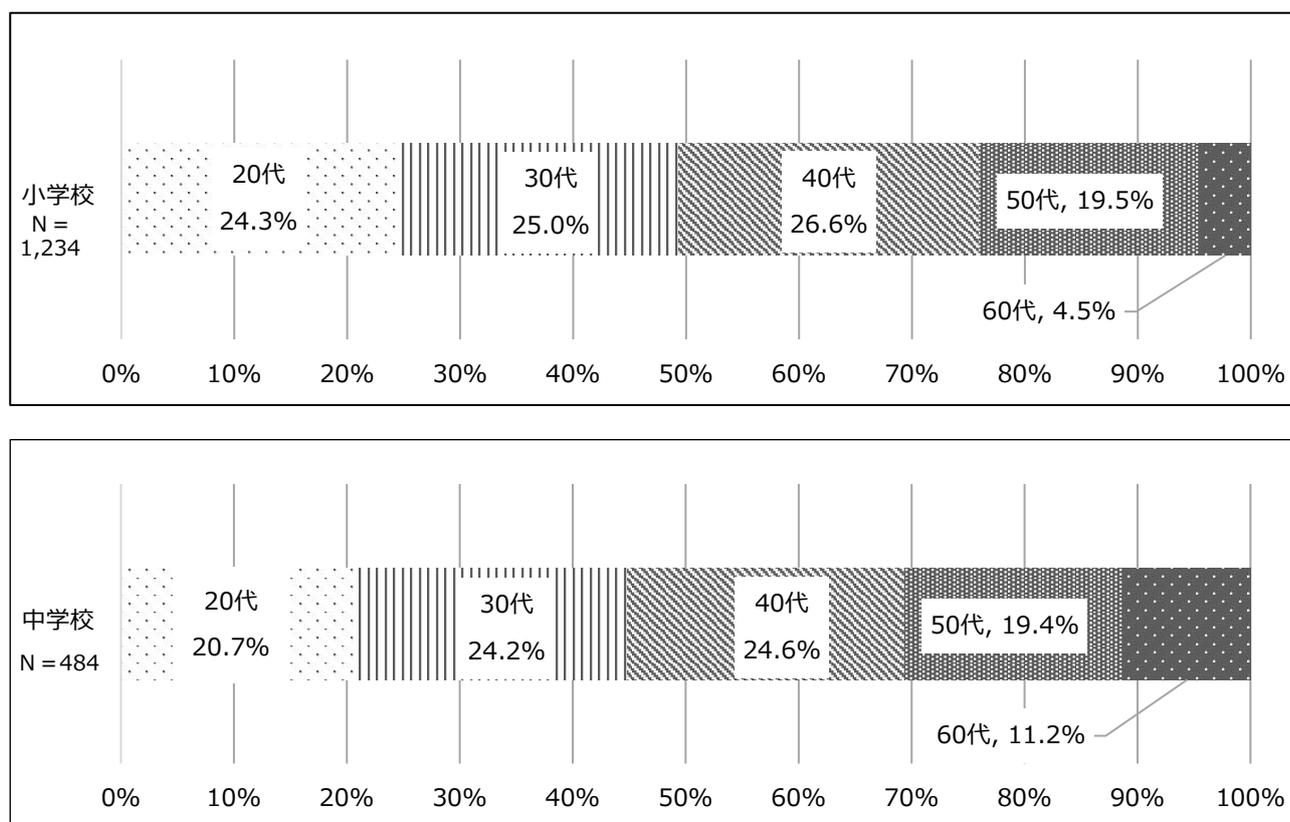
【問1】(単一回答) 所属を教えてください。

図表 5-1-1 回答者の所属

	対象者数	回答数(回収率)
小学校	1,737	1,234件 (71.0%)
中学校	829	484件 (58.4%)

【問1-2】(単一回答) あなたの年齢を教えてください。

図表 5-1-2 回答者の年代

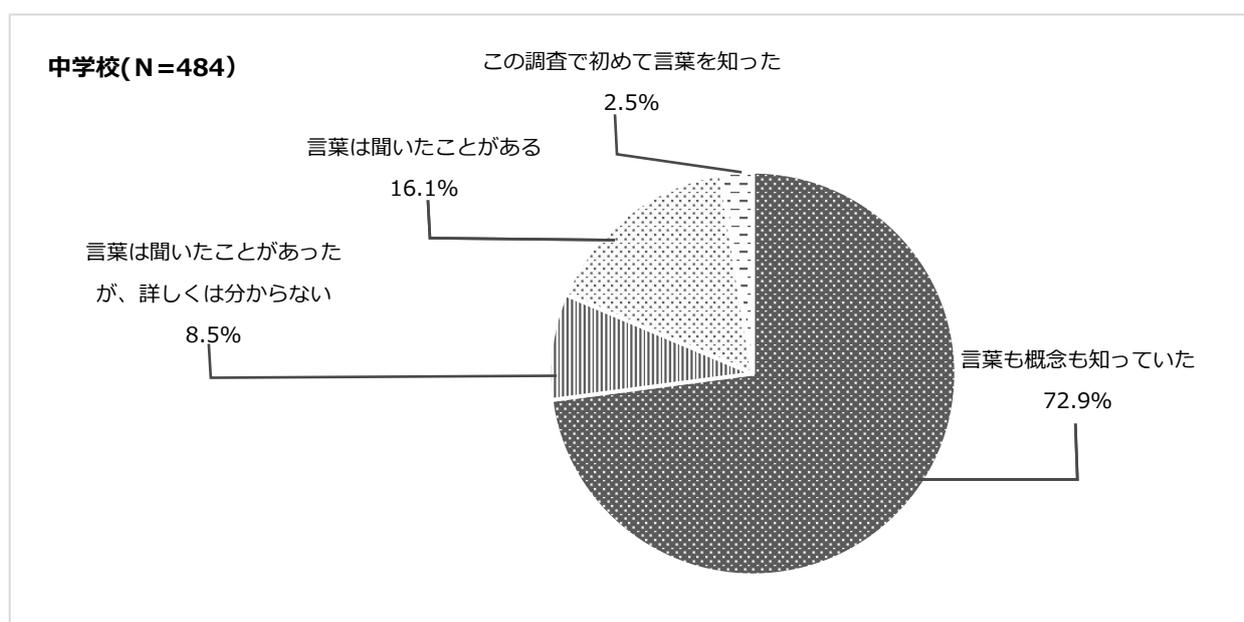
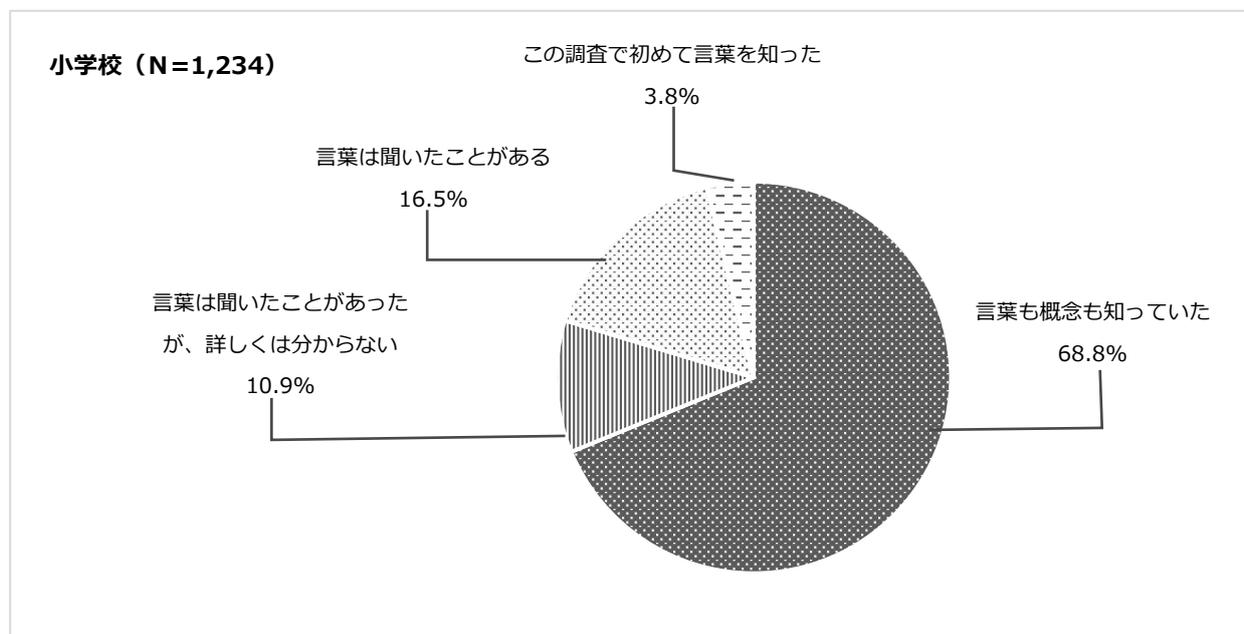


5-2 ヤングケアラー概念の認知度

「言葉も概念も知っていた」と回答した教員の割合は小学校、中学校とも7割近くになっている。「言葉は聞いたことがあったが、詳しくは分からない」、「言葉は聞いたことがある」、「この調査で初めて言葉を知った」の合計は約3割あり、今後も周知・啓発を丁寧に行う必要がある（図表5-2）。

【問2】（単一回答）あなたは「ヤングケアラー」という言葉や概念を認識していましたか。

図表 5-2 ヤングケアラー概念の認知度



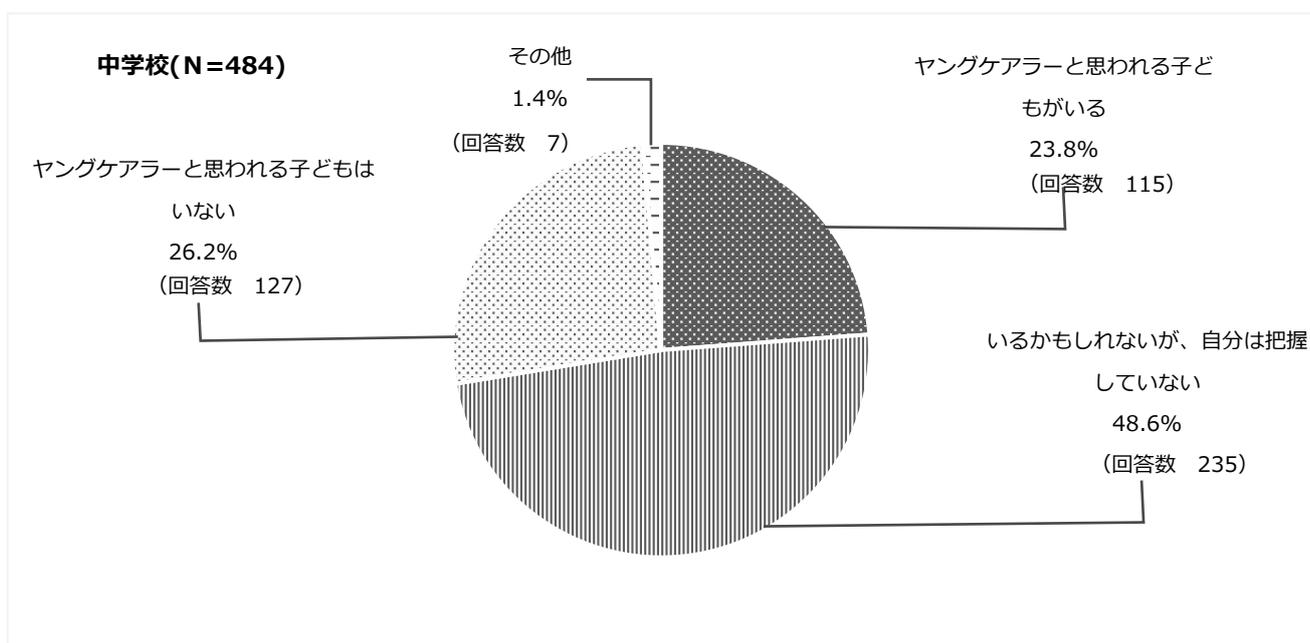
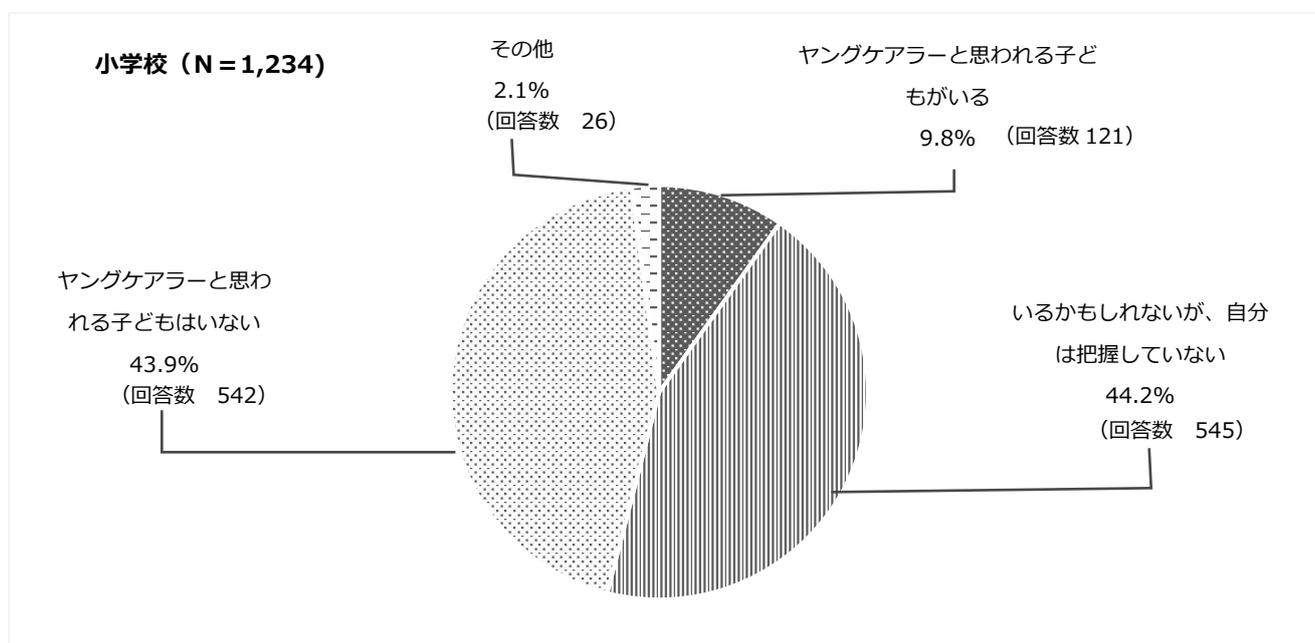
5-3 ヤングケアラーの把握

ヤングケアラーの把握については、小学校と中学校の回答で差異があり、「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」の回答は小学校では約1割、中学校では2割以上となった（図表5-3）。

教科担任制の中学校では、ヤングケアラーと思われる子ども1人について複数の教員が認知し、回答している影響が考えられる。また、「いるかもしれないが、自分は把握していない」、「いない」と回答した教員が、小学校、中学校ともに多くなっている。

【問3】（単一回答）現在、勤務する学校全体にヤングケアラーと思われる子どもはいますか。

図表 5-3 ヤングケアラーと思われる子どもの存在



5-4 教員が把握しているヤングケアラーの状況

ヤングケアラーと思われる子どもに気付いた要因として、「家族の世話をしている旨の発言があった」との回答が、小学校、中学校ともに5割以上と多くなっている。他には「提出物などの遅れ」「遅刻、欠席、早退が多い」などの回答が多い（図表 5-4-1）。

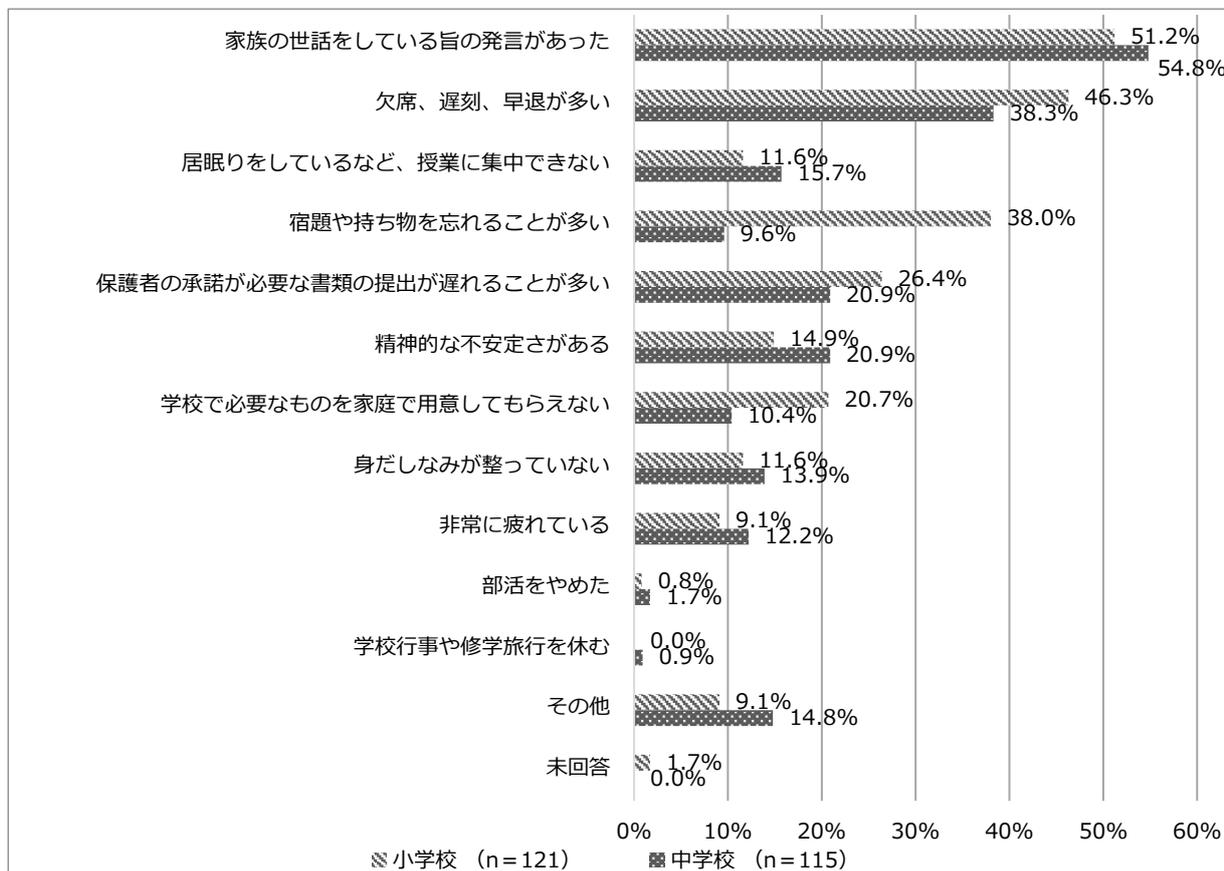
子どもの世話の把握状況については、ヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した教員の3割前後（小学校 32.2%、中学校 26.1%）が「把握している」と回答しているほか、発見した複数の子どものうちの一部の子どもについては状況を把握している、といった回答も、小学校で 43.8%、中学校で 59.1%あった（図表 5-4-2）。

把握した世話の内容については、「家事（掃除、食事の支度、洗濯など）」、「幼いきょうだいの世話」、「目が離せない家族の見守り」が多いが、児童・生徒実態調査では確認が難しかった「精神的に不安定な家族の世話」、「依存症の家族の対応」についても小学校、中学校ともに回答があった（図表 5-4-4）。

これらの事例をヤングケアラーからのサインや実態として共有し、発見から支援にどのようにつなげていくかを示していく必要がある。

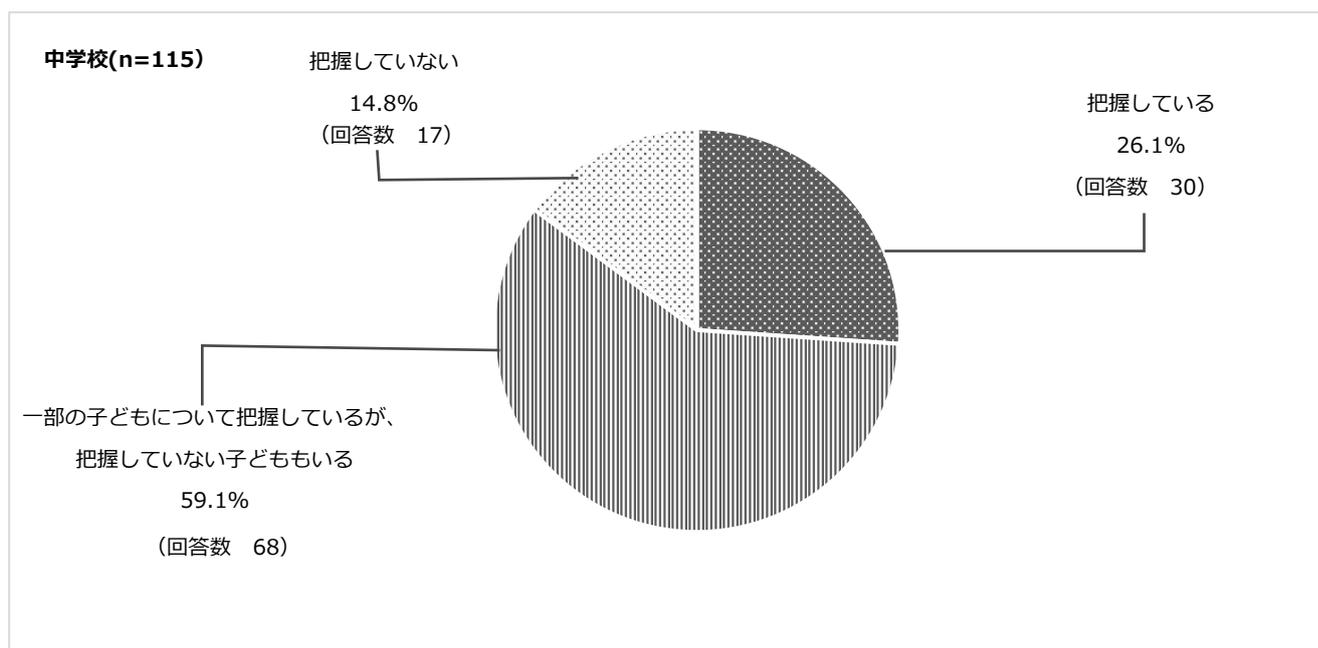
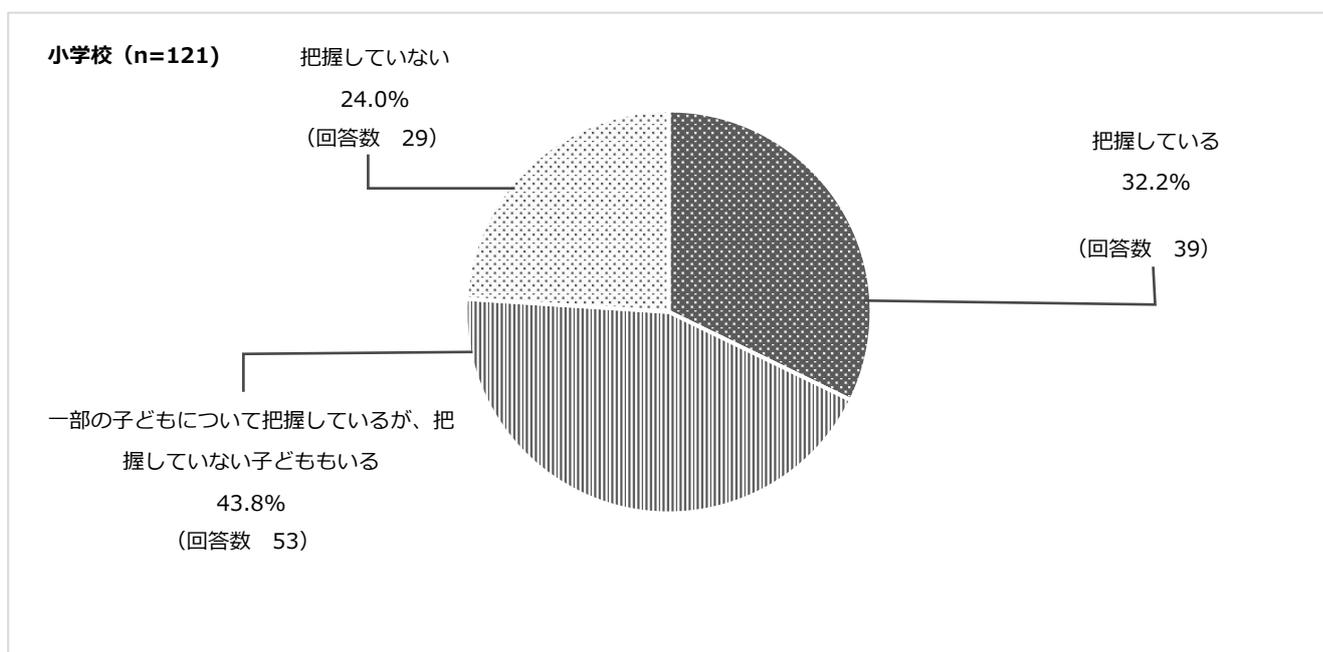
【問 3-2】（複数回答）ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたきっかけは何ですか。

図表 5-4-1 ヤングケアラーに気づいたきっかけ



【問 3-3】（単一回答）ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を把握していますか。

図表 5-4-2 子どもの世話の把握状況

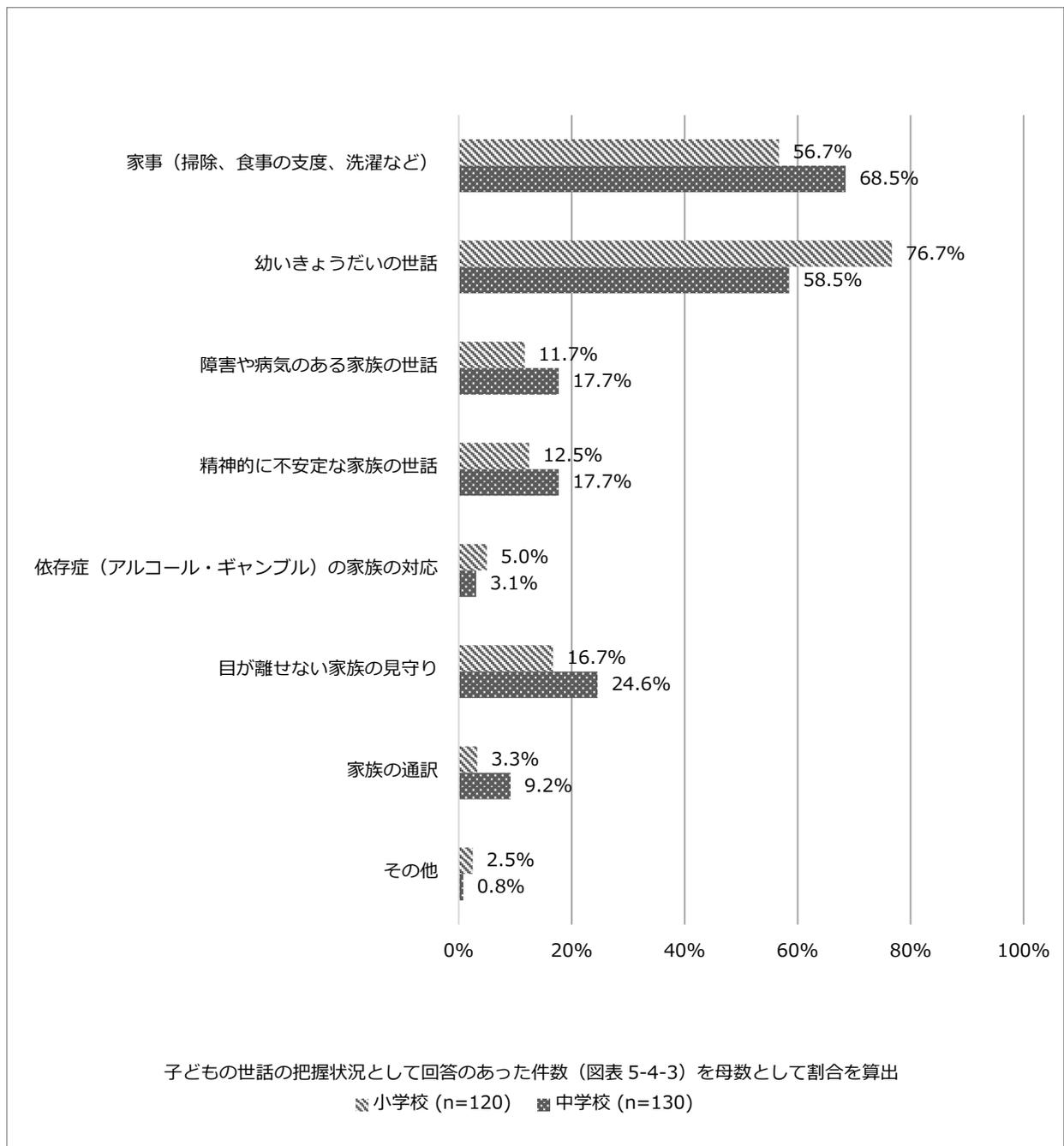


【問 3-3-2】(複数回答) ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください。

図表 5-4-3 子どもの世話の把握状況(世話の内容の回答件数)

	小学校 (n=92)	中学校 (n=98)
子どもの世話の状況を把握しているとして、世話の内容の回答があった件数(1回答者最大3件まで記載)	120	130

図表 5-4-4 教員が把握した世話の内容



5-5 学校で行っているヤングケアラーへの支援

「ヤングケアラーがいる」と回答した教員にヤングケアラーへの支援の有無を聞いたところ、小学校で 44.6%、中学校で 34.8%が「支援を行っている」と回答しているほか、発見した複数の子どものうちの一部の子どもについては支援を行っているという回答も小学校で 24.8%、中学校で 30.4%あった。一方で、小学校、中学校で 3 割前後の教員が、「支援を行っていない」と回答している（図表 5-5-1）。

支援の内容として多い回答は、小学校、中学校とも「子どもの話を聞いている」、「学校で情報を共有し、支援に向けて検討している」、「区の支援機関と連携している」であった（図表 5-5-2）。

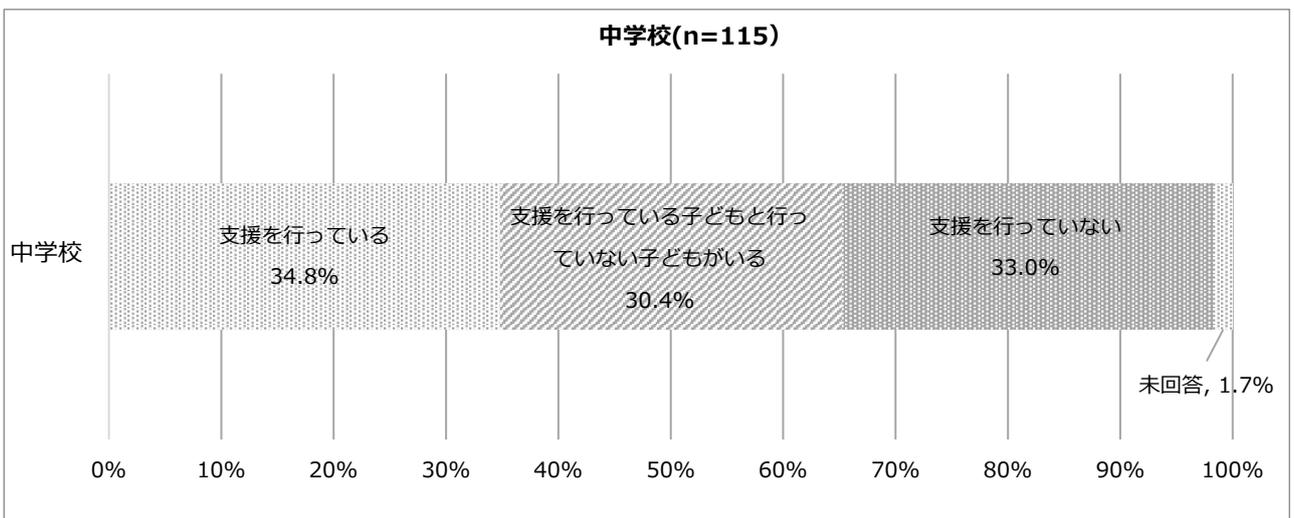
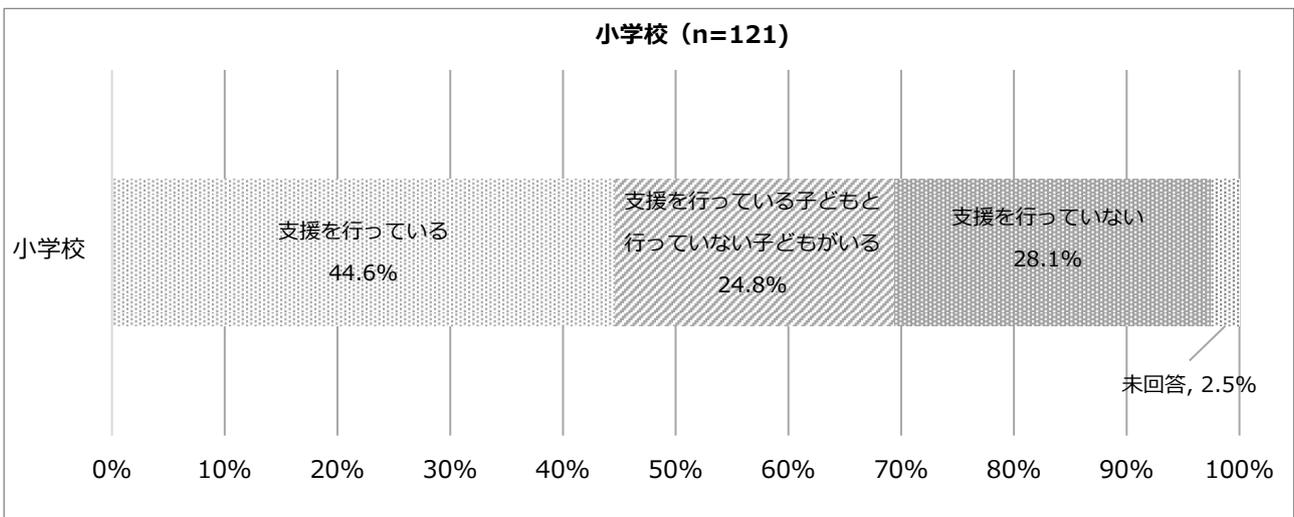
支援を行っていない理由としては「本人や家族に自覚がない」、「家庭のデリケートな問題に学校が関われない」、「支援の方法が分からない」などの回答があり、中学校では「家庭のデリケートな問題に学校が関われない」の回答が特に多くなった。また、「保護者が支援を拒否した」との回答も一部あった。回答からは、学校側から家族の問題にアプローチすることの難しさが読み取れ、ヤングケアラーの存在を認知しても、支援につながらない場合があることがわかる。

「支援の必要な状況ではない」という回答については、児童・生徒実態調査の結果からもわかるように、ヤングケアラーの多くは緊急の支援が必要な状況ではないということと関連があると考えられる。また、「そもそも学校が家庭内の状況に関わるべきではない」という回答が少数あった（図表 5-5-3）。

【問 3-4】（単一回答）問 3 でお答えいただいた子ども（ヤングケアラーと思われる子ども）に、現在、学校として何らかの支援を行っていますか。

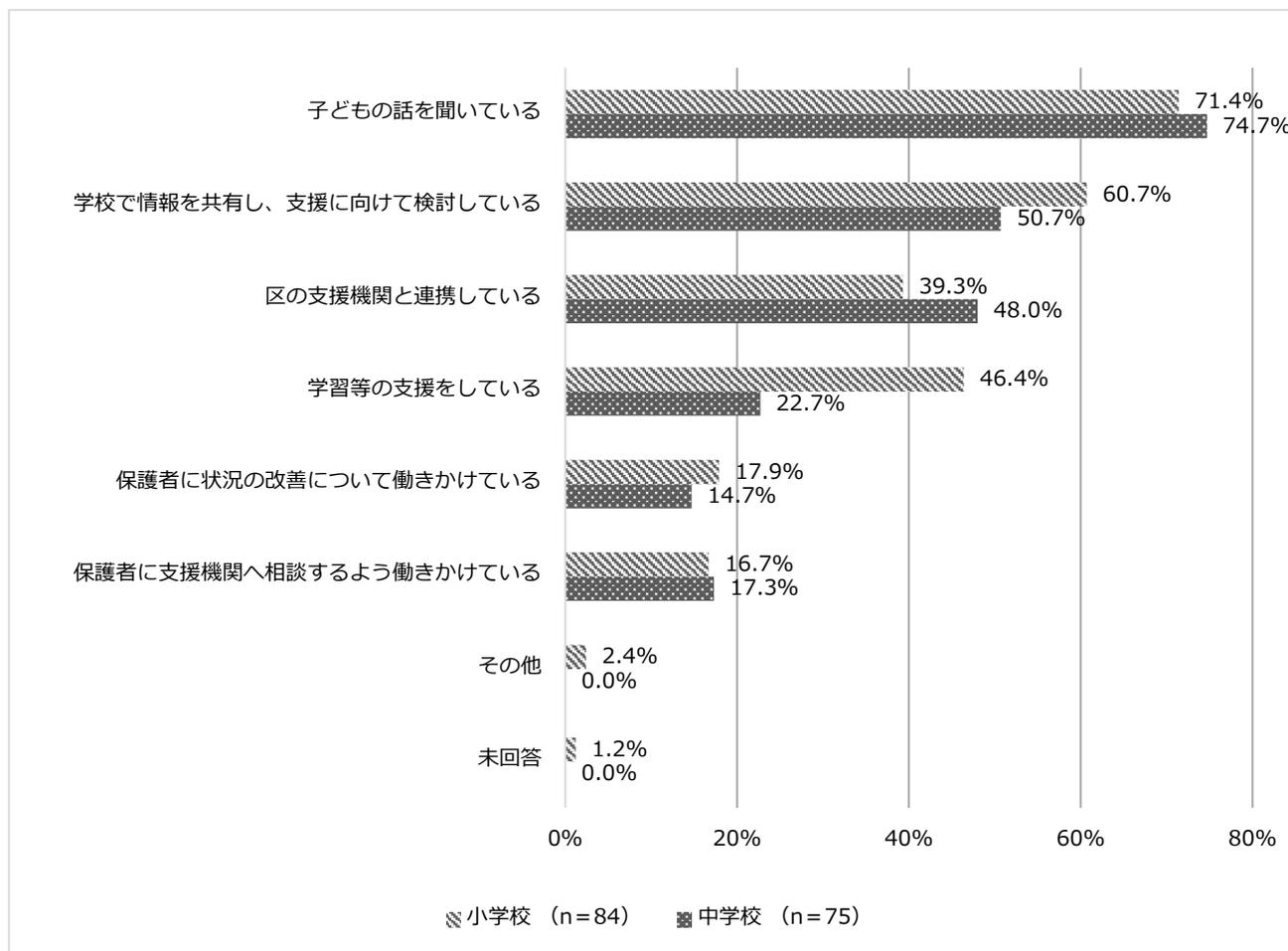
図 5-5-1 支援の有無

	小学校 (n=121)	中学校 (n=115)
支援を行っている	44.6% (54)	34.8% (40)
一部の子どもに支援を行っているが、支援を行っていない子どももいる	24.8% (30)	30.4% (35)
支援を行っていない	28.1% (34)	33.0% (38)
未回答	2.5% (3)	1.7% (2)



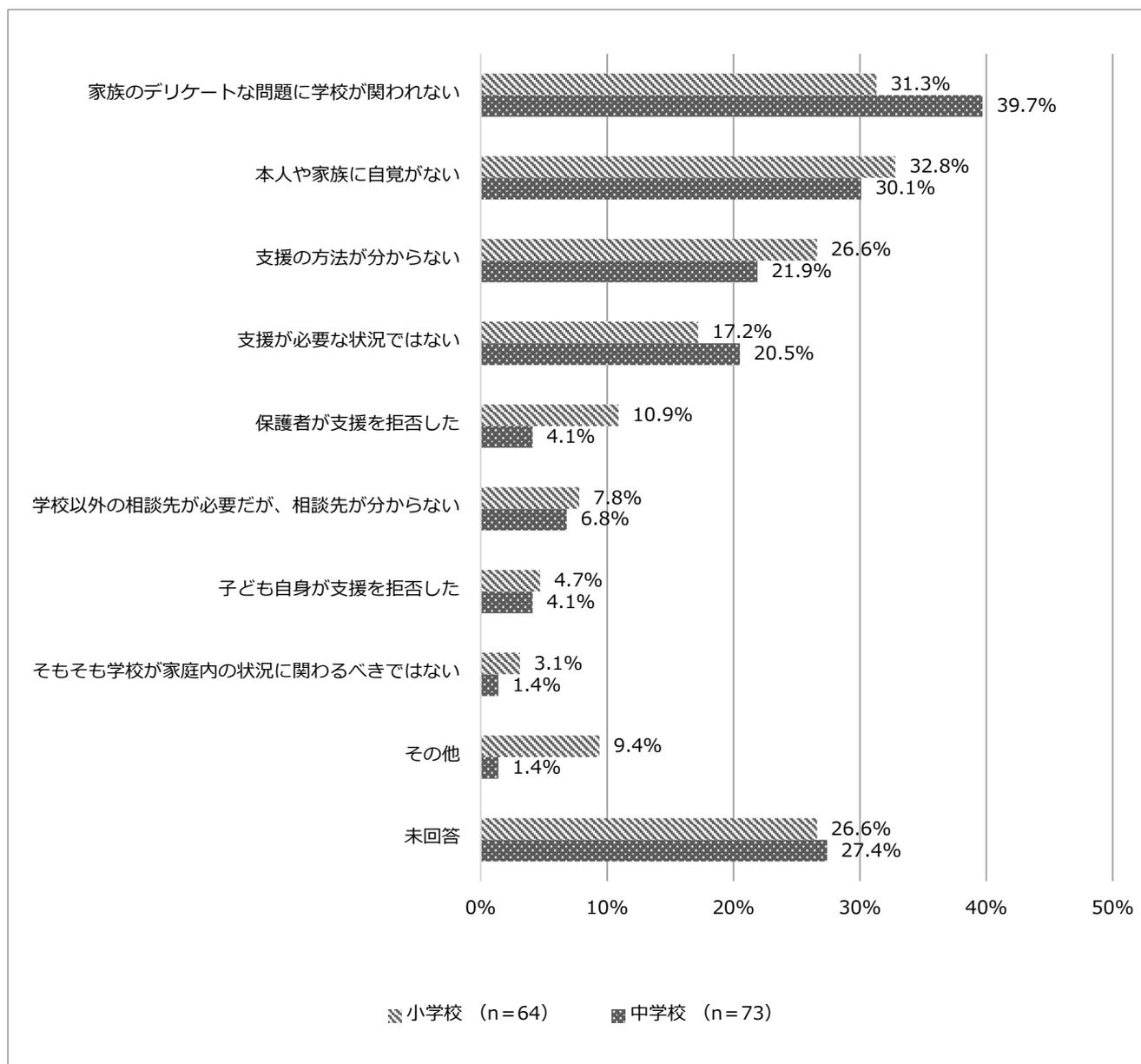
【問 3-4-2】（複数回答）行っている支援の内容を教えてください。

図表 5-5-2 支援の内容



【問 3-4-3】(複数回答) 支援を行っていない理由や要因としてあてはまるものを教えてください。

図表 5-5-3 支援を行っていない理由



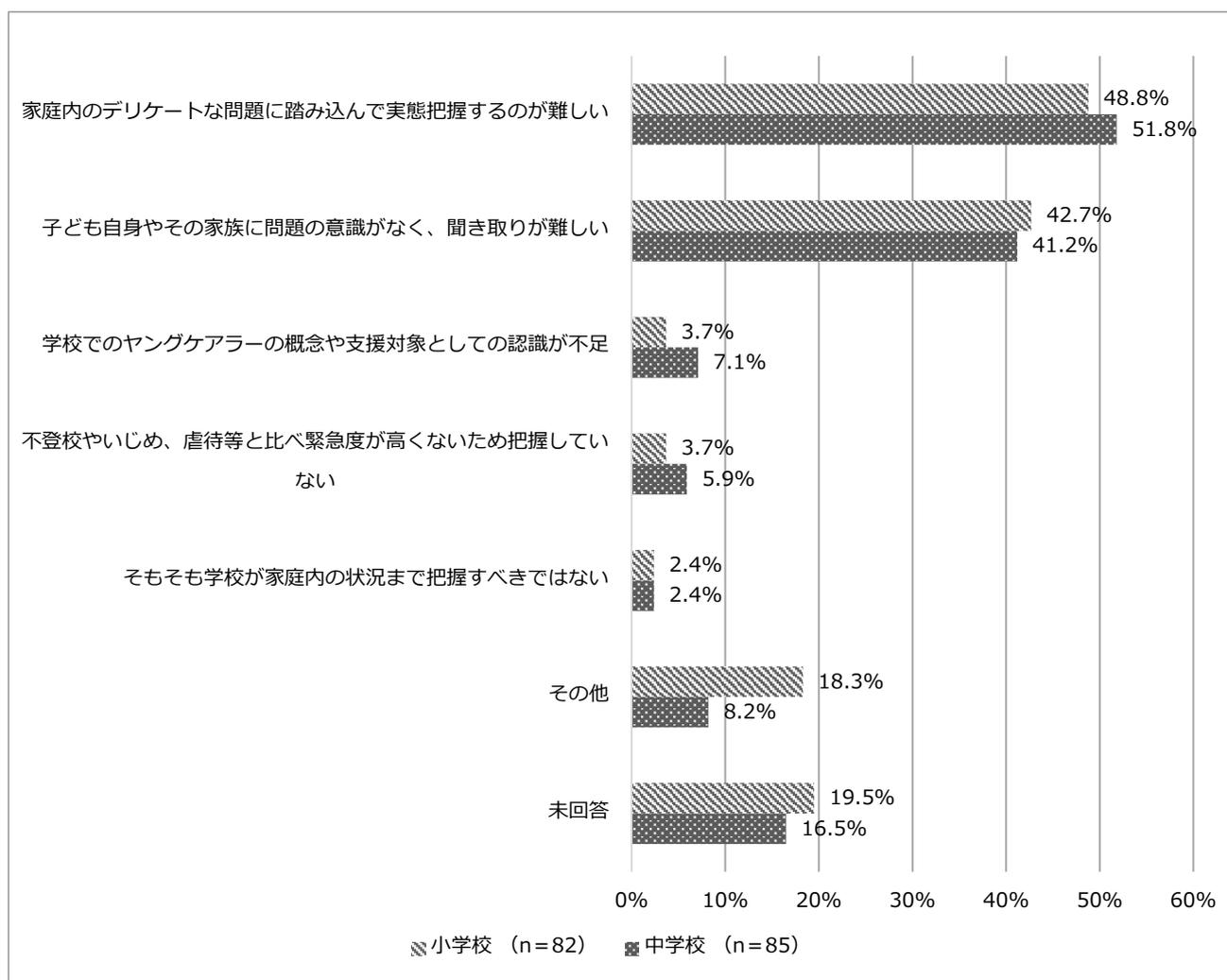
5-6 教員がヤングケアラーを把握できない理由

ヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した教員のうち、小学校 24.0%、中学校 14.8% が子どもの世話の状況を「把握していない」と回答しており、発見した複数の子どものうちの一部の子どもについては把握しているが、把握していない子どももいる、という回答も小学校で 43.8%、中学校で 59.1%あった（図表 5-4-2）。

把握していない理由について、「家庭内のデリケートな問題に学校が踏み込んで実態把握するのが難しい」、「子どもや家族に問題の意識がなく、聞き取りが難しい」が、小学校、中学校ともに多いことから、支援が必要であるという認識はあっても、実際には踏み込むことが難しいと考えている教員が多いことが分かる（図表 5-6）。

【問 3-3-3】（複数回答） 家族の世話の状況を把握していない理由を教えてください。

図表 5-6 把握できない理由



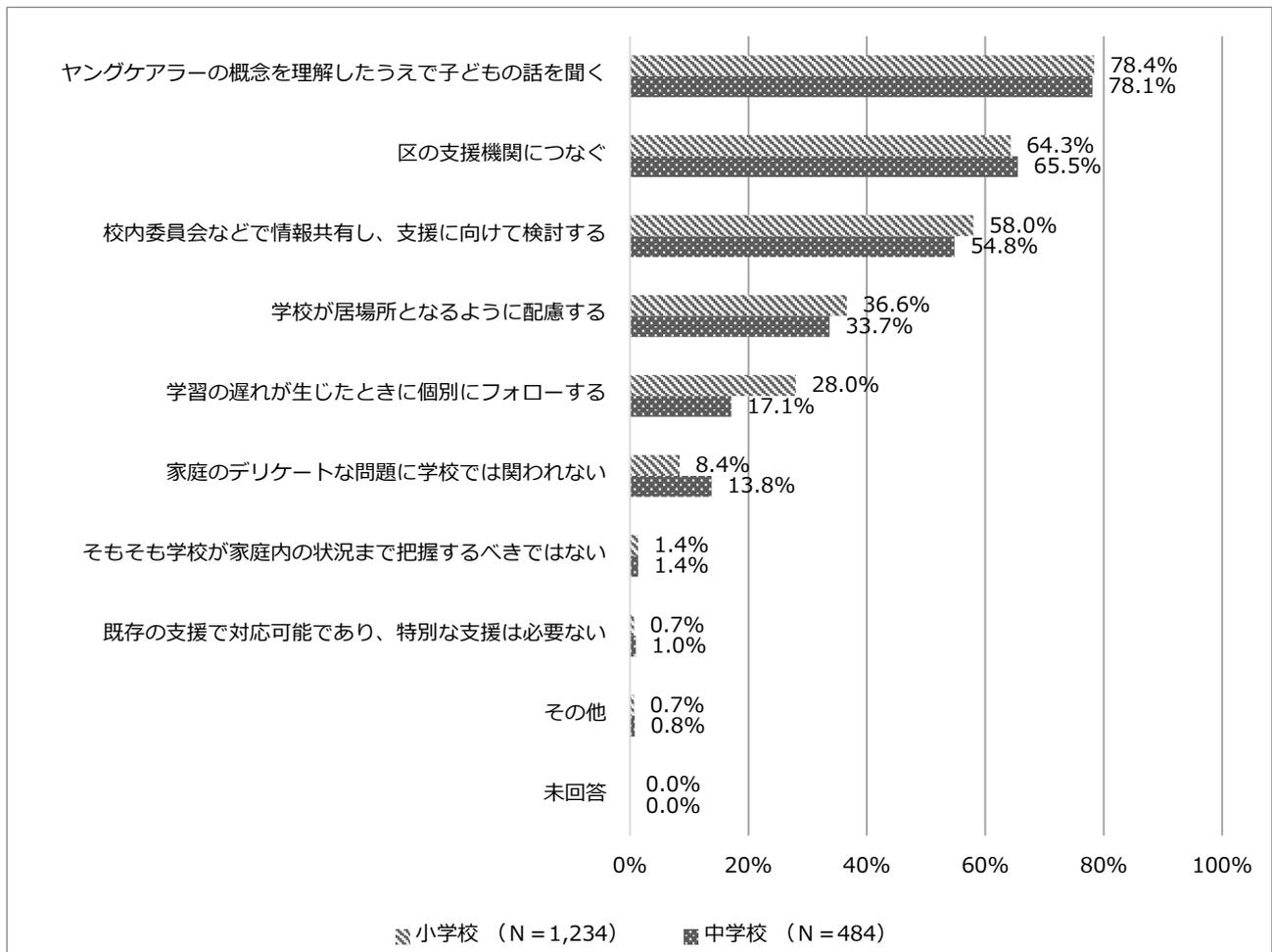
5-7 ヤングケアラー支援に対する教員の思い

ヤングケアラーの支援についての設問では「ヤングケアラーの概念を理解したうえで、子どもの話を聞く、声をかける」、「区の支援機関につなぐ」、「校内委員会などで情報共有し、支援に向けて検討する」の回答が多く、校内で組織的に対応しようと心がけていることが分かる（図表 5-7-1）。

校種によって大きく回答に差異はないため、概ね「課題」と感じていることは同じであると考えられる。「本人や家族にヤングケアラーという問題の認識がなく、支援の理解が得られない」という回答や、一部の教員からは「そもそも学校が家庭内の状況までを把握するべきではない」との声もあった（図表 5-7-2）。自由記述では、上記の課題に加え、きめこまやかな対応をすすめるための教員の時間確保の課題や体制づくりに関する記述、家庭の考え方に対する啓発・アプローチが必要だとする記述があった（図表 5-7-3）。

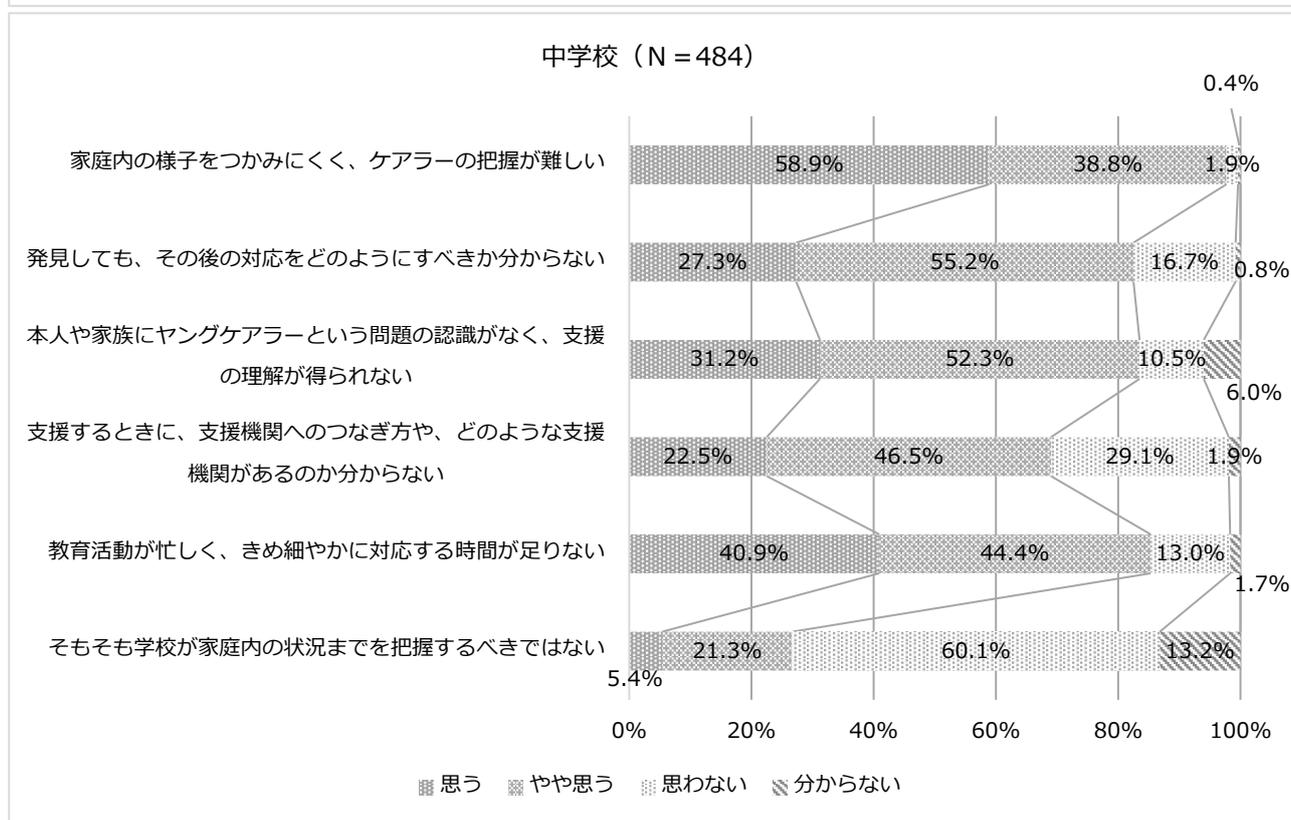
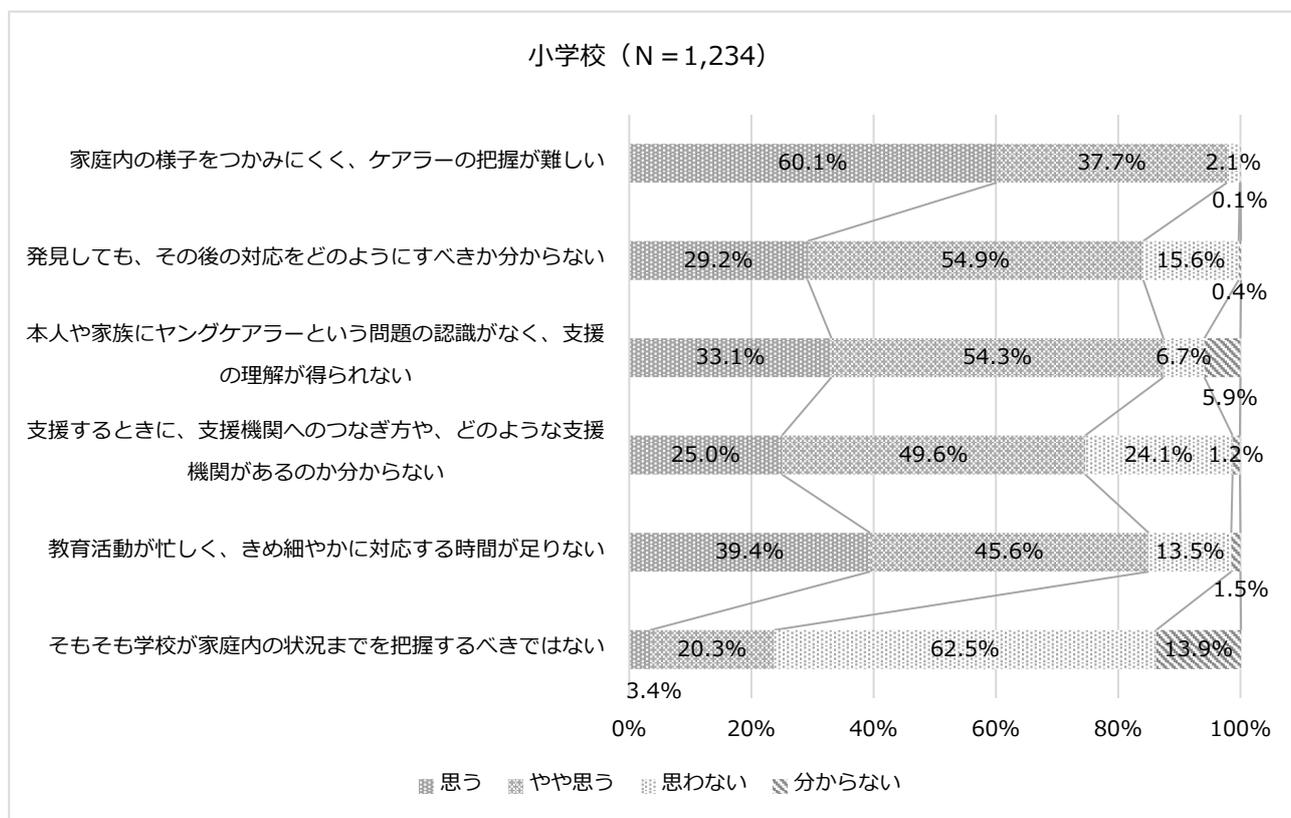
【問 4】（複数回答）ヤングケアラーへの支援について自分の考えに近いものを選択してください（3つ以内）。

図表 5-7-1 ヤングケアラー支援に対する考え



【問5】ヤングケアラーへの支援を学校で行うにあたり、あなたが課題と思うことを教えてください。（各項目について「思う」「やや思う」「思わない」「わからない」のいずれかを選択答）

図表 5-7-2 ヤングケアラー支援の課題



【問6】（自由記述）ヤングケアラーへの支援について、ご意見があればお聞かせください。

図表 5-7-3 ヤングケアラーの支援に対する意見

	小学校 (N = 1,234)	中学校 (N = 484)
記載	16.0%	20.7%
未記載	84.0%	79.3%

自由記述（代表的なものを抜粋）

発見に関する課題

- ・手伝いなのか、ヤングケアラーなのかの判断が難しいため、線引きができない。
- ・子ども自身が「話したくない」と思ってしまえば、介入できない部分もある。
- ・家のことも自分のこともきちんとできる子どももいるため、問題が顕在化してこないという現状もある。

体制づくりに関する課題

- ・子どもたちが SOS を出しやすい環境を整える必要がある。
- ・校内の支援体制を見直し、支援するための体制づくりが必要である。
- ・支援するにあたり、「フローチャート」があると助かる。
- ・学校と福祉関係の部署との連携が必要である。
- ・支援すべき子どもが見つかったときの、実際の「つなげ方」が分からない。
- ・研修など、学ぶ機会がほしい。
- ・心のケアの充実が必要である。

時間確保の課題

- ・教育活動その他の事務作業、他の子どもの対応もあり、対応する時間が足りない。
- ・勤務時間内に授業があるため、家庭に介入するといったきめ細やかな対応をしようと思うと、勤務時間外の対応になってしまう。

家庭支援に関する課題

- ・家庭そのものの考え方があるため、学校や教師が入り込めない場合がある。
- ・家庭での考え方に対してアプローチしてほしい。
- ・保護者への啓発方法などの工夫が必要だと思う。

第6章 ふれあい月間調査（令和4年6月期）

（児童・生徒調査）

6-1 回収状況

区立小中学校の児童・生徒全員を対象としていじめや不登校などの悩みの把握を行うふれあい月間調査を実施している。令和4年6月の実施時には、ヤングケアラーを把握するための設問「家事や家族の世話などで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」を追加して調査した。

図表 6-1 回収状況

	対象者数	回答数（回収率）
小学生	33,666 人	32,966 件（97.9%）
中学生	13,449 人	12,691 件（94.4%）

6-2 調査結果

区立小・中学校全校で、いじめや不登校などの悩みを把握する目的で行っているふれあい月間調査に、ヤングケアラーを把握するための設問を追加した。「家事や家族の世話などを行うことで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」の設問に「はい」と答えた子どもの数は、世話をすることで遊ぶ時間や勉強する時間に影響が出ている子どもの数である。

家庭と生活状況調査では、【問 16】「お世話をすることで次のようなことがありますか」により、世話をすることによる影響を尋ねている。【問 16】で「自分の時間や友だちと遊ぶ時間が取れない」の区分を選んだ子どもの数は、小学6年生で25人（0.46%）、中学2年生で18人（0.43%）であった。調査方法（記名式、無記名式など）の違いや設問の設定により、結果に差が出ていると考えられる。

【設問】(単一回答) 家事や家族の世話などを行うことで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい。

図表 6-2 調査結果(全体状況)

	「はい」と答えた子どもの数	対象者数に占める割合
小学生	489 人	1.5%
中学生	41 人	0.3%

図表 6-3 調査結果(学年別状況)

小学校	対象者数 (割合)	中学校	対象者数 (割合)
第1学年	215 人 (3.9%)	第1学年	25 人 (0.6%)
第2学年	102 人 (1.8%)	第2学年	10 人 (0.2%)
第3学年	68 人 (1.2%)	第3学年	6 人 (0.1%)
第4学年	54 人(1.0%)	/	
第5学年	30 人 (0.6%)		
第6学年	20 人 (0.4%)		
計	489 人 (1.5%)		
小中学校計		530 人 (1.1%)	

第7章 ヤングケアラーの実態把握について（調査結果と考察）

7-1 調査の特徴

本調査の実施にあたり、国のヤングケアラー実態調査を参考に設問を設定した。ただし、国の調査をより掘り下げる目的で、区独自の設問「世話が必要な家族がいるか」を加え、設問の順番は変更している。また、調査設計、実施にあたっては、児童・生徒の心の負担等に配慮し、ヤングケアラーの実態により近づけるよう、できる限り子どもの本音を引き出す工夫を2点行った。

- 1点目は、本調査がヤングケアラー実態調査であることを、児童・生徒に意識させないように実施したことである。ヤングケアラーの問題がメディア等で取り上げられる機会が増え、ヤングケアラーであることが「自分がかawaiiそうな子」、「自分の親はひどい親と思われている」というように子どもの自尊感情を傷つける可能性がある。そのため、調査にあたっては、調査名を「家庭・生活状況調査」とし、「ヤングケアラー」の文言の使用は極力控えている。ヤングケアラーの文言を使用した設問は、調査最後の1問（「認知度」）で、生活満足度とともに全児童・生徒が回答する設問とした。また、学校には「子どもが家庭でお手伝いをするのは良いこと」の認識で児童・生徒が回答できるような配慮をお願いした。
- 2点目は、調査を学校の特別活動等の時間で実施したことである。調査のためにヤングケアラーの自由な時間を費やすことなく、保護者や世話の対象のいない場所で、子ども自身の意見や気持ちを自由に回答できるようにした。

7-2 「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」の分類について

本調査において、区立学校の小学6年生の7.8%、中学2年生の6.6%が、「家族の世話をしている」と回答しており（図表 1-1-2）、これは令和2年から令和4年にかけて実施された国の調査の結果（小学6年生6.5%、中学2年生5.7%）よりやや高い割合となった。国の調査報告では、子どもが家族の世話をしている数に「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」が混在している可能性が指摘されている。本調査においても、その可能性があり、特に調査にあたって行った配慮（7-1）によりその傾向が強くなったことも考えられる。

また、第1章の「世話が必要な家族はいない」群と「世話をしている」群の比較では、各群の特徴は世帯構成のみ（「ひとり親」や「3世代」の割合が高い）に現れ（図表 1-2-1-2）、児童・生徒の生活状況（睡眠時間、朝食の喫食状況、勉強時間、自由時間）にはほぼ差がないことがわかった（図表 1-2-2-3、図表 1-2-2-4、図表 1-2-3-1、図表 1-2-3-2）。生活満足度では、平均に大きな差異はないものの、回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値では中学生の「家族の世話をしている」群が「世話が必要な家族はいない」群より高い値となっている（図表 1-3）。

これらの結果は、「世話をしている」群に属する児童・生徒の多くが、世話をしていない子どもたちと同様の生活状況にあり、世話の程度が「お手伝いの範囲」であるか、もしくは生活に支障のない（支援を必要とする可能性の低い）ヤングケアラーであることを示唆している。本調査の目的でもある支援が必要なヤングケアラーの実態把握のためには、「世話をしている」群をさらに分析し、ヤングケアラーに近い集団を「家族の世話をしている」群から区分する必要がある。そこで、本調査では「世話をしている」群を、さらに家族の世話における子どもの世話の関わり方（第2章）や世話の時間の長さ（第3章）で区分することを試みた。

7-3 子どもの世話の関わり方と時間の長さによる分類の評価

第2章においては、世話の関わり方による分類を行い、「世話をしている」群を「自分だけで世話をしている」群、「自分と家族で主に世話をしている」群、「主に世話をする人は別にいる（自分以外）」群の3区分とした（図表 2-1-3）。この3区分の群間で、生活状況に関して比較した場合、特徴的な傾向はほぼ認められず、朝食の喫食状況のみ、中学生の「自分だけで世話をしている」群が他の群より低くなった（図表 2-5-1-2）。世話に関する設問においては、「自分だけで世話をしている」群の回答は、他の群と差異がある項目が多く、生活満足度の平均は、中学生の「自分だけで世話をしている」群は、他の群より明らかに低かった（図表 2-6）。7-2 で「世話をしている」群の生活状況の傾向が他の児童生徒と変わらなかったことを踏まえると、他の児童・生徒と違った傾向を示す「自分だけで世話をしている」群はヤングケアラーとして着目すべき群であり、支援の検討においてはこの群の意見を尊重する必要がある。ただし、本調査において「自分だけで世話をしている」群のデータの個数は、小学生 32 件、中学生 11 件と極めて小さいことから個別事象の特徴が表出している可能性もあり、評価は慎重に行う必要がある。

第3章においては、世話の日数と時間によって世話の時間の長さによる分類を行い、世話の「時間の長い」群、「時間がやや長い」群、「時間の短い」群の3区分とした（図表 3-1-2、図表 3-1-3）。この3区分の群間で、生活状況に関して比較した場合、特徴的な傾向はほぼ認められず、朝食の喫食状況のみ、中学生の「時間の長い」群が他の群より「毎日食べている」が低くなった（図表 3-6-1-2）。また、世話に関する設問においても、「時間の長い」群の回答は、他の群と差異がある項目が多く、生活満足度の平均や、回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値においては、他群とは明らかに差異があった（図表 3-7）。前述の理由から、「時間の長い」群もヤングケアラーとして着目すべき群であり、支援の検討においてはこの群の意見を尊重する必要がある。

7-4 ヤングケアラーの実態把握

「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」とを判別しようとしたとき、他の児童・生徒の生活状況や世話の状況と差異がある「自分だけで世話をしている」群および世話の「時間の長い」群が「ヤングケアラー」の特徴を示す群として推察される。これらの群が全体に示す割合は、「自分だけで世話をしている」群であれば小学生の0.6%、中学生の0.3%、世話の「時間の長い」群であれば、小学生の1.6%、中学生の1.5%となる。以下、これらの群の調査結果の概要をまとめる。調査結果のまとめにおいて、中学生の「自分だけで世話をしている」群はデータの個数が極めて少ないことから、群の傾向は参考にとどめる。

日常生活の状況では、朝食の喫食状況以外の睡眠時間、勉強時間、自由時間は、他の群の児童・生徒とほぼ変わりがなく、世話により大きな影響を受けている様子はなかった。

なお、朝食の喫食状況が低いことは、ヤングケアラーの様子でよくあげられる「給食をよく食べる（お替りが多い）」といった事象と関連性があると考えられる。

世話をすることによる影響としては「特にない」が7割あり第1位となっている。次いで「宿題忘れや持ち物の忘れ物が多くなった」が中学生の約2割（小学生は約1割）、「友だちと遊ぶ時間や自由な時間がない」が約1割となっている。国の調査では、世話の影響としてではなく、日常の状況として「宿題忘れや持ち物忘れ」を質問したところ、「世話をしている」子どもの4割以上で「宿題忘れや持ち物忘れ」に回答があり、本調査の回答とは差異があった。また、ヤングケアラーの特徴とされる「遅刻・欠席・早退」の回答も本調査ではわずかであった。これは、子ども自身が「宿題忘れや持ち物忘れ」などの様々な状況が「世話をすること」の影響によるものかの判断ができず、そうした状況があっても回答しなかった可能性がある。また、「特にない」が多いことも、同様の理由が考えられる。

世話の対象としては、「母」、「弟・妹」が高い割合であり、内容は「家事」、「見守り」、「話し相手」、世話をする理由は「家族が仕事で忙しいから」、「当たり前だから」、「自分が世話をしたいと思うから」の回答が多くなっている。また、世話の内容に「入浴やトイレの手伝い」も一定の回答があった。一般的に「入浴やトイレの手伝い」については高齢者をイメージしやすいが、今回、回答を詳細に分析したところ、本調査において「入浴やトイレの手伝い」を選択した児童・生徒の約9割が、世話の対象として「弟・妹」を選択していた。

世話することについて思っていることでは、「当たり前だと思う」、「やりがいを感じている」が高い割合を示しながらも、「つらい気持ちになる」が中学生の「時間の長い」群で2割以上、「体がつらい時がある」も小学生、中学生ともに1割程度いることから、これらの群の中で世話をすることの負担を感じている児童・生徒が一定数いることがわかった。なお、「特にない」と回答した児童・生徒も「自分だけで世話をしている」群の5割、「時間の長い」群で3割いた。

世話に関する相談経験は、小学生、中学生ともに2割程度に相談経験があり、家族か友人に相談している様子がある。相談経験のない児童・生徒の「相談していない理由」は「誰かに相談するほどの悩みではない」、「相談しても変わらないと思うから」が多くなっている。また、「その他」の回答も2割から3割程度あり、「そもそも悩みがない」、「相談が必要なことではない」といった趣旨の記述が多かった。また、「相談する相手がいるか」には約4割が「いない」と答えている。

7-5 ヤングケアラー支援に向けて

「助けてほしいこと」について、「自分だけで世話をしている群」および「時間の長い」群の約6割の児童・生徒が「特にない」と回答している。ほかに回答が多かった項目は、小学生は「話を聞いてほしい」、「自由な時間がほしい」、「自由に過ごせる場所がほしい」、「勉強を教えてほしい」が1割前後であった。中学生では「自由に過ごせる場所がほしい」が1割台半ばあり、「自由な時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」、「進路などの相談に乗ってほしい」が1割程度あった。行政サービスを求める回答は小学生、中学生ともにほぼなかった。

「特にない」が多いことについては、子ども自身が手助けや行政サービスの具体的なイメージを持ちにくい可能性が考えられ、この回答から子どもに支援ニーズがないと判断することには留意が必要であり、子どもから支援してほしい内容を引き出すことは難しいと考える方が妥当である。

また、世話をすることでの生活への影響について「特にない」と回答した児童・生徒が約7割いたことを考えると、子ども自身が世話の影響に気づき、外部に支援を求める状況は、現状では少ないと考えられる。ヤングケアラーの支援の充実に向けては、子どもからの発信を待つことなく、周囲の大人が子どもの様子から状況を把握し、支援につなげる方策を充実する必要性が高い。特に、学校は、子どもが生活の中で長い時間を過ごす場であり、ヤングケアラーを発見する可能性が高い場所であることから、学校に対して、ヤングケアラーの認知についての意識を高めるための周知・啓発は引き続き行う必要がある。

また、今回の教員への調査で、ヤングケアラーを把握したが、支援を行っていない理由として、「支援の方法が分からない」が25%前後あった(図表 5-5-3)。学校でヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合には、学校内で組織的に把握し、支援の必要性の有無等を判断する場を設けることや関係機関と繋ぐための対応を行う方策や体制を構築することが今後の課題である。一般的に、学校内で気になる子どもたちに関する情報を組織的に共有する場合は、「生活指導部会」や「教育相談部会」等が考えられる。「生活指導部会」では、学校生活での問題行動等について優先的に情報共有される場であることから、顕著な問題行動等の様子が見られないヤングケアラーについては議題に上がらない可能性がある。また、「教育相談部会」では、本人に学習面や発達等の課題が見られないケース、本人が悩みを訴えていないケースは、部会で取り上げる対象から外れる場合もある。

今後は、学校は、組織的な対応のために、ヤングケアラーの発見と支援という視点をもつことが必要であり、「生活指導部会」等で取り上げるべき対象として、学校生活では問題が見られないケースや本人の訴えがないケースであったとしても、本人が家族の世話をしていることを把握した場合は、学校としての組織的な検討を踏まえた上で、関係機関と連携し、学校生活では見えない実態を把握することや必要な支援に繋げていくことが求められる。

7-6 まとめ

ヤングケアラーが、子どもの年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負っている子どもであることから、本調査で試みた「世話をしている」児童・生徒を「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」に分類することについては、世話の時間の長さによる分類に加え、世話の関わり方による結果を加味することで一定の結果が得られている。「世話をしている」児童・生徒の多くが「お手伝いの範囲」であり、「ヤングケアラー」として着目すべきはその一部（全体の1.5%程度）であった。また、その中で生活に影響があったり、自分自身が「つらい」、「きつい」と感じたりしている児童・生徒はさらに限られるとみられる（1.5%のうちの2割程度）。この結果は、区が令和3年に実態として捉えた実数（72名、区立学校に在籍する児童・生徒の0.15%）に近い割合であった。これらから「ヤングケアラー」として、現在は、生活等に影響はないが、今後、家庭の状況が変化した時には、ヤングケアラーとしての支援が必要となる児童・生徒は、令和3年11月に区が把握した数の約10倍と推察できる。

一方で、子どもは、世話の影響を判断できず、相談ニーズも潜在化していることから、自分自身の状況に気づき、支援を求める可能性は低いことも分かった。

ヤングケアラーへの支援については、まずは、子どもの世話の状況や家庭状況に大人が早期に気づき、見守る中で、支援が必要となった時には迅速に支援につなげられる体制が必要である。特に、子どもと日常的に関わる学校の役割は大きく、学校で早期に気づいたヤングケアラーを支援機関につなぐとともに、学校では日常的な見守りを継続することが必要である。また、学校の取組をサポートする役割は、日常的に学校を訪問している福祉の知識を持ったスクールソーシャルワーカーに期待されるところが大きい。一方、児童・生徒に対しても、ヤングケアラーについて正確な情報を与えるとともに、子どもの基礎力として相談力を上げる取り組みを進めることも重要である。

こうした取組から、学校等で発見したヤングケアラーの情報を集約し、情報の一元管理のもと、より実態を把握する仕組みを整備するとともに、ヤングケアラーの状態の変化に合わせ、教育、子育て、福祉、保健の分野で連携し支援する体制の構築を目指していく。

資料

- ・令和4年度練馬区ひとり親家庭ニーズ調査報告書（抜粋）・・・・・・・・（資料） 2p
- ・小学生調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料） 3p
- ・中学生調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料） 7p
- ・学校調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料） 11p

【調査概要】

対象	練馬区に在住する児童育成手当受給世帯のうち、申請事由が離婚、死亡、生死不明、遺棄、未婚である世帯（令和4年4月1日現在）
実施期間	令和4年4月25日（月）～ 令和4年5月24日（火）
調査方式	郵送により配付、郵送・オンライン回収
調査内容	ひとり親家庭の自立に向けた支援を充実する目的で、新型コロナウイルス感染症の影響やニーズを把握するために家庭状況の調査を実施。この中で、ヤングケアラーの状況の参考とするため、家庭における子どもが担当する役割について問う設問を追加

【調査結果】

【問 28】（複数回答）あなたの家庭で子どもが担当している役割がありますか。あてはまるものに○をつけてください。

	1 家事	2 きょうだいの世話	3 家族の身体的な介護	4 家族の見守り	5 通訳	6 その他	特にない	無回答
n = 1,614	31.9%	8.1%	0.4%	1.8%	0.7%	4.6%	58.7%	1.8%

【問 28-1】（単一回答）

（問 28 で「1」～「6」に○をつけた方にお聞きします）

平日1日あたりで、子どもが担当している役割に費やす時間を教えてください。

	1 時間未満	1 時間～ 2 時間未満	2 時間～ 3 時間未満	3 時間～ 4 時間未満	4 時間以上	無回答
n=638	84.3%	10.2%	2.2%	0.6%	0.6%	2.0%

しょうがくせい かてい せいかつ じょうきょう ちようさ
小学生の家庭・生活状況調査

・このアンケート調査は、小学生のふだんの生活や、学校や家庭での悩みや困りごとをお聞きし、どのような手助けがあると今よりも充実した生活を送れるかを考えるために行うものです。

・みなさんの回答の一つ一つが大切な意見です。ぜひ協力をお願いします。

・名前は書かないでください。

・答えたくない質問は答えなくてもよいです。自分の思う答えを書いてください。

答えが思いうかばない場合や、答えたくない場合は、答えずに先に進んでください。



■ あなたのことについて教えてください			
問1 性別			
1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 答えたくない
■ 平日（学校がある日）のあなたの生活について教えてください			
問2 朝は、何時ごろに起きていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 午前6時より前	2. 午前6時台	3. 午前7時台	4. 午前8時過ぎ
5. その他（ ）時ごろ			
問3 朝食を毎日食べていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 毎日食べている	2. どちらかといえば食べている		
3. あまり食べていない	4. 食べていない		
問4 学校以外で勉強をする時間は1日どのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問5 学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいありますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問6 夜の寝る時間は何時ごろですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 午後9時過ぎから10時の間	2. 午後10時過ぎから11時の間	3. 午後11時過ぎから午前0時の間	
4. 午前0時より後	5. その他（ ）時頃		
■ あなたの家族のことについて教えてください			
問7 いっしょに住んでいる人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください			
1. お母さん	2. お父さん	3. おばあさん	4. おじいさん
5. 兄・姉 ⇒ ()人	6. 弟・妹 ⇒ ()人		
7. その他 ()			

問8 家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか
かぞく なか せいかつ て だす せわ ひつよう ひと
 ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. いる ⇒ 問9へ
 2. いない ⇒ 問23へ

■お世話が必要な家族がいる人（問8で「いる」に○をつけた人）にお聞きします
せわ ひつよう かぞく ひと せい ひと き

問9 お世話を必要とする人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください
せい せわ ひつよう ひと

1. お母さん 2. お父さん 3. おばあさん 4. おじいさん
かあ とう
 5. 兄・姉 ⇒ ()人 6. 弟・妹 ⇒ ()人
あに あね おとうともうと
 7. その他 ()
た

問10 その人のお世話を主にしている人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください
ひと せわ おも ひと

1. お母さん 2. お父さん 3. おばあさん 4. おじいさん
かあ とう
 5. 兄・姉 6. あなた 7. 弟・妹
あに あね おとうともうと
 8. お世話をする専門の人（ヘルパー） 9. その他 ()
せわ せんもん ひと た

問11 あなたはお世話をしていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください
せい ひと

1. している ⇒ 問12へ
 2. していない ⇒ 問23へ

■家族の世話をしている人（問11で「している」に○をつけた人）にお聞きします
かぞく せわ ひと せい ひと き

問12 あなたがしているお世話の内容を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください
せい せわ ないよう おし

1. 家の家事（家族に代わって、そうじや食事の準備、洗たくをする、など）
いえ かじ かぞく か しょくじ じゆんび せん
 2. 入浴やトイレの手伝い 3. 通園・通学・通所するときの送り迎え
にゆうよく てつだ つうえん つうがく つうしょ おく むか
 4. 買い物、散歩するときの付き添い 5. 病院に行くときの付き添い
かい もの さんぽ つ そ びやういん い つ そ
 6. 話を聞いてあげる、話し相手になってあげている
はなし き はな あいて
 7. ひとりにしておけない家族のそばにいて、見守りをしている
かぞく みまも
 8. 日本語や手話などの手助けや通訳 9. お金の管理や、その手伝い
にほんご しゅわ てだす つうやく かね かんり てつだ
 10. 薬の管理や、その手伝い 11. その他 ()
くすり かんり てつだ た

問13 あなたがお世話をしている理由を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください
せい せわ りゆう おし

1. 家族が病気や障害、高齢、入院中だから 2. 家族が仕事等で忙しいから
かぞく びょうき しょうがい こうれい にゆういあゆう かぞく しごと どう いそが
 3. ほかに家事をする人がいないから 4. 日本語が苦手な家族がいるから
かじ ひと にほんご にかて かぞく
 5. お世話をする専門の人（ヘルパー）に来てもらっていないから
せわ せんもん ひと き
 6. ほかにお世話をする人がいなかったから 7. 自分がお世話をしたいと思ったから
せわ ひと じぶん せわ おも
 8. 家族を助けたいから 9. 世話をするのがあたりまえだと思うから
かぞく たす せわ おも
 10. わからない 11. その他 ()
た

問14 あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1か月に数日

問15 あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. 0～30分未満 2. 30分～1時間くらい 3. 1時間～2時間くらい 4. 2時間～3時間くらい

5. その他 (時間くらい)

問16 お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか

※あてはまるものすべてに○をしてください (何もない場合は「1. 特にない」に○)

1. 特にない

2. 学校の欠席、遅刻、早退が多くなった 3. 授業に集中できない

4. 宿題や持ち物を忘れることが多い 5. 自分の時間や、友だちと遊ぶ時間がない

6. さみしい 7. その他 ()

問17 お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください

※あてはまるものすべてに○をしてください (何もない場合は「1. 特にない」に○)

1. 特にない 2. 家族を助けることにやりがいを感じている

3. 家族だから世話をするのはあたりまえだと思う 4. づらい気持ちになることがある

5. 体がつらいときがある 6. その他 ()

問18 学校や周りの大人に助けて欲しいことはありますか

※あてはまるものすべてに○をしてください (何もない場合は「1. 特にない」に○)

1. 特にない

2. 自分の話を聞いてほしい

3. 家族のお世話について相談にのってほしい

4. 家族の病気や障害、お世話のことなどについて、わかりやすく説明してほしい

5. 家族での相談や話し合いのときに、いっしょにいてくれる人がほしい

6. 自分がしているお世話をすべてを誰かに代わってほしい

7. 自分がしているお世話の一部を誰かに代わってほしい

⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ()

8. 自由に使える自分の時間がほしい

9. 自分の自由に過ごせる場所がほしい

10. 勉強を教えてもらえたり、わからないところを聞けたりする助けがほしい

11. お金の面で助けてほしい

12. わからない

13. その他 ()

問19 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか
※あてはまるもの一つに○をしてください

- 1. ある ⇒ 問20へ
- 2. ない ⇒ 問21へ

■問19で「ある」に○をつけた人にお聞きします

問20 相談した相手の人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください

- 1. お母さん
- 2. お父さん
- 3. おばあさん
- 4. おじいさん
- 5. きょうだい
- 6. 親せき（おじさん、おばさんなど）
- 7. 友だち
- 8. 学校の先生（保健室の先生以外）
- 9. 保健室の先生
- 10. 学校の相談室の先生
- 11. 児童館や学童クラブの人
- 12. 医師や看護師、その他病院の人
- 13. お世話をする専門の人（ヘルパー）
- 14. 区役所や保健所の人
- 15. 近所の人
- 16. SNS上での知り合い
- 17. その他（ ）

⇒ つぎは、問23へ

■問19で「ない」に○をつけた人にお聞きします

問21 相談していない理由を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください

- 1. だれに相談したらよいかわからないから
- 2. 相談できる人が身近にいないから
- 3. だれかに相談するほどの悩みではないと思うから
- 4. 家族のことを話したくないから
- 5. 相談しても何も変わらないと思うから
- 6. その他（ ）

問22 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか

- 1. いる
- 2. いない

■さいごに皆さんにお聞きします

問23 最近の生活にどのくらい満足していますか



問24 これまでに「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか

※あてはまるもの一つに○をしてください

- 1. 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2. 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3. 聞いたことはない

問25 家族の世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことなどを書いてください

Blank area for writing answers to question 25.

中学生の家庭・生活状況調査

・このアンケート調査は、中学生のふだんの生活や、学校や家庭での悩みや困りごとをお聞きし、どのような手助けがあると今よりも充実した生活を送れるかを考えるために行うものです。

・みなさんの回答の一つ一つが大切な意見です。ぜひ協力をお願いします。

・名前は書かないでください。

・答えたくない質問は答えなくてもよいです。自分の思う答えを書いてください。答えが思いつかばない場合や、答えたくない場合は、答えずに先に進んでください。

■ あなたのことについて教えてください			
問1 性別			
1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 答えたくない
■ 平日（学校がある日）のあなたの生活について教えてください			
問2 朝は、何時ごろに起きていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 午前6時より前	2. 午前6時台	3. 午前7時台	4. 午前8時過ぎ
5. その他（ ）時ごろ			
問3 朝食を毎日食べていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 毎日食べている	2. どちらかといえば食べている		
3. あまり食べていない	4. 食べていない		
問4 学校以外で勉強をする時間は1日どのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問5 学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいありますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問6 夜の寝る時間は何時ごろですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 午後9時過ぎから10時の間	2. 午後10時過ぎから11時の間	3. 午後11時過ぎから午前0時の間	
4. 午前0時より後	5. その他（ ）時頃		
■ あなたの家族のことについて教えてください			
問7 いっしょに住んでいる人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください			
1. お母さん	2. お父さん	3. おばあさん	4. おじいさん
5. 兄・姉 ⇒ ()人	6. 弟・妹 ⇒ ()人		
7. その他 ()			

とい かぞく なか せいかつ て だす せわ ひつよう ひと
問8 家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか
 ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. いる ⇒ 問9へ
 2. いない ⇒ 問23へ

■お世話が必要な家族がいる人（問8で「いる」に○をつけた人）にお聞きします

とい おせわ ひつよう ひと
問9 お世話を必要とする人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください

1. お母さん 2. お父さん 3. おばあさん 4. おじいさん
 5. 兄・姉 ⇒ ()人 6. 弟・妹 ⇒ ()人
 7. その他 ()

とい ひと おせわ おも ひと
問10 その人のお世話を主にしている人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください

1. お母さん 2. お父さん 3. おばあさん 4. おじいさん
 5. 兄・姉 6. あなた 7. 弟・妹
 8. お世話をする専門の人（ヘルパー） 9. その他 ()

とい おせわ ひと
問11 あなたはお世話をしていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. している ⇒ 問12へ
 2. していない ⇒ 問23へ

■家族の世話をしている人（問11で「している」に○をつけた人）にお聞きします

とい おせわ ないよう おし
問12 あなたがしているお世話の内容を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください

1. 家の家事（家族に代わって、そうじや食事の準備、洗たくをする、など）
 2. 入浴やトイレの手伝い 3. 通園・通学・通所するときの送り迎え
 4. 買い物、散歩するときの付き添い 5. 病院に行くときの付き添い
 6. 話を聞いてあげる、話し相手になってあげている
 7. ひとりにしておけない家族のそばにいて、見守りをしている
 8. 日本語や手話などの手助けや通訳 9. お金の管理や、その手伝い
 10. 薬の管理や、その手伝い 11. その他 ()

とい おせわ りゆう おし
問13 あなたがお世話をしている理由を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください

1. 家族が病気や障害、高齢、入院中だから 2. 家族が仕事等で忙しいから
 3. ほかに家事をする人がいないから 4. 日本語が苦手な家族がいるから
 5. お世話をする専門の人（ヘルパー）に来てもらっていないから
 6. ほかにお世話をする人がいなかったから 7. 自分がお世話をしたいと思ったから
 8. 家族を助けたいから 9. 世話をするのがあたりまえだと思うから
 10. わからない 11. その他 ()

問14 あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1か月に数日

問15 あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください

1. 0～30分未満 2. 30分～1時間くらい 3. 1時間～2時間くらい 4. 2時間～3時間くらい

5. その他 (時間くらい)

問16 お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか

※あてはまるものすべてに○をしてください (何もない場合は「1. 特にない」に○)

1. 特にない 2. 学校の欠席、遅刻、早退が多くなった

3. 授業に集中できない 4. 宿題や持ち物を忘れることが多い

5. 自分の時間や、友だちと遊ぶ時間がない 6. 孤独を感じる

7. 将来や進路のことについて、しっかり考えるゆとりがない 8. 進路の希望がかなえられるか心配

9. 受験の準備ができていない 10. その他 ()

問17 お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください

※あてはまるものすべてに○をしてください (何もない場合は「1. 特にない」に○)

1. 特にない 2. 家族を助けることにやりがいを感じている

3. 家族だから世話をするのはあたりまえだと思う 4. つらい気持ちになることがある

5. 体がつらいときがある 6. その他 ()

問18 学校や周りの大人に助けて欲しいことはありますか

※あてはまるものすべてに○をしてください (何もない場合は「1. 特にない」に○)

1. 特にない

2. 自分の話を聞いてほしい

3. 家族のお世話について相談にのってほしい

4. 家族の病気や障害、お世話のことなどについて、わかりやすく説明してほしい

5. 家族での相談や話し合いのときに、いっしょにいてくれる人がほしい

6. 自分がしているお世話のすべてを代わってくれる人や、サービスがほしい

7. 自分がしているお世話の一部を代わってくれる人や、サービスがほしい

⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ()

8. 自由に使える自分の時間がほしい

9. 自分の自由に過ごせる場所がほしい

10. 勉強を教えてもらえたり、わからないところを聞けたりする助けがほしい

11. お金の面で助けてほしい

12. 進路など将来の相談にのってほしい

13. わからない

14. その他 ()

問19 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか
※あてはまるもの一つに○をしてください

- 1. ある ⇒ 問20へ
- 2. ない ⇒ 問21へ

■問19で「ある」に○をつけた人にお聞きします

問20 相談した相手の人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください

- 1. お母さん
- 2. お父さん
- 3. おばあさん
- 4. おじいさん
- 5. きょうだい
- 6. 親せき（おじさん、おばさんなど）
- 7. 友だち
- 8. 学校の先生（保健室の先生以外）
- 9. 保健室の先生
- 10. 学校の相談室の先生
- 11. 児童館や学童クラブの人
- 12. 医師や看護師、その他病院の人
- 13. お世話をする専門の人（ヘルパー）
- 14. 区役所や保健所の人
- 15. 近所の人
- 16. SNS上での知り合い
- 17. その他（ ）

⇒ つぎは、問23へ

■問19で「ない」に○をつけた人にお聞きします

問21 相談していない理由を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください

- 1. だれに相談したらよいかわからないから
- 2. 相談できる人が身近にいないから
- 3. だれかに相談するほどの悩みではないと思うから
- 4. 家族でない人に相談するような悩みでないと思うから
- 5. 家族のことだから、話しにくいので
- 6. 家族に対して偏見を持たれたくないから
- 7. 相談しても何も変わらないと思うから
- 8. その他（ ）

問22 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか

- 1. いる
- 2. いない

■さいごに皆さんにお聞きします

問23 最近の生活にどのくらい満足していますか



問24 これまでに「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか

※あてはまるもの一つに○をしてください

- 1. 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2. 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3. 聞いたことはない

問25 家族の世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことなどを書いてください

Blank area for writing answers to question 25.

ヤングケアラー支援に関する実態調査

○練馬区では、子どもたちの学習機会の保障と健やかな成長のために、ヤングケアラーへの支援策を検討することといたしました。

○この調査は、これからの検討のために、子どもが多く時間を過ごす学校の中で教職員が気づいたヤングケアラーの実態や必要とする支援をお聞きする基礎調査です。ご協力をお願いします。



*必須

ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」のことです。子どもが家族の一員として家庭でお手伝いをすることは一般的なことですが、その負担が年齢に見合わない過度な負担となったときに、本人の教育や成長に影響があるといった課題があります。

【ヤングケアラーの例】厚生労働省のHPから抜粋



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

問1 所属を教えてください*

小学校

中学校

問1-2 あなたの年齢を教えてください*

- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代

問2 あなたは「ヤングケアラー」という言葉や概念を認識していましたか*
・その他を選択する場合は、その他の内容説明を記載してください

- この調査で初めて言葉を知った
- 言葉は聞いたことがある
- 言葉は聞いたことがあったが、詳しくはわからない
- 言葉も概念も知っていた

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



*必須

これからの質問でお聞きするヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」を指します

- ・上記に該当する子どもについては、学校生活に支障が無い程度の負担とみられる事例であってもヤングケアラーとしてお答えください
- ・あなたの認識やお考えに基づいてお答えください

問3 現在、勤務する学校全体にヤングケアラーと思われる子ども（あなたが見 * てヤングケアラーではないか、と思う子どもを含む）はいますか

- ・その他を選択する場合は、その他の内容説明を記載してください

- ヤングケアラーと思われる子どもがいる
- ヤングケアラーと思われる子どもがいるかもしれない
- ヤングケアラーと思われる子どもはいない
- その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3で、「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」と答えた方にお聞きします

問3-2 ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたきっかけは何ですか
顕著であった状況を選択してください（3つ以内）

- 欠席、遅刻、早退が多い
- 授業中に居眠りしていたり、集中できていない様子がみられる
- 宿題や持ち物を忘れることが多い
- 保護者の承諾が必要な書類の提出が遅れることが多い
- 身だしなみが整っていない
- 学校で必要なものを家庭で用意してもらえない
- 部活動をやめた、または、欠席がちである
- 学校行事や修学旅行を休む
- 非常に疲れている
- 精神的な不安定さがある
- 家族の世話をしている旨の発言があった
- その他:

問3-3 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を把握していますか

- 把握している
- 一部の子どもについて把握しているが、把握していない子どももいる
- 把握していない

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3-3で、ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を「把握している」と答えた方に、子どもが世話をしている対象、世話の内容をお聞きします

家族の世話の状況を把握している子どもが複数いる場合は、世話の負担が重いと思われるケースから3例目までの状況を、1例ずつお知らせください

問3-3-2 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください 【1例目】

・子どもが世話をしている対象と、子どもの世話の内容について、当てはまるものを選択してください

	母	父	祖母	祖父	兄弟	弟妹(1人のみ)	弟妹(複数人)
1. 家事 (掃除・ 食事の支 度・洗濯 など)	<input type="checkbox"/>						
2. 幼い きょうだ いの世話	<input type="checkbox"/>						
3. 障害 や病気が ある家族 の世話	<input type="checkbox"/>						
4. 精神 的に不安 定な家族 の世話	<input type="checkbox"/>						
5. 依存 症(アル コール・ ギャンブ ルなど) の家族の 対応	<input type="checkbox"/>						
6. 目が 離せない 家族の見 守り	<input type="checkbox"/>						
7. 家族 の通訳	<input type="checkbox"/>						
8. 上の 選択肢の 中に無い 世話	<input type="checkbox"/>						

問3-3-2 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください 【2例目】

・子どもが世話をしている対象と、子どもの世話の内容について、当てはまるものを選択してください
 ・2例目の回答が無い場合は、画面を下にスクロールし、「次へ」ボタンを押してください

	母	父	祖母	祖父	兄弟	弟妹(1人のみ)	弟妹(複数人)
1. 家事 (掃除・食事の支度・洗濯など)	<input type="checkbox"/>						
2. 幼いきょうだいの世話	<input type="checkbox"/>						
3. 障害や病気がある家族の世話	<input type="checkbox"/>						
4. 精神的に不安定な家族の世話	<input type="checkbox"/>						
5. 依存症(アルコール・ギャンブルなど)の家族の対応	<input type="checkbox"/>						
6. 目が離せない家族の見守り	<input type="checkbox"/>						
7. 家族の通訳	<input type="checkbox"/>						
8. 上の選択肢の中に無い世話	<input type="checkbox"/>						

問3-3-2 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください 【3例目】

・子どもが世話をしている対象と、子どもの世話の内容について、当てはまるものを選択してください
 ・3例目の回答が無い場合は、画面を下にスクロールし、「次へ」ボタンを押してください

	母	父	祖母	祖父	兄弟	弟妹(1人のみ)	弟妹(複数人)
1. 家事 (掃除・食事の支度・洗濯など)	<input type="checkbox"/>						
2. 幼いきょうだいの世話	<input type="checkbox"/>						
3. 障害や病気がある家族の世話	<input type="checkbox"/>						
4. 精神的に不安定な家族の世話	<input type="checkbox"/>						
5. 依存症(アルコール・ギャンブルなど)の家族の対応	<input type="checkbox"/>						
6. 目が離せない家族の見守り	<input type="checkbox"/>						
7. 家族の通訳	<input type="checkbox"/>						
8. 上の選択肢の中に無い世話	<input type="checkbox"/>						

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3-3でお答えいただいた、ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を「把握していない」ケースについてお聞きします

問3-3-3 家族の世話の状況を把握していない理由を教えてください
あてはまるものを選択してください（複数選択可）

- 学校においてヤングケアラーの概念や支援対象としての認識が不足している
- 子ども自身やその家族にヤングケアラーという問題の認識が無く、聞き取りが難しい
- 不登校やいじめ、虐待などのケースと比べ緊急度が高くないため、把握していない
- 家庭内のデリケートな問題に学校が踏み込んで実態把握するのが難しい
- 学校が家庭内の状況までを把握するべきではない
- その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3で、「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」と答えたすべての方にお聞きします

問3-4 問3でお答えいただいた子どもに、現在、学校として何らかの支援を行っていますか

・学校として行っている支援や、学校と他機関が連携して行っている支援、あなた個人が行っている支援を合わせて教えてください

- 支援を行っている
- 一部の子どもに支援を行っているが、支援を行っていない子どももいる
- 支援を行っていない

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3-4で、「支援を行っている」と回答した方にお聞きします

問3-4-2 行っている支援の内容を教えてください

・あてはまるものを選択してください（複数選択可）

- 子どもの話を聞いている
- 学習等の支援をしている
- 学校で情報を共有し、支援に向けて検討している
- 保護者に状況の改善について働きかけている
- 保護者に支援機関へ相談するよう働きかけている
- 区の支援機関※と連携している（※学校教育支援センター、子ども家庭支援センター、総合福祉事務所、保健相談所など）
- その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3-4で、「支援を行っていない」と回答した方にお聞きします

問3-4-3 支援を行っていない理由や要因としてあてはまるものを教えてください

・主な理由を選択してください（3つ以内）

- 本人や家族に自覚がない
- 支援が必要な状況ではない
- 子ども自身が支援を拒否した
- 保護者が支援を拒否した
- 家庭のデリケートな問題に学校が関われない
- 支援の方法がわからない
- 学校以外の支援先が必要だが、その相談先がわからない
- 学校が家庭内の状況に関わるべきではない
- その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



*必須

すべての方にお聞きします

問4 ヤングケアラーへの支援について自分の考えに近いものを選択してください

自分の考えに近いものを選択してください（3つ以内）

- 家庭のデリケートな問題には学校は関われない
- 既存の支援で対応可能であり、ヤングケアラー対応としての特別な支援は必要ない
- ヤングケアラーの概念を理解したうえで、子どもの話を聞く、声掛けをする
- 学習の遅れが生じたときに個別にフォローする
- 学校が居場所になるように配慮する
- 校内委員会などで情報を共有し、支援に向けて検討する
- 区の支援機関※につなぐ（※学校教育支援センター、子ども家庭支援センター、総合福祉事務所、保健相談所など）
- 学校が家庭内の状況までを把握するべきではない
- その他:

問5 ヤングケアラーへの支援を学校で行うにあたり、あなたが課題と思うこと *
(課題になるのではないかと思うこと) を教えてください

- ・各項目について、課題認識の度合いをお知らせください
- ・ここに提示する事項以外にも課題があるとお考えの場合は、問6 (自由記述) に記載してください

	思う	やや思う	思わない	わからない
家庭内の様子をつかみにくく、ケアラーの把握が難しい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
発見しても、その後の対応をどのようにすべきかわからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
本人や家族にヤングケアラーという問題の認識が無く、支援に理解が得られない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
支援をするときに、支援機関へのつなぎ方や、どのような支援機関があるのかわからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育活動がいそがしく、きめ細やかに対応する時間が足りない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学校が家庭内の状況までを把握するべきではない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問6 ヤングケアラーへの支援について、ご意見があればお聞かせください

回答を入力

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

ヤングケアラー実態調査報告書

令和4年（2022年）10月

編集・発行 練馬区教育委員会事務局 教育振興部

学校教育支援センター

〒179-0072 東京都練馬区光が丘6-4-1

電話 03-6385-9911

ヤングケアラー実態調査（民生・児童委員対象）集計結果

【福祉部生活福祉課 令和4年6月～7月実施】

I 調査回答状況

	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
調査対象者数	40 人	540 人	580 人
回答者数	31 人	426 人	457 人
回答率	77.5%	78.9%	78.8%

※主任児童委員…民生・児童委員のうち、児童問題を専門に担当する者。

※民生・児童委員…本調査では、主任児童委員以外の民生・児童委員とする。

※協力員…民生・児童委員の活動をサポートする者。

II 集計結果

1 回答者に関する質問項目（その1）

(1) 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。【問2】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
聞いたことがあります、内容も知っている	31 (100.0%)	323 (75.8%)	354 (77.5%)
聞いたことはあるが、よく知らない	0 (0.0%)	88 (20.7%)	88 (19.3%)
聞いたことはない	0 (0.0%)	15 (3.5%)	15 (3.3%)

(2) ご担当の地域で、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握していますか。【問3】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
把握している	18 (58.1%)	2 (0.5%)	20 (4.4%)
把握していない	13 (41.9%)	424 (99.5%)	437 (95.6%)

(3) (上記2で「把握していない」と回答した方のみ) 把握していない主な理由として挙げられるものを1つ選んでください。【問4】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
家庭内のことで表に出にくく、把握が難しいため	9 (69.2%)	270 (63.7%)	279 (63.8%)
「ヤングケアラー」への認識が薄く、積極的に把握してこなかったため	0 (0.0%)	59 (13.9%)	59 (13.5%)
生活困窮等に比べて緊急度が高くなく、実態把握が後回しになるため	2 (15.4%)	5 (1.2%)	7 (1.6%)
現在の地域を担当してから間もないため	0 (0.0%)	30 (7.1%)	30 (6.9%)
その他(※)	2 (15.4%)	35 (8.3%)	37 (8.5%)
わからない	0 (0.0%)	25 (5.9%)	25 (5.7%)

※「その他」の内容

- ・高齢者世帯や単身世帯の対応が基本となっており、子どものいる世帯との関わりが少ないため
- ・コロナ禍で訪問を控えており、情報収集が難しいため
- ・情報として入ってこないため 等

2 ヤングケアラーに関する質問項目

(1) 該当者の年代を教えてください。学生は分かる範囲で学年も記載してください。【問7】

回答内容		男性	女性	不明	合計
小学校入学前		0	0	0	0 (0.0%)
小学生		4	4	2	10 (30.3%)
	1年生	0	0	0	0 (0.0%)
	2年生	0	1	0	1 (3.0%)
	3年生	0	0	1	1 (3.0%)
	4年生	2	0	0	2 (6.1%)
	5年生	1	1	0	2 (6.1%)
	6年生	0	2	1	3 (9.1%)
	不明	1	0	0	1 (3.0%)
中学生		6	7	0	13 (39.4%)
	1年生	0	3	0	3 (9.1%)
	2年生	3	2	0	5 (15.2%)
	3年生	1	1	0	2 (6.1%)
	不明	2	1	0	3 (9.1%)
高校生		2	3	0	5 (15.2%)
	1年生	0	2	0	2 (6.1%)
	2年生	0	0	0	0 (0.0%)
	3年生	2	0	0	2 (6.1%)
	不明	0	1	0	1 (3.0%)
不明		0	0	5	5 (15.2%)
合 計		12 (36.4%)	14 (42.4%)	7 (21.2%)	33 —

(2) 該当者の同居家族を教えてください。【問8】

回答内容		男性	女性	不明	合計
両親同居の世帯		6	7	4	17 (45.9%)
	両親のみ	0	1	0	1 (2.7%)
	両親+きょうだい	5	6	4	15 (40.5%)
	両親+祖父母	1	0	0	1 (2.7%)
	両親+祖父母+きょうだい	0	0	0	0 (0.0%)
	その他	0	0	0	0 (0.0%)
ひとり親の世帯		5	5	3	13 (35.1%)
	ひとり親のみ	0	2	1	3 (8.1%)
	ひとり親+きょうだい	4	2	2	8 (21.6%)
	ひとり親+祖父母	1	0	0	1 (2.7%)
	ひとり親+祖父母+きょうだい	0	0	0	0 (0.0%)
	その他	0	1	0	1 (2.7%)
その他		3	2	2	7 (18.9%)
	祖父母のみ	0	1	0	1 (2.7%)
	きょうだいのみ	1	1	0	2 (5.4%)
	祖父母+きょうだい	0	0	0	0 (0.0%)
	その他	2	0	2	4 (10.8%)
不明		0	0	0	0 (0.0%)
合 計		14	14	9	37 —

(3) 該当者（ヤングケアラー）が家族をケアしていることを把握したきっかけを教えてください。
【問9】

回答内容	男性	女性	不明	合計
家庭と関わった様子から	2	0	2	4 (10.8%)
近隣住民からの情報提供	0	0	0	0 (0.0%)
学校からの情報提供	5	4	3	12 (32.4%)
福祉関係機関からの情報提供 (ケアマネ、ヘルパー等)	2	7	2	11 (29.7%)
該当者の親戚からの情報提供	0	0	0	0 (0.0%)
該当者本人からの相談	0	1	0	1 (2.7%)
その他 (※)	5	2	2	9 (24.3%)
合 計	14	14	9	37 —

※「その他」の内容

- ・子ども家庭支援センター（7件）
- ・学校教育支援センター（スクールソーシャルワーカー）（2件）

(4) 該当者がケアしている相手を教えてください。兄・姉・弟・妹の場合は、分かる範囲でケアを受けている人数も記入してください。【問10】

回答内容	男性	女性	不明	合計
父親	1	0	0	1 (2.8%)
母親	4	4	5	13 (36.1%)
祖父	1	0	0	1 (2.8%)
祖母	1	1	0	2 (5.6%)
兄・姉	1	0	0	1 (2.8%)
人数	1人	0	0	0 (0.0%)
	2人	0	0	0 (0.0%)
	3人	0	0	0 (0.0%)
	4人以上	0	0	0 (0.0%)
	不明	1	0	1 (2.8%)
弟・妹	7	8	2	17 (47.2%)
人数	1人	3	4	7 (19.4%)
	2人	0	3	2 (13.9%)
	3人	0	0	0 (0.0%)
	4人以上	0	1	0 (2.8%)
	不明	4	0	0 (11.1%)
その他（同居していない異父きょうだい）	0	1	0	1 (2.8%)
不明	0	0	0	0 (0.0%)
合 計	15	14	7	36 —

(5) 該当者がケアしている相手の状況を教えてください。【問11】

回答内容	男性	女性	不明	合計
高齢（65歳以上）	1	1	0	2 (4.8%)
若い	7	9	2	18 (42.9%)
介護が必要	0	0	1	1 (2.4%)
認知症	0	0	0	0 (0.0%)
身体障害	1	1	2	4 (9.5%)
知的障害	0	1	1	2 (4.8%)
精神疾患（うつ病等）	2	1	3	6 (14.3%)
依存症（アルコール、ギャンブル等）	1	1	0	2 (4.8%)
精神疾患以外の病気	1	1	0	2 (4.8%)
日本語を第一言語としない	1	0	1	2 (4.8%)
その他（不登校）	0	1	0	1 (2.4%)
不明	1	1	0	2 (4.8%)
合 計	15	17	10	42 —

(6) 該当者が行っているケアの内容を教えてください。【問12】

回答内容	男性	女性	不明	合計
家事（炊事、洗濯、掃除等）	2	7	3	12 (26.1%)
身体的な介護（入浴、トイレ等）	2	2	0	4 (8.7%)
きょうだいの世話や保育所等への送迎	5	4	3	12 (26.1%)
買い物や散歩の付添い	0	0	1	1 (2.2%)
通院の付添い	0	0	1	1 (2.2%)
感情面の支援（愚痴を聞く、話し相手になる等）	1	1	1	3 (6.5%)
見守り	2	2	2	6 (13.0%)
通訳（日本語、手話等）	1	0	1	2 (4.3%)
金銭の管理	0	0	0	0 (0.0%)
薬の管理	0	0	1	1 (2.2%)
その他	0	0	0	0 (0.0%)
不明	2	1	1	4 (8.7%)
合 計	15	17	14	46 —

(7) 該当者がいつからケアを始めたかを教えてください。【問13】

回答内容		男性	女性	不明	合計
小学校入学前		0	0	0	0 (0.0%)
小学生		7	10	2	19 (57.6%)
	1年生	0	1	1	2 (6.1%)
	2年生	0	0	0	0 (0.0%)
	3年生	1	0	0	1 (3.0%)
	4年生	1	0	0	1 (3.0%)
	5年生	2	0	1	3 (9.1%)
	6年生	1	1	0	2 (6.1%)
	不明	2	8	0	10 (30.3%)
中学生		1	1	0	2 (6.1%)
	1年生	0	0	0	0 (0.0%)
	2年生	0	0	0	0 (0.0%)
	3年生	0	0	0	0 (0.0%)
	不明	1	1	0	2 (6.1%)
高校生		0	0	0	0 (0.0%)
	1年生	0	0	0	0 (0.0%)
	2年生	0	0	0	0 (0.0%)
	3年生	0	0	0	0 (0.0%)
	不明	0	0	0	0 (0.0%)
その他		0	0	0	0 (0.0%)
不明		4	3	5	12 (36.4%)
合 計		12	14	7	33 —

(8) 該当者以外で、ケアに協力している人を教えてください。【問14】

回答内容	男性	女性	不明	合計
父親	2	0	0	2 (6.1%)
母親	2	2	0	4 (12.1%)
祖父	0	0	0	0 (0.0%)
祖母	1	0	0	1 (3.0%)
兄・姉	0	2	3	5 (15.2%)
弟・妹	1	1	0	2 (6.1%)
親戚	0	1	0	1 (3.0%)
福祉サービス (ヘルパー等)	1	4	4	9 (27.3%)
その他 (子ども家庭支援センター)	0	1	0	1 (3.0%)
いない	2	1	0	3 (9.1%)
不明	3	2	0	5 (15.2%)
合 計	12	14	7	33 —

(9) 該当者が、ケアに関する悩みを相談している（と思われる）相手を教えてください。【問15】

回答内容	男性	女性	不明	合計
父親	1	0	0	1 (2.6%)
母親	0	0	0	0 (0.0%)
祖父	0	0	0	0 (0.0%)
祖母	0	0	0	0 (0.0%)
兄・姉	0	0	0	0 (0.0%)
弟・妹	0	0	0	0 (0.0%)
親戚	0	0	0	0 (0.0%)
友人	1	2	0	3 (7.7%)
近所の人	1	0	0	1 (2.6%)
学校（担任、スクールカウンセラー等）	2	3	0	5 (12.8%)
ケアされている人の担当医	0	0	0	0 (0.0%)
ケアされている人のケアマネ等	0	2	0	2 (5.1%)
行政機関等の相談窓口	2	5	0	7 (17.9%)
その他（スクールソーシャルワーカー）	1	0	0	1 (2.6%)
いない	4	2	6	12 (30.8%)
不明	2	4	1	7 (17.9%)
合 計	14	18	7	39 —

(10) ケアをしていることで、本人にどのような影響が出ていると思いますか。【問16】

回答内容	男性	女性	不明	合計
学校を休みがち	5	3	2	10 (17.2%)
遅刻が多い	1	1	4	6 (10.3%)
勉強の時間が取れない	3	0	3	6 (10.3%)
部活ができない	1	1	0	2 (3.4%)
遊ぶ時間がない	2	1	1	4 (6.9%)
アルバイトができない	1	0	0	1 (1.7%)
進路を考えるゆとりがない	2	0	0	2 (3.4%)
進学できない	1	0	0	1 (1.7%)
精神的に不安定	1	6	2	9 (15.5%)
睡眠不足・生活リズムの乱れ	5	2	1	8 (13.8%)
その他（食事がとれていない）	1	0	1	2 (3.4%)
不明	2	5	0	7 (12.1%)
合 計	25	19	14	58 —

(11) 該当者またはその家庭に民生・児童委員として行っている支援がありましたら教えてください。【問17】

回答内容	男性	女性	不明	合計
学校への情報提供	7	5	5	17 (30.4%)
区の相談機関へのつなぎ	2	4	5	11 (19.6%)
家庭の見守り	5	9	5	19 (33.9%)
その他 (※)	3	1	1	5 (8.9%)
特にない	1	3	0	4 (7.1%)
合 計	18	22	16	56 —

※「その他」の内容

- ・スクールソーシャルワーカーと情報共有 (2件)
- ・子ども家庭支援センターと情報共有 (1件)
- ・学校や子ども家庭支援センターを通じた状況調査 (1件)
- ・本人の話を聞く (1件)

(12) 問17で「特にない」と回答された方にお聞きします。支援を行っていない(行うことができない)理由を教えてください。【問18】

回答内容	男性	女性	不明	合計
本人や家族に自覚がない	1	0	0	1 (16.7%)
支援が必要な状況ではない	0	0	0	0 (0.0%)
本人や家族が支援を拒否した	1	0	0	1 (16.7%)
家庭内のことで関わりにくい	1	0	0	1 (16.7%)
支援の方法が分からない	0	0	0	0 (0.0%)
その他 (※)	0	3	0	3 (50.0%)
合 計	3	3	0	6 —

※「その他」の内容

- ・家の場所を聞いていないため (2件)
- ・学校と関係機関が対応しているため (1件)

3 回答者に関する質問項目（その2）

(1) 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、支援する際に課題として考えられることは何ですか。【問19】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
ヤングケアラー本人がケアを当たり前と思うなどして、支援を求めない	24 (25.0%)	270 (18.8%)	294 (19.2%)
家族がヤングケアラーへの支援に同意しない	13 (13.5%)	152 (10.6%)	165 (10.8%)
家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない	26 (27.1%)	310 (21.6%)	336 (22.0%)
福祉・教育機関のヤングケアラーに関する認識や知識が不足している	7 (7.3%)	142 (9.9%)	149 (9.7%)
学校との情報共有が不十分	8 (8.3%)	221 (15.4%)	229 (15.0%)
福祉分野や教育分野等、複数の分野にまたがる支援のコーディネートをできる人材や機関がない	8 (8.3%)	161 (11.2%)	169 (11.1%)
既存サービスに活用できるものがなく、具体的な支援策を検討しにくい	7 (7.3%)	152 (10.6%)	159 (10.4%)
その他 (※)	3 (3.1%)	25 (1.7%)	28 (1.8%)
合 計	96 —	1,433 —	1,529 —

※「その他」の内容

- ・情報の収集が難しい
- ・どのような支援が必要か分からない
- ・本人の意思を聞き出すのが難しい、時間を要する
- ・日中はヘルパー等が対応できるが、夜間はヤングケアラーに頼らざるを得ない 等

(2) 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような支援が特に必要と思いますか。
【問20】

回答内容		主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
ヤングケアラー専用の相談窓口		23 (24.5%)	340 (28.2%)	363 (27.9%)
(複数回答あり) 相談手段	窓口	3 (13.0%)	49 (14.4%)	52 (14.3%)
	電話	2 (8.7%)	85 (25.0%)	87 (24.0%)
	メール	4 (17.4%)	57 (16.8%)	61 (16.8%)
	SNS (LINE等)	13 (56.5%)	118 (34.7%)	131 (36.1%)
	選択なし	1 (4.3%)	31 (9.1%)	32 (8.8%)
ヤングケアラー同士が交流できる場		6 (6.4%)	83 (6.9%)	89 (6.8%)
(複数回答あり) 実施方法	対面での交流	1 (16.7%)	24 (28.9%)	25 (28.1%)
	オンラインでの交流	2 (33.3%)	13 (15.7%)	15 (16.9%)
	SNSでの交流	1 (16.7%)	36 (43.4%)	37 (41.6%)
	選択なし	2 (33.3%)	10 (12.0%)	12 (13.5%)
ヤングケアラーに向けた情報の提供		15 (16.0%)	174 (14.4%)	189 (14.5%)
区民へのヤングケアラーに関する周知・啓発		9 (9.6%)	88 (7.3%)	97 (7.5%)
支援関係機関・関係者へのヤングケアラーに関する研修の実施		7 (7.4%)	61 (5.1%)	68 (5.2%)
本人への学習支援		8 (8.5%)	99 (8.2%)	107 (8.2%)
本人への就労支援		2 (2.1%)	48 (4.0%)	50 (3.8%)
本人や家族を支援する関係機関の連携体制づくり		19 (20.2%)	247 (20.5%)	266 (20.5%)
ヤングケアラーを支援する団体への運営支援		3 (3.2%)	56 (4.6%)	59 (4.5%)
その他 (※)		2 (2.1%)	10 (0.8%)	12 (0.9%)
合 計		94 —	1,206 —	1,300 —

※「その他」の内容

- ・本人の学習費用、生活費、家族の介護サービス利用費等の金銭的支援
- ・ケアが必要な人への必要な介護サービス等の提供 等

- (3) ヤングケアラーの状況や支援に関して、日頃感じていることや今後望むことなどがありましたら、ご記入ください。(自由意見)【問21】 ※重複意見等があるため、抜粋。

区分	内容
周知・啓発	以前、精神疾患の母や妹の世話のため、不登校となった児童がいた。当時はヤングケアラーという認識がなかったため、関わり方が消極的だった。学校・民生児童委員・近隣にヤングケアラーについてよく周知するべきだと思う。
	この問題は「我が子・我が親の面倒を見るのは当たり前」と今まで生きてきた多数の人々は、あまり重要課題にしてこなかったと思う。でも、近年ヤングケアラーが多く取り上げられ、救われる子どもが一人でも多く自由に自分らしく成長していけることを心より望んでいる。
	親が子どもを手放さない事例を知っている。ヤングケアラーは10代から40代まで続く。何とか親を教育しなくてはいけない。親子に期待する政策が間違っている。
	中高生に向けては、困ったときの相談窓口などを教えるリーフレットが、一般市民に対してはヤングケアラーの理解・協力をお願いできるようなリーフレットが必要と思われる。
	日本人は家庭の事情を大っぴらにするのを厭う気質がある。他者に支援を求めることに抵抗すらあるかも知れない。今の子は真面目すぎるくらいなので自分でやろうとしてしまいそう。区のHPやポスターで認識を深めていくのは良いのではないかな。気軽に相談できるような組織ができたり、支援の仕組みが分かりやすくなったりすると良い。
	本人・家族はヤングケアラーと思っている可能性が低いかもしれないので、もっと周知は必要と思う。サポートが必要なヤングケアラーの子どもを把握するためにはもっとアンテナを振らなければと思う。 ヤングケアラーについてよく知らないので、研修を実施してほしい。
ヤングケアラーの発見・把握	子どもが他に支援を求めるのは考えにくい。何らかの異変に気付いた周辺の方が事情を聴いて地域の相談窓口と情報をやり取りしてよりよい方向へ進めるべきと思う。
	ヤングケアラーと思われる子供を把握することは難しい。親のケアが大切だが、家庭内に入ることを嫌がる方が多い。学校などで気付いたことがあれば主任児童委員に連絡をほしい。
	民生委員はヤングケアラーの状況を把握しにくい。学校との連携を密にしている主任児童委員から情報を得て、他の民生委員、協力員がその情報を共有して見守りや支援ができるようになると、少しは助けられるのではないかなと思う。
	本人がヤングケアラーである認識がなければ表面化しない場合が多い。学校でヤングケアラーについて学ぶ時間があれば自分が当てはまるのかも？と気づいて担任、養護教諭などに相談するきっかけになるのではないかな。また、学校側にもヤングケアラーについて相談があった場合の対応などのマニュアルがあれば良いと思う。
	主任児童委員ではないので学校との結びつきが少なく、地域のヤングケアラーに関する情報が十分あるとは思えない。高齢者の人数は把握しているが、学童の人数は把握していない。ヤングケアラーの把握には、まず地域学童の人数把握から始めるようだと思う。
	助けを求められていることに気付かずにいるのではないかと不安になることがある。情報があれば適切に迅速に共有させていただきたい。
	ヤングケアラーには周囲の助力が絶対に必要と思うが、近所とのつながりが少ない東京だからか情報が入らない。ヤングケアラーを知った場合は、まず区につなげたいと思う。
相談先	ヤングケアラー自体やそうせざるをえない状況自体が悪いことではないと思う。その状況を苦しいと思ったり、ほかの児童・生徒と同じように活動できないことを悩んだりする事を、周りの大人に発言、発信できる環境作りをしてあげたい。
	子どもたちに家の仕事として手伝ってもらうことは良いと思うが、学習もできず、友人も作れずというのは負担が大きすぎる。何か手伝える支援の手が差し伸べられると良い。そのためには、相談できる相手(親戚等)が身近にいると良い。
	ヤングケアラーは、話を聞いてくれる人が一人でもいたら救われると思う。無理やり入り込むのではなく気持ちを素直に話したり、行動できたりすることができるよう、上手にケアしていくことが大切と思う。
	ヤングケアラーの特徴として他人に相談できないということがあがる。相談先が分からないということもある。インターネットからの情報を増やすことも必要なのでは。
	ヤングケアラー同士で話をする場がさりげなくあればいきやすいと思う。
	学校で担任や保健の先生などから声掛けをすると、相談しやすいのではないかな。家に帰ると外に出る時間がとれないかもしれないので。 学校の教育で「困難は一人で(家庭で)背負うべきものではなく、地域で支え合うものである」と認識させ、具体的な方法(窓口)を示すべきと思う。

区分	内容
支援体制・連携体制づくり	以前学校訪問の際、家族の世話をしている不登校気味というケースがあった。関係者によるケース会議でケアしている様子だったが、教育だけではなく生活全般（特に生活費）に関わり、課題が多岐に渡ることを思い知らされた。個々の相談に乗るためには専用窓口の存在は欠かせない。
	学校の情報が共有できるように新しい組織の構築を考えていただきたい。
	民生・児童委員以上に、総合福祉事務所、支援センター、社会福祉協議会、PTA、教育委員会等がもっと頑張してほしい。
	中学校や高校との連携をもっと密にする。学校側が本人に提案できる支援システムを作ることが必要。
	学校や近隣からの情報提供を促すことが大切。「気づき」から早期に対応できるようになり、子どもの負担を少しでも軽減できる。対象者と接点ができたら、関係機関と連携できるようチェックする部署が必要。
	既存の制度を弾力的に適用できるようにするための条例等の改正が必要。行政担当者と民生委員がペアとなり制度を利用しながら支援する仕組みづくりが必要（保護観察や成年後見制度等が参考になるかも）。
	家庭の養育力不足や孤立など問題の根は深いと思われる。当該者をヤングケアラーから解放するためには多方面からの支援が必要であり、支援のための関係を築くことも短期間でできることではない。まず、地域の見守りの目を増やし、支援に対するハードルを低くしなくてはならない。
	私たちが簡単にあの子はヤングケアラーだと判断してしまうことは非常に危険であり難しいことだと思う。家族関係が崩壊しないように、SOSを出している子どもがいる場合、本人だけでなく家族も同時に救う支援を提供できるシステムを作り上げた上で支援の手を差し伸べてあげてほしい。
	ヤングケアラーを自分が支援するとして、どこにどの流れで支援に繋げるのか漠然としている。具体的に支援団体や関係機関など支援の手引きなどがあるとよい。
	病気の父の面倒を見て遅刻・不登校気味の小学生の登校支援について家族と話したが、うまく進まなかった。この時は家庭環境が全く分からなかった。横のつながりの情報提供があったら良かったと思っている。
	小学校で、親が体調不良から子どもが不登校になった家庭に対して、校長先生が少しずつ対応しよくなっているケースがある。学校だけではなく多くの人に関わることが大切なのではないかと思う。
	家族支援
気軽に相談できるような組織ができたり、支援の仕組みが分かりやすくなったりすると良い。	
家族支援	親がひとり親で、仕事が忙しかったり病気がちであったりして、ほかに頼む大人もいないという環境が多いと思う。ヤングケアラー本人の支援も大切だが、親の支援が一番大切だと思う。
	ヤングケアラーと思われる子どもが存在するという事は、家庭の状況が悪化していても支援できていないということ。まず家族を経済的、医療・介護的に支援できる体制が必要。
その他	愛情を伴うケアの場合もある。ここから先はヤングケアラーとみなすというような線引きを知りたい。
	「ヤングケアラー」と「ネグレクト」の違いが分かりづらい。
	「助けを求めることは恥ずかしいことではない」と声掛けができればよいと思う。
	現在は核家族が増えて家族に何かがあっても面倒を見る人がいなく、近所には迷惑と思いをかけづらいうと思ってしまうのだろう。
	ヤングケアラー本人や家族は、その時々が精神的にも体力的にもいっぱいいっぱい、発信できる余裕があるのかが気になり心配。
	最近はおせっかいおばさんがおらず(できなくなる世の中になってしまっている)、近所付き合いもなく、周りのことが見えなくなっているのが問題。
	新聞にヤングケアラーだった75歳の女性が夜間中学に入学し学んでいるという記事が掲載された。生涯に渡って影響のあることなのだと思う。ヤングケアラーが注目されている時に支援体制を考え、1人で負担しなくても大丈夫ということ伝えていくことが大切だと思う。
	子どもであれば親の介護をするのは当然なのか？子どもは親の所有物ではない。だから子どもの人権を認め、適正な年代に学び、交遊し、社会で普通に活躍して欲しい。親がでなければ社会が支援すべき。
	ヤングケアラー本人の責任感が強すぎて、それを否定するのは憚られ介入が難しい。ただし、「良い子」「頑張る子」としてほめられることで逆にさぼれず追い込んでしまうこともある。
	本人がケアを嫌と思いつつ行っているのか、仕方ないと思いつつも納得して行っているのかで、対応は違ってくると思う。家族の在り方によっても変わってくると思う。
	ヤングケアラーは格差社会が生み出した負の部分で、教育を受けられず介護にしばられ四苦八苦している若者が増えている。高齢社会の大きな問題でもある。
	ケアされる側とする側を年齢で分ける必要はあるのだろうか？ ケアしているのなら、年齢に関係なく受け入れる体制があつていいと思う。昨今個人差が激しく、年齢によるくくりは難しくなっている気がする。
受けられる支援にお金が掛からないことが必要。お金のある家庭の子どもはヤングケアラーになりにくい。介護事業は家事援助、外出同行など時間が限られる。簡単な家事の積み重ねがストレスとなる。	
NPO、介護家族の会など様々な団体と定例会を開催して、ヤングケアラー支援の仕組みづくりに取り組んでいる。私たちにできることとして「家族を見守ってあげること」がある。	

資料 4

令和 4 年 10 月 21 日
教育振興部学務課
こども家庭部子育て支援課
こども家庭部保育課
こども家庭部子ども家庭支援センター

物価上昇に伴う民間教育・子育て施設への施設等運営支援臨時給付金について

1 目的

社会機能の維持に欠かせない幼稚園、保育所等の教育・子育て関連施設を対象に、急激な物価上昇による影響を緩和するため、給付金を支給する。

2 対象施設

区内の保育所等、学童クラブ、子育てのひろば、幼稚園

3 給付額

(1) 通所事業

定員 1 人あたりの基準額に各施設の定員数等を乗じた金額を給付する。基準額は、区立施設における定員 1 名あたりの年間光熱費および食材料費の上昇額を基に算出した。

対象施設	基準額
保育所等（訪問事業を除く）	定員 1 名あたり 9,000 円
学童クラブ	定員 1 名あたり 6,000 円
子育てのひろば	
幼稚園	

※基準額内訳：光熱費 6,000 円、食材料費 3,000 円

(2) 訪問事業

1 事業所あたりの基準額を給付する。基準額は、一般家庭での年間光熱費の上昇額を基に算出した。

対象施設	基準額
保育所等（居宅訪問型保育事業）	1 事業所あたり 30,000 円

4 予算規模

約 1 億 6 千万円

5 スケジュール（予定）

令和 4 年 10 月 24 日（月）より 申請受付開始

令和 4 年 11 月 18 日（金）まで 申請受付締切

令和 4 年 12 月末 給付完了

資料 5	
------	--

令和4年10月21日
こども家庭部保育課
こども家庭部保育計画調整課

保育所整備等の取組について

1 認可保育所の整備

整備予定数

認可保育所を9か所整備し、410人の定員を拡大する。

進捗状況

	施設名・所在地	開所予定日	予定定員
1	(仮)このえ豊玉北保育園 豊玉北5 - 28	令和5年 4月1日	44人
2	(仮)AIAI NURSERY 富士見台 貫井1 - 26		63人
3	(仮)みらいく田柄園 田柄3 - 19		44人
4	(仮)みらいく高松2丁目園 高松2 - 27		60人
5	(仮)ミアヘルサ保育園ひびき練馬春日町 春日町4 - 13		44人
6	(仮)にじいる保育園高野台 高野台3 - 15		63人
7	(仮)にじいる保育園三原台 三原台3 - 13		44人
8	(仮)キッズガーデン練馬関町 関町北2 - 26		63人
9	(仮)みらいく西大泉園 西大泉1 - 29		60人
計			485人

2 紙おむつ等の定額利用サービス

サービスの概要

保護者が紙おむつの事業者と直接契約し、月額 2,000～3,000 円程度で、事業者が園に配送する紙おむつ等を利用できるサービス。現在、区立保育園では保護者が購入した紙おむつに 1 枚ずつ名前を書いたうえで園に持参頂いているが、定額利用サービスにより、保護者の手間や負担が大きく減るメリットがある。

今年度の取組

4 園（上石神井保育園、大泉学園保育園、豊玉第三保育園、光が丘第十一保育園）で試行する。試行後、保護者や職員にアンケート等を行い、課題等を整理のうえ、本格実施につなげていく。

スケジュール（予定）

令和 4 年 9 月	保護者への案内（試行実施）、事業者選定
令和 4 年 11 月～	試行（2 か月程度）
令和 4 年 12 月	アンケート結果に基づき課題等を整理
令和 5 年 1 月	本格実施

令和 4 年 10 月 21 日
こども家庭部保育計画調整課

谷原五丁目保育所用地における認可保育所の整備・運営事業者の決定について

区が無償で貸し付ける谷原五丁目保育所用地に認可保育所を整備・運営する事業者を決定したので以下のとおり報告する。

1 整備・運営事業者

団体名：社会福祉法人多摩福祉会

所在地：東京都世田谷区北沢二丁目36番9号

2 貸付期間

令和4年12月1日～令和34年3月31日

3 選定経過

令和4年4月に選定委員会を立ち上げ、5月から事業者を募集したところ28事業者から応募があった。提案内容等の書類審査のほか、事業者運営園の視察および事業者プレゼンテーションを行い、上記団体に決定した。

4 今後の予定

令和4年10月 区ホームページ等で周知

11月 谷原保育園保護者に対する個別説明会

区と事業者が基本協定および公有財産無償貸付契約を締結

令和5年4月以降 事業者による近隣住民に対する工事説明会

工事開始

谷原保育園在園児の転園届先行受付

令和6年1月以降 工事終了

4月 開園

【案内図】 谷原五丁目保育所用地



【参考】 事業者の主な提案内容

1 定員 101 名

0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
9 名	15 名	15 名	20 名	20 名	22 名

※ 3～5 歳は異年齢クラスを設置。

2 職員配置（常勤職員） 27 名

園長	主任	保育士	看護師	栄養士	調理	用務	事務
1 名	1 名	18 名	1 名	3 名	1 名	1 名	1 名

3 基本保育時間

午前 7 時 30 分～午後 6 時 30 分

4 延長保育時間

- (1) 午前 7 時～午前 7 時 30 分
- (2) 午後 6 時 30 分～午後 7 時 30 分（補食提供）
- (3) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分（夕食提供）

5 障害児保育

定員 3 名以上

6 谷原保育園園児との異年齢交流の取組

交流計画の策定、谷原保育園園児との日常的な交流、谷原保育園の行事への参加など

令和4年10月21日
こども家庭部
子ども家庭支援センター

「民設子育てのひろば」の新規指定について

子育てのひろばは、0～3歳の乳幼児と保護者が交流できる場を提供するとともに、子育てに関する相談・情報提供等を行うものであり、区は、社会福祉法人や特定非営利活動法人等が実施する「民設子育てのひろば事業」に補助金を交付している。

このたび、第2次みどりの風吹くまちビジョン改定アクションプラン〔年度別取組計画〕に基づき、以下のとおり新規指定を行った。

今回の指定により、民設子育てのひろばは15か所になる。

1 新規指定のひろば

(1) 運営事業者

名 称	特定非営利活動法人 3丁目いすきあ
代 表 者	理事長 田町 眞紀
所 在 地	練馬区東大泉三丁目 11 番 7 号

(2) ひろばの概要

名 称	谷原いすきあ
所 在 地	練馬区谷原五丁目 1 番 20 号（裏面参照）
開 始 月	令和4年10月
開室日時	週5日（火～金・日曜） 午前10時00分～午後4時00分

2 選定経過

「民設子育てのひろば事業」の補助を希望する団体を7月に公募したところ3団体からの応募があった。選定にあたっては、選定委員会を立ち上げ、事業計画書等の書類審査のほか、施設の実地調査および団体へのヒアリングを行い、上記団体に決定した。

3 参考

子育てのひろば設置状況 別紙参照

《位置図》



所在地

練馬区谷原五丁目1番20号

子育てのひろば 配置図

